

現場説明書

(仮称) 新港ふ頭10号上屋建設工事 (本体・建築)

令和8年2月

那覇港管理組合 企画建設部 計画建設課

1 工事名 (仮称)新港ふ頭10号上屋建設工事 (本体・建築)

2 工事場所 那覇港新港ふ頭地区内

3 工事概要 図面記載のとおり

4 概成工期 契約締結の日の翌日から令和9年2月26日まで
※共通費算定に係る工期は、T=11.1か月とする。

5 一般事項

1) 本現場説明書、工事請負契約書、特記仕様書及び設計図書(以下「設計図書等」という。)に記載されていない事項は、国土交通省大臣官房官庁営繕部監修「公共建築工事標準仕様書」、それに基づく監理指針である「建築工事監理指針」による。

2) 本工事では、関係法令を遵守の上、災害又は公害の防止に努めるものとする。

3) 現場要員 現場には次の要員を置くものとする。

a) 現場代理人 請負者と直接的かつ恒常的な雇用関係があり、工事現場に常駐で配置できること。

b) 主任技術者 建設業法による。(※入札公告資料による)

c) 監理技術者 建設業法による。(※入札公告資料による)

d) 専門技術者 設計図書等を熟読し、工事の管理指導ができる者で、かつ設計監理者を通して監督員の承認を受けた者とする。

e) 安全管理者 労働安全衛生法による。

※ 上記技術者は事前に監督員の承諾を得て、現場の工事技術・施工図・工事管理等に十分に対応できるような万全の体制をとること。

※ a)b)及びc)については専任とし、請負者との間に直接的かつ恒常的な雇用関係(入札執行日以前に3ヶ月以上の期間)を有する者でなければならない。なお、これらの者は、資格者証及び健康保険被保険者証の写しを監督員に提出するものとする。

※ 請負契約の締結後、現場施工に着手するまでの期間(現場事務所の設置、資機材の搬入又は仮設工事等が開始されるまでの期間)については、b)又はc)の工事現場への専任を要しない。なお、現場施工に着手する日については、請負契約の締結後、監督員との打合せにおいて定める。

※ 工事完成後、検査が終了し(発注者の都合により検査が遅延した場合を除く)、事務手続、後片付け等のみが残っている期間については、b)又はc)の工事現場への専任を要しない。なお、検査が終了した日は、発注者が工事の完成を確認した旨、請負者に通知した日(工事検査合格通知書における日付)とする。

4) 本工事の施工にあたって、質疑・要望等がある場合は書面にて行い、逐次、監理者かつ監督員と協議の上、施工を行うものとする。

5) 官公庁諸手続き

- ① 本工事に必要な諸官庁及びその他の機関への許認可等必要な申請及び手続きは遅滞なく行い、それに要する費用はすべて請負業者の負担とする。
- ② 資材の搬出入についての諸手続きは、所管警察署及び道路管理者等と十分調整のうえ請負業者が行うこととし、実施にあたっては、関係官公署の指示に従い、特に車両渋滞の防止、一般通行者への安全対策及び公害防止に十分配慮する。

6) 試験結果報告書の提出

使用資材の中で、公的機関による試験結果報告書の必要なものは遅滞なく行い、それに要する費用はすべて請負業者の負担とする。

7) 工程管理会議等

- ① 別発注の関連工事請負者及び委託業務受注者とは常に連携を密にし、工事に支障のないように努めなければならない。また、本工事及び関連工事の各請負者は「(仮称)新港ふ頭9号上屋建替工事安全協力会」(以下、「協力会」という。)を結成し、工事期間中の現場内外の安全・衛生管理に共同であたるものとする。また、本工事の受注者から統括安全衛生管理責任者を選任すること。

協力会の幹事は(仮称)新港ふ頭10号上屋建設工事(本体・建築)とする。

関連工事:(仮称)新港ふ頭10号上屋建設工事(本体・設備)

- ② 監督員及び監理者との定例工程会議は、週1回行うものとし、主催は監理者、会議の記録は各請負者が行なうものとする。

8) 施工計画等の承諾

工事着手前に総合施工計画書(総合仮設計画書を含む。)及び総合図、各工種施工計画書等を提出し、監督員及び監理者の承諾を得るものとする。

- ① 各工事の請負業者は、工事着手前に総合図により、関連工事を含めた取り合いを検討し、関連工事の請負業者とともに総合図を作成する。ここでいう総合図とは、平面、展開、天井伏等の詳細図に設備工事等の内容を記入した図面であり、特に建具、機器、配管等の位置関係を明確にし、機能上支障をきたさないように検討する。
- ② 総合図による検討をもとに監理者との調整を密にして施工図を作成し、速やかに監督員及び監理者の承諾を得るものとする。
- ③ 監督員及び監理者が施工見本を必要と判断した場合、施工内容、施工程度の判断可能な見本を作成する。見本作成は、工程に余裕を持って行う。
- ④ 施工図は、監理者と連携を密にして作成し、監理者及び監督員の承諾を得るものとする。
- ⑤ 工事着手前に敷地内の作業通路、資材置き場、工事掲示物等の必要事項については、関連工事と調整

した上で、必ず仮設計画書を提出し、監督員及び監理者の承諾を得るものとする。

9) 工事用水・仮設電力等

当該工事に必要な電気、電話、水道、排水施設等に要する手続きは請負業者で行い、その設置に要する費用・使用料金等は請負業者の負担とする。

10) 着工前の隣接施設調査及び周辺への配慮

工事により隣接する施設に汚染損壊等影響を与えないよう十分な予防措置を取り、工事に伴い発生する騒音等の公害についても万全の措置を講ずる。

汚染や損壊があった場合は、請負者負担にて速やかに現況回復する。

工事に先立ち、現場内外における隣接施設の状態は調査及び写真撮影等により、現状を十分把握し、施工にあたっての交通処理計画、仮設計画及び地下埋設物対応について十分検討を行う。

以上は、周辺道路等搬入経路についても同様である。

11) 埋設管・道路等の適正管理

① 工事敷地内にある下水道管・給水管等について管理・養生を行い、万が一、破損・漏れ等を生じさせた場合には、請負者にて速やかに措置する。また、地下水等が工事に支障をきたす場合も同様に措置する。

② 工事期間中、工事車両等によって周辺の道路、側溝、塀、立木及び他の物品に損傷を与えた場合は、請負者の負担により修復する。また、現場からの泥土等により、周辺道路を汚染した場合は、速やかに清掃等を行う。

12) 地域住民生活の安全確保

工事期間中、付近住民の生活上支障ないように、ホコリ、騒音、振動には十分配慮し、監督員等関係者と十分な打ち合わせのうえ、付近住民の苦情対応や、工事の安全管理を徹底する。

13) 土砂、資材等の運搬について

土砂、資材等の運搬にあたっては、積載超過のないようにするとともに、交通安全管理を十分行うこと。

14) 工事による廃材・廃棄物は勿論のこと、現場や現場事務所から搬出される一般ゴミについても分別を行い、リサイクル処理に努めなければならない(マニフェストの提出)。

15) シックハウス

接着剤、合板類、塗装材、ユニット等使用材料は、シックハウス対策品として資材承諾のなかで安全データシート等を添付し、揮発性有機化合物の規定値(厚生労働省の濃度指針値)以下

を確認後、監督員の承諾を得る。

安全データシート等の含有確認資料が無い場合は、材料選択の再検討、あるいは公的機関での濃度測定を行い、安全性の確認をする。

特記仕様書の定めにより、施工段階(内装工事塗装後等)、工事完成後に測定を行い書面により報告する。

測定値が規定値以上の場合には請負業者負担にて規定値以下になる策を講ずる。

- 16) 枠組足場については、原則として、「手すり先行型足場」とし、「手すり先行工法等に関するガイドライン」(厚生労働省)による設置を行うこと。なお、この場合の「手すり先行工法」の足場は、全層に「二段手すり(又は手すり枠)」と「つま先板(幅木)」のある足場とすること。
- 17) 使用材料については、再生資源や環境に配慮したものを努めて使用するものとする。
- 18) 公共建築工事標準仕様書に記載されていない特別な材料の工法は、当該製品の指定工法による。
- 19) 工事保険等

請負者は、工事施工にあたり、下記の法定外労災補償(建設共済等)及び請負業者賠償責任保険に加入し、保険証券等の写しを工事着手後14日以内に提出しなければならない。その他の保険については、監督員と協議し、新たに付保した場合にはその旨通知するものとする。

保険対象: 請負契約の対象となっている工事全体

保険金額: 請負代金金額(支給材料、貸与品等を含む)

保険期間: 工事着手の時から工期最終日+14日以上

保険条件: イ) 法定外労災補償(建設共済等)

補填限度額1名につき2,000万円以上

ロ) 請負業者賠償責任保険

補填限度額(対人)1名につき5,000万円以上、1災害につき1億円以上

〃 (対物)1災害につき1,000万円以上、免責金額10万円以下

20) 提出書類

- ① 提出書類は、「別紙 1」による。書式の定めにより遅滞なく提出する。
- ② 完成図書は、「別紙 2」による。

21) 工事用看板等

「別紙3」を参考に安全表示板、交通標示板等を現場内外の随所に設置する。

22) 監督員事務所等 (床面積 50 m²程度)

監督員事務所の設置、その備品及び光熱費については請負者がこれを負担する。

監督員事務所の設置にあたっては、監督員及び監理者と協議の上、その詳細を決定するものとする。

監督員事務所の備品については下記のものを用意すること。

- ・会議用テーブル/折りたたみ椅子 ・事務机及び椅子 ・安全靴及び安全帯、安全帽 ・雨具
- ・パソコン:インターネット環境設定共(OS:Windows10、アプリ:Excel/Word/outlook) ・カラー複合機
- ・電話 ・ホワイトボード・書棚 ・事務用品等

6 赤土等流出防止対策

- 1) 本工事は、沖縄県赤土等流出防止条例届出対象工事となるため、施工にあたっては、当条例に基づく赤土等の流出防止対策を行うものとする。
- 2) 赤土等流出防止対策については事前に通知された事業行為通知書に基づきこれを行うものとする。
- 3) 本工事において、事前に通知された事業行為通知書の内容に変更が生じた場合は、変更通知の手続きを行うものとする。

7 数量公開

- 1) 設計価格算出の透明性を確保し、入札参加者等の積算、工事内訳書作成の効率化を図ることを目的に設計金額のもととなる工事費内訳書から主要な項目を抜粋し、参考資料(参考数量)として公開、提供する。
- 2) 本参考資料(参考数量)は契約上の拘束を受けないものとして公開し、**建設工事請負契約約款第1条に定める設計図書(図面及び仕様書等)には含まれない。**
 ※参考資料「数量公開の説明書」・「数量書」:(別 添)

8 その他

- 1) 本工事は、建設リサイクル法の対象工事となるため、法に基づき適切な手続きを行うものとする。また、全ての廃材・廃棄物等は原則リサイクルとするが、やむを得ず最終処分場に搬入する産業廃棄物は、産業廃棄物の処理に係わる税(沖縄県産業廃棄物税)が課税されるので適正に処理すること。
- 2) 請負者は、工事施工において、自ら立案実施した創意工夫や高度な技術力に関する項目、または地域社会への貢献として評価できる項目に関する事項がある場合は、工事完成時までに書面により提出することができる。
- 3) 請負者は、工事完成後においても、発注者から本工事に関する資料提供、調査依頼又は会計検査等の協力の申し出があった場合は、この求めに応ずるよう努めるものとする。
- 4) 落札業者は、早急に契約手続きを行うよう努めるものとする。
- 5) 契約工期内に提出書類作成も終え、全ての検査及び手直しを終了させること。

別紙1 【提出書類一覧】

(契約後速やかに提出)

	書類書式	規格	部数	備考
1	営繕工事第1号様式	A4	1	
2	工事着手届け	A4	1	
3	現場代理人等通知書	A4	1	資格者証の写し、経歴書、実務経験証明書、健康保険証の写し
4	工事工程表	A4	1	
5	建設業退職金共済組合掛金収納書	—	1	
6	建設労災補償共済制度加入証明書	—	1	
7	労働保険関係成立届出証明書	—	1	
8	火災保険・組み立て保険等	—	1	写し
9	工事カルテ受領書(写)	A4	1	
10	再生資源利用計画書	A4	1	
11	再生資源利用促進計画書	A4	1	
12	建設工事下請通知書	A4	1	

(随時提出)

	書類書式	規格	部数	備考
1	建設工事下請通知書	A4	1	契約書第7条
2	施工体制台帳	—	1	
3	施工計画書	A4	1	各工事着手前
4	使用材料承諾願	A4	1	規格、寸法等必要資料添付
5	施工図	A1	1	総合図承認後
6	試験成績書	A4	1	各種材料
7	実施工程表	A3	1	工事の着手に先立ち作成・提出
8	CALSシステム支払い証明	A4	1	CALSシステム使用許諾料支払い時
9	確認・立ち会い願い	A4	1	
10	材料検査調書、材料搬入報告書	A4	1	材料搬入ごとに

工事月報（毎月5日迄に提出）

	書類書式（1冊にまとめる）	規格	部数	備考
1	定期報告書（〇月分）	A 4	1	営繕第3号様式。 工事監理業務受託者の審査後
2	工事履行報告書	A 4	1	第11号様式
3	工事工程表（実施）	A 4	1	営繕第4号様式 （計画を黒線、実施を赤線）
4	工事状況報告	A 4	1	営繕第5号様式
5	工事写真	A 4	1	営繕第6号様式（進捗した部分・全体）
6	県産建設資材使用状況報告書	A 4	1	参考様式1 各月ごと
7	休日取得状況報告書	A 4	1	任意様式 各月ごと
8	工事打合せに関する記録	A 4	1	

（既済検査時）

	書類書式	規格	部数	備考
1	既済部分検査願	A 4	1	契約書に掲げる回数以内
2	出来高内訳明細書	-	1	出来高のわかる数量書や簡易な図面
3	請求書	A 4	1	既済検査合格後に提出

（完成検査時）

	書類書式	規格	部数	備考
1	完成通知書	A 4	1	
2	県産建設資材使用状況報告書	A 4	1	累計
3	請求書	A 4	1	検査合格後
4	工事目的物引渡書	A 4	1	
5	再生資源利用実施書	A 4	1	
6	再生資源利用促進実施書	A 4	1	
7	ゆいくる材利用状況報告書	A 4	1	
8	ゆいくる材出荷量証明書	A 4	1	

別紙 2

提出書類一覧(完成図書)

	書類書式	規格	部数	備考
1	工事日報	A 4	1	
2	施工計画書	A 4	1	
3	使用資材承諾書、証明書	A 4	1	
4	施工承認図	A 1	1	A 4 サイズに折って提出
5	工事写真	—	1	A 4 サイズに整理して提出 着手前・着工中・完成時 施工計画書等で記載のある段階写真含 オリジナルデータも提出
6	完成図（白図）	A 2	1	A 3 版観音製本
7	完成図（白図）	A 3	1	A 4 版観音製本 オリジナルデータ、PDF
8	電子納品 CD	—	2	(財)沖縄建設技術センター発行の確認証 1 部も添付すること。
9	工事カルテ受領書（写）	A 4	1	
10	鍵等引渡書、取扱説明書	—	1	目録、キープラン含む
11	保全に関する資料	A 4	2	
12	保証書	A 4	1	クリヤホルダーに収納
13	工事完成書類引渡書	A 4	1	目録含む
14	下請通知書	A 4	1	施工体制台帳を添付する
15	産業廃棄物マニフェスト	A 4	1	写し
16	総合図	A 1	1	CAD データ及び PDF
17	使用材料仕上表	A 4	1	検査合格後に提出
18	請求書	A 4	1	検査合格後に提出
19	完成写真		3	黒表紙金文字アルバム 2 部、CD 1 部

※その他監督員の指示によるもの。

別紙 3

工事用看板の表示内容・規格寸法等（参考）

工事名称：	（仮称）新港ふ頭 10 号上屋建設工事（本体・建築）		
工 期：	令和〇年〇〇月〇〇日～令和〇年〇〇月〇〇日		
発注者：	那覇港管理組合 管理者 玉城 康裕		
監督部署：	那覇港管理組合	企画建設部	計画建設課 電話：868-0336 FAX：862-4233
設計・監理：	〇〇〇〇〇		
施 工 者：	〇〇〇〇〇		
※現場連絡先（電話・F A X）記入			

（摘要）

大きさ：縦 900 × 横 1800（mm）程度

額 縁：四方アルミ、グレー色

現場掲示物

掲 示 物	掲示の対象			備 考
	現場事務所	現場内	公衆	
工事名標示板(工事用看板)			○	
建設業許可票			○	建設業法第 40 条
労災保険関係成立票		○		労働者災害補償保険法施行規則第 49 条
建築基準法確認済看板			○	建築基準法第 89 条
施工体系図	○	○	○	建設業法第 24 条の 7-4 公共工事適正化法第 13 条第 3 項
作業主任者看板		○		労働安全衛生規則第 18 条
安全衛生推進者(衛生推進者)看板		○		労働安全衛生規則第 12 条の 4
建退共制度適用工事現場(標識)		○		「建退共制度改善方策について」H11.3.18
緊急時連絡表	○	○	○	
安全標識	○	○		無災害記録表、作業予定表、KY 活動表
実施工程表	○			
週間作業内容掲示等			○	

(別添)

数量公開の説明書

1. 数量公開の目的

建築及び設備工事における数量公開について、設計価格算出の透明性を確保し、入札参加等の積算、工事内訳書作成の効率化を図ることを目的とする。

2. 数量公開にあたって提供する資料

建築及び設備工事における数量公開とは、設計金額のもととなる工事費内訳書から単価及び金額等を削除するなどしたもの(以下「数量書」という。)を、参考資料(参考数量)として公開、提供するものである。

3. 数量書の取扱いについて

数量書は契約上の拘束を受けない参考資料として公開し、**建設工事請負契約約款第1条に定める設計図書(図面及び仕様書等)には含まれない。**

4. 数量書について

(1) 数量書の範囲

数量書の範囲は次のとおりとする。

- 1) 数量書は原則として工事費内訳書内を公開範囲とする。
- 2) 工事費内訳書において、数量を一式としている項目の根拠となる数量を記載した別紙明細書
- 3) 共通仮設費や現場管理費の算定の際に必要な応じ積上げられる項目数量を記載した共通費明細書 ただし、2)、3)について軽微なものや任意仮設に係わる数量を記載した別紙明細書及び共通費明細書については除くものとする。

(2) 数量書の作成基準(下記の基準に基づき作成)

1) 構成及び項目

「公共建築物工事内訳書標準様式(建築工事編)、(設備工事編)」

2) 数量

「公共建築(設備)数量積算基準」

3) 共通費

「沖縄県土木建築部建築工事積算基準」

工事費仕訳書(参考数量)

工 事 名 称 (仮称)新港ふ頭10号上屋建設工事(本体・建築)

構 造 鉄骨造一部鉄筋コンクリート造

面 積 建築面積: 1,862.55㎡ 延床面積: 1,689.10㎡

工 事 費

No	工事費別	金額	%	備考
A	直接工事費			
	建築			
	直接工事費計			
B	共通費			
	共通仮設費(積上)			
	共通仮設費(率)			
	現場管理費			
	一般管理費等			
	磁気探査			
	小計			
	消費税			
	合計			

内 訳 書(参考数量)							
No	名 称	規 格	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
7-1	鉄骨工事						
	(本体鉄骨)						
	H形鋼	SS400 H-150×150×7×10	0.6	t			
	H形鋼	SS400 H-198×99×4.5×7	7.7	t			
	H形鋼	SS400 H-200×200×8×12	13.6	t			
	H形鋼	SS400 H-350×175×7×11	2.2	t			
	H形鋼	SS400 H-350×350×12×19	5.5	t			
	H形鋼	SS400 H-396×199×7×11	17.3	t			
	H形鋼	SS400 H-446×199×8×12	33.0	t			
	H形鋼	SS400 H-488×300×11×18	2.5	t			
	H形鋼	SN400B H-294×200×8×12	3.4	t			
	H形鋼	SN400B H-300×150×6.5×9	4.1	t			
	H形鋼	SN400B H-400×200×8×13	1.3	t			
	H形鋼	SN400B H-588×300×12×20	5.0	t			
	H形鋼	SN400B H-700×300×13×24	5.5	t			
	H形鋼	SN490B H-300×300×10×15	1.8	t			
	H形鋼	SN490B H-390×300×10×16	6.5	t			
	H形鋼	SN490B H-588×300×12×20	36.5	t			
	CT形鋼	SS400 CT-100×100×5.5×8	0.02	t			
	角形鋼管	STKR400 □-250×250×12	11.2	t			
	溝形鋼	SS400 [-125×65×6×8	3.4	t			
	山形鋼	SS400 L-175×175×12	0.3	t			
	平鋼	SS400 FB-9×25	0.01	t			
	平鋼	SN400B FB-9×25	0.03	t			
	平鋼	SN490B FB-9×25	0.1	t			
	丸鋼	SS400 φ24	3.2	t			
	鋼板	SS400 PL-6	1.8	t			
	鋼板	SS400 PL-9	2.8	t			
	鋼板	SS400 PL-12	1.1	t			
	小 計①						

内 訳 書(参考数量)							
No	名 称	規 格	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
7-2	鉄骨工事						
	鋼板	SS400 PL-16	0.7	t			
	鋼板	SN400B PL-9	0.6	t			
	鋼板	SN400B PL-19	0.3	t			
	鋼板	SN490B PL-9	0.2	t			
	鋼板	SN490B PL-12	0.6	t			
	鋼板	SN490B PL-16	0.5	t			
	鋼板	SN490B PL-25	0.3	t			
	鋼板	SN490C PL-19	0.3	t			
	鋼板	SN490C PL-22	1.0	t			
	鋼板	SN490C PL-28	1.0	t			
	鋼板	SN490C PL-32	0.2	t			
	高力ボルト	S10T M16 L=35	616	本			
	高力ボルト	S10T M16 L=40	225	本			
	高力ボルト	S10T M16 L=50	17.0	本			
	高力ボルト	S10T M20 L=45	1,271	本			
	高力ボルト	S10T M20 L=50	233	本			
	高力ボルト	S10T M20 L=55	37.0	本			
	高力ボルト	S10T M20 L=60	150	本			
	高力ボルト	S10T M22 L=65	291	本			
	高力ボルト	S10T M22 L=85	666	本			
	高力ボルト	F8T M16 L=40	150	本			
	高力ボルト	F8T M20 L=50	218	本			
	高力ボルト	F8T M20 L=55	67.0	本			
	高力ボルト	F8T M22 L=70	75.0	本			
	高力ボルト	F8T M22 L=75	52.0	本			
	高力ボルト	F8T M22 L=80	166	本			
	高力ボルト	F8T M22 L=100	166	本			
	アンカーボルト	SS400 M20 L=400	32.0	本			
	小 計②						

内 訳 書(参考数量)							
No	名 称	規 格	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
7-8	鉄骨工事						
	(タラップ鉄骨)						
	鋼管	STK400 ○-34×2.3	0.02	t			
	角形鋼管	STKR400 □-75×75×2.3	0.3	t			
	山形鋼	SS400 L-50×50×6	0.02	t			
	山形鋼	SS400 L-75×75×6	0.01	t			
	平鋼	SS400 FB-4.5×38	0.04	t			
	鋼板	SS400 PL-9	0.1	t			
	中ボルト	SS400 M12 L=100	10.0	本			
	スクラップ控除	H2程度	0.01	t			
	工場加工組立		0.4	t			
	工場溶接	すみ肉6mm換算	9.6	m			
	溶融亜鉛メッキ費		0.4	t			
	鉄骨建方費		0.4	t			
	鉄骨建方機械器具	ボルト締付・溶接器具等	1.0	式			
	鉄骨運搬	11t車	0.4	t			
	中ボルト締付		10.0	本			
	ケミカルアンカー	M12 L=100 材工共	4.0	本			
	小 計⑧						
	法定福利費		1	式			
	小 計⑨						
	小 計①②③+④+⑤+⑥+⑦+⑧+⑨						

別紙明細(参考数量)

上屋(本体)

第 1 号表		外部足場						1式当り
No	名 称	適用・規格	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考	
	枠組本足場 (手すり先行方式)	建枠600×1700 布枠500×1枚 12m未満 掛払い手間	1,741	㎡	1,850	3,220,850	県単(複)P.10	
	枠組本足場 (手すり先行方式)	建枠600×1700 布枠500×1枚 12m未満 供用1日賃料	1,741	㎡	1,199	2,087,459	10×(109日×1.1) 県単(複)P.10	
	枠組本足場 (手すり先行方式)	建枠600×1700 布枠500×1枚 12m未満 基本料	1,741	㎡	420	731,220	県単(複)P.10	
	安全手すり (手すり先行方式)	掛払い手間 枠組本足場用	192	m	370	71,040	県単(複)P.15	
	安全手すり (手すり先行方式)	供用1日賃料 枠組本足場用	192	m	480	92,160	4×(109日×1.1) 県単(複)P.15	
	安全手すり (手すり先行方式)	基本料 枠組本足場用	192	m	140	26,880	県単(複)P.15	
	計					6,229,609		
第 2 号表		内部足場						1式当り
No	名 称	適用・規格	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考	
	内部躯体足場	RC造標準日数 修理費含む 鉄筋・型枠足場 階高4.0m以下 平家用	9.1	㎡	350	3,185	県単(複)P.16	
	内部仕上足場	RC造標準日数 修理費含む 脚立足場 階高4.0m以下 転用数1	9.1	㎡	770	7,007	県単(複)P.16	
	内部仕上足場	RC造標準日数 修理費含む 枠組棚足場 階高5.0m以上5.7m未満 転用数1	300	㎡	5,620	1,686,000	県単(複)P.28	
	倉庫 枠組本足場 (手すり先行方式)	建枠600×1700 布枠500×1枚 12m未満 掛払い手間	1,534	㎡	1,850	2,837,900	県単(複)P.10	
	倉庫 枠組本足場 (手すり先行方式)	建枠600×1700 布枠500×1枚 12m未満 供用1日賃料	1,534	㎡	1,199	1,839,266	10×(109日×1.1) 県単(複)P.10	
	倉庫 枠組本足場 (手すり先行方式)	建枠600×1700 布枠500×1枚 12m未満 基本料	1,534	㎡	420	644,280	県単(複)P.10	
	倉庫 安全手すり (手すり先行方式)	掛払い手間 枠組本足場用	163	m	370	60,310	県単(複)P.15	
	倉庫 安全手すり (手すり先行方式)	供用1日賃料 枠組本足場用	163	m	480	78,240	4×(109日×1.1) 県単(複)P.15	
	倉庫 安全手すり (手すり先行方式)	基本料 枠組本足場用	163	m	140	22,820	県単(複)P.15	
	倉庫 鉄骨足場	単管吊足場	1,680	㎡	1,640	2,755,200	県単(複)P.73	
	計					9,934,208		

別紙明細(参考数量)

上屋(本体)

第 9 号表		屋根(キャノピー)					1式当り
No	名 称	適用・規格	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
1	屋根 丸馳折版 ロックII型(H149・@500)	両面 フッ素ガルバリウム鋼板 t=0.8	306	m ²			
2	タイトフレーム t2.3	ステンレス緊定金物	150	m			
3	妻側タイトフレーム t3.2	@1,000内外	20.4	m			
4	軒先耐風面戸 EPDM付	フッ素ガルバリウム鋼板 t=0.8	30.0	m			
5	軒先水切り	フッ素ガルバリウム鋼板 t=0.8	30.0	m			
6	止面戸 EPDM付	フッ素ガルバリウム鋼板 t=0.8	30.0	m			
7	エプロン面戸	フッ素ガルバリウム鋼板 t=0.8	30.0	m			
8	水上取合水切	フッ素ガルバリウム鋼板 t=0.8	30.0	m			
9	ケラバ包み	フッ素ガルバリウム鋼板 t=0.8	20.4	m			
10	軒先笠木包み	フッ素ガルバリウム鋼板 t=0.8	30.0	m			
11	軒先幕板包み	フッ素ガルバリウム鋼板 t=0.8	30.0	m			
12	軒先捨て貼り	フッ素ガルバリウム鋼板 t=0.8	30.0	m			
13	軒樋 耐酸被覆鋼板加工樋仕様	受金具(トブ)@500含む 耐酸被覆鋼板 t=0.8	30.0	m			
14	落とし口	塩ビ自在トレ φ125	2.0	か所			
15	SUSオーバーフロー管	φ75	2.0	か所			
	計						

第 10 号表		吊 庇					1式当り
No	名 称	適用・規格	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
1	吊庇屋根1 折板W-500(H150・@500)	両面 フッ素ガルバリウム鋼板 t=0.8	92.2	m ²			
2	吊庇屋根2 折板W-500(H150・@500)	両面 フッ素ガルバリウム鋼板 t=0.8	11.0	m ²			
3	吊金具 シートスタット(トブ仕様)	@250	80.0	m			
4	軒先見切面戸	両面 フッ素ガルバリウム鋼板 t=0.8	30.0	m			
5	谷樋 耐酸被覆鋼板加工樋仕様	受金具(トブ)@500含む 耐酸被覆鋼板 t=0.8	30.0	m			
6	落とし口	塩ビ自在トレ φ75	4.0	か所			
	計						

(仮称) 新港ふ頭10号上屋建設工事 (本体・建築)

令和7年度

那覇港管理組合 企画建設部 計画建設課

工事名称	(仮称) 新港ふ頭10号上屋建設工事 (本体・建築)					工事年度	令和7年度	
工事場所	那覇市港町1丁目204番地・205番地					図面名称	表紙	
発注機関	那覇港管理組合 企画建設部 計画建設課					縮尺		
						図面番号	A-00	
摘要						設	名	称
審査	課長	技術調整監	班長	主幹	担当者	株式会社	アーク5D	
						計	資格者氏名	新里 均
						者	登録番号	一級建築士大臣登録第218581号
							所在地	沖縄県宜野湾市普天間2丁目47番16号

図面目録【建築】

【意匠】

図面番号	図面名称	縮尺		図面番号	図面名称	縮尺	
		A1	A3			A1	A3
A-00	表紙	—	—	A-40	外構撤去図 (1)	1/20 (100) (300)	1/40 (200) (600)
A-01	図面目録	—	—	A-41	外構撤去図 (2)	1/10 (30)	1/20 (60)
A-02	特記仕様書 (1)	—	—	A-42	防鳥ネット伏図	1/200	1/400
A-03	特記仕様書 (2)	—	—	A-43	磁気探査図 (表層)	1/200	1/400
A-04	特記仕様書 (3)	—	—	A-44	磁気探査図 (1層目経層)	1/200	1/400
A-05	特記仕様書 (4)	—	—	A-45	磁気探査図 (2層目経層)	1/200	1/400
A-06	特記仕様書 (5)	—	—	A-46	磁気探査図 (3層目経層)	1/200	1/400
A-07	案内・配置図	1/50 (150) (500) (2000)	1/100 (300) (1000) (4000)	赤土-01	赤土等流出防止計画図	1/100 (250)	1/200 (500)
A-08	面積求積図	1/500	1/1,000	法-01	平均地盤面算定図	1/100 (250)	1/200 (500)
A-09	共通仮設図	1/300	1/600				
A-10	仕上表	—	—				
A-11	平面図 (1)	1/150	1/300				
A-12	平面図 (2)	1/150	1/300				
A-13	屋根伏図	1/150	1/300				
A-14	立面図	1/150	1/300				
A-15	断面図	1/150	1/300				
A-16	下層部平面詳細図 (1)	1/100	1/200				
A-17	下層部平面詳細図 (2)	1/100	1/200				
A-18	上層部平面詳細図 (1)	1/100	1/200				
A-19	上層部平面詳細図 (2)	1/100	1/200				
A-20	A・D断面詳細図 (1)	1/50	1/100				
A-21	A断面詳細図 (2)	1/50	1/100				
A-22	B断面詳細図・X 2 展開図	1/50	1/100				
A-23	C断面詳細図	1/50	1/100				
A-24	Y 5 展開図 (1)	1/50	1/100				
A-25	Y 5 展開図 (2)	1/50	1/100				
A-26	X 8 展開図	1/50	1/100				
A-27	Y 1 展開図 (1)	1/50	1/100				
A-28	Y 1 展開図 (2)	1/50	1/100				
A-29	屋根・壁詳細図 (1)	1/10	1/20				
A-30	屋根・壁詳細図 (2)	1/10	1/20				
A-31	屋根・壁詳細図 (3)	1/10	1/20				
A-32	建具KEYPLAN	1/250	1/500				
A-33	建具表	1/50	1/100				
A-34	タラップ詳細図	1/10 (20)	1/20 (40)				
A-35	シャッター詳細図 (1)	1/5 (40)	1/10 (80)				
A-36	雑詳細図 (1)	1/10 (15) (20)	1/20 (30) (40)				
A-37	雑詳細図 (2)	1/2 (20)	1/4 (40)				
A-38	外構図 (1)	1/250	1/500				
A-39	外構図 (2)	1/10 (20)	1/20 (40)				

工事名称	(仮称) 新港ふ頭10号上層建設工事 (本体・建築)	工事年度	令和7年度
工事場所	那覇市港町1丁目204番地・205番地	図面名称	図面目録
発注機関	那覇港管理組合 企画建設部 計画建設課	縮尺	—
		図面番号	A-01
摘要	設計製図		
検印	管理建築士	設計	製図
		設計者	(株) アーキ5D
		資格者氏名	新里 均
		登録番号	一級建築士大臣登録第218581号
		所在地	沖縄県宜野湾市普天間2-47-16

建築工事特記仕様書〔建築工事編〕沖縄県土木建築部		令和8年1月改定版																																	
1 工事概要		1 一般共通事項																																	
<p>(1) 工事名 : (仮称)新港ふ頭10号上屋建設工事(本体・建築)</p> <p>(2) 工事場所 : 那覇市港町1丁目204番地・205番地 (地域地区等:)</p> <p>(3) 敷地面積 : 10,659.08 m²</p> <p>(4) 工事種目 : 新築</p> <p>ア 建築物</p> <table border="1"> <tr><td>建築物の名称</td><td>新港ふ頭10号上屋</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>主要用途</td><td>倉庫</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>構造及び階数</td><td>RC造+S造 地上1階</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>工事種別</td><td>新築</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>建築面積</td><td>1,862.55 m²</td><td>m²</td><td>m²</td></tr> <tr><td>延べ面積</td><td>1,689.10 m²</td><td>m²</td><td>m²</td></tr> </table> <p>イ 工作物及び立木</p> <table border="1"> <tr><td>工作物等の名称</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>数量</td><td></td><td></td><td></td></tr> </table>		建築物の名称	新港ふ頭10号上屋			主要用途	倉庫			構造及び階数	RC造+S造 地上1階			工事種別	新築			建築面積	1,862.55 m ²	m ²	m ²	延べ面積	1,689.10 m ²	m ²	m ²	工作物等の名称				数量				<p>ウ 設計図書において監督員に提出することとなっている書類は、原則として管理技術者等に提出すること。</p> <p>エ 建設業法第23条の2の規程に基づく工事監理に対する報告の書類は、監督員に提出すること。</p> <p>(5) 本工事の請負代金額の変更協議をする場合及び本工事と関連する工事を本工事受注者と随意契約する場合の取扱いについて 本工事の請負代金額の変更協議をする場合又は本工事と関連する工事を本工事受注者と随意契約する場合にあたって、変更協議または関連する工事の予定価格の算定は、本工事の請負比率(元契約額÷元設計額)を変更設計額または関連工事の設計額に乘じた額で行う。</p> <p>(6) 県産資材の優先使用 本工事に使用する資材等のうち、沖縄県内で生産、製造され、かつ、規格、品質、価格等が適正である場合はこれを優先して使用するよう努めなければならない。なお、主要建設資材の使用状況を「県産建設資材使用状況報告書」にて報告すること。</p> <p>(7) 下請業者の県内企業優先活用 請負業者は、下請契約の相手方を県内企業(主たる営業所を沖縄県内に有する者。)から選定するよう努めなければならない。</p> <p>(8) 不発弾等発見時の処理について 本工事において、不発弾等が発見された場合には、警察署(交番、駐在所)に報告すると共に、監督員を通して関連市町村(防災主管課)、沖縄県知事公室防災危機管理課及び沖縄県土木建築部技術・建設業課に報告すること。 また、発見された不発弾等については、警察署または自衛隊より指示等があるまでは、触れずにそのままの状態で保存すること。 なお、これについては、下請業者へも周知すること。</p> <p>(9) ダンプトラック等の過積載等の防止について ア 工事用資機材等の積載超過がないようにするとともに交通安全管理を十分に行うこと。 イ 過積載を行っている資材納入者から資材購入をしないこと。 ウ 資材等の過積載を防止するため、資材の購入等に当たっては、資材納入業者等の利益を不当に害することのないようにすること。 エ さし枠の装置または物品積載装置の不正改造をしたダンプカーが工事現場に入りすることがないようにすること。 オ 「土砂等を運搬する大型自動車による交通事故の防止に関する特別措置法(以下「法」という。)の目的に鑑み、法第12条に規定する団体等の設立状況を踏まえ、同団体等の加入者の使用を促進すること。 カ 下請契約の相手方又は資材納入者を選定するにあたっては、交通安全に関する配慮に欠けるもの又は業務に関しダンプトラック等によって悪質かつ重大な事故を発生させたものを排除すること。 キ アからカの事につき、下請契約における受注者を指導すること。</p> <p>(10) 不正軽油の使用の禁止等について ア 受注者は、工事の施工に当たり、工事現場で使用し、若しくは使用させる車両(資機材等の搬入車両を含む。)又は建設機械等の燃料として、不正軽油(地方税法第144条の32の規定に違反する燃料をいう。)を使用し、又は使用させてはならない。 イ 受注者は、県の税務当局が実施する使用燃料の採取調査に協力しなければならない。</p> <p>(11) 設計図書における資材等の取扱いについて ア 本工事の設計図書及び参考図に示す資材等については、特定企業の製品又は工法を指定するものではない。 イ 本工事で使用する資材等については、設計図書及び参考図のとりの品質規格・仕様等で積算しており、その品質規格・仕様等と同等級以上の資材を使用すること。なお、使用にあたっては監督職員の承諾を得るものとする。 ウ 「参考図」は建設工事請負契約約款第1条に定める設計図書ではなく、発注者の積算の透明性を確保し入札者の積算、工事費内訳書作成の効率化を図ることを目的に「参考資料」として提示するものである。</p> <p>(12) ガイドライン等の遵守について 設計変更等については、契約書18条から25条に記載しているところであるが、その具体的な考え方や手続きについては、「工事請負契約における設計変更ガイドライン(営繕工事編)」(沖縄県土木建築部)によるものとする。</p> <p>(13) 本工事の予定価格に占める法定福利費概算額について ア 受注者は、契約締結後15日以内に、監督員を経由して請負代金内訳書を提出し、請負代金内訳書には、工事現場に従事する現場労働者に係る社会保険料(健康保険・厚生年金保険及び雇用保険をいう。)の内の事業主が納付義務を負う保険料(以降「法定福利費」という。)を明示すること。 また、明示する法定福利費の算出に当たっては、各専門工事業団体が作成した標準見積書に沿って作成された法定福利費を内訳明示した下請企業の見積りの活用等の方法により適正に見積もることが必要であり、「法定福利費を内訳明示した見積書の作成手順」に準拠する等により適切に算出すること。</p>	
建築物の名称	新港ふ頭10号上屋																																		
主要用途	倉庫																																		
構造及び階数	RC造+S造 地上1階																																		
工事種別	新築																																		
建築面積	1,862.55 m ²	m ²	m ²																																
延べ面積	1,689.10 m ²	m ²	m ²																																
工作物等の名称																																			
数量																																			
<p>2 本工事の設計時期 本工事の設計書は、令和 8年 2月時点での沖縄県土木建築部建築工事積算基準及び公共工事設計労務単価等に基づいて作成している。</p>		<p>(14) 工期又は請負代金の額に影響を及ぼす事象に関する情報の通知 落札者(随意契約の場合にあつては、契約の相手方)は、建設業法(昭和24年法律第100号)第20条の2第2項の規定に基づき、工期又は請負代金の額に影響を及ぼす事象が発生するおそれがあると認めるときは、落札決定(随意契約の場合にあつては、契約の相手方の決定)から請負契約を締結するまでに、発注者に対して、その旨を当該事象の状況の把握のため必要な情報と併せて通知すること。 通知様式については、沖縄県技術・建設業課のホームページ(下記アドレス)を参照すること。 https://www.pref.okinawa.jp/machizukuri/kenchiku/1023167/1013333/1013334/1013335.html</p>																																	
<p>3 建築工事仕様</p> <p>(1) 標準仕様 図面及び特記仕様書に記載されていない事項は、国土交通省大臣官房官庁営繕部制定の「公共建築工事標準仕様書(建築工事編)」[令和7年版](以下「標準仕様書」という。)による。</p> <p>(2) 特記仕様 ア 項目は、番号に○印の付いたものを適用する。 イ 特記事項は、「・」に○印の付いたものを適用する。 「」に○印がつかない場合は「※」の付いたものを適用する。 「」と「※」に○印がついた場合は共に適用する。 ウ 項目及び特記事項に記載の(. . .)内表示番号は、標準仕様書の当該項目、当該図又は当該表を示す。 エ 特記事項に記載の(参- . . .)は、標準仕様書の参考資料4各部配筋参考図の当該項目を示す。</p>		<p>① 適用基準等</p> <ul style="list-style-type: none"> 建築工事監理指針(令和7年版)国土交通省大臣官房官庁営繕部監修 建築工事標準詳細図(令和4年版)国土交通省大臣官房官庁営繕部 敷地調査共通仕様書(令和4年版)国土交通省大臣官房官庁営繕部 建築材料・設備機材等品質性能評価事業 建築材料等評価名簿(令和6年版)(一社)公共建築協会 営繕工事写真撮影要領(令和5年版) 磁気探査実施要領(令和2年1月)沖縄県土木建築部 沖縄県土木建築部における公共建設工事の分別解体・再資源化および再生資源活用に関する実施要領(平成25年12月)沖縄県土木建築部 構造計画・施工計画・建築設備計画の留意事項(令和4年4月)沖縄県土木建築部 <p>② 工事実績情報の登録(1.1.4)</p> <p>登録する。ただし、工事請負代金額が500万円未満の工事については、登録を要しない。</p> <p>③ 工事の一時中止に関する事項(1.1.9)</p> <p>工事の一時中止に係る計画の作成 (1) 契約書第20条の規定により工事の一時中止の通知を受けた場合は、中止期間中における工事現場の管理に関する計画(以下「基本計画書」という。)を発注者に提出し、承諾を受けるものとする。 なお、基本計画書には、中止時点における工事の出来形、職員の体制、労働者数、搬入材料及び建設機械器具等の確認に関すること、中止に伴う工事現場の体制の縮小と再開に関すること及び工事現場の維持・管理に関する基本的事項を明らかにする。</p> <p>(2) 工事の施工を一時中止する場合は、工事の続行に備え工事現場を保全すること。</p>																																	
<p>4 その他</p> <p>(1) 公共事業労務費調査に対する協力 ア 本工事が公共事業労務費調査の対象工事となった場合、調査票等に必要事項を正確に記入し、必要な協力を行わなければならない。また、本工事の完成後においても、同様とする。 イ 調査票等を提出した事業所を事後に訪問して行う調査・指導等の対象になった場合、その実施に協力しなければならない。また、本工事の完成後においても、同様とする。 ウ 公共事業労務費調査の対象工事となった場合に正確な調査票等の提出が行えるよう、労働基準法等に従って就業規則を作成するとともに、賃金台帳を調製・保存する等、日頃より雇用している現場労働者の賃金時間管理を適切に行っておかなければならない。 エ 本工事の一部について下請契約を締結する場合には、当該下請工事の受注者(当該下請工事の一部に係る二次以降の下請負人を含む。)がアからウまでと同様の義務を負う旨を定めなければならない。</p> <p>(2) 暴力団員等による不当介入の排除対策 受注者は、当該工事の施工に当たって「沖縄県土木建築部発注工事における暴力団員等による不当介入の排除手続きに関する合意書(平成19年7月24日)に基づき、次に関する事項を遵守しなければならない。なお、違反したことが判明した場合は、指名停止等の措置を行うなど、厳正に対処するものとする。 ア 暴力団員等から不当要求を受けた場合は、毅然として拒否し、その旨を速やかに監督員に報告するとともに、所轄の警察署等に被害の届出を行い、捜査上必要な協力を行うこと。 イ 暴力団員等から不当要求による被害又は工事妨害を受けた場合は、速やかに監督員に報告するとともに所轄の警察署等に被害の届出を行うこと。 ウ 暴力団員等に対する排除対策を講じたにもかかわらず、工事に遅れが生じるおそれがある場合は、速やかに監督員と工程に関する協議を行うこと。</p> <p>(3) ウィークリースタンスの実施 工事現場環境に関しては、ウィークリースタンス実施要領の3. 取組内容について、業務着手時の打合せ時に確認、調整し、取組内容を設定すること。なお、取組内容は打合せ記録簿へ記録し、受発注者で共有すること。 当該要領については、沖縄県技術・建設業課のホームページ(下記アドレス)を参照すること。 https://www.pref.okinawa.lg.jp/site/doboku/gijiken/kankeitosyo.html</p> <p>(4) 工事監理業務への協力等 ア 本工事の工事監理業務(建築工事監理業務委託契約に基づき、建築士法第2条第8項並びに同法第18条第3項に掲げる工事監理を行う業務をいう。以下同じ。)は、別途委託契約を締結することとしており、本工事の現場代理人等は、当該工事監理業務の履行に協力すること。 イ 工事監理業務の受注者が配置した管理技術者、主任担当技術者並びに担当技術者(以下「管理技術者等」という。)の氏名等は、発注者から通知する。なお、管理技術者等は本工事に関する指示・承諾・協議の権限は有しない。</p>		<p>4 工事の余裕期間</p> <p>・ 余裕期間を設定する工事 【 方式】 【以下から選択:発注者指定方式/任意着手方式/フレックス方式】</p> <p>(1) 本工事は余裕期間として【 日間】を設定した工事である。 なお、余裕期間の設定にかかる積算上の割増は考慮しない。</p> <p>(2) 余裕期間制度のうち、任意着手方式、フレックス方式において、受注者は、余裕期間内の任意の日を工事の始期と定めることができる。 このため、受注者は、落札結果通知を受けた日の翌日までに「工期通知書(様式-1)」を作成し、発注者(契約担当者)に通知(提出)すること。</p> <p>(3) その他事項は、「余裕期間を設定する工事実施要領」による。</p> <p>5 遠隔臨場の実施(1.1.14)</p> <p>・ 本工事は遠隔臨場を適用する。使用する機器及び立合う工程等については監督職員と協議をすることとする。</p> <p>6 概成工期(1.2.1)</p> <p>図示された範囲は【令和 年 月 日】までに完了すること。</p> <p>⑦ 品質計画等(1.2.2)</p> <p>建築基準法に基づく風圧区分等を必要とする場合は次による。 (1) 風速:V0= 46 m/s (平12建告第1454号第2)</p> <p>(2) 地表面相度区分: III (8.4.3)(8.5.3)(9.4.4)(10.5.3)(13.2.3)(13.3.3)(13.4.3)(14.7.3)(16.14.5)(23.5.4)</p> <p>⑧ 施工図等(1.2.3)</p> <p>(1) 施工図等の著作権に関わる当該建築物に限る使用権は、発注者に委譲するものとする。</p> <p>(2) 現場代理人等は、施工に先立ち、各工事間の施工計画を調整、検討するため、各室の平面図、展開図、天井伏図(各1/50程度)及び必要な部位の断面図を作成の上、各工事の必要な内容を記載した総合図を作成する。なお、総合図は監督員に提出し、確認を受ける。</p> <p>(3) 施工計画書及び施工図等は監督員の指示する時期に提出する。ただし監督員の指示がない場合は、原則として施工計画書は契約後30日以内、施工図等は工事着手前までに提出し、承諾を受ける。</p>																																	
<p>工事名称 (仮称)新港ふ頭10号上屋建設工事(本体・建築)</p> <p>工事場所 那覇市港町1丁目204番地・205番地</p> <p>発注機関 那覇港管理組合 企画建設部 計画建設課</p> <p>縮 尺</p> <p>図面番号 A-02</p> <p>管理建築士</p> <p>設 計</p> <p>製 図</p> <p>図 面 名 称 (株)アーキ5D</p> <p>資 格 者 氏 名 新 里 均</p> <p>登 録 番 号 一級建築士大臣登録第218581号</p> <p>所 在 地 沖縄県宜野湾市普天間2-47-1</p>		<p>工事年度 令和 7 年度</p> <p>図面名称 建築工事特記仕様書(その1)</p> <p>縮 尺</p> <p>図面番号 A-02</p> <p>管理建築士</p> <p>設 計</p> <p>製 図</p> <p>図 面 名 称 (株)アーキ5D</p> <p>資 格 者 氏 名 新 里 均</p> <p>登 録 番 号 一級建築士大臣登録第218581号</p> <p>所 在 地 沖縄県宜野湾市普天間2-47-1</p>																																	

章	項目	特記事項							
1 一般共通事項へ続き	⑨ 工事の記録 (1.2.4)	沖縄県土木建築部工事関係標準様式を用いる。							
	⑩ 電気保安技術者 (1.3.3)	電気工作物の工事を行う場合、その工事期間において電気保安技術者を配置し、保安業務を行うこと。							
	⑪ 施工条件 (1.3.5)	<p>施工順序等の制約 無し</p> <p>有り ① 現場説明書による・図示・</p> <p>工事車両の駐車場所 ② 図示・現場説明書による・仮囲い内 資材、機材置場 ③ 図示・現場説明書による・仮囲い内 建設発生土の仮置場 ④ 図示・現場説明書による・仮囲い内 その他の施工条件 ⑤ 図示・現場説明書による・</p>							
	⑫ 施工中の安全確保及び環境保全等 (1.3.7) (1.3.10)	<p>(1) 「低騒音型、低振動型建設機械の指定に関する規程」(平成9年7月31日建設省告示第1536号 最終改正平成13年4月9日 国土交通省告示第487号)による建設機械を使用する。</p> <p>(2) 本工事において以下に示す建設機械を使用する場合は原則として「排出ガス対策型建設機械指定要領(平成3年10月8日付け建設省経機発第249号最終改正平成22年3月18日付け国総施設第291号)」に基づき指定された排出ガス対策型建設機械を使用するものとする。</p> <p>一般工用建設機械(ディーゼルエンジン出力7.5~260kW)</p> <p>ア バックホウ イ 車輪式トラクタショベル ウ ブルドーザ エ 発電発電機 オ 空気圧縮機 カ 油圧ユニット(基礎工用機械で独立したもの) キ ローラ類 ク ホイールクレーン</p>							
⑬ 交通安全管理 (1.3.8)	国道6路線及び県道7路線における警備業者が交通誘導警備業務を行う場合は、一級又は二級検定合格警備員を配置すること。(令和3年2月19日 沖縄県公安委員会告示第38号)								
⑭ 発生材の処理等 (1.3.11)	<p>(1) マニフェストシステムを採用し、適正な収集、運搬及び処分を行う。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>発生材の種類</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>発注者に引き渡すもの</td> <td></td> </tr> <tr> <td>特別管理産業廃棄物の有無及び処理方法</td> <td></td> </tr> <tr> <td>現場において再利用を図るもの</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>(2) 本工事により発生する建設廃棄物のうち、県内の最終処分場に搬入する産業廃棄物は、産業廃棄物の処理に係る税(沖縄県産業廃棄物税)が課税されるので、適正に処理すること。</p> <p>(3) 受注者は、工事着手前に「建設副産物情報交換システム」(COBRIS)により作成した、「再生資源利用計画書」及び「再生資源利用促進計画書」を監督員に提出しなければならない。また、受注者は、その計画書に従い建設廃棄物が適切に処理されたことを確認し、工事完成時に「建設副産物情報交換システム」(COBRIS)により作成した、「再資源化報告書」、「再生資源利用実施書」、「再生資源利用促進実施書」を監督員に提出しなければならない。</p> <p>(4) 受注者は、工事で発生した建設廃棄物について、ゆいぐる材の認定を受けた施設又はゆいぐる材の認定を受けていないが、再資源化後にゆいぐる材製造業者へ出荷している施設へ搬出すること。ただし、島内に当該施設がない場合はこの限りではない。</p> <p>(5) 本工事における再資源化に要する費用(運搬費を含む処分費)は、前に掲げる施設のうち、受入条件のうちから運搬費と処分費(平日受入費用)の合計が最も経済的になるものを見込んでいく。したがって、正当な理由がある場合を除き、再資源化に要する費用の変更は行わない。</p> <p>(6) アスファルト舗装版切断に伴い発生する濁水及び粉体の取扱基準について ア 舗装切断作業に伴い、切断機械から発生する濁水及び粉体(以下、廃棄物という。)については、廃棄物吸引機能を有する切断機械等により回収するものとする。回収された廃棄物については、関係機関等と協議の上、適正に処理するものとし、必要と認められる経費については変更契約できるものとする。 「適正に処理」とは、「廃棄物処理及び清掃に関する法律」に基づき、産業廃棄物の排出事業者(請負業者)が産業廃棄物の処理を委託する際、適正処理のために必要な廃棄物情報(成分性状等)を処理業者に提供することが必要である。</p>		発生材の種類	発注者に引き渡すもの		特別管理産業廃棄物の有無及び処理方法		現場において再利用を図るもの	
	発生材の種類								
発注者に引き渡すもの									
特別管理産業廃棄物の有無及び処理方法									
現場において再利用を図るもの									

⑮ 主任技術者・監理技術者	<p>なお、工事に際して特別な混入物が無ければ、下記HPに掲載されている「濁水及び粉体の分析結果」を用いても差し支えない。 http://www.pref.okinawa.lg.jp/site/kankyo/seibi/sangyo/asufaruto.html なお、受注者は、廃棄物の処理に係る産業廃棄物管理票(マニフェスト)について、監督員から請求があった場合は提示しなければならない。</p> <p>イ 発生する濁水(汚濁)に関しては「アスファルト舗装版切断に伴い発生する濁水の取扱基準について(通知)(平成24年3月28日付け土技第1257号)」に基づき、適正に処理すること。</p> <p>ウ 発生する粉体に関しては「アスファルト舗装版切断に伴い発生する廃棄物の取扱いについて(通知)(平成25年1月17日付け土技第942号)」に基づき、適正に処理すること。</p> <p>(1) 工事請負代金額が4,500万円以上(建築一式工事の場合9,000万円以上)の工事については、主任技術者又は監理技術者を現場ごとに専任で配置する。なお、専任を要しない期間は、次のとおりとする。</p> <p>ア 現場施工に着手するまでの期間 【現場施工に着手する日が確定している場合】 請負契約の締結の日の翌日から令和 年 月 日までの期間については、主任技術者又は監理技術者の工事現場への専任を要しない。 【現場施工に着手する日が確定していない場合】 請負契約の締結後、現場施工に着手するまでの期間(現場事務所の設置、資機材の搬入又は仮設工事等が開始されるまでの期間)については、主任技術者又は監理技術者の工事現場への専任を要しない。なお、工事施工に着手する日については、請負契約の締結後、監督員との打合せにおいて定める。</p> <p>イ 検査終了後の期間 工事完成後、検査が終了し(発注者の都合により検査が遅延した場合を除く。)、事務手続、後片付け等のみが残っている契約工期中の期間については、主任技術者又は監理技術者の工事現場への専任を要しない。</p> <p>(2) 主任技術者及び監理技術者の雇用関係について ア 建設業法第26条の規定により、工事現場に専任で配置する主任技術者又は監理技術者は、受注者として入札執行日より前に3か月以上の雇用関係が成立していなければならない。</p> <p>イ 受注者は、着手届と共に工事現場に専任で配置する主任技術者又は監理技術者の雇用関係を証明する書類(監理技術者資格者証、市区町村が作成する住民税特別徴収税額通知書、健康保険・厚生年金被保険者標準報酬決定通知書、所属会社の雇用証明書又はこれらに準ずる資料等の写し)を提出しなければならない。</p>
⑯ 主任技術者等の資格	<p>(1) 主任技術者及び監理技術者の資格については、入札公告、現場説明資料等による。なお、入札公告、現場説明資料等で示されていない場合、主任技術者等の資格は、以下による。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 1級建築士、又は1級建築施工管理技士のいずれかの資格を有するもの ・ 1級建築士、2級建築士、1級建築施工管理技士、又は2級建築施工管理技士のいずれかの資格を有するもの <p>ア 監理技術者にあつては、監理技術者資格者証及び監理技術者講習修了証を有する者であること。</p> <p>イ 配置予定技術者にあつては、入札開始日前に3か月以上の直接的かつ恒常的な雇用関係があること。</p> <p>ウ 配置予定技術者の専任を要しない期間については、設計図書等で確認すること。</p> <p>(2) 発注者へ資格を証明する資料を提出すること。</p> <p>※ 本工事は、建設業法第26条第3項ただし書の規定の適用を受ける主任技術者又は監理技術者の配置を認める。この場合の要件は、現場説明書による。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 本工事は、建設業法第26条第3項ただし書の規定の適用を受ける主任技術者又は監理技術者の配置を認めない。
⑰ 主任技術者又は監理技術者の兼務	<p>※ 本工事は、建設業法第26条第3項ただし書の規定の適用を受ける主任技術者又は監理技術者の配置を認めない。</p>
⑱ 工事の保険等	<p>(1) 次の工事関係保険に加入すること。なお、保険の加入期間は原則として工事着工日から工事完成期日後14日以上とする。</p> <p>① 火災保険 ② 建設工事保険 ③ 組立保険 ④ 請負業者賠償責任保険</p> <p>(2) 建設労災補償共済又はこれに準ずる共済、保険に加入し、契約後1月以内に加入を証明する書類を発注者に提出する。</p>

⑲ ゆいぐる材について	<p>(3) 建設業退職金共済制度に加入し、次の項目を遵守すること。</p> <p>ア 掛金収納書を契約後原則一ヶ月以内(電子申請方式による場合にあつては契約後原則40日以内)に発注者に提出する。</p> <p>イ 当該建設現場に「建設業退職金共済制度適用事業主工事現場」標識を掲示する。</p> <p>ウ 未加入下請事業者に対する加入を指導する。</p> <p>エ 工事完成後、速やかに掛金充当実績総括表を作成し、検査職員に提示しなければならない。</p> <p>(1) 本工事で使用するリサイクル資材は、特定建設資材廃棄物を原材料とするゆいぐる材に限り、原則「ゆいぐる材」とする。それ以外を原材料とするゆいぐる材は率先して使用することとする。ただし、ゆいぐる材がない離島等での工事の場合は、ゆいぐる材以外の再生資材を使用できる。なお、ゆいぐる材以外の再生資材を使用する場合も「ゆいぐる材品質管理要領」に準じて品質管理を実施すること。また、ゆいぐる材の在庫がない等により使用することができない場合は、新材を使用すること。</p> <p>(2) ゆいぐる材の品質管理 ア ゆいぐる材の品質管理にあつては、「標準仕様書」等のほかに「ゆいぐる材品質管理要領」に基づいて行うこと。 イ 受注者は、工事請負代金額が500万円以上でゆいぐる材を使用する場合、着手後に公益財団法人沖縄県建設技術センターあてに「ゆいぐる材品質管理依頼」を行い、必要書類の交付を受けなければならない。 ウ 受注者は、路盤材のサンプル送付試験のサンプル採取及び現場への資材初回搬入時と敷き均し転圧完了後の現場簡易試験を監督員の立会の下、実施しなければならない。 エ 受注者は、路盤材の現場簡易試験が終了した場合、速やかに監督員に試験結果を報告しなければならない。</p>								
⑳ 技能士 (1.5.2)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>適用工事種別</th> <th>技能検定作業</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>※別紙参照</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	適用工事種別	技能検定作業	※別紙参照					
適用工事種別	技能検定作業								
※別紙参照									
21 化学物質の濃度測定 (1.5.10)	<p>(1) 測定時期、測定対象室及び測定箇所</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>測定対象室</th> <th>測定箇所数</th> <th>測定時期</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>(2) 測定対象化学物質が濃度指針値を超えた濃度で検出された場合は、引渡は受けない。</p>	測定対象室	測定箇所数	測定時期	備考				
測定対象室	測定箇所数	測定時期	備考						
㉑ 完成時の提出図書 (1.7.1) (1.7.2) (1.7.3)	<p>※完成図 ※保全に関する資料</p> <p>(1) 本工事の完成時の提出図書は、「當繕工事における工事関係図書等に関する効率化実施要領(案)」による。</p> <p>(2) 完成図は、(表1.7.1)に次表を含むものとする。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>種類</th> <th>記入内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>詳細図</td> <td>監督員との協議による。</td> </tr> </tbody> </table> <p>(3) 本工事は電子納品対象工事とする。 電子納品とは、調査、設計、工事などの各段階の最終成果を電子データで納品することをいう。ここでいう電子データとは、各種電子納品要領・基準等(以下、「要領」)に示されたファイルフォーマットに基づいて作成されたものを指す。 なお、書面における署名又は押印の取り扱いについては、別途監督員と協議するものとする。</p> <p>(4) 工事完成図書は、「要領」に基づいた電子データとなっているか(公財)沖縄県建設技術センターにて確認を受け、「電子納品確認登録証」の発行を受けること。 業務成果品(工事完成図書)は、電子媒体(CD-R等)で(正)1部提出すること。 「要領」で特に記載が無い項目については、監督員と協議の上、電子化のファイルフォーマットを決定すること。 なお、「紙」による提出物は、監督員と協議の上決定すること。</p> <p>(5) 受注者は、完成通知書の添付書類として以下の書類及び電子データを監督員に提出しなければならない。 ア ゆいぐる材利用状況報告書 イ ゆいぐる材出荷量証明書</p> <p>(6) 建築物等の利用に関する説明書について ・「建築物等の利用に関する説明書」を作成する。作成の手引き(国土交通省ホームページに掲載)を参考にして、記載事項は監督員との協議により決定する。</p> <p>(7) 受注者は、監督員より「長期保全計画書」の作成の指示があった場合、これを作成し監督員に提出しなければならない。なお、この計画書の内容等は監督員との協議により決定する。</p>	種類	記入内容	詳細図	監督員との協議による。				
種類	記入内容								
詳細図	監督員との協議による。								

㉒ 設計図CADデータの貸与	<p>本工事では発注者から受注者に対し設計図CADデータを貸与する。なお、貸与されたCADデータを本工事における施工図又は完成図の作成のため以外に使用してはならない。</p>		
24 情報共有システム	<p>(1) 現場事務所等に、情報共有システムが使用可能な以下に示す程度のインターネット環境を整えること。なお、現場条件等により当該整備が不可能な場合は、監督員と協議すること。 【インターネット環境】 :ブロードバンド回線 【パソコンOS】 :Microsoft Windows 11 【推奨ブラウザ】 :Microsoft Edge 情報共有システムとは、工事期間中において受発注者間でインターネットを介して協議簿、図面等の各種データのやり取りを行い、情報共有サーバーを用いてそれらのデータを共有・交換するものである。</p> <p>(2) 受注者は、沖縄県CALSシステムの利用にあつては、沖縄県とCALS運営会社で定めた使用承諾料を沖縄県CALSシステムを運営している者に支払うこと。</p> <p>(3) 沖縄県CALSシステムの使用許諾料を支払ったときは、速やかに監督員に支払いの事実を報告し、確認を受けること。(支払いの事実を証明する書類(銀行振り込みの写し等)を提出)</p>		
㉓ 墜落制止用器具	<p>・ 墜落制止用器具は、フルハーネス型とする。ただし、墜落時に着用者が地面に到達するおそれのある場合は、胴ベルト型の使用を認めるものとする。また、墜落制止用器具の安全な使用に関するガイドライン(平成30年6月22日付け基発0622第2号)を遵守すること。</p>		
26 「労務費見積り尊重宣言」促進モデル工事	<p>・ 本工事は、「労務費見積り尊重宣言」促進モデル工事の対象工事である。 実施については、「沖縄県「労務費見積り尊重宣言」促進モデル工事試行要領」及び「労務費見積り尊重宣言」実施要領(2018.12.21 日本建設業連合会)等を参照し実施するものとする。</p>		
27 建設キャリアアップシステム(CCUS)活用について	<p>・ 本工事は、建設キャリアアップシステム(以下「CCUS」という。)活用工事の試行対象であり、実施については、受注者における希望型とする。 受注者は、工事着手前までにCCUS活用について、実施の有無を工事打合簿にて発注者へ報告するものとする。 実施については、「沖縄県 建設キャリアアップシステム(CCUS)活用工事試行要領」及び「建設キャリアアップシステム現場運用マニュアル」(一般財団法人建設業振興基金)等を参照し実施するものとする。</p>		
工事名称	(仮称)新港ふ頭10号上層建設工事(本体・建築)	工事年度	令和7年度
工事場所	那覇市港町1丁目204番地・205番地	図面名称	建築工事特記仕様書(その2)
発注機関	那覇港管理組合 企画建設部 計画建設課	縮尺	—
摘要		図面番号	A-03
検印	管理建築士	設計	製図
			設計者
			資格者氏名
		登録番号	一級建築士大臣登録第218581号
		所在地	沖縄県宜野湾市普天間2-47-1

20 技能士(1.5.2)
※別紙

適用工事種別	技能検定作業
鉄筋工事	鉄筋施工(鉄筋組立て作業)
コンクリート工事	型枠施工/コンクリート圧送施工
鉄骨工事	とび(とび作業)
コンクリートブロック工事	ブロック建築
防水工事	ウレタンゴム系塗膜防水/シーリング防水
石工事	石材施工(石張り作業)
タイル工事	タイル施工(タイル張り作業)
屋根及びとい工事	建築板金(内外装板金作業)
金属工事	内装仕上げ施工(鋼製下地工事作業)
左官工事	左官(左官作業)
建具工事	サッシ施工
塗装工事	建築塗装/金属塗装
内外装工事	プラスチック系床仕上げ/ボード仕上げ
舗装工事	アスファルト舗装
磁気探査工事	磁気探査

2 仮設工事

3 土工事

4 地業工事

5 鉄筋工事

6 コンクリート工事

工事名称	〈仮称〉新港ふ頭10号上層建設工事(本体・建築)		工事年度	令和 7 年度
工事場所	那覇市港町1丁目204番地・205番地	図面名称	建築工事特記仕様書(その2)	
発注機関	那覇港管理組合 企画建設部 計画建設課	縮尺	—	
摘要			図面番号	A-03(別紙)
検印	管理建築士	設計	製図	図面名称 (株)アーキ5D
				資格者氏名 新里 均
				登録番号 一級建築士大臣登録第218581号
			所在地	沖縄県宜野湾市普天間2-47-1

仮設工事
① 工事用水
② 工事用電力
③ 環境対策について
④ 足場その他
⑤ 監督員事務所

土工事
① 埋戻し及び盛土
② 建設発生土の処理

地業工事
1 載荷試験
2 杭地業
3 床下防湿層

鉄筋工事
① 鉄筋
② 溶接金網
③ 継手及び定着
④ 鉄筋のかぶり厚さ及び間隔
⑤ 各部配筋
⑥ 機械式継手

コンクリート工事
① コンクリートの強度
② コンクリートの材料
③ コンクリートの強度試験
④ コンクリート打放し仕上げ
⑤ コンクリートの品質管理
⑥ 打継ぎ
⑦ 型枠
⑧ 軽量コンクリート
⑨ 暑中コンクリート
⑩ 品質確保

鉄骨工事
① 鋼材
② 高力ボルト
③ 普通ボルト
④ アンカーボルト
5 デッキプレート
6 スタッド
⑦ 柱底均しモルタル
8 材料試験等
9 仮組
⑩ 溶接
⑪ 塗料の種類
12 耐火被覆の種類及び性能
⑬ その他

コンクリートブロック・ALCパネル・ECP工事
1 補強コンクリートブロック造
2 コンクリートブロック帳壁及び塀
3 ALCパネル
4 押出成形セメント板(ECP)

5 外壁パネル工法
(1) 地震に対する安全性
(2) 構造体の層間変形に対する追従性

9 防水工事
① 防水の種類
② シーリング
③ 保証

10 石工事
1 石材
2 壁の石張り工法
工事名称
工事場所
発注機関
摘要
検印

10 石工事 へ続き	3 床及び階段の石張り (10.6.2)(10.6.3)	<table border="1"> <tr> <th>厚さ</th> <th>石裏面処理</th> <th>目地幅</th> <th>備考</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	厚さ	石裏面処理	目地幅	備考																																	
	厚さ	石裏面処理	目地幅	備考																																			
4 特殊部位の石張り(10.7.1)(10.7.2)(10.7.3)	<table border="1"> <tr> <th>施工箇所</th> <th>工法</th> <th>石材の厚さ</th> <th>石裏面処理</th> <th>裏打ち処理</th> <th>備考</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	施工箇所	工法	石材の厚さ	石裏面処理	裏打ち処理	備考																																
施工箇所	工法	石材の厚さ	石裏面処理	裏打ち処理	備考																																		
11 タイル工事	1 タイル (11.2.2)(11.3.2)	<p>(1) タイルの種類</p> <table border="1"> <tr> <th>施工箇所</th> <th>形状・寸法</th> <th>うわぐすり</th> <th>吸水率</th> <th>役物</th> <th>色</th> <th>耐滑り性</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>(2) タイルの試験張り:【・行う ・行わない】</p> <p>(3) タイルの見本焼き:【・行う ・行わない】</p>	施工箇所	形状・寸法	うわぐすり	吸水率	役物	色	耐滑り性																														
	施工箇所	形状・寸法	うわぐすり	吸水率	役物	色	耐滑り性																																
2 あと張り工法 (11.2.6)(11.3.5) (表11.2.3) (表11.3.2)	<p>壁タイル張りの工法等</p> <table border="1"> <tr> <th>タイルの種類</th> <th>大きさ</th> <th>工法</th> <th>張付け材料の種類、塗厚等</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>モルタル塗りを行うコンクリート素地面の処理:【・MCR工法 ・目荒らし工法】</p>	タイルの種類	大きさ	工法	張付け材料の種類、塗厚等																																		
タイルの種類	大きさ	工法	張付け材料の種類、塗厚等																																				
12 木工事	1 木材 (12.2.1) (表12.2.1)	<p>(1) 木材(下地材)の含水率: ※A種 ・ B種 木材(造作材)の含水率: ※A種 ・ B種</p> <p>(2) 製材 【・「製材の日本農林規格」による ・「製材の日本農林規格」以外による】 【・下地用針葉樹製材 ・造作用針葉樹製材 ・広葉樹製材 ・ 】</p> <table border="1"> <tr> <th>施工箇所</th> <th>樹種</th> <th>寸法</th> <th>等級又は品質</th> <th>含水率</th> <th>防虫処理</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>(3) 造作用集成材 【・「集成材の日本農林規格」による ・「集成材の日本農林規格」以外による】 【・造作用集成材 ・化粧ばり造作用集成材 ・化粧ばり構造用集成材 ・ 】</p> <table border="1"> <tr> <th>施工箇所</th> <th>樹種</th> <th>寸法</th> <th>等級又は品質</th> <th>含水率</th> <th>化粧薄板の厚さ</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	施工箇所	樹種	寸法	等級又は品質	含水率	防虫処理							施工箇所	樹種	寸法	等級又は品質	含水率	化粧薄板の厚さ																			
	施工箇所	樹種	寸法	等級又は品質	含水率	防虫処理																																	
施工箇所	樹種	寸法	等級又は品質	含水率	化粧薄板の厚さ																																		
(表12.2.2)	<p>(4) 造作用単板積層材 【・「単板積層材の日本農林規格」による ・「単板積層材の日本農林規格」以外による】</p> <table border="1"> <tr> <th>施工箇所</th> <th>厚さ</th> <th>表面の品質</th> <th>含水率</th> <th>防虫処理</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>(5) 合板等【・普通合板 ・構造用合板】</p> <table border="1"> <tr> <th>施工箇所</th> <th>樹種</th> <th>厚さ品質、等級等</th> <th>接着の程度</th> <th>防虫・強度等</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>(6) パーティクルボード</p> <table border="1"> <tr> <th>施工箇所</th> <th>厚さ</th> <th>表裏面の状態</th> <th>曲げ強さ</th> <th>接着剤</th> <th>難燃性</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>(7) 構造用パネル</p> <table border="1"> <tr> <th>施工箇所</th> <th>厚さ</th> <th>等級</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	施工箇所	厚さ	表面の品質	含水率	防虫処理						施工箇所	樹種	厚さ品質、等級等	接着の程度	防虫・強度等						施工箇所	厚さ	表裏面の状態	曲げ強さ	接着剤	難燃性							施工箇所	厚さ	等級			
施工箇所	厚さ	表面の品質	含水率	防虫処理																																			
施工箇所	樹種	厚さ品質、等級等	接着の程度	防虫・強度等																																			
施工箇所	厚さ	表裏面の状態	曲げ強さ	接着剤	難燃性																																		
施工箇所	厚さ	等級																																					
2 土壌の防蟻処理 (12.3.1)(12.3.2)	<p>(1) 施工箇所:「防除施工標準仕様書」(公益社団法人日本しろあり対策協会発行) I 新築建築物しろあり予防処理標準仕様書 4 処理の箇所 に準ずることとし、建築物の外周処理を含む。</p> <p>(2) 処理薬剤:(公社)日本しろあり対策協会又は(公社)日本木材保存協会の認定品とする。</p> <p>(3) 処理方法:「防除施工標準仕様書」 I 新築建築物しろあり予防処理標準仕様書 3 処理の方法 に準ずる。また、土間コンクリートを打設する部分には、薬剤処理後、厚さ0.15mmポリエチレンフィルム敷きを行う。</p>																																						
3 防蟻・防蟻・防虫処理 (12.3.1)(12.3.2)	<p>木材処理(防蟻・防虫)</p> <p>(1) 施工箇所:合板、集成材等を除く全ての木材</p> <p>(2) 処理方法:工場における加圧式とし、十分に乾燥を行う。ただし、現場における加工が生じた場合には、加工した箇所に対し、現場にて木材保存剤を塗布する。</p>																																						

13 屋根及び とい工事	1 長尺金属板葺 (13.2.2)	<table border="1"> <tr> <th>施工箇所</th> <th>屋根葺形式</th> <th>板及びコイルの種類</th> <th>塗膜の耐久性、めっき付着量の種類の表示記号</th> <th>厚さ等</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>下葺材料:【・アスファルトルーフィング940 ・改質アスファルトルーフィング】</p>	施工箇所	屋根葺形式	板及びコイルの種類	塗膜の耐久性、めっき付着量の種類の表示記号	厚さ等						
	施工箇所	屋根葺形式	板及びコイルの種類	塗膜の耐久性、めっき付着量の種類の表示記号	厚さ等								
2 折板 (13.3.2)	<table border="1"> <tr> <th>施工箇所</th> <th>形式の区分</th> <th>山高・山ピッチ</th> <th>耐力による区分</th> <th>材料による区分</th> <th>厚さ</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>(1) 軒先面戸板の適用:①・有り ・なし】 (2) 断熱材張り ① 実施する ・実施しない】</p>	施工箇所	形式の区分	山高・山ピッチ	耐力による区分	材料による区分	厚さ						
施工箇所	形式の区分	山高・山ピッチ	耐力による区分	材料による区分	厚さ								
14 金属工事	3 県産瓦葺	<p>(1) 瓦は沖縄県産の赤瓦とする。</p> <p>(2) 沖縄県技能評価認定制度に基づく琉球赤瓦施工技能評価試験の瓦葺き作業及び漆喰塗り作業に合格した者を、適用する作業中において次の条件で配置し自ら施工すると共に、他の技能者に対して施工品質の向上を図るための作業指導を行うこと。 【・1名以上配置 ・施工面積 m2につき、 級技能評価試験に合格した者を1名配置】</p>											
	4 瓦 (13.4.3)	<p>(1)瓦の緊結方法: ()</p> <table border="1"> <tr> <th>材種</th> <th>規格名称</th> <th>材質</th> <th>備考</th> </tr> <tr> <td>硬質ポリ塩化ビニル管</td> <td>JIS K 6741</td> <td>VP</td> <td>種受 溶融亜鉛めっき</td> </tr> </table>	材種	規格名称	材質	備考	硬質ポリ塩化ビニル管	JIS K 6741	VP	種受 溶融亜鉛めっき			
材種	規格名称	材質	備考										
硬質ポリ塩化ビニル管	JIS K 6741	VP	種受 溶融亜鉛めっき										
15 左官工事	1 あと施工アンカー (14.1.3)	あと施工アンカーの引抜試験:【・実施する ・実施しない】											
	2 アルミニウム及びアルミニウム合金の表面処理 (14.2.2) (14.7.2) (表14.2.1)	<p>表面処理の種類をB-1種又はB-2種としたときの複合皮膜の種類:【・A1 ・A2】(JIS H 8602)</p> <table border="1"> <tr> <th>施工箇所</th> <th>種別</th> <th>表面処理方法</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>(14.2.3) (表14.2.2)</p>	施工箇所	種別	表面処理方法								
施工箇所	種別	表面処理方法											
16 防錆処理	3 鉄鋼の亜鉛めっき (14.2.3) (表14.2.2)	<p>屋外の軽量鉄骨天井下地</p> <table border="1"> <tr> <th>野縁受、吊りボルト及びインサートの間隔</th> <th>野縁の間隔</th> <th>備考</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>・補強方法等(図示による)</p>	野縁受、吊りボルト及びインサートの間隔	野縁の間隔	備考								
	野縁受、吊りボルト及びインサートの間隔	野縁の間隔	備考										
4 軽量鉄骨天井下地 (14.4.3) (14.4.4)	<p>(1) 構成部材による種類:</p> <p>(2) アルミニウム製笠木本体の材料の表面処理の種類及び複合皮膜の種類は次による。 種別:【・A-1 ・B-1】 種別をB-1とした場合の複合皮膜の種類:【・A1 ・A2】(JIS H 8602)</p> <p>(3) 固定金具の間隔及び固定方法: (1) 取付金物の防錆処理(小ねじ含む)を行う</p>												
7 防錆処理	<p>(1) 種類: ・通気工法(・二重下地 ・単層下地) ・直貼り工法(・ラスモルタル下地 ・ラスシートモルタル下地) ・外張断熱工法で断熱材の外側に胴縁を施工する形式の通気工法を行う場合()</p> <p>(2) 建築基準法に基づく耐力壁、防火構造、準耐火構造等の指定がある場合の下地の仕様()</p>												

2 せつこうボード その他のボード 下地(15.2.5)	<table border="1"> <tr> <th>材料</th> <th>種類</th> <th>厚さ</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	材料	種類	厚さ																															
	材料	種類	厚さ																																
3 モルタル塗り (15.3.2) (15.3.5)	<p>(1) モルタル: ・現場調査材料 ・既調査材料()</p> <p>(2) 既製目地材の適用及び形状:</p> <p>(3) 床の目地の設置及び工法:</p> <p>(4) 外装タイル張り下地等の下地モルタルの接着力試験:【・実施する ・実施しない】</p>																																		
4 仕上塗材仕上げ (15.6.2) (表15.6.1)	<table border="1"> <tr> <th>種類</th> <th>呼び名</th> <th>仕上げの形状・工法等</th> </tr> <tr> <td>複層仕上塗材</td> <td>複層塗材RE</td> <td>凹凸状 吹付</td> </tr> </table>	種類	呼び名	仕上げの形状・工法等	複層仕上塗材	複層塗材RE	凹凸状 吹付																												
種類	呼び名	仕上げの形状・工法等																																	
複層仕上塗材	複層塗材RE	凹凸状 吹付																																	
5 マスチック塗料塗り(表15.7.1)	<table border="1"> <tr> <th>工程</th> <th>種別</th> <th>塗料その他</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	工程	種別	塗料その他																															
工程	種別	塗料その他																																	
6 せつこうプラスター塗り (15.8.2)(15.8.3)	<p>(1) 下塗り及び中塗りに用いるせつこうプラスター ・既調査プラスター(下塗り用) ・現場調査プラスター(下塗り用)</p> <p>(2) 上塗り: ・既調査プラスター(上塗り用) ・しっくい塗り</p>																																		
7 しっくい塗り (15.10.2)	<p>(1) しっくい: ・現場調査材料 ・既調査材料()</p>																																		
8 ロックウール吹付け(15.12.3)	仕上げ厚さ:																																		
17 建具工事	1 防火戸等 (16.1.3) (16.1.6)	<p>(1) 防火戸の指定及び機構等は、図示による。</p> <p>(2) 防犯建物部品の適用は、図示による。</p>																																	
	2 見本の製作等 (16.1.4)	<p>(1) 建具見本の製作:【・行う ・行わない】</p> <p>(2) 特殊な建具の仮組:【・実施する ・実施しない】</p>																																	
3 アルミニウム製建具 (16.2.2) (16.2.4) (16.2.5) (表14.2.1) (表16.2.1)	<p>(1) 建具の性能等</p> <table border="1"> <tr> <th>種別</th> <th>耐風圧性</th> <th>気密性</th> <th>水密性</th> <th>枠見込み寸法</th> <th>施工箇所</th> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>S-7(3600)</td> <td>A-4</td> <td>W-5</td> <td>図示</td> <td>図示</td> </tr> <tr> <td>C種</td> <td>S-6(2800)</td> <td>A-4</td> <td>W-5</td> <td>図示</td> <td>図示</td> </tr> </table> <p>(2) 特殊なドアセット等の適用及び等級</p> <table border="1"> <tr> <th>ドアセット等の種類</th> <th>施工箇所</th> <th>等級</th> <th>備考</th> </tr> <tr> <td>・防音ドアセット</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>・断熱ドアセット</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>・耐震ドアセット</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>(3) 外部に面する建具の表面処理の種類及び複合皮膜の種類 種別: B-1 複合皮膜の種類:①・A1 ・A2】(JIS H 8602)</p> <p>(4) 結露水の処理方法:</p> <p>(5) 水切り及びびせん板等の加工及び組立は、図示による。</p>	種別	耐風圧性	気密性	水密性	枠見込み寸法	施工箇所	その他	S-7(3600)	A-4	W-5	図示	図示	C種	S-6(2800)	A-4	W-5	図示	図示	ドアセット等の種類	施工箇所	等級	備考	・防音ドアセット				・断熱ドアセット				・耐震ドアセット			
種別	耐風圧性	気密性	水密性	枠見込み寸法	施工箇所																														
その他	S-7(3600)	A-4	W-5	図示	図示																														
C種	S-6(2800)	A-4	W-5	図示	図示																														
ドアセット等の種類	施工箇所	等級	備考																																
・防音ドアセット																																			
・断熱ドアセット																																			
・耐震ドアセット																																			
4 樹脂製建具 (16.3.2) (16.3.3) (16.3.4) (16.3.5) (表16.3.1) (表16.3.2) (表16.3.3)	<p>(1) 建具の性能等</p> <table border="1"> <tr> <th>種別</th> <th>耐風圧性</th> <th>気密性</th> <th>水密性</th> <th>枠見込み寸法</th> <th>施工箇所</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>(2) 特殊なドアセット等の適用及び等級</p> <table border="1"> <tr> <th>ドアセット等の種類</th> <th>施工箇所</th> <th>等級</th> <th>備考</th> </tr> <tr> <td>・防音ドアセット</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>・断熱ドアセット</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>(3) 表面色:</p> <p>(4) 水切り及びびせん板等の加工及び組立は、図示による。</p> <p>(5) ガラス: ※複層ガラス・単板ガラス ・三重ガラス ・</p> <p>(6) 外部に面する建具の日射熱取得性の等級【・ 】</p>	種別	耐風圧性	気密性	水密性	枠見込み寸法	施工箇所							ドアセット等の種類	施工箇所	等級	備考	・防音ドアセット				・断熱ドアセット													
種別	耐風圧性	気密性	水密性	枠見込み寸法	施工箇所																														
ドアセット等の種類	施工箇所	等級	備考																																
・防音ドアセット																																			
・断熱ドアセット																																			
5 鋼製建具 (16.4.1)(16.4.2)	<p>(1) 建具の性能等</p> <table border="1"> <tr> <th>施工箇所</th> <th>気密性</th> <th>水密性</th> <th>耐風圧性</th> <th>備考(材料等)</th> </tr> <tr> <td>図示</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>(2) 特殊なドアセット等の適用及び等級</p> <table border="1"> <tr> <th>ドアセット等の種類</th> <th>施工箇所</th> <th>等級</th> <th>備考</th> </tr> <tr> <td>・簡易気密型ドアセット</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>(3) 鋼板の種類:【・ JIS G 3302 ・ JIS G 3317】</p> <p>(4) 重量がある扉等 ・ 24 その他 1重量がある扉等 による。</p>	施工箇所	気密性	水密性	耐風圧性	備考(材料等)	図示					ドアセット等の種類	施工箇所	等級	備考	・簡易気密型ドアセット																			
施工箇所	気密性	水密性	耐風圧性	備考(材料等)																															
図示																																			
ドアセット等の種類	施工箇所	等級	備考																																
・簡易気密型ドアセット																																			
6 鋼製軽量建具 (16.5.2) (16.5.3) (表16.2.1)	<p>(1) 建具の性能等</p> <table border="1"> <tr> <th>種別</th> <th>耐風圧性</th> <th>気密性</th> <th>水密性</th> <th>枠見込み寸法</th> <th>施工箇所</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	種別	耐風圧性	気密性	水密性	枠見込み寸法	施工箇所																												
種別	耐風圧性	気密性	水密性	枠見込み寸法	施工箇所																														

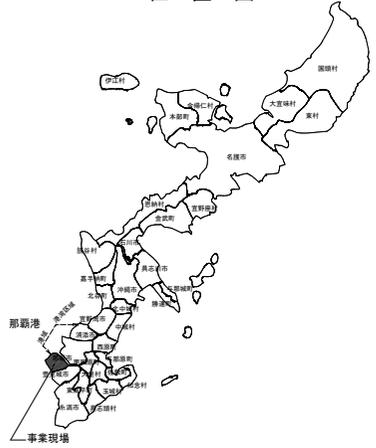
6 鋼製軽量建具 (16.5.2) (16.5.3) (表16.2.1)	<p>(2) 特殊なドアセット等の適用及び等級</p> <table border="1"> <tr> <th>ドアセット等の種類</th> <th>施工箇所</th> <th>等級</th> <th>備考</th> </tr> <tr> <td>・簡易気密型ドアセット</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>(3) ビニル被覆鋼板:【・使用する ・使用しない】</p> <p>(4) カラー鋼板の適用:【・使用する ・使用しない】</p>	ドアセット等の種類	施工箇所	等級	備考	・簡易気密型ドアセット																						
	ドアセット等の種類	施工箇所	等級	備考																								
・簡易気密型ドアセット																												
7 ステンレス製建具 (16.6.2)(16.6.3)	<p>(1) 建具の性能等</p> <table border="1"> <tr> <th>施工箇所</th> <th>気密性</th> <th>水密性</th> <th>耐風圧性</th> <th>備考(材料等)</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>(2) 表面仕上げ:【※HL ・パイブレーション ・鏡面 ・ 】</p>	施工箇所	気密性	水密性	耐風圧性	備考(材料等)																						
施工箇所	気密性	水密性	耐風圧性	備考(材料等)																								
8 木製建具 (16.7.2) (16.7.4)	<p>(1) かまち戸 かまちの樹種: 、鏡板の樹種:</p> <p>(2) ふすま 上張りの種類: 、縁の仕上げ:</p>																											
9 建具用金物 (16.8.2)(16.8.3) (表16.8.1)	<p>(1) 建具用金物の材質、形状及び寸法</p> <table border="1"> <tr> <th>形式</th> <th>金物の種類</th> <th>見え掛り部の材質</th> <th>備考</th> </tr> <tr> <td>図示</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>(2) 建具用金物の取付け位置等は、図示による。</p>	形式	金物の種類	見え掛り部の材質	備考	図示																						
形式	金物の種類	見え掛り部の材質	備考																									
図示																												
10 鍵 (16.8.4)	<p>(1) マスターキー:① 製作する ・製作しない】</p> <p>(2) 関連工事がある場合は、受注者間で協議し1つの鍵箱にまとめて納品する。</p>																											
11 自動ドア開閉装置 (16.9.3) (表16.9.4)	<p>(1) 戸の開閉方法:【・引戸 ・開き戸 ・折戸】</p> <p>(2) センサーの種類:</p>																											
12 シャッター (16.11.2) (16.12.2) (16.12.4)	<p>(1) シャッターの種類:①・重量() ・軽量】</p> <p>(2) 耐風圧強度: (16.12.2)</p> <p>(3) 開閉機能:【・手動式 ① ・電動式】</p> <p>(4) 重量シャッターの場合のシャッターケース: 【① 設ける ・設けけない】</p> <p>(5) スラットの形式: 【・インターロッキング形 ① ・オーバーラッピング形】</p>																											
13 オーバーヘッドドア(16.13.2)	<p>(1) 耐風圧性能の区分:</p> <p>(2) 開閉機能:【※バランス式 ・チェーン式 ・電動式】</p> <p>(3) 収納形式による区分:</p>																											
14 ガラス (16.14.2) (16.14.4) (16.14.5)	<p>(1) ガラスの種類及び厚さ等</p> <table border="1"> <tr> <th>ガラスの種類</th> <th>厚さ等</th> <th>備考</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>(2) ガラス留め材</p> <table border="1"> <tr> <th>建具の種類</th> <th>材種</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>(3) 熱線反射ガラスの映像調整:</p> <p>(4) ガラスブロックの材料及び工法 表面形状呼び寸法 厚さ 壁用金属枠 補強材 色 金属製化粧カバー</p>	ガラスの種類	厚さ等	備考				建具の種類	材種																			
ガラスの種類	厚さ等	備考																										
建具の種類	材種																											
17 カーテン ウォール 工事	1 カーテンウォール (17.2.2) (17.2.3) (17.2.6) (17.3.2) (17.3.3) (17.3.6)	<p>(1) カーテンウォールの種類:【・メタル ・PC】</p> <p>(2) 性能</p> <table border="1"> <tr> <th>耐風圧性能</th> <th>耐震性</th> <th>水密性</th> <th>気密性</th> <th>耐火性</th> <th>耐温度性</th> <th>遮音性</th> <th>断熱性</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>(3) 材料の種類</p> <table border="1"> <tr> <th>金属材料</th> <th>シーリング材</th> <th>耐火目地材</th> <th>断熱材</th> <th>構造ガasket</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>(4) 先付け材料:【・建具枠 ・ゴンドラ用ガイドレール ・ 】 仕様等については、図示による。</p> <p>(5) メタルカーテンウォール製品の見え掛り部分の仕上げ:</p> <p>(6) PCカーテンウォールの仕上げ:</p> <p>(7) 構造ガasketを用いるガラスの取付け:</p>	耐風圧性能	耐震性	水密性	気密性	耐火性	耐温度性	遮音性	断熱性									金属材料	シーリング材	耐火目地材	断熱材	構造ガasket					
	耐風圧性能	耐震性	水密性	気密性	耐火性	耐温度性	遮音性	断熱性																				
金属材料	シーリング材	耐火目地材	断熱材	構造ガasket																								
2 防蟻・防蟻・防虫処理 (12.3.1)(12.3.2)	<p>木材処理(防蟻・防虫)</p> <p>(1) 施工箇所:合板、集成材等を除く全ての木材</p> <p>(2) 処理方法:工場における加圧式とし、十分に乾燥を行う。ただし、現場における加工が生じた場合には、加工した箇所に対し、現場にて木材保存剤を塗布する。</p>																											

工事名称	(仮称)新港ふ頭10号上層建設工事(本体・建築)	工事年度	令和 7 年度
発注機関	那覇市港町1丁目204番地・205番地	図面名称	建築工事特記仕様書(その4)
縮尺	那覇港管理組合 企画建設部 計画建設課	縮尺	—
図面番号	—	図面番号	A-05
設計者	管理建築士 設 計 製 図	名 称	(株)アーキ5D
資格者氏名		資格者氏名	新里 均
登録番号		登録番号	一級建築士大臣登録第218581号
所在地		所在地	沖縄県宜野湾市普天間2-47-1

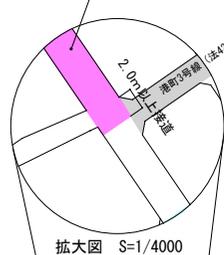
18 塗装工事	① 塗装の種類及び種別 (18.1.7) (18.2.2) -(18.12.2)	<table border="1"> <tr> <th>塗装面</th> <th>素地ごしらえ 工程の種類</th> <th>塗料の名称・ 種類</th> <th>塗装工程の 種別</th> <th>施工箇所</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>防火材料の指定【 ・有 ・無】</p>	塗装面	素地ごしらえ 工程の種類	塗料の名称・ 種類	塗装工程の 種別	施工箇所						5 手すり (20.2.6)	(1) 手すり 【 ・ SUS304 (表面処理 ・ ※HL程度) ・ 鋼製 表面処理 溶融亜鉛めっき (※標準仕様書表14.2.2による種別 (・ 種)) 】	6 透水性アスファルト舗装 (22.7.2)	構成及び厚さ:【 ・ 図示による(A-) ・ 】																										
	塗装面	素地ごしらえ 工程の種類	塗料の名称・ 種類	塗装工程の 種別	施工箇所																																					
② 保証	(1) 元請業者、施工業者、製造所の三者連署による保証書を監督員に提出する。 (2) 保証期間は、工事完成後【 5 】年間とする。	6 階段滑り止め (20.2.6)	<table border="1"> <tr> <th>材種</th> <th>形状</th> <th>寸法</th> <th>備考</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	材種	形状	寸法	備考					7 ブラインド (20.2.14)	<table border="1"> <tr> <th>形式</th> <th>種類</th> <th>スラットの材質</th> <th>スラットの幅</th> <th>施工箇所</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	形式	種類	スラットの材質	スラットの幅	施工箇所						7 ブロック系舗装 (22.8.1)	(1) ブロック系舗装の適用:【 ・ コンクリート平板舗装 ・ インターロッキングブロック舗装 ・ 舗石舗装】 (2) 種類及び寸法等:【 ・ 図示による(A-) ・ 】 (3) ジオテキスタイルの適用及び品質:【 】																	
材種	形状	寸法	備考																																							
形式	種類	スラットの材質	スラットの幅	施工箇所																																						
19 内装工事	1 ビニル床シート等 (19.2.2) (19.2.3)	(1) ビニル床シートの材料及び工法 <table border="1"> <tr> <th>施工箇所</th> <th>種類の記号</th> <th>色柄</th> <th>厚さ</th> <th>熱溶接工法の適用</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>・ 有り ・ 無し</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>・ 有り ・ 無し</td> </tr> </table>	施工箇所	種類の記号	色柄	厚さ	熱溶接工法の適用					・ 有り ・ 無し					・ 有り ・ 無し	8 ロールスクリーン (20.2.15)	<table border="1"> <tr> <th>操作方式</th> <th>幅及び高さ</th> <th>材種</th> <th>品質等</th> <th>施工箇所</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	操作方式	幅及び高さ	材種	品質等	施工箇所						23 植栽及び屋上緑化工事	1 植栽地の確認 (23.1.3) (23.2.2) (23.2.3)	(1) 植栽地の土壌試験: (2) 暗きよ、開きよ及び排水層等の設置は、図示による。 (3) 土壌改良材: (4) 植込み用土:										
	施工箇所	種類の記号	色柄	厚さ	熱溶接工法の適用																																					
				・ 有り ・ 無し																																						
				・ 有り ・ 無し																																						
操作方式	幅及び高さ	材種	品質等	施工箇所																																						
2 カーペット敷き (19.3.2) (19.3.3) (表19.3.1) (表19.3.2)	(2) ビニル床タイル、ゴム床タイル <table border="1"> <tr> <th>施工箇所</th> <th>種類 (・ 形状)</th> <th>厚さ等</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	施工箇所	種類 (・ 形状)	厚さ等				9 カーテン (20.2.16)	<table border="1"> <tr> <th>形式</th> <th>開閉操作</th> <th>きれ地の種別等</th> <th>施工箇所</th> <th>備考</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	形式	開閉操作	きれ地の種別等	施工箇所	備考						2 植樹 (23.3.2) -(23.3.4) (23.3.6)	(1) 種類等 <table border="1"> <tr> <th>樹木の種類</th> <th>樹高(m)</th> <th>有効土層の厚さ(cm)</th> <th>支柱の形</th> <th>備考</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>整備範囲は図示による</td> </tr> </table>	樹木の種類	樹高(m)	有効土層の厚さ(cm)	支柱の形	備考					整備範囲は図示による	(2) 新植樹木の枯補償の期間:【 ※1年 ・ ()年】 (3) 移植樹木の枯損処理を行う期間:【 ※1年 ・ ()年】										
施工箇所	種類 (・ 形状)	厚さ等																																								
形式	開閉操作	きれ地の種別等	施工箇所	備考																																						
樹木の種類	樹高(m)	有効土層の厚さ(cm)	支柱の形	備考																																						
				整備範囲は図示による																																						
3 合成樹脂塗床 (19.4.3)	(3) 特殊機能床材の適用: 【 ・ 帯電防止床シート又は床タイル ・ 視覚障害者用床タイル ・ 耐動荷重性床シート ・ 防滑性床シート又は床タイル】 <table border="1"> <tr> <th>施工箇所</th> <th>種類 (・ 形状)</th> <th>厚さ等</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	施工箇所	種類 (・ 形状)	厚さ等				10 間知石及びコンクリート間知ブロック積み (20.4.2) (20.4.3)	(1) 間知石 <table border="1"> <tr> <th>材種</th> <th>目塗り</th> <th>目地の材種・厚さ等</th> <th>施工箇所</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td>図示【A- 】</td> </tr> </table>	材種	目塗り	目地の材種・厚さ等	施工箇所				図示【A- 】	(2) コンクリート間知ブロックの適用がある場合の種類及び質量区分:【 ・ 】	3 芝張り等 (23.4.2)	(1) 芝の種類: (2) 種子の種類及び量: (3) 地被類																						
施工箇所	種類 (・ 形状)	厚さ等																																								
材種	目塗り	目地の材種・厚さ等	施工箇所																																							
			図示【A- 】																																							
4 フローリング張り (19.5.2)(19.5.3)	(1) 帯電性の適用【 ・ 有り ・ 無し】 (2) 見切り、押さえ金物の材質、種類及び形状は図示による。	11 かつふきマット	(1) かつふきマットの材種:【 ・ 塩化ビニル又はゴム製 ・ 硬質アルミニウム合金製 ・ ステンレス鋼(SUS304)製】 (2) 受け枠の材種: 【 ・ 硬質アルミニウム合金製 ・ ステンレス鋼(SUS304)製】	12 流し台ユニット <table border="1"> <tr> <th>名称</th> <th>寸法</th> <th>適用内容</th> <th>規格・品質</th> <th>備考</th> </tr> <tr> <td>流し台</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>コンロ台</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	名称	寸法	適用内容	規格・品質	備考	流し台					コンロ台					24 その他	1 重量がある扉等 ・ 図示による【 ・ (A-) ・ 】	・ 施工図及び施工計画書(工場製作要領書・工事現場施工要領書を含む)の記載事項は、標準仕様書16章建具工事に加え、標準仕様書7章鉄骨工事に準じることとし、扉の取り付け方法、溶接、塗装計画、ボルト等接合作業手順等を考慮しながら品質計画を作成する。施工図及び施工計画書を工事の施工に先立ち作成し、監督員に提出し承諾を得るものとする。																				
名称	寸法	適用内容	規格・品質	備考																																						
流し台																																										
コンロ台																																										
5 フローリングボードの特殊張り	体育館、武道場等の床の強度、弾力性を特に要求される広い床は、日本体育床下地工業会編「体育館床工事標準施工要領書」による。	21 排水工事	1 排水管 (21.2.1)	<table border="1"> <tr> <th>材種</th> <th>管の種類</th> <th>呼び径</th> <th>備考</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	材種	管の種類	呼び径	備考					(1) 側塊 <table border="1"> <tr> <th>形状</th> <th>寸法</th> <th>備考</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	形状	寸法	備考				(2) 排水柵 <table border="1"> <tr> <th>種類</th> <th>適用荷重</th> <th>備考</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	種類	適用荷重	備考				(3) グレーチング <table border="1"> <tr> <th>材質</th> <th>用途</th> <th>適用荷重</th> <th>メインバーピッチ</th> <th>備考</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	材質	用途	適用荷重	メインバーピッチ	備考						(4) 地業の材料:【 】	3 基床(21.2.2)	基床の厚さ及び種類:図示による。		
材種	管の種類	呼び径	備考																																							
形状	寸法	備考																																								
種類	適用荷重	備考																																								
材質	用途	適用荷重	メインバーピッチ	備考																																						
6 畳敷き (19.6.2)	(1) 畳の種類【 ・ A種 ・ B種 ・ C種 ・ D種(種別:)】 (2) 畳表に使用する材料は沖縄県産とする。	4 街きよ、縁石及び側溝(21.3.1)	<table border="1"> <tr> <th>名称</th> <th>規格名称</th> <th>形状</th> <th>寸法等</th> <th>備考</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	名称	規格名称	形状	寸法等	備考						22 舗装工事	1 路床(22.2.2) (22.2.3)(22.2.5) (表22.2.1)	(1) 路床の種類等 <table border="1"> <tr> <th>層の種類</th> <th>厚さ</th> <th>盛土の材料</th> <th>路床安定処理</th> <th>試験</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	層の種類	厚さ	盛土の材料	路床安定処理	試験						(2) ジオテキスタイルの適用及び品質:	2 路盤 (22.3.2)(22.3.5)	(1) 路盤の厚さ:【 】 (2) 締固め試験:【 】	3 アスファルト舗装 (22.4.2) (22.4.4) (22.4.5)	(1) 構成及び厚さ:【 ・ 図示による(A-) ・ 】 (2) 加熱アスファルト混合物等の種類: 【 ・ 密粒度アスファルト混合物(13) ・ 再粒度アスファルト混合物(13)】 (3) シールコートの適用:【 ・ 有り ・ 無し】	4 コンクリート舗装 (22.5.2)	(1) 構成及び厚さ:【 ・ 図示による(A-) ・ 】	5 カラー舗装 (22.6.2)	(1) 構成及び厚さ:【 ・ 図示による(A-) ・ 】 (2) 種類:【 ・ 加熱系() ・ 常温系()】 (3) 添加する着色骨材又は自然石 【 ・ 図示による(A-) ・ 】 (4) その他【 ・ 】							
名称	規格名称	形状	寸法等	備考																																						
層の種類	厚さ	盛土の材料	路床安定処理	試験																																						
7 セッコウボード、その他ボード及び合板張り (19.7.2) (19.7.3) (表19.7.5)	(1) セッコウボード <table border="1"> <tr> <th>規格名称</th> <th>種類の記号</th> <th>厚さ</th> <th>施工箇所</th> <th>目地工法の種類</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	規格名称	種類の記号	厚さ	施工箇所	目地工法の種類						22 舗装工事	1 路床(22.2.2) (22.2.3)(22.2.5) (表22.2.1)	(1) 路床の種類等 <table border="1"> <tr> <th>層の種類</th> <th>厚さ</th> <th>盛土の材料</th> <th>路床安定処理</th> <th>試験</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	層の種類	厚さ	盛土の材料	路床安定処理	試験						(2) ジオテキスタイルの適用及び品質:	2 路盤 (22.3.2)(22.3.5)	(1) 路盤の厚さ:【 】 (2) 締固め試験:【 】	3 アスファルト舗装 (22.4.2) (22.4.4) (22.4.5)	(1) 構成及び厚さ:【 ・ 図示による(A-) ・ 】 (2) 加熱アスファルト混合物等の種類: 【 ・ 密粒度アスファルト混合物(13) ・ 再粒度アスファルト混合物(13)】 (3) シールコートの適用:【 ・ 有り ・ 無し】	4 コンクリート舗装 (22.5.2)	(1) 構成及び厚さ:【 ・ 図示による(A-) ・ 】	5 カラー舗装 (22.6.2)	(1) 構成及び厚さ:【 ・ 図示による(A-) ・ 】 (2) 種類:【 ・ 加熱系() ・ 常温系()】 (3) 添加する着色骨材又は自然石 【 ・ 図示による(A-) ・ 】 (4) その他【 ・ 】									
規格名称	種類の記号	厚さ	施工箇所	目地工法の種類																																						
層の種類	厚さ	盛土の材料	路床安定処理	試験																																						
8 壁紙張り (19.8.2)	品質及び防火性能:【 】	(3) 軽量鉄骨壁下地ボード遮音壁に用いる遮音シール材: 【 ・ 】	22 舗装工事	2 路盤 (22.3.2)(22.3.5)	(1) 路盤の厚さ:【 】 (2) 締固め試験:【 】	3 アスファルト舗装 (22.4.2) (22.4.4) (22.4.5)	(1) 構成及び厚さ:【 ・ 図示による(A-) ・ 】 (2) 加熱アスファルト混合物等の種類: 【 ・ 密粒度アスファルト混合物(13) ・ 再粒度アスファルト混合物(13)】 (3) シールコートの適用:【 ・ 有り ・ 無し】	4 コンクリート舗装 (22.5.2)	(1) 構成及び厚さ:【 ・ 図示による(A-) ・ 】	5 カラー舗装 (22.6.2)	(1) 構成及び厚さ:【 ・ 図示による(A-) ・ 】 (2) 種類:【 ・ 加熱系() ・ 常温系()】 (3) 添加する着色骨材又は自然石 【 ・ 図示による(A-) ・ 】 (4) その他【 ・ 】																															
9 断熱及び防露 (19.9.3)(19.9.4)	断熱材の種類及び厚さ:【 】	(1) セッコウボード <table border="1"> <tr> <th>規格名称</th> <th>種類の記号</th> <th>厚さ</th> <th>施工箇所</th> <th>目地工法の種類</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	規格名称	種類の記号	厚さ	施工箇所	目地工法の種類						22 舗装工事	2 路盤 (22.3.2)(22.3.5)	(1) 路盤の厚さ:【 】 (2) 締固め試験:【 】	3 アスファルト舗装 (22.4.2) (22.4.4) (22.4.5)	(1) 構成及び厚さ:【 ・ 図示による(A-) ・ 】 (2) 加熱アスファルト混合物等の種類: 【 ・ 密粒度アスファルト混合物(13) ・ 再粒度アスファルト混合物(13)】 (3) シールコートの適用:【 ・ 有り ・ 無し】	4 コンクリート舗装 (22.5.2)	(1) 構成及び厚さ:【 ・ 図示による(A-) ・ 】	5 カラー舗装 (22.6.2)	(1) 構成及び厚さ:【 ・ 図示による(A-) ・ 】 (2) 種類:【 ・ 加熱系() ・ 常温系()】 (3) 添加する着色骨材又は自然石 【 ・ 図示による(A-) ・ 】 (4) その他【 ・ 】																					
規格名称	種類の記号	厚さ	施工箇所	目地工法の種類																																						
20 ユニタ及びその他工事	1 フリーアクセスフロア(20.2.2)	<table border="1"> <tr> <th>施工箇所</th> <th>寸法</th> <th>高さ</th> <th>耐震性能</th> <th>所定荷重</th> <th>帯電防止性能</th> <th>漏えい抵抗</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	施工箇所	寸法	高さ	耐震性能	所定荷重	帯電防止性能	漏えい抵抗								22 舗装工事	2 路盤 (22.3.2)(22.3.5)	(1) 路盤の厚さ:【 】 (2) 締固め試験:【 】	3 アスファルト舗装 (22.4.2) (22.4.4) (22.4.5)	(1) 構成及び厚さ:【 ・ 図示による(A-) ・ 】 (2) 加熱アスファルト混合物等の種類: 【 ・ 密粒度アスファルト混合物(13) ・ 再粒度アスファルト混合物(13)】 (3) シールコートの適用:【 ・ 有り ・ 無し】	4 コンクリート舗装 (22.5.2)	(1) 構成及び厚さ:【 ・ 図示による(A-) ・ 】	5 カラー舗装 (22.6.2)	(1) 構成及び厚さ:【 ・ 図示による(A-) ・ 】 (2) 種類:【 ・ 加熱系() ・ 常温系()】 (3) 添加する着色骨材又は自然石 【 ・ 図示による(A-) ・ 】 (4) その他【 ・ 】																	
施工箇所	寸法	高さ	耐震性能	所定荷重	帯電防止性能	漏えい抵抗																																				
2 可動間仕切 (20.2.3)	<table border="1"> <tr> <th>施工箇所</th> <th>構造形式</th> <th>構成基材</th> <th>遮音性</th> <th>表面仕上げ</th> <th>建具寸法等</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	施工箇所	構造形式	構成基材	遮音性	表面仕上げ	建具寸法等							22 舗装工事	2 路盤 (22.3.2)(22.3.5)	(1) 路盤の厚さ:【 】 (2) 締固め試験:【 】	3 アスファルト舗装 (22.4.2) (22.4.4) (22.4.5)	(1) 構成及び厚さ:【 ・ 図示による(A-) ・ 】 (2) 加熱アスファルト混合物等の種類: 【 ・ 密粒度アスファルト混合物(13) ・ 再粒度アスファルト混合物(13)】 (3) シールコートの適用:【 ・ 有り ・ 無し】	4 コンクリート舗装 (22.5.2)	(1) 構成及び厚さ:【 ・ 図示による(A-) ・ 】	5 カラー舗装 (22.6.2)	(1) 構成及び厚さ:【 ・ 図示による(A-) ・ 】 (2) 種類:【 ・ 加熱系() ・ 常温系()】 (3) 添加する着色骨材又は自然石 【 ・ 図示による(A-) ・ 】 (4) その他【 ・ 】																				
施工箇所	構造形式	構成基材	遮音性	表面仕上げ	建具寸法等																																					
3 移動間仕切 (20.2.4)	<table border="1"> <tr> <th>施工箇所</th> <th>種類</th> <th>表面材</th> <th>操作方法</th> <th>遮音性</th> <th>備考</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	施工箇所	種類	表面材	操作方法	遮音性	備考							22 舗装工事	2 路盤 (22.3.2)(22.3.5)	(1) 路盤の厚さ:【 】 (2) 締固め試験:【 】	3 アスファルト舗装 (22.4.2) (22.4.4) (22.4.5)	(1) 構成及び厚さ:【 ・ 図示による(A-) ・ 】 (2) 加熱アスファルト混合物等の種類: 【 ・ 密粒度アスファルト混合物(13) ・ 再粒度アスファルト混合物(13)】 (3) シールコートの適用:【 ・ 有り ・ 無し】	4 コンクリート舗装 (22.5.2)	(1) 構成及び厚さ:【 ・ 図示による(A-) ・ 】	5 カラー舗装 (22.6.2)	(1) 構成及び厚さ:【 ・ 図示による(A-) ・ 】 (2) 種類:【 ・ 加熱系() ・ 常温系()】 (3) 添加する着色骨材又は自然石 【 ・ 図示による(A-) ・ 】 (4) その他【 ・ 】																				
施工箇所	種類	表面材	操作方法	遮音性	備考																																					
4 トイレブース (20.2.5)	あと施工アンカーの使用:【 ・ 有り ・ 無し】 材質、寸法等は図示による。 <table border="1"> <tr> <th>表面材の材質</th> <th>脚部の形状及び寸法</th> <th>ドアエッジの形状及び材質</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	表面材の材質	脚部の形状及び寸法	ドアエッジの形状及び材質				22 舗装工事	2 路盤 (22.3.2)(22.3.5)	(1) 路盤の厚さ:【 】 (2) 締固め試験:【 】	3 アスファルト舗装 (22.4.2) (22.4.4) (22.4.5)	(1) 構成及び厚さ:【 ・ 図示による(A-) ・ 】 (2) 加熱アスファルト混合物等の種類: 【 ・ 密粒度アスファルト混合物(13) ・ 再粒度アスファルト混合物(13)】 (3) シールコートの適用:【 ・ 有り ・ 無し】	4 コンクリート舗装 (22.5.2)	(1) 構成及び厚さ:【 ・ 図示による(A-) ・ 】	5 カラー舗装 (22.6.2)	(1) 構成及び厚さ:【 ・ 図示による(A-) ・ 】 (2) 種類:【 ・ 加熱系() ・ 常温系()】 (3) 添加する着色骨材又は自然石 【 ・ 図示による(A-) ・ 】 (4) その他【 ・ 】																										
表面材の材質	脚部の形状及び寸法	ドアエッジの形状及び材質																																								

工事名称	(仮称)新港ふ頭10号上層建設工事(本体・建築)	工事年度	令和 7 年度
発注機関	那覇市港町1丁目204番地・205番地	図面名称	建築工事特記仕様書(その5)
縮尺		縮尺	—
摘要		図面番号	A-06
設計者	管理建築士 設 計 製 図	名 称	(株)アーキ5D
検 印		資格者氏名	新里 均
		登録番号	級建築士大臣登録第218581号
		所在地	沖縄県宜野湾市普天間2-47-1

位置図



法第43条2項2号許可
※申請建物のルート



法第43条2項2号許可
※申請建物のルート

既設建物：不明（取り壊し予定）

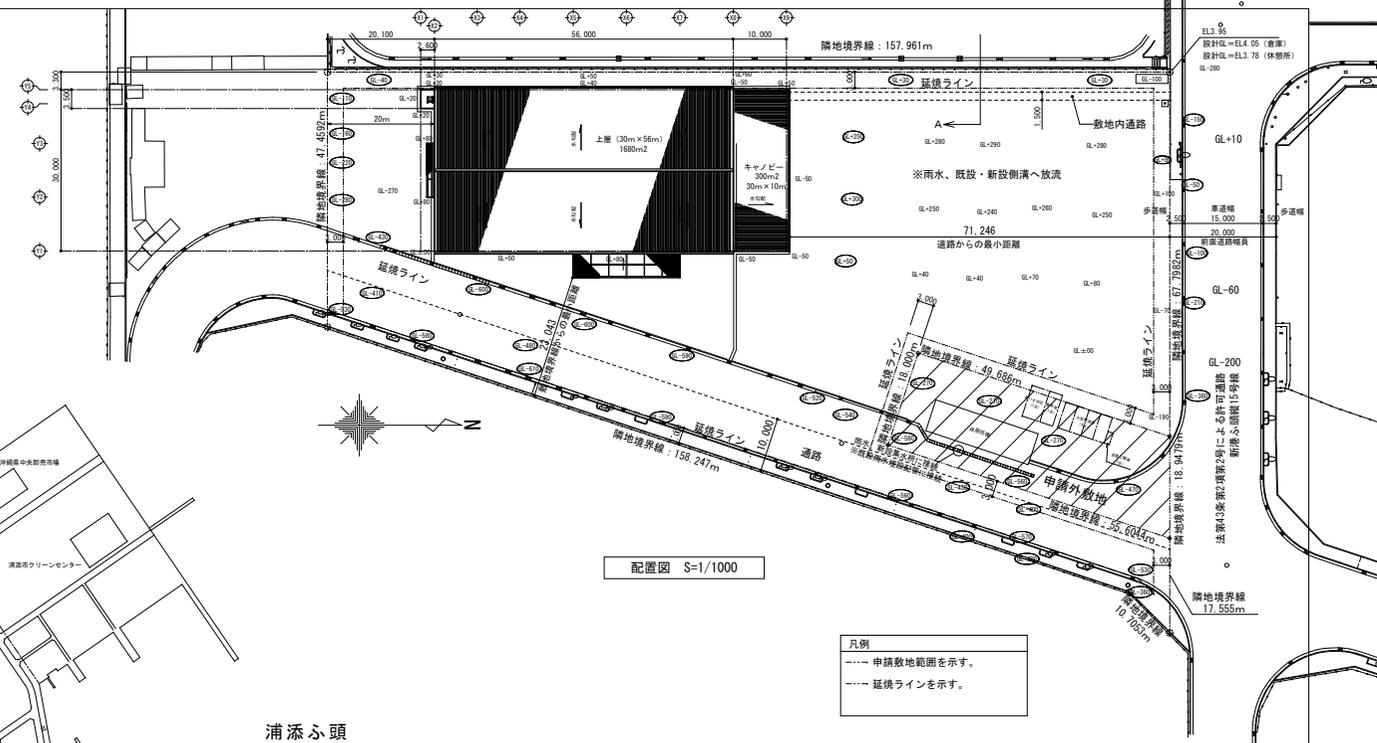
物流棟：3階建て
事務所棟：7階建て
那覇港総合物流センター

10号上屋設計対象敷地

新港ふ頭

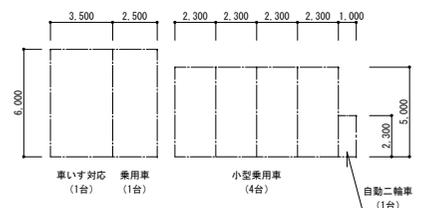
浦添ふ頭

案内図兼臨港道路配置図 NO SCALE



配置図 S=1/1000

- 凡例
- 申請敷地範囲を示す。
 - 延焼ラインを示す。



※駐車用の部分を明確に区分すること。
区分はロープにて行うこと。

駐車施設詳細図 S=1/300
(駐車施設別途工事)

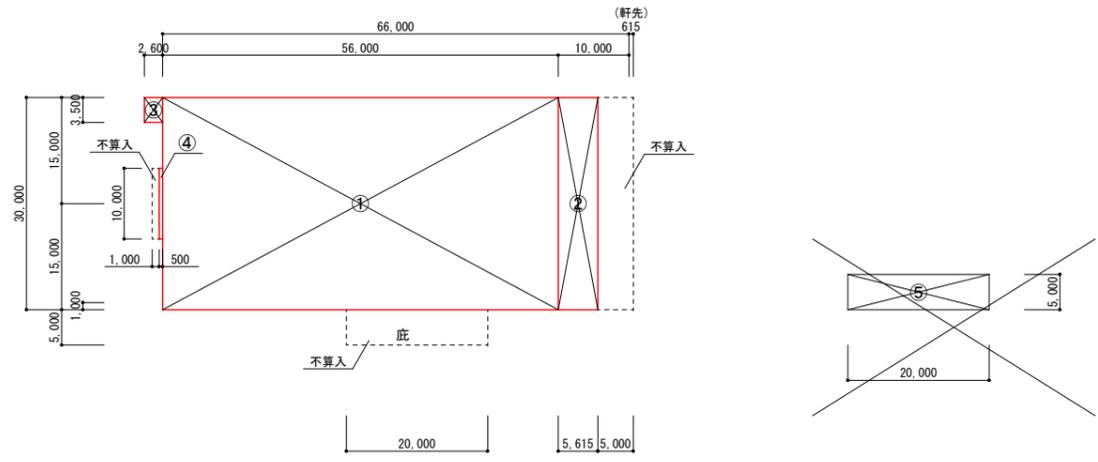
- 倉庫棟
- ・道路幅員：20.00m
 - ・敷地と接している部分の道路の長さ：85.3532m

申請外敷地を示す。

A断面図 S=1/100

工事名称	(仮称) 新港ふ頭10号上屋建設工事 (本体・建築)	工事年度	令和7年度
工事場所	那覇市港町1丁目204番地・205番地	図面名称	案内・配置図
発注機関	那覇港管理組合 企画建設部 計画建設課	縮尺	A1:1/50 (150) (500) (2000) A3:1/100 (300) (1000) (4000)
換要		図面番号	A-07
校印	管理建築士 設計 製図	名称	(株) アーキ5D
		資格者氏名	新里 均
		登録番号	一級建築士大臣登録第218581号
		所在地	沖縄県宜野湾市普天間2-47-16

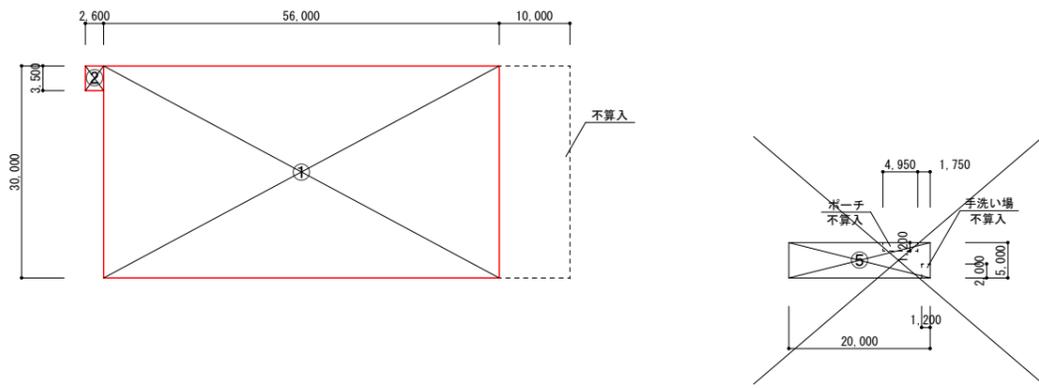
建築面積



倉庫棟		
番号	算定式	算定結果
①	56.00 × 30.00	1680.00
②	5.615 × 30.00	168.45
③	2.60 × 3.50	9.10
④	10.00 × 0.50	5.00
合計		1,862.55
建築面積 (㎡)		1,862.55

休憩所棟		
番号	算定式	算定結果
①	20.00 × 5.00	100.00
合計		100.00
建築面積 (㎡)		100.00

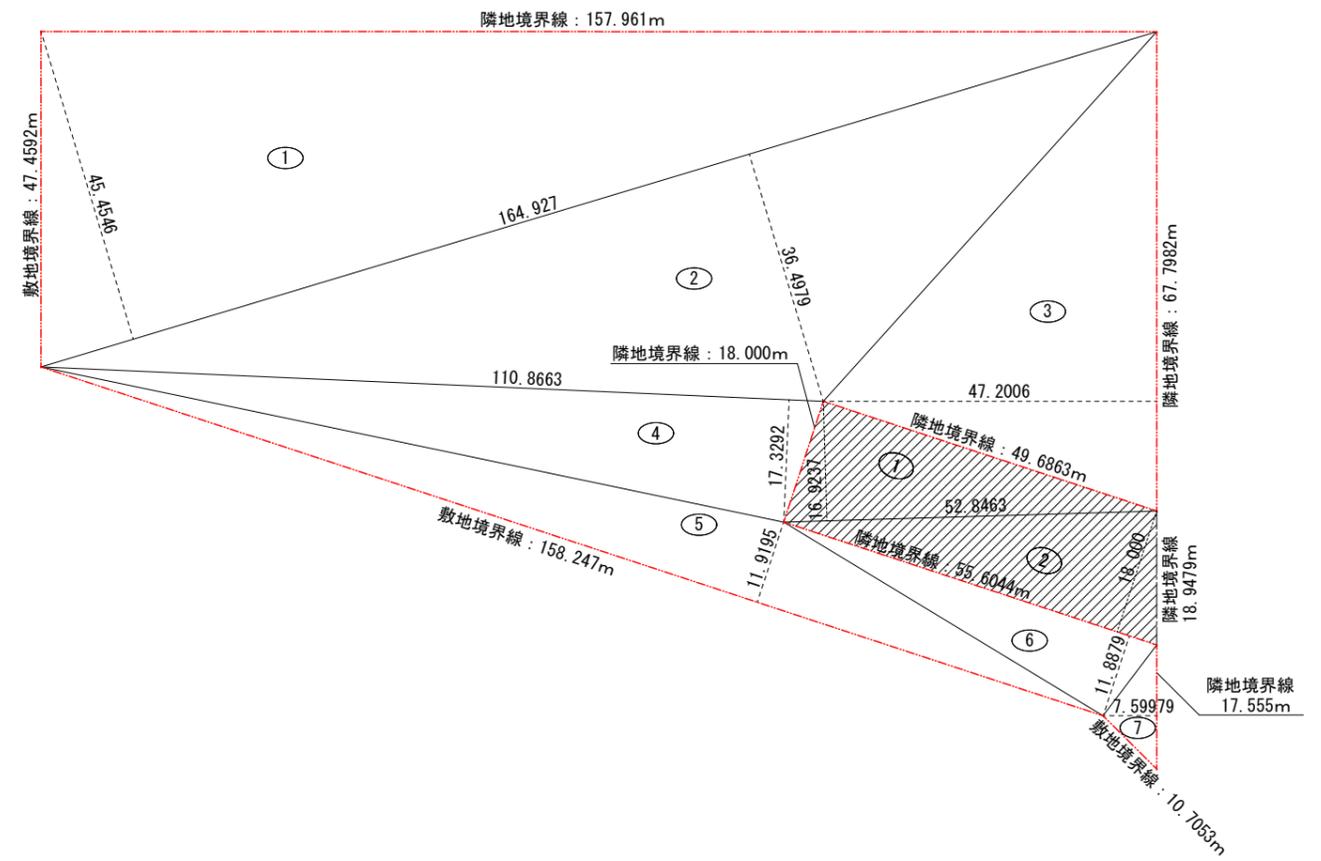
延べ床面積



倉庫棟		
番号	算定式	算定結果
①	56.00 × 30.00	1680.00
②	3.50 × 2.60	9.10
合計		1,689.10
延べ床面積 (㎡)		1,689.10

休憩所棟		
番号	算定式	算定結果
①	20.00 × 5.00 - (4.95 × 1.20) - (1.20 × 2.00)	91.66
合計		91.66
延べ床面積 (㎡)		91.66

敷地面積



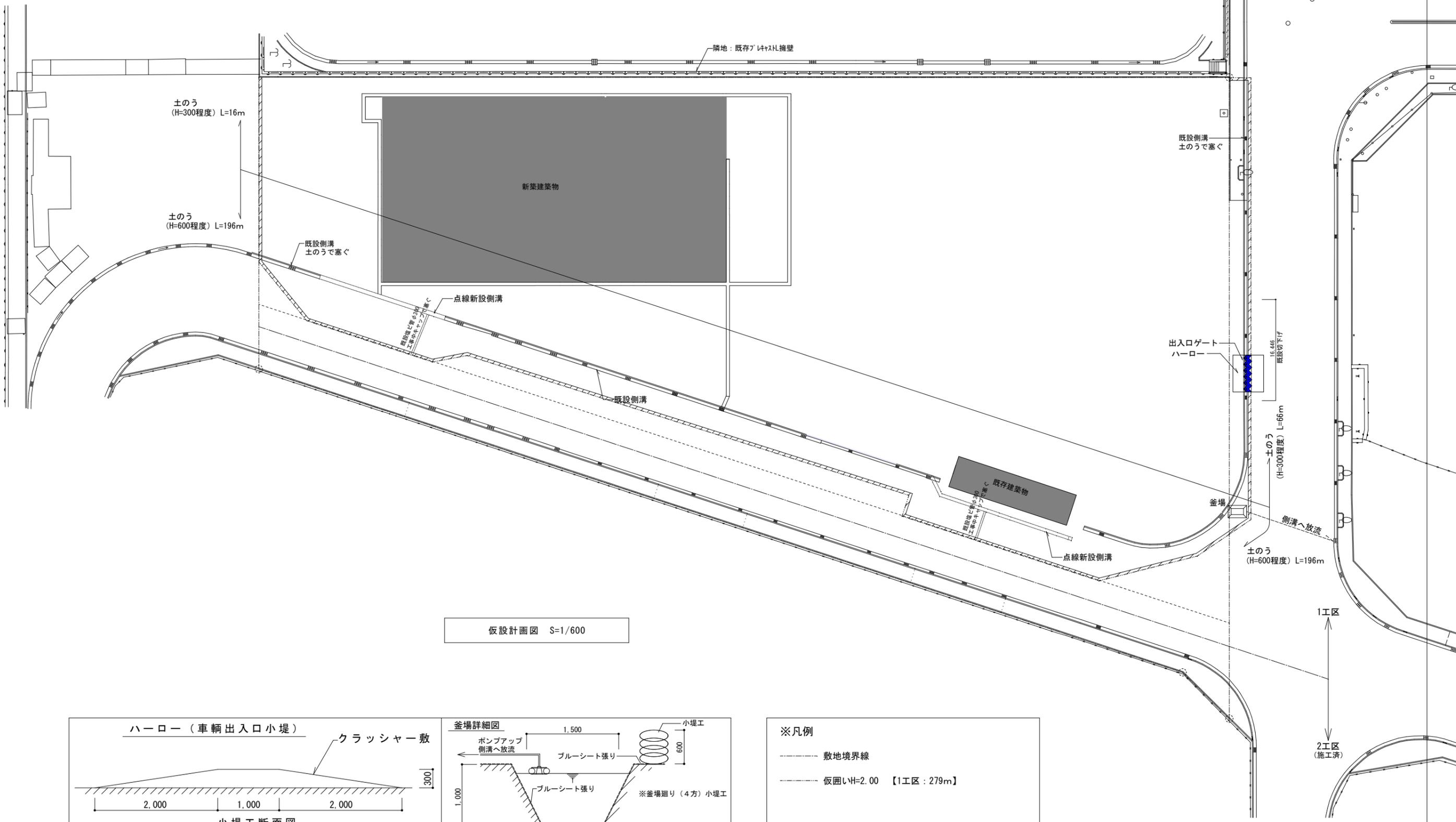
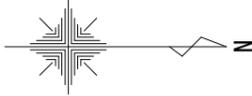
凡例

- 倉庫棟敷地範囲を示す。
- 休憩所棟敷地範囲を示す。

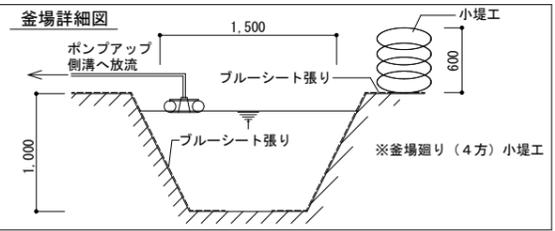
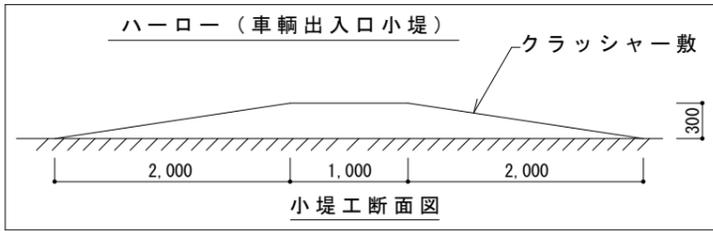
敷地求積図 S=1/1000

	番号	底辺	高さ	倍面積	面積	小計	敷地面積	敷地面積合計
倉庫棟	1	164.927	45.4546	7,496.6908142	3,748.3454071	10,659.089474545	10,659.08	11,606.69
	2	164.927	36.4979	6,019.489153	3,009.7445767			
	3	67.7982	47.2006	3,200.11571892	1,600.05785946			
	4	110.866	17.3292	1,921.224286	960.612143			
	5	158.247	11.9195	1,886.2251165	943.11255825			
	6	55.6044	11.8879	661.01954676	330.50977338			
	7	17.555	7.59979	133.41431345	66.707156725			
休憩所棟	1	52.8463	16.9237	894.365704	447.182852	947.6170637	947.61	
	2	55.604	18.000	1,000.872	500.436			

工事名称	(仮称)新港心頭10号上層建設工事(本体・建築)	工事年度	令和7年度
工事場所	那覇市港町1丁目204番地・205番地	図面名称	面積求積図
発注機関	那覇港管理組合 企画建設部 計画建設課	縮尺	A1:S=1/500 A3:S=1/1000
摘要		図面番号	A-08
検印	管理建築士 設計 製 図	設 名 称	(株)アーク5D
		資格者氏名	新里 均
		登録番号	一級建築士大臣登録第218581号
		所在地	沖縄県宜野湾市普天間2-47-16



仮設計画図 S=1/600

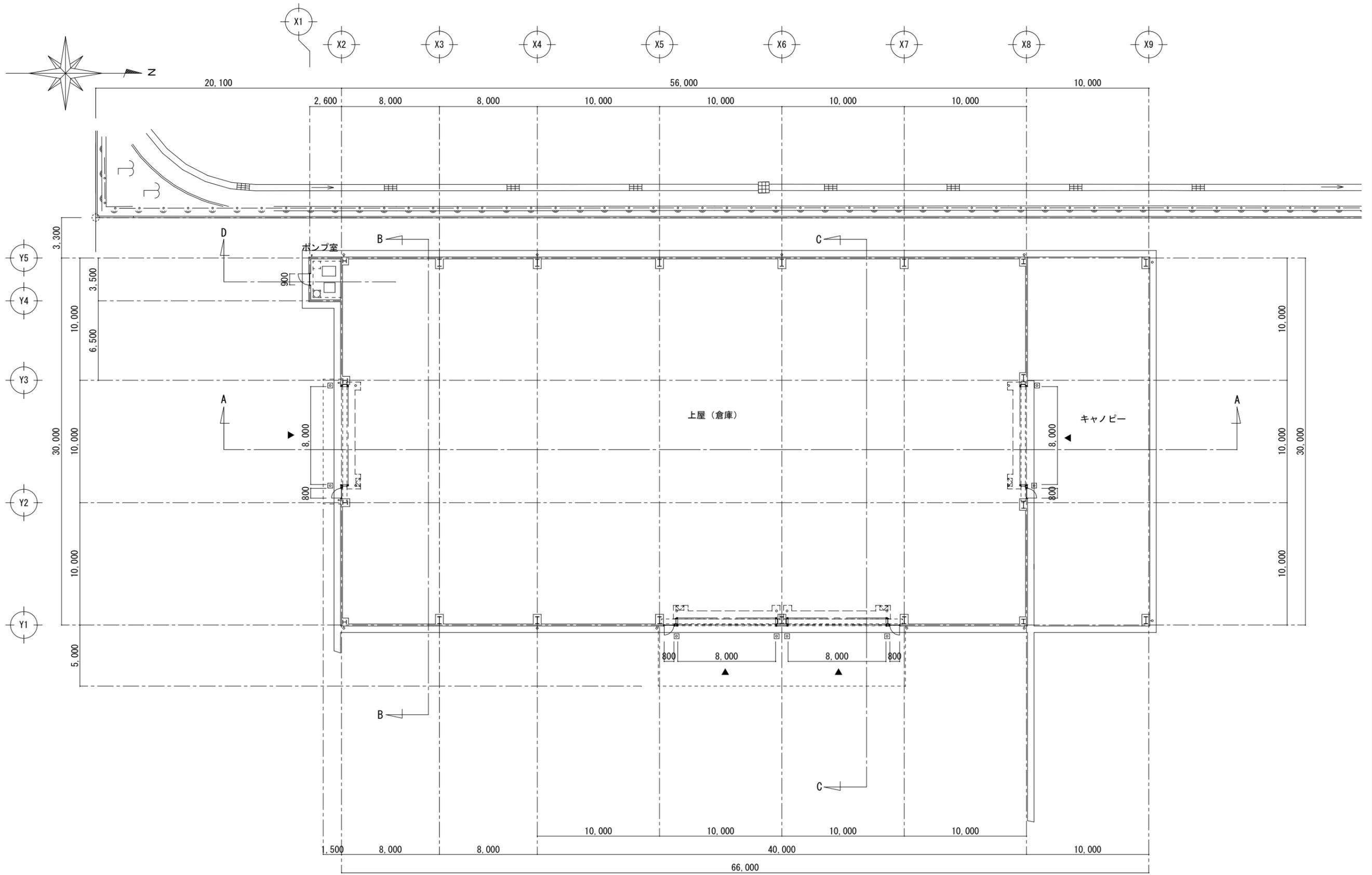


- ※凡例
- 敷地境界線
 - 仮囲いH=2.00 【1工区: 279m】
 - 出入口ゲートW=6.00×H=2.00 【1ヶ所】
 - ▨ 土のう (養生シート覆い)

注記

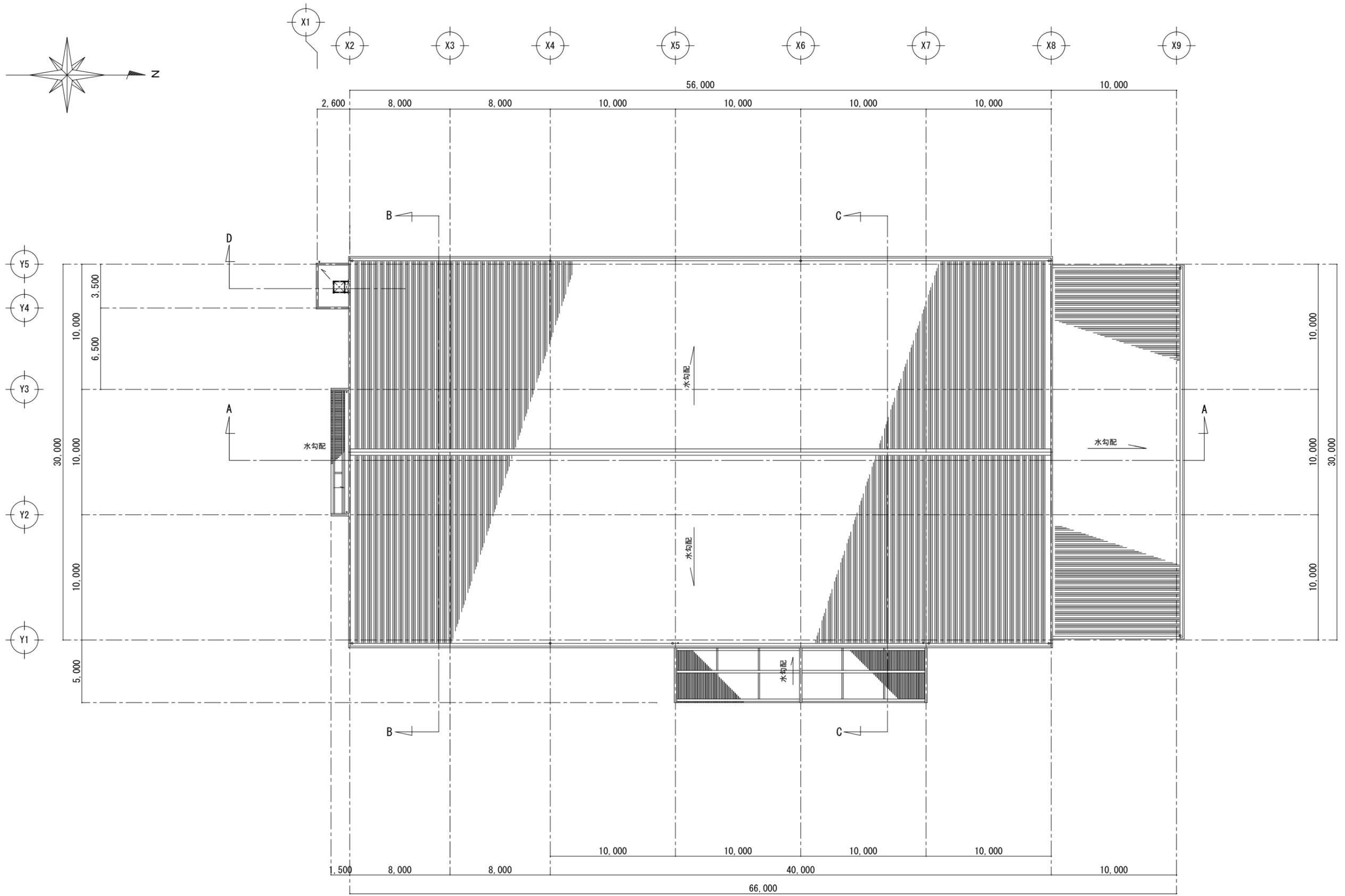
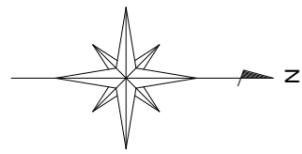
- ・赤土流出防止対策について、施工の際は本図面を参考とし、現場の状況を考慮した上で施工業者の側で検討を行い赤土対策を施工すること。また、検討内容については監督員の承諾を得ること。
- ・工事期間中は外部車両の交通を可能な状態にすること。

工事名称	(仮称) 新港ふ頭10号上層建替工事 (本体・建築)	工事年度	令和7年度
工事場所	那覇市港町1丁目204番地・205番地	図面名称	共通仮設図
発注機関	那覇港管理組合 企画建設部 計画建設課	縮尺	A1:S=1/300 A3:S=1/600
摘要	図面番号 A-09		
検印	管理建築士	設計	製図
	設計者 (株) アーキ5D		
	資格者氏名	新里 均	
	登録番号	一級建築士大臣登録第218581号	
所在地 沖縄県宜野湾市普天間2-47-16			



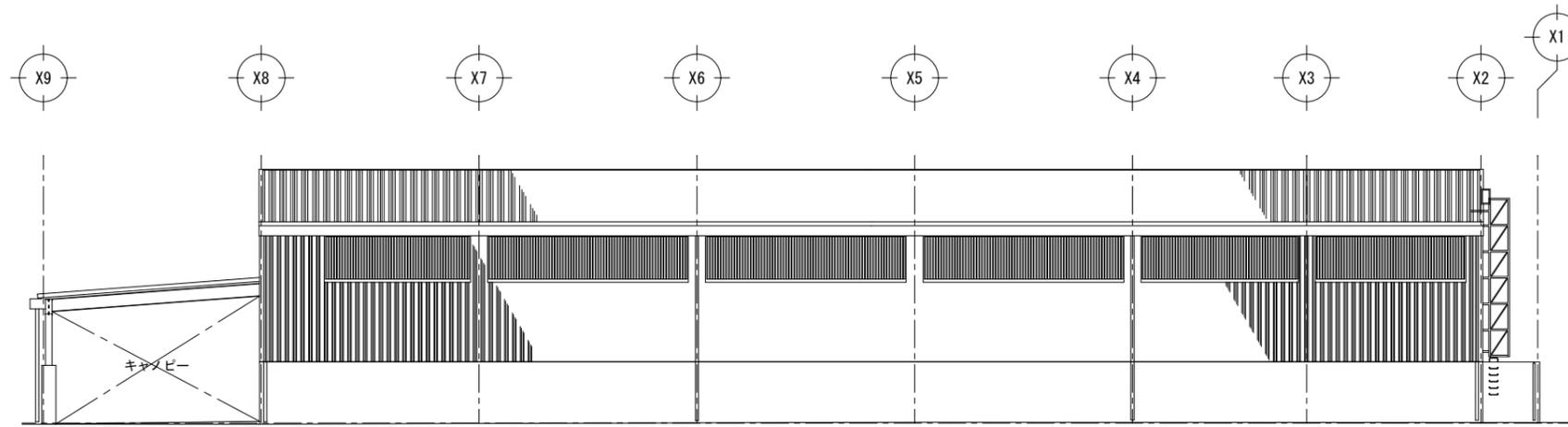
平面図 (1) S=1/300

工事名称	(仮称)新港ふ頭10号上屋建設工事(本体・建築)	工事年度	令和7年度
工事場所	那覇市港町1丁目204番地・205番地	図面名称	平面図(1)
発注機関	那覇港管理組合 企画建設部 計画建設課	縮尺	A1:S=1/150 A3:S=1/300
摘要	図面番号 A-11		
検印	管理建築士	設計	製図
	設	計	製
	図	製	図
設	名	称	(株)アーキ5D
計	資格者氏名	新里 均	
者	登録番号	一級建築士大臣登録第218581号	
所	在 地	沖縄県宜野湾市普天間2-47-16	

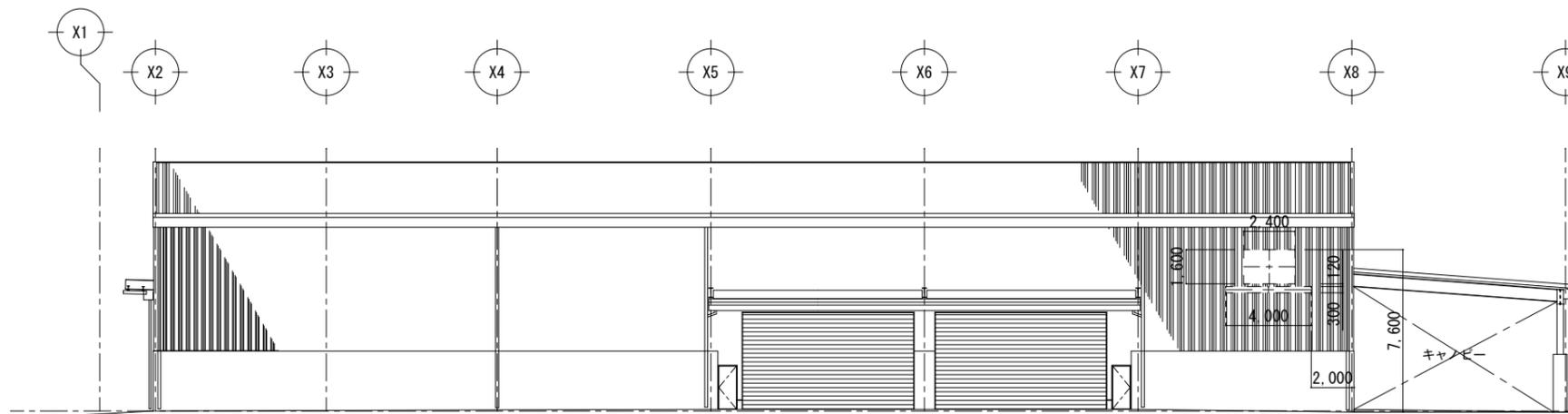


屋根伏図 S=1/300

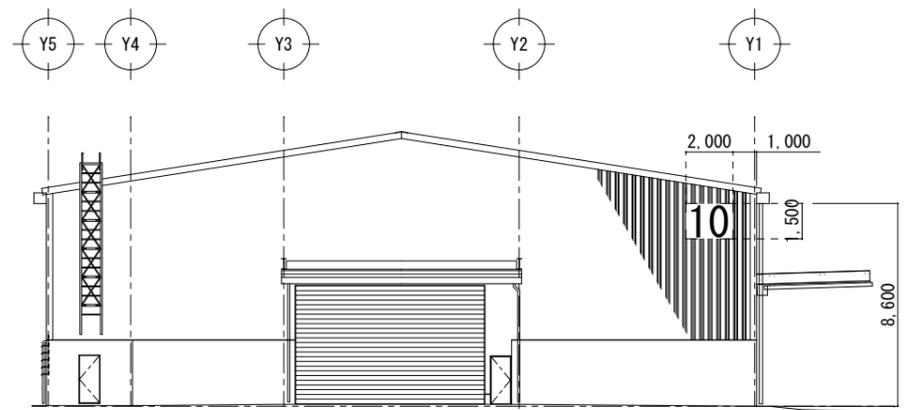
工事名称	(仮称)新港ふ頭10号上層建設工事(本体・建築)	工事年度	令和7年度
工事場所	那覇市港町1丁目204番地・205番地	図面名称	屋根伏図
発注機関	那覇港管理組合 企画建設部 計画建設課	縮尺	A1:S=1/150 A3:S=1/300
摘要	図面番号 A-13		
検印	管理建築士	設計	製図
	設	計	製
	図	設	名
者	資格者氏名	(株)アーキ5D	
所	登録番号	新里均	
在	所在地	一級建築士大臣登録第218581号	
地		沖縄県宜野湾市普天間2-47-16	



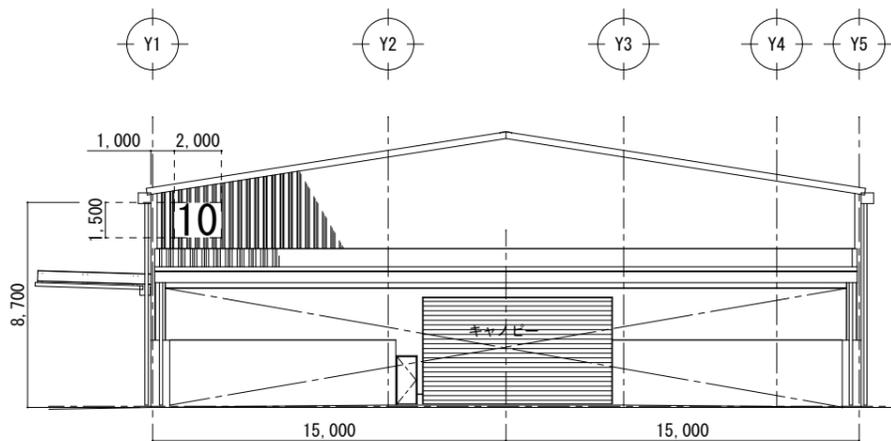
西側立面図 S=1/400



東側立面図 S=1/400

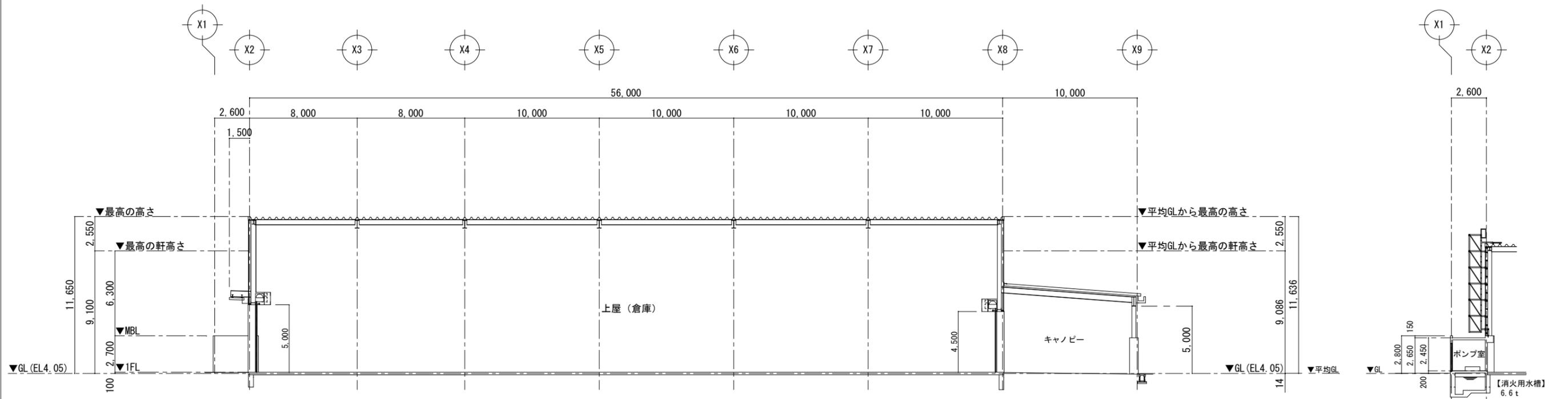


南側立面図 S=1/400



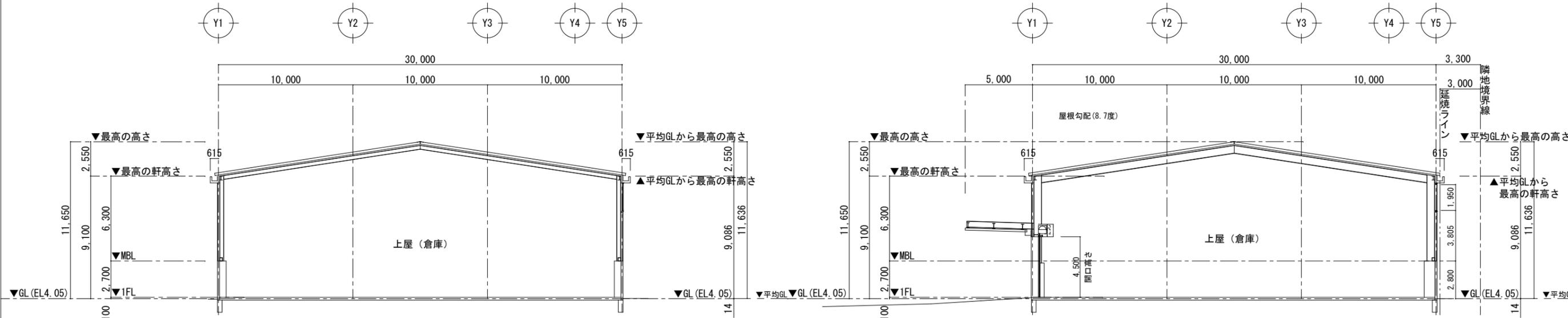
北側立面図 S=1/400

工事名称	(仮称)新港ふ頭10号上層建設工事(本体・建築)	工事年度	令和7年度
工事場所	那覇市港町1丁目204番地・205番地	図面名称	立面図
発注機関	那覇港管理組合 企画建設部 計画建設課	縮尺	A1:S=1/150 A3:S=1/300
摘要	図面番号 A-14		
検印	管理建築士	設計	製図
	設	計	製
	名	称	(株)アーキ5D
	資格者氏名	新里 均	
登録番号	一級建築士大臣登録第218581号		
所在地	沖縄県宜野湾市普天間2-47-16		



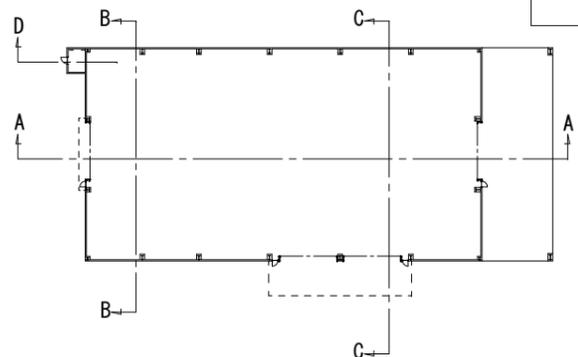
A 断面図 S=1/300

D 断面図 S=1/300



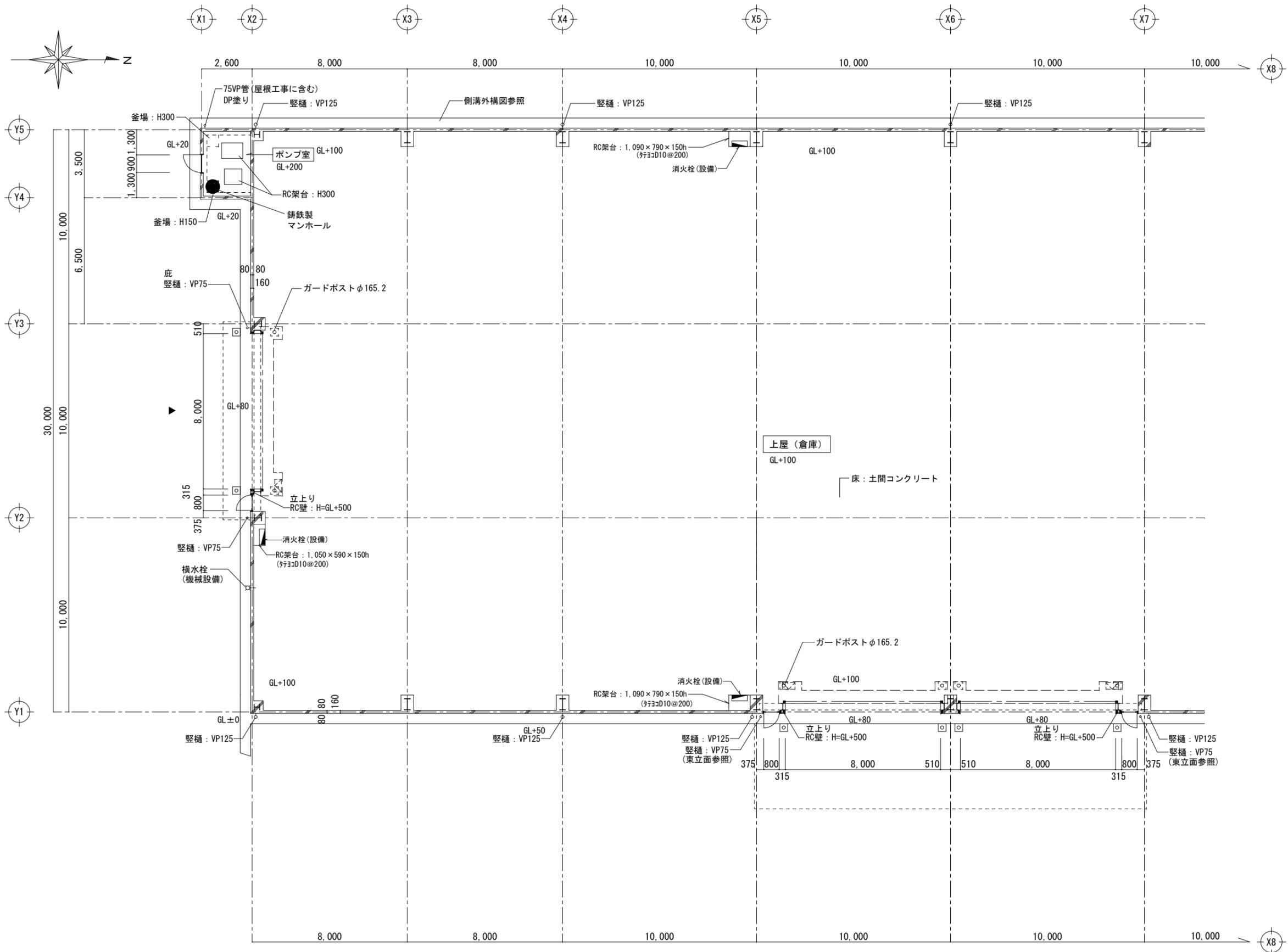
B 断面図 S=1/300

C 断面図 S=1/300



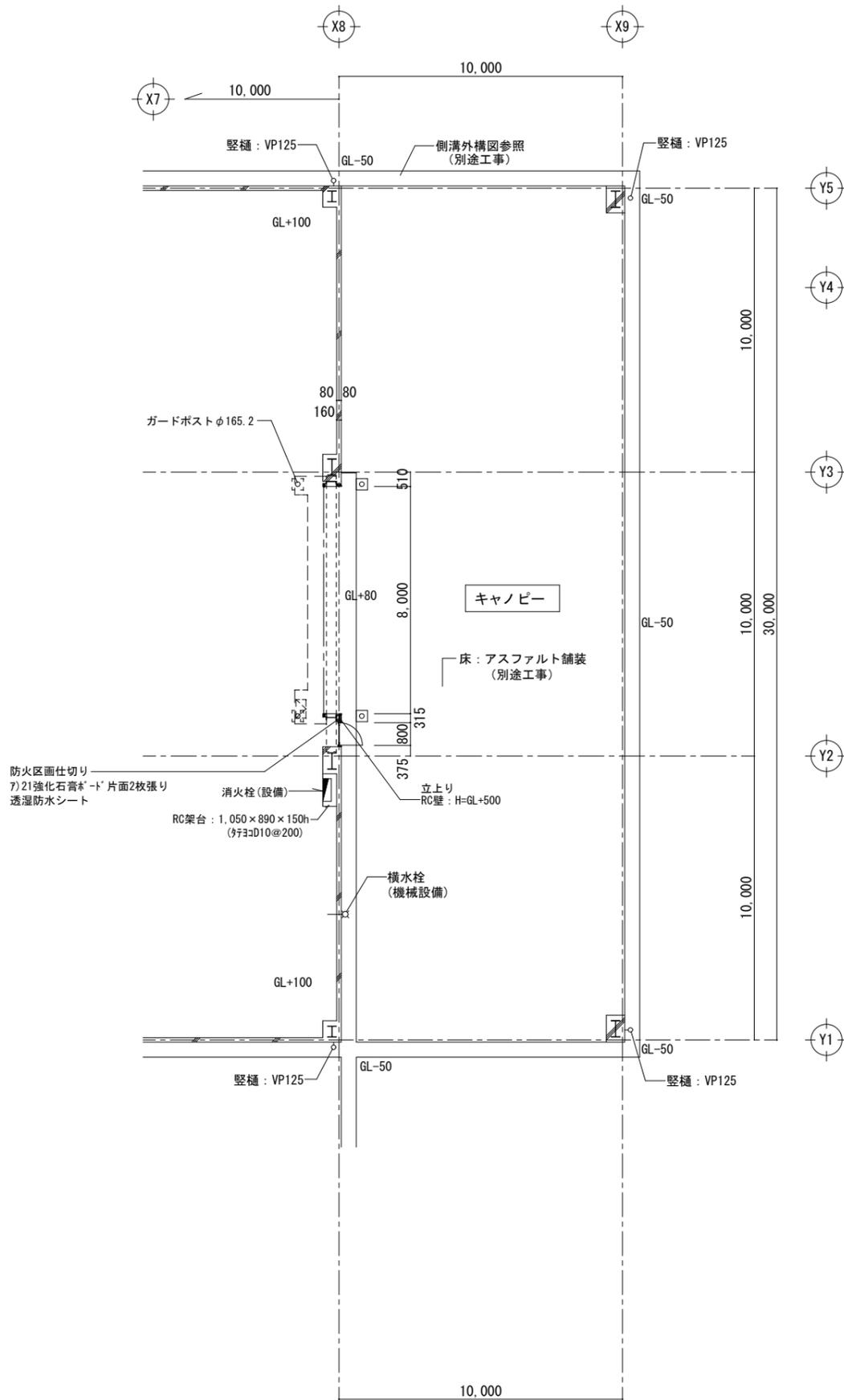
凡例
 - - - 平均地盤からの基準を示す。
 - - - 延焼ラインを示す。

工事名称	(仮称)新港ふ頭10号上屋建設工事(本体・建築)	工事年度	令和7年度
工事場所	那覇市港町1丁目204番地・205番地	図面名称	断面図
発注機関	那覇港管理組合 企画建設部 計画建設課	縮尺	A1:S=1/150 A3:S=1/300
摘要	図面番号 A-15		
検印	管理建築士	設計	製図
	設計者氏名	(株)アーキ5D	
	登録番号	新里均	
	所在地	一級建築士大臣登録第218581号 沖縄県宜野湾市普天間2-47-16	



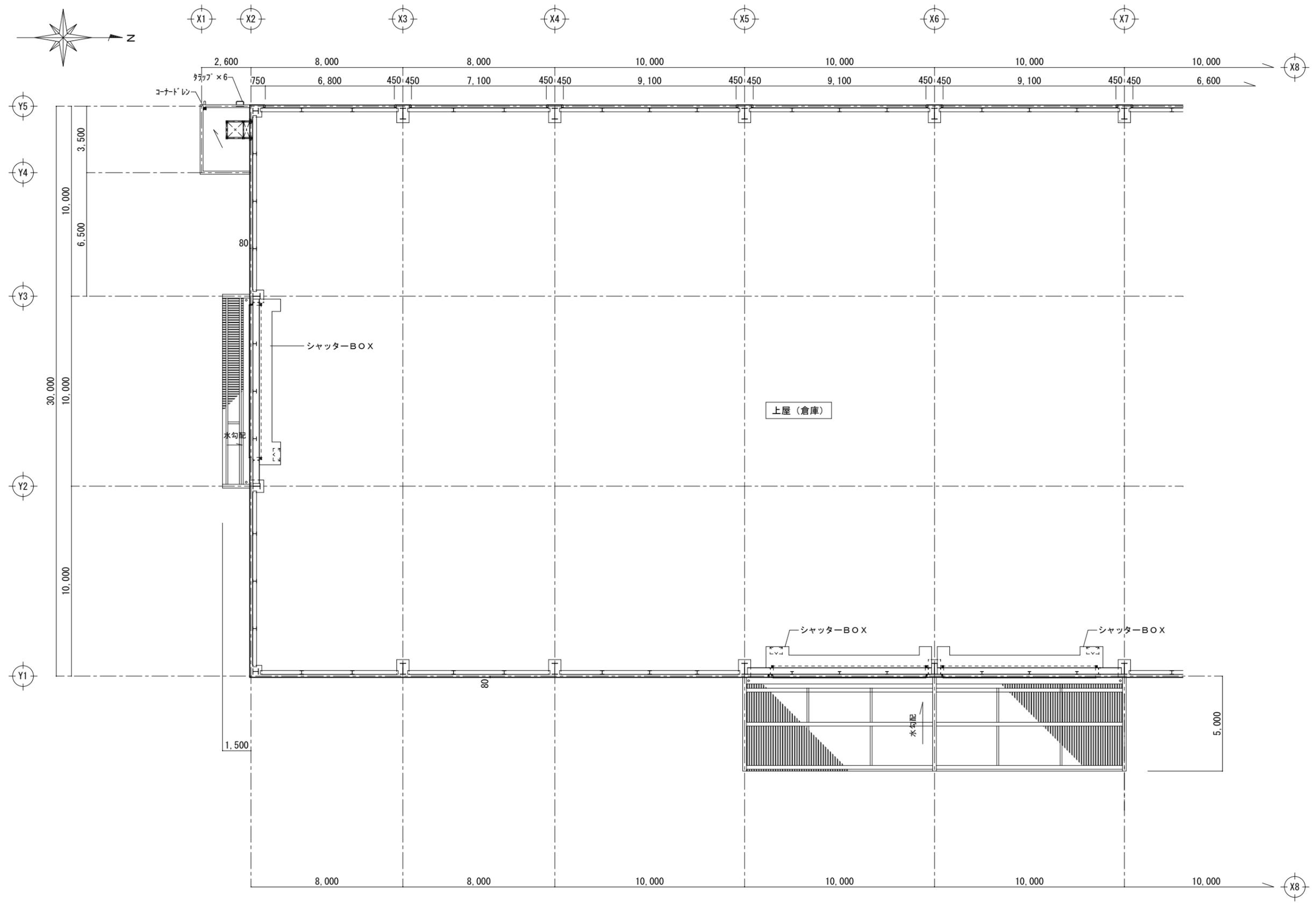
下層平面詳細図(1) S=1/200

工事名称	(仮称)新港ふ頭10号上層建設工事(本体・建築)	工事年度	令和7年度		
工事場所	那覇市港町1丁目204番地・205番地	図面名称	下層部平面詳細図(1)		
発注機関	那覇港管理組合 企画建設部 計画建設課	縮尺	A1:S=1/100 A3:S=1/200		
摘要	図面番号 A-16				
検印	管理建築士	設計	製図		
	設	計	製		
	設	計	製		
	設	計	製		
設	計	製	設	名 称	(株)アーキ5D
者	資格者氏名	新里 均	計	資格者氏名	新里 均
所	登録番号	一級建築士大臣登録第218581号	者	登録番号	一級建築士大臣登録第218581号
在	所在地	沖縄県宜野湾市普天間2-47-16	所	所在地	沖縄県宜野湾市普天間2-47-16



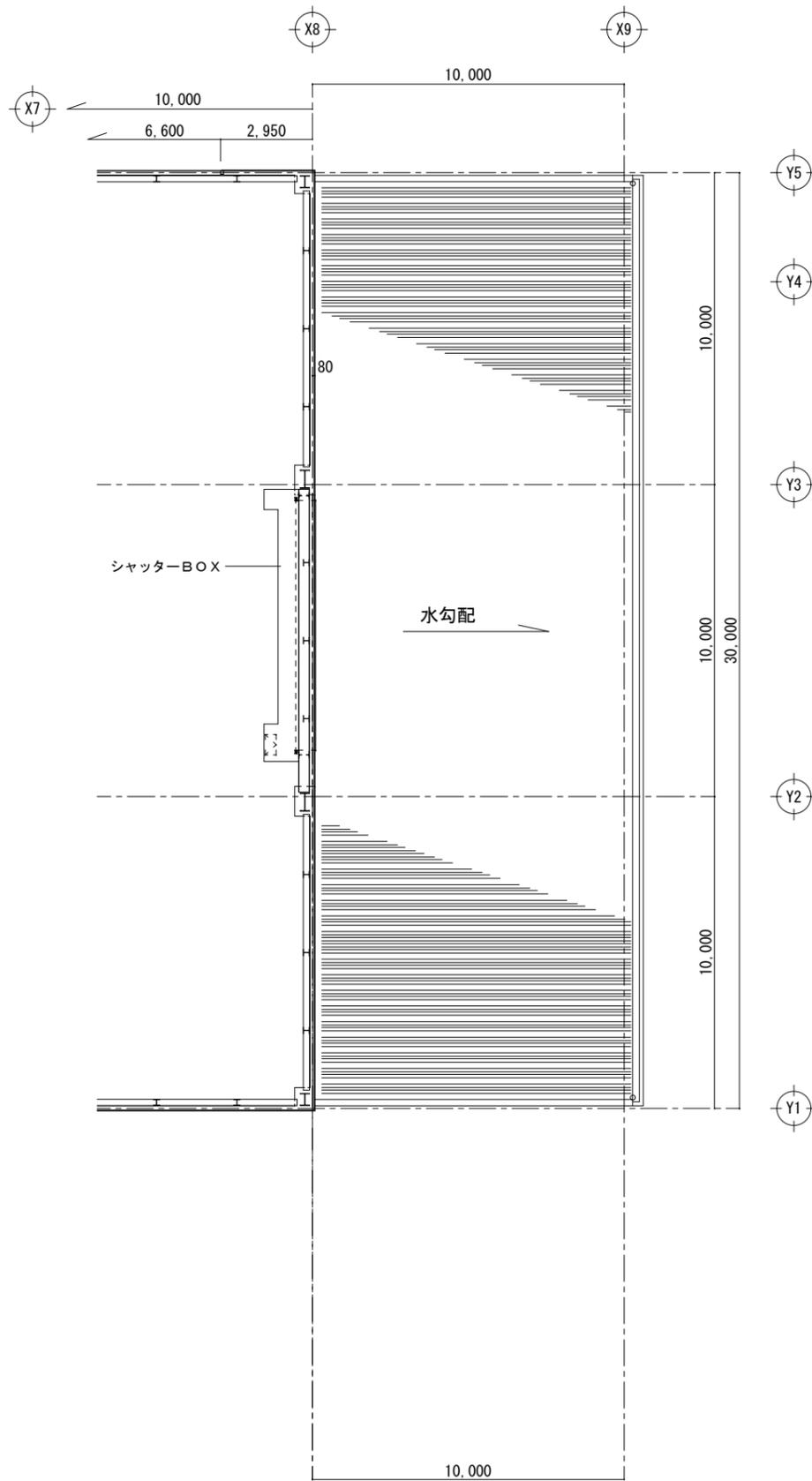
下層平面詳細図(2) S=1/200

工事名称	(仮称)新港ふ頭10号上層建設工事(本体・建築)	工事年度	令和7年度
工事場所	那覇市港町1丁目204番地・205番地	図面名称	下層部平面詳細図(2)
発注機関	那覇港管理組合 企画建設部 計画建設課	縮尺	A1:S=1/100 A3:S=1/200
摘要	図面番号 A-17		
検印	管理建築士	設計	製図
	設計	製図	設名 称 (株)アーキ5D
	資格者氏名	新里 均	
	登録番号	一級建築士大臣登録第218581号	
所在地	沖縄県宜野湾市普天間2-47-16		



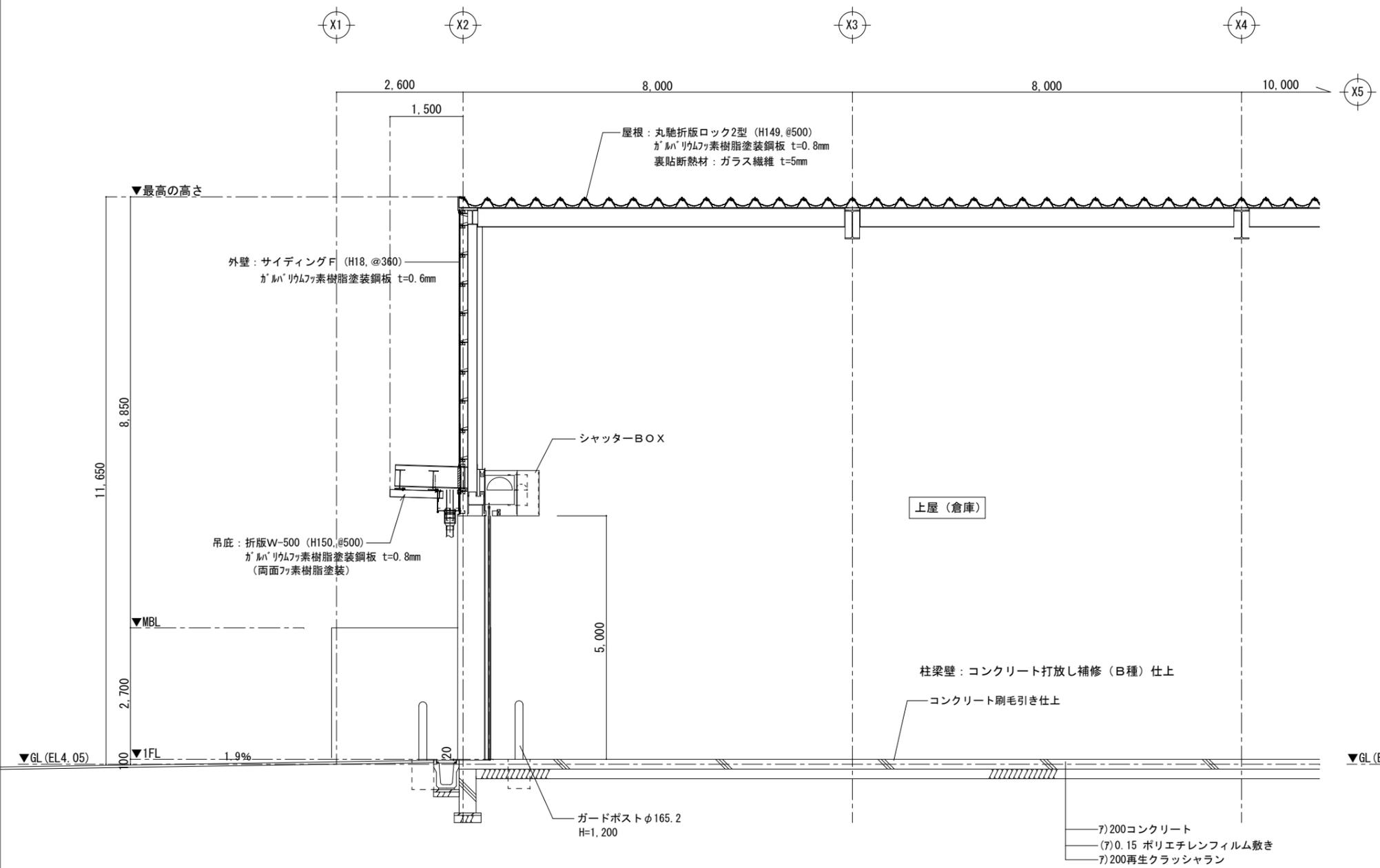
上層平面詳細図 (1) S=1/200

工事名称	(仮称) 新港ふ頭10号上層建設工事 (本体・建築)	工事年度	令和7年度
工事場所	那覇市港町1丁目204番地・205番地	図面名称	上層部平面詳細図 (1)
発注機関	那覇港管理組合 企画建設部 計画建設課	縮尺	A1:S=1/100 A3:S=1/200
摘要	図面番号 A-18		
検印	管理建築士	設計	製図
	設計	製図	設 名 称 (株) アーキ5D
	製図	製図	計 資格者氏名 新里 均
			登 録 番 号 一級建築士大臣登録第218581号
			所 在 地 沖縄県宜野湾市普天間2-47-16

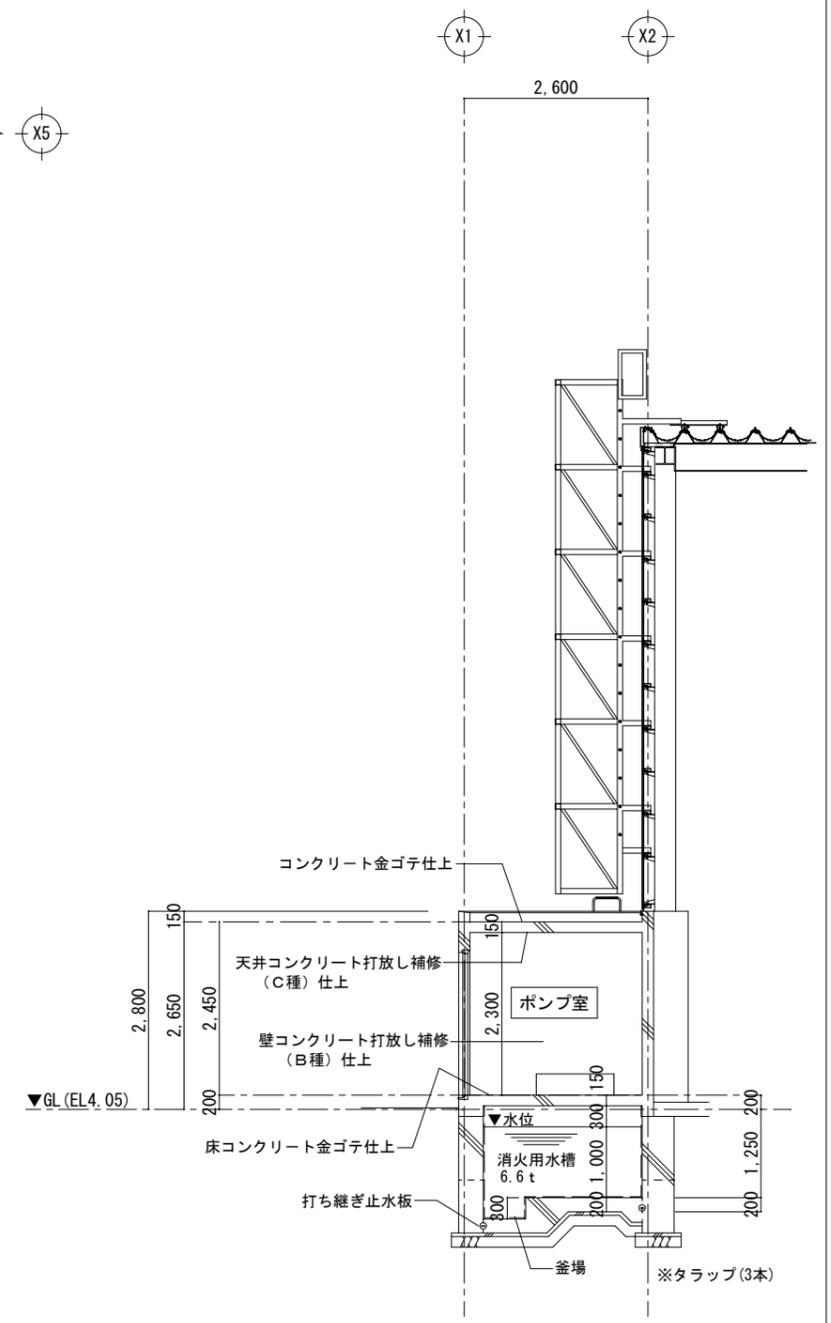


上層平面詳細図(2) S=1/200

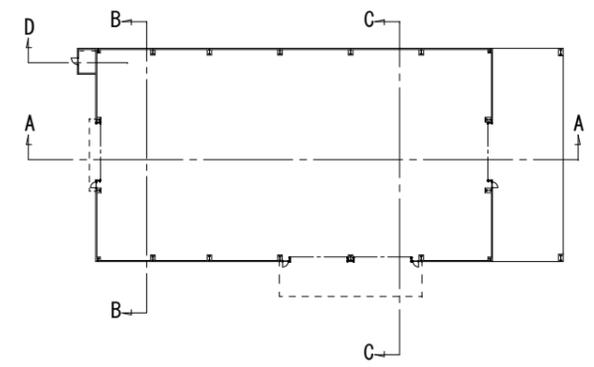
工事名称	(仮称)新港ふ頭10号上層建設工事(本体・建築)	工事年度	令和7年度
工事場所	那覇市港町1丁目204番地・205番地	図面名称	上層部平面詳細図(2)
発注機関	那覇港管理組合 企画建設部 計画建設課	縮尺	A1:S=1/100 A3:S=1/200
摘要	図面番号 A-19		
検印	管理建築士	設計	製図
	設計者	新里均	資格者氏名
	製図者	新里均	登録番号 一級建築士大臣登録第218581号
			所在地 沖縄県宜野湾市普天間2-47-16



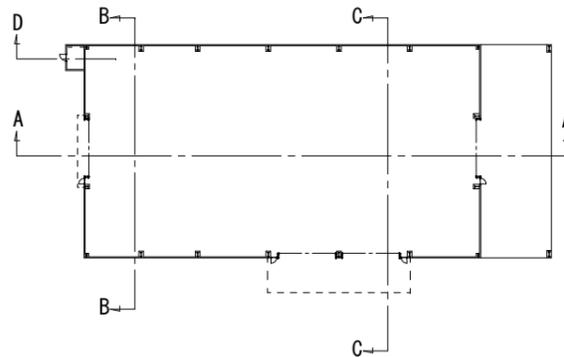
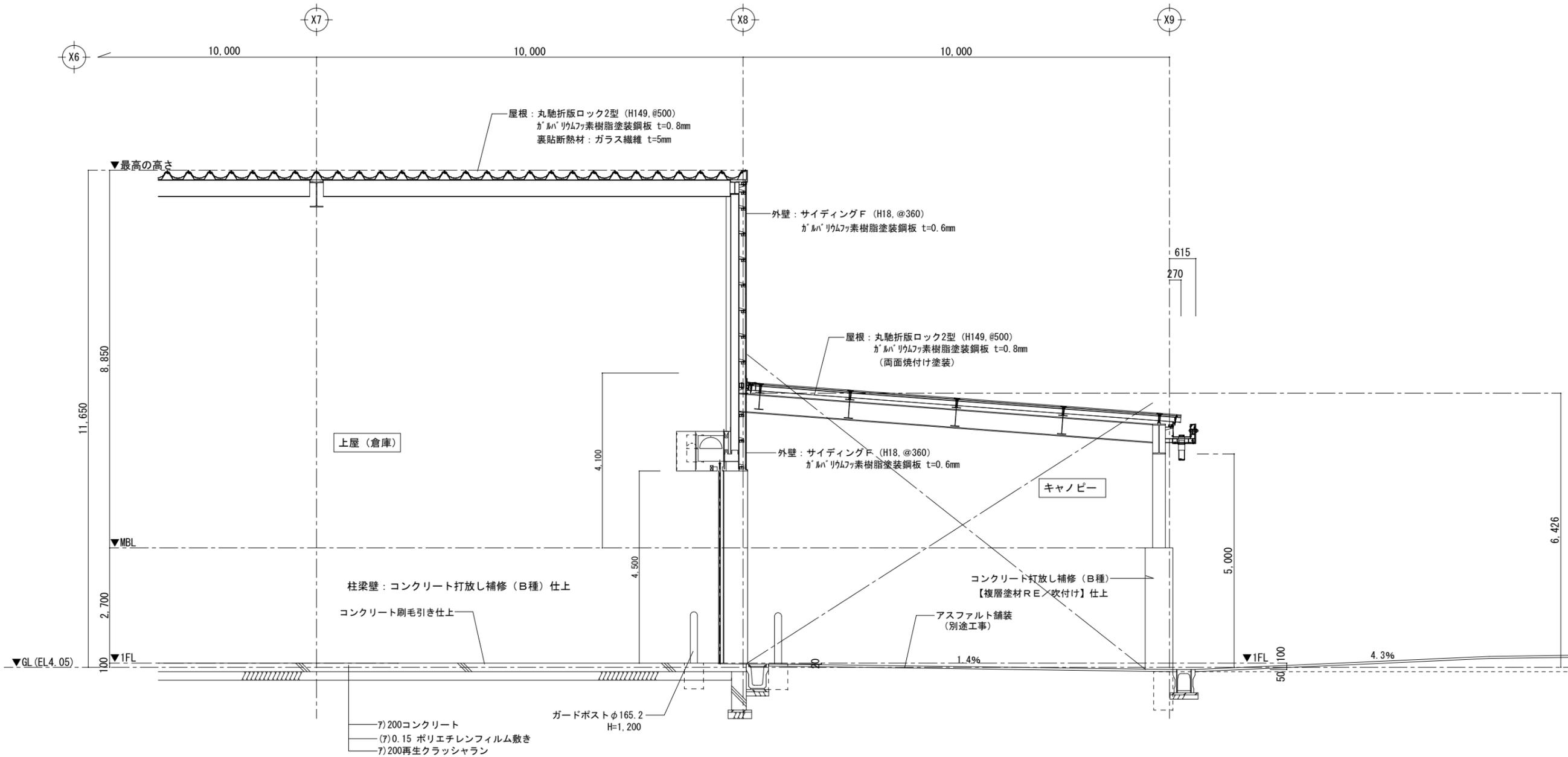
A断面図 (1) S=1/100



D断面図 S=1/100

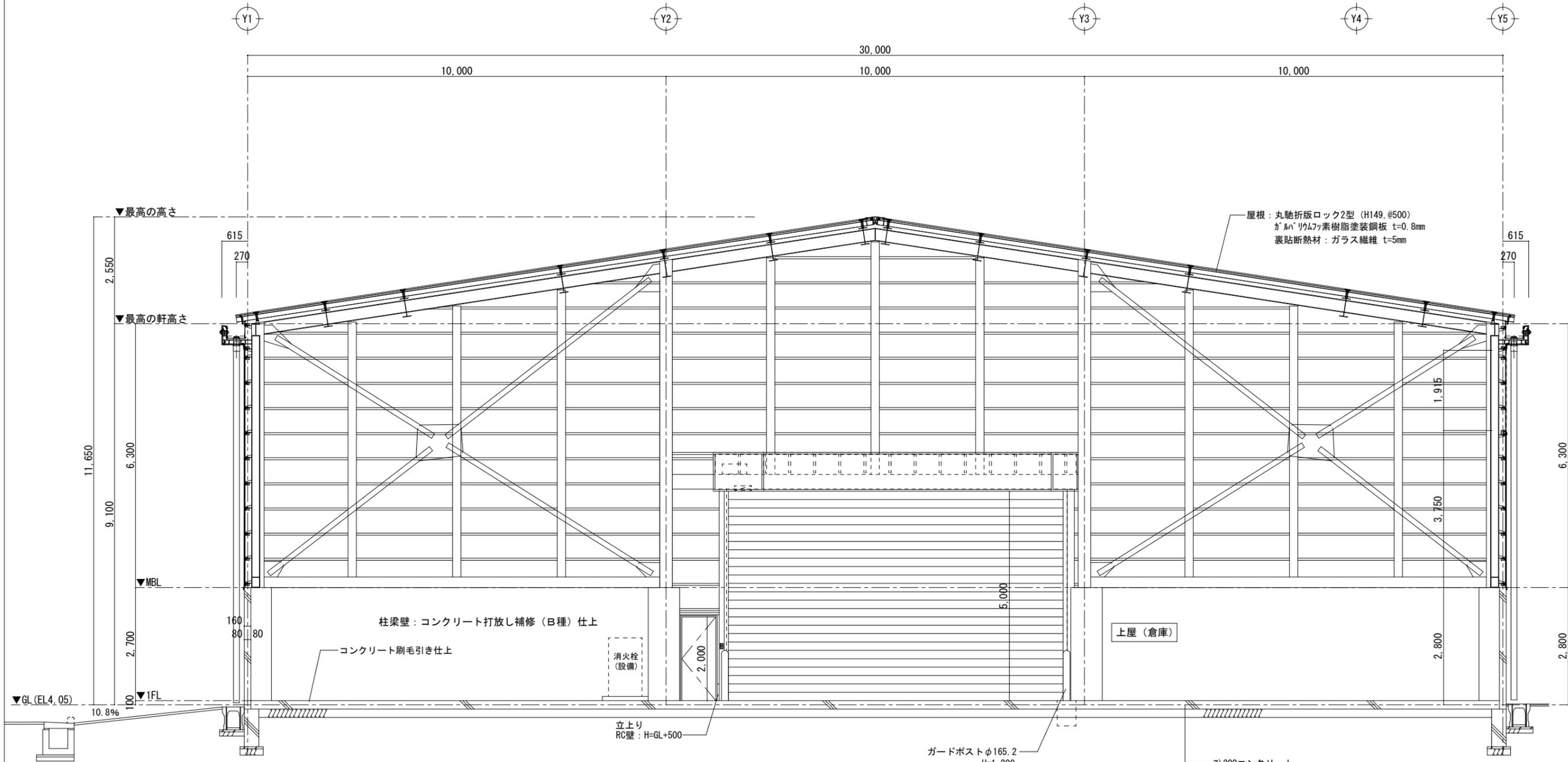


工事名称	(仮称) 新港ふ頭10号上屋建設工事 (本体・建築)	工事年度	令和7年度
工事場所	那覇市港町1丁目204番地・205番地	図面名称	A・D断面詳細図(1)
発注機関	那覇港管理組合 企画建設部 計画建設課	縮尺	A1:S=1/50 A3:S=1/100
摘要	図面番号 A-20		
検印	管理建築士	設計	製図
	設名 (株) アーキ5D		
	資格者氏名	新里 均	
	登録番号	一級建築士大臣登録第218581号	
	所在地	沖縄県宜野湾市普天間2-47-16	

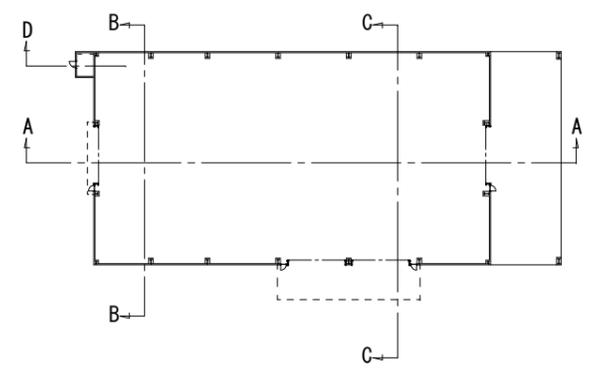


A断面図(2) S=1/100

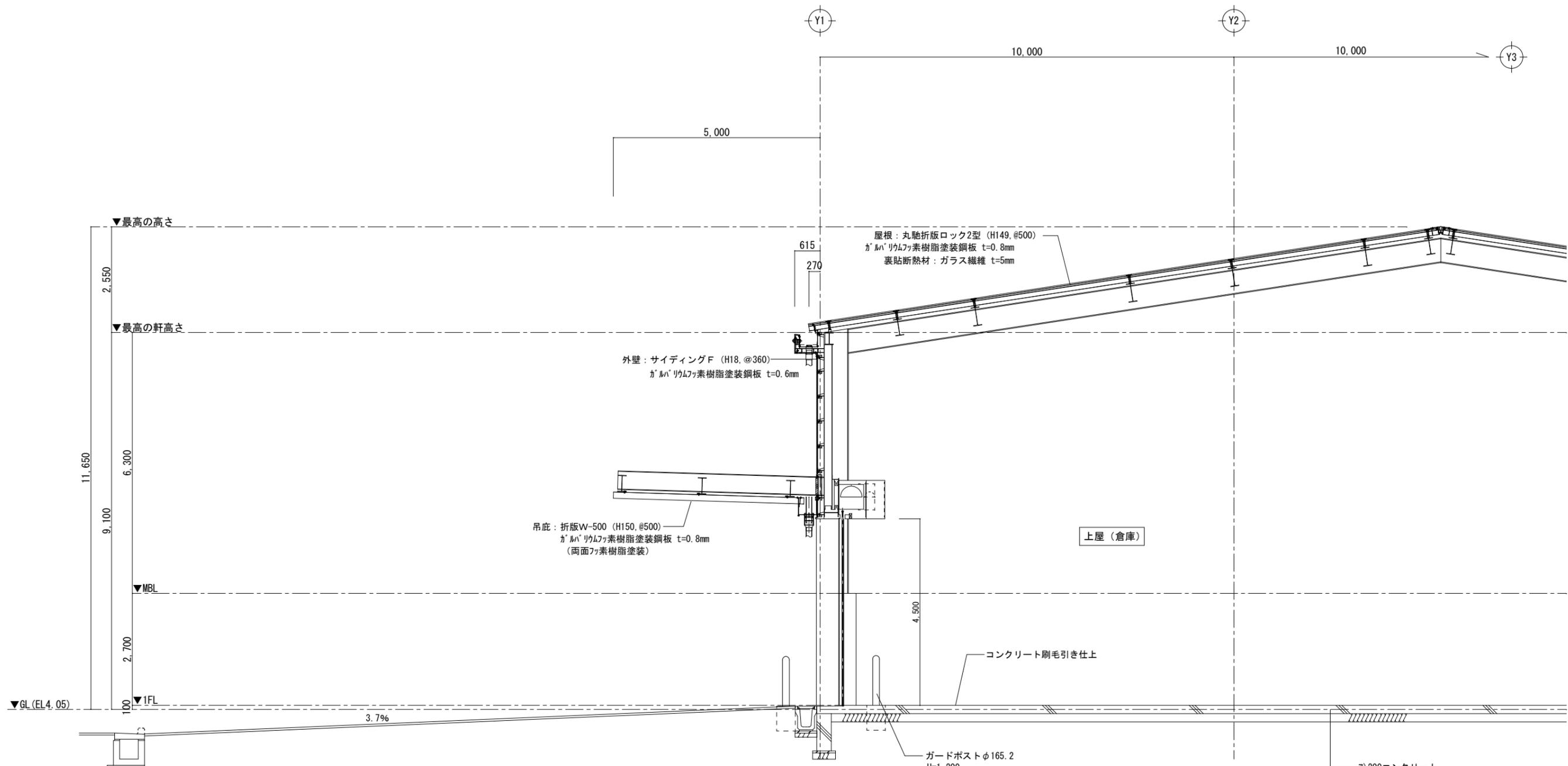
工事名称	(仮称)新港ふ頭10号上屋建設工事(本体・建築)	工事年度	令和7年度
工事場所	那覇市港町1丁目204番地・205番地	図面名称	A断面詳細図(2)
発注機関	那覇港管理組合 企画建設部 計画建設課	縮尺	A1:S=1/50 A3:S=1/100
図面番号	A-21		
摘要	管理建築士 設計 製 図		
検印	設 名 称	(株)アーキ5D	
	計 資格者氏名	新里 均	
	者 登録番号	一級建築士大臣登録第218581号	
所在地	沖縄県宜野湾市普天間2-47-16		



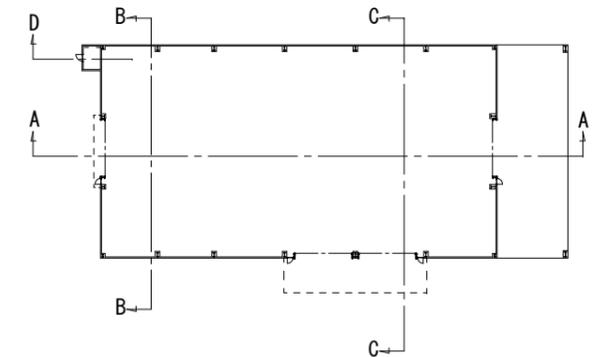
B断面図 S=1/100



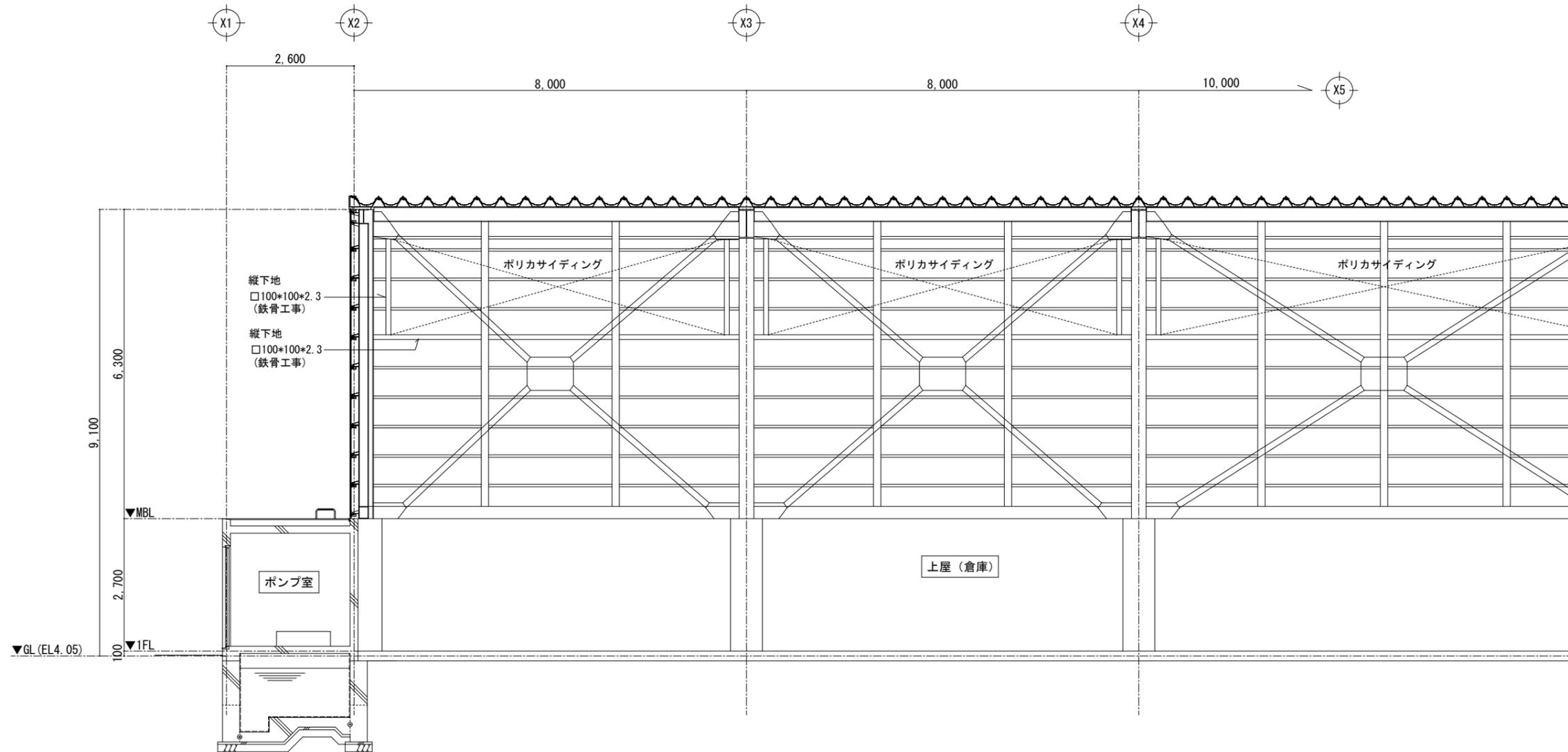
工事名称	(仮称)新港ふ頭10号上屋建設工事(本体・建築)	工事年度	令和7年度
工事場所	那覇市港町1丁目204番地・205番地	図面名称	B断面詳細図・X2展開図
発注機関	那覇港管理組合 企画建設部 計画建設課	縮尺	A1:S=1/50 A3:S=1/100
摘要	図面番号 A-22		
検印	管理建築士	設計	製図
	設	計	製
	図	製	図
設	計	製	図
資格者氏名	(株)アーキ5D		
登録番号	新里 均		
所在地	一級建築士大臣登録第218581号		
	沖縄県宜野湾市普天間2-47-16		



C 断面図 S=1/100

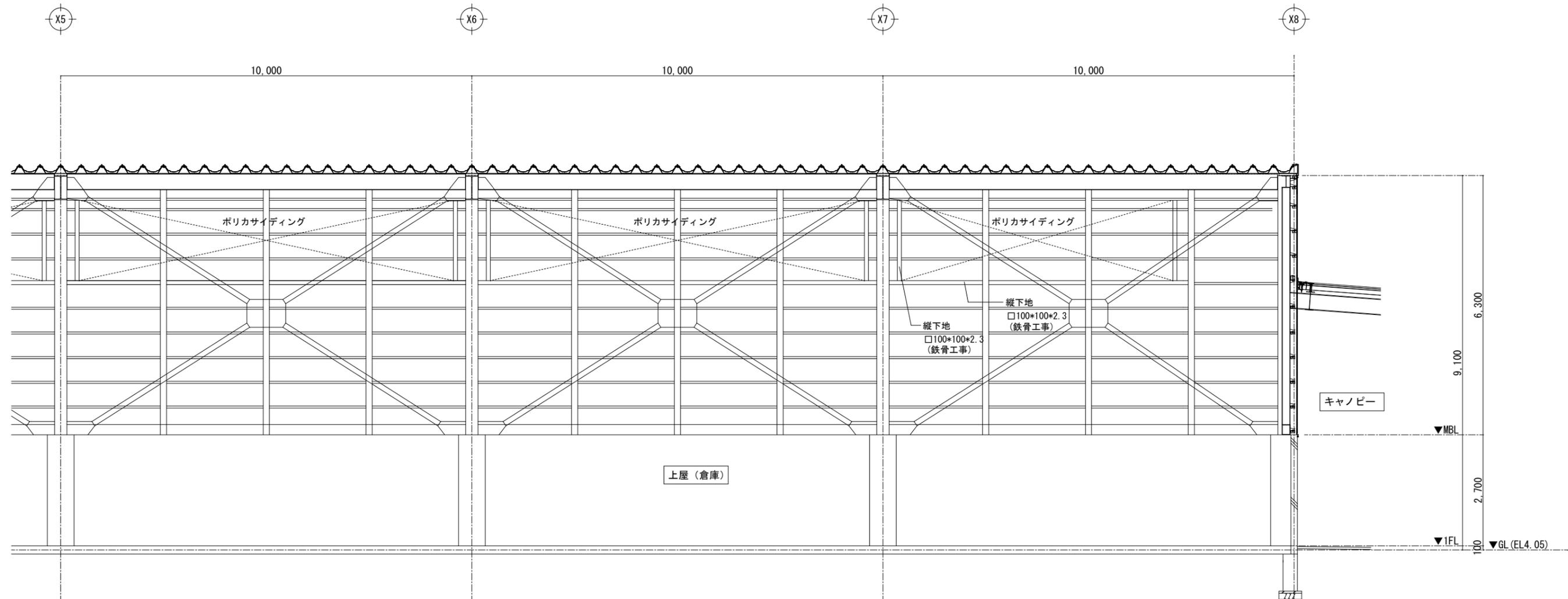


工事名称	(仮称) 新港ふ頭10号上屋建設工事 (本体・建築)	工事年度	令和7年度
工事場所	那覇市港町1丁目204番地・205番地	図面名称	C 断面詳細図
発注機関	那覇港管理組合 企画建設部 計画建設課	縮尺	A1:S=1/50 A3:S=1/100
摘要	図面番号 A-23		
検印	管理建築士	設計	製図
	設名	称 (株) アーキ5D	
	計	資格者氏名	新里 均
	者	登録番号	一級建築士大臣登録第218581号
		所在地	沖縄県宜野湾市普天間2-47-16



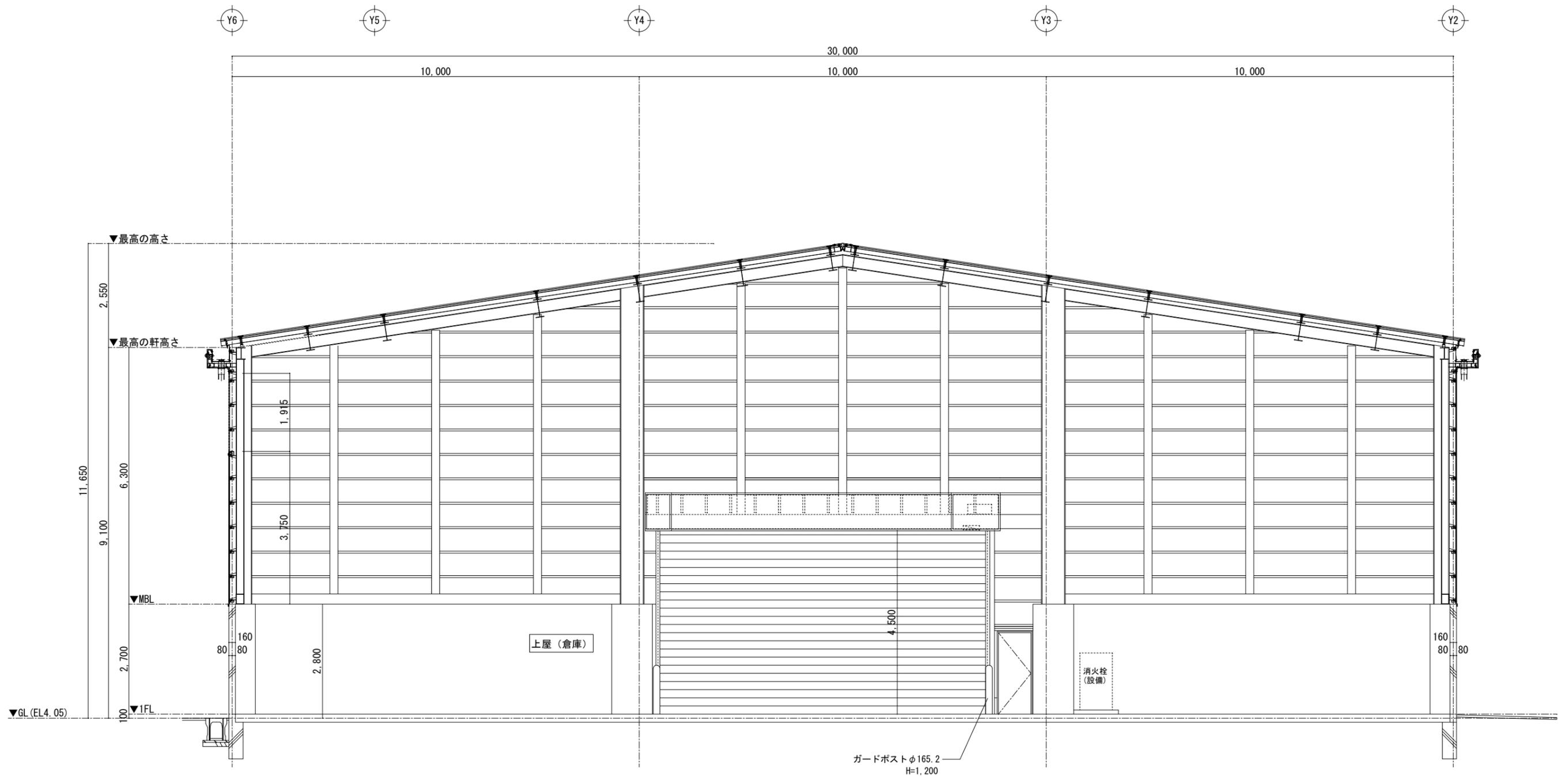
Y 5 展開図 S=1/100

工事名称	(仮称) 新港ふ頭10号上屋建設工事 (本体・建築)	工事年度	令和7年度
工事場所	那覇市港町1丁目204番地・205番地	図面名称	Y 5 展開図 (1)
発注機関	那覇港管理組合 企画建設部 計画建設課	縮尺	A1:S=1/50 A3:S=1/100
摘要	図面番号 A-24		
検印	管理建築士	設計	製図
	設	計	製
	図	製	図
設	名	称	(株) アーキ5D
計	資格者氏名	新里 均	
者	登録番号	一級建築士大臣登録第218581号	
所	在 地	沖縄県宜野湾市普天間2-47-16	



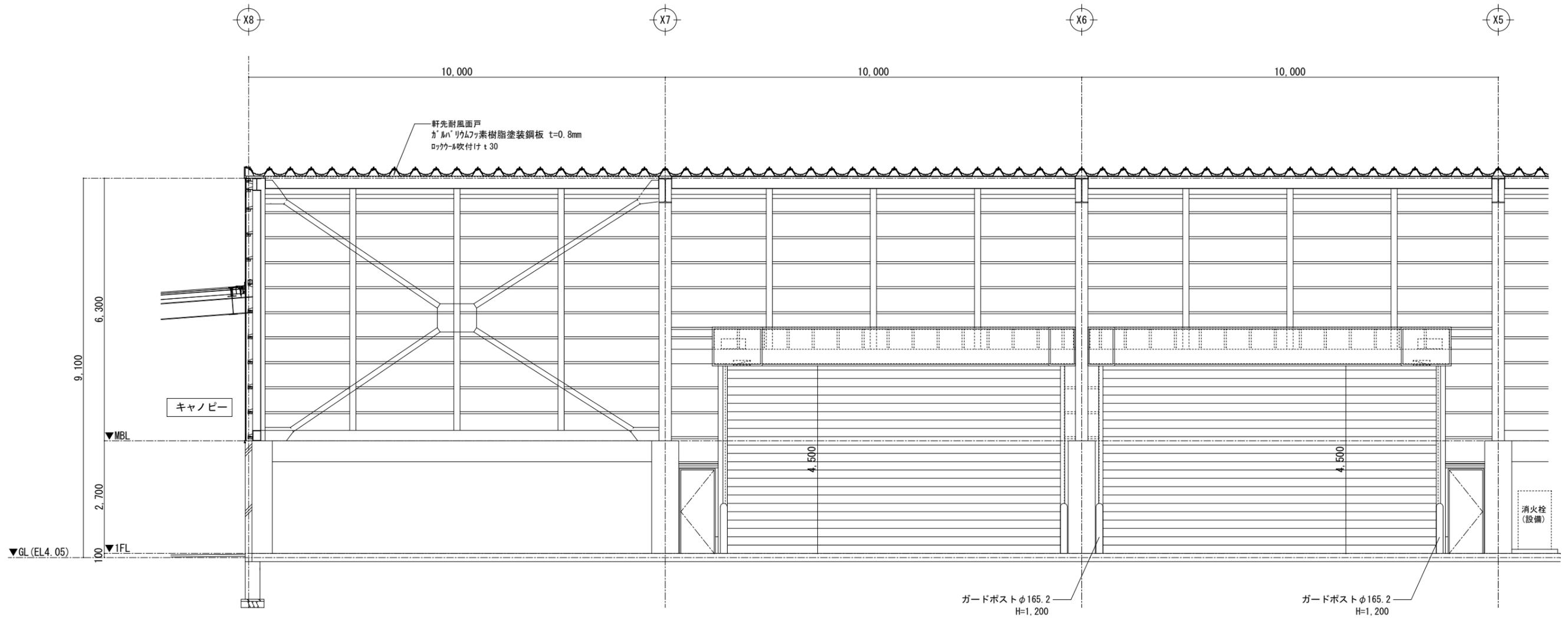
Y 5 展開図 S=1/100

工事名称	(仮称) 新港ふ頭10号上屋建設工事 (本体・建築)	工事年度	令和7年度
工事場所	那覇市港町1丁目204番地・205番地	図面名称	Y 5 展開図 (2)
発注機関	那覇港管理組合 企画建設部 計画建設課	縮尺	A1:S=1/50 A3:S=1/100
摘要	図面番号 A-25		
検印	管理建築士	設計	製図
	設	計	製
	図	製	図
設	名	称	(株) アーキ5D
計	資格者氏名	新里 均	
者	登録番号	一級建築士大臣登録第218581号	
所	在	地	沖縄県宜野湾市普天間2-47-16



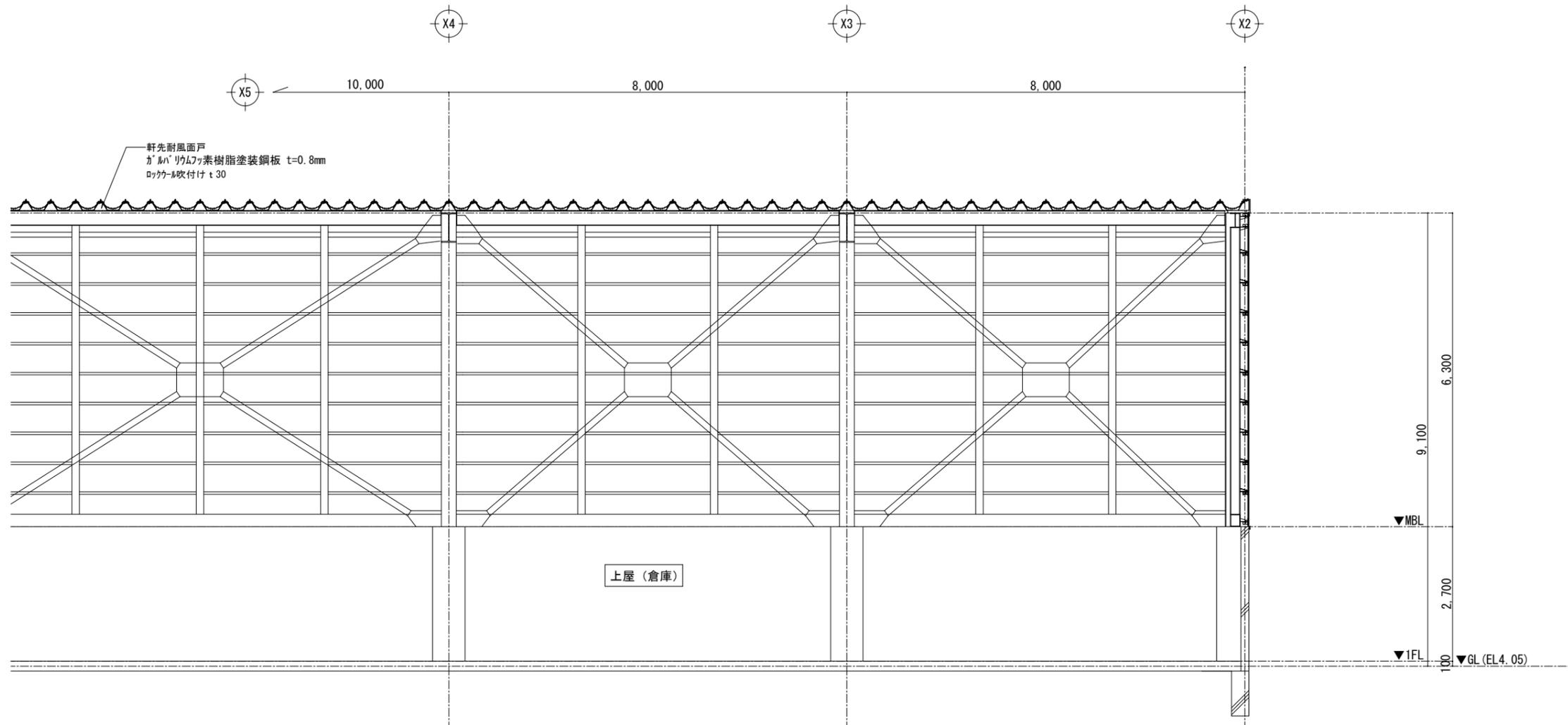
X 8 展開図 S=1/100

工事名称	(仮称)新港ふ頭10号上屋建設工事(本体・建築)	工事年度	令和7年度
工事場所	那覇市港町1丁目204番地・205番地	図面名称	X 8 展開図
発注機関	那覇港管理組合 企画建設部 計画建設課	縮尺	A1:S=1/50 A3:S=1/100
摘要		図面番号	A-26
検印	管理建築士	設計	製図
	設計	製図	製図
	資格者氏名	新里 均	
	登録番号	一級建築士大臣登録第218581号	
所在地	沖縄県宜野湾市普天間2-47-16		



Y 1 展開図 S=1/100

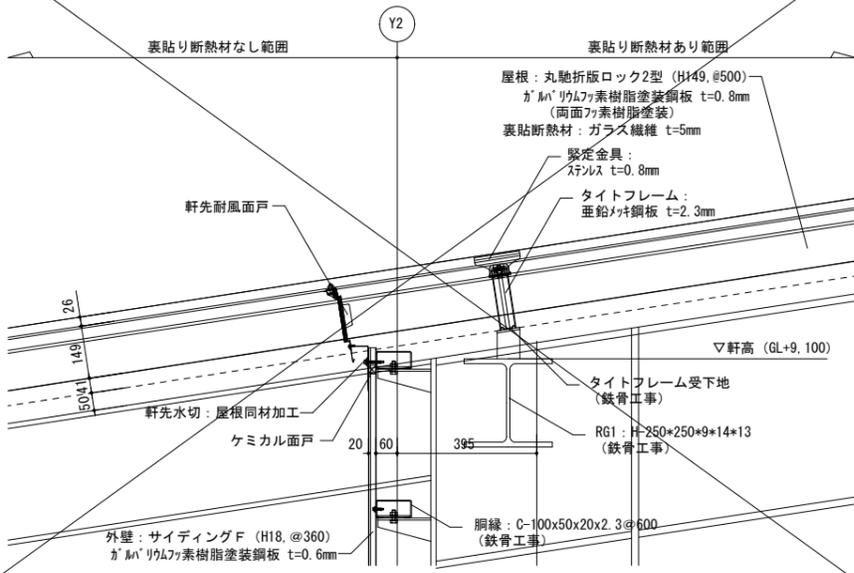
工事名称	(仮称)新港ふ頭10号上層建設工事(本体・建築)	工事年度	令和7年度
工事場所	那覇市港町1丁目204番地・205番地	図面名称	Y 1 展開図 (1)
発注機関	那覇港管理組合 企画建設部 計画建設課	縮尺	A1:S=1/50 A3:S=1/100
摘要		図面番号	A-27
検印	管理建築士	設計	製図
	設	計	製
	図	設	名
	者	資格者氏名	新里 均
	登録番号	一級建築士大臣登録第218581号	
	所在地	沖縄県宜野湾市普天間2-47-16	



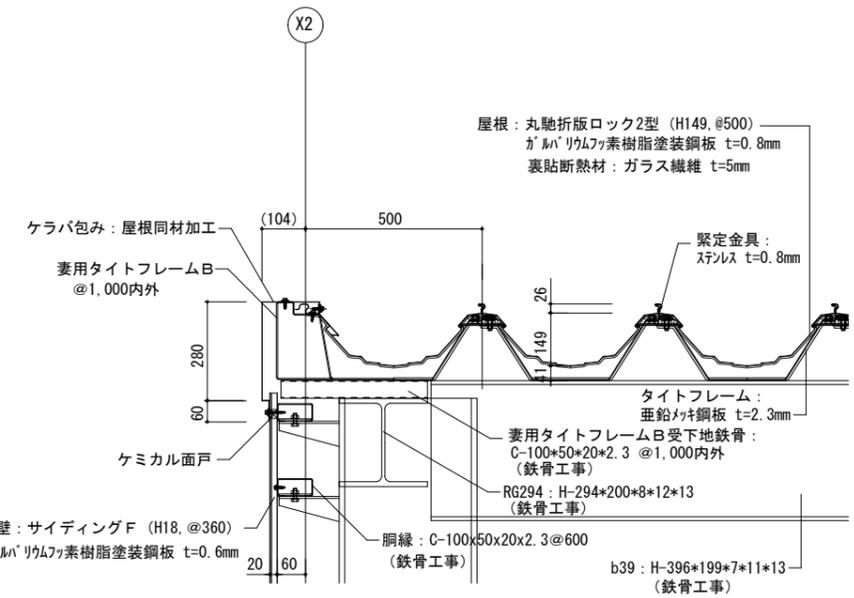
Y 1 展開図 S=1/100

工事名称	(仮称)新港ふ頭10号上屋建設工事(本体・建築)	工事年度	令和7年度
工事場所	那覇市港町1丁目204番地・205番地	図面名称	Y1展開図(2)
発注機関	那覇港管理組合 企画建設部 計画建設課	縮尺	A1:S=1/50 A3:S=1/100
摘要	図面番号 A-28		
検印	管理建築士	設計	製図
	設計者	資格者氏名	新里 均
	製図者	登録番号	一級建築士大臣登録第218581号
		所在地	沖縄県宜野湾市普天間2-47-16

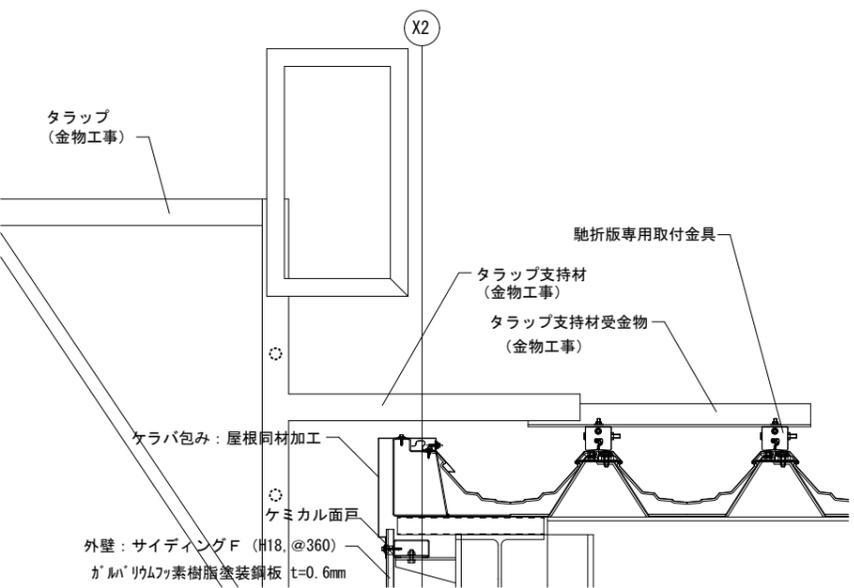
軒先 断面詳細図 S=1:10 (Y2通り, X4~X8通り間)



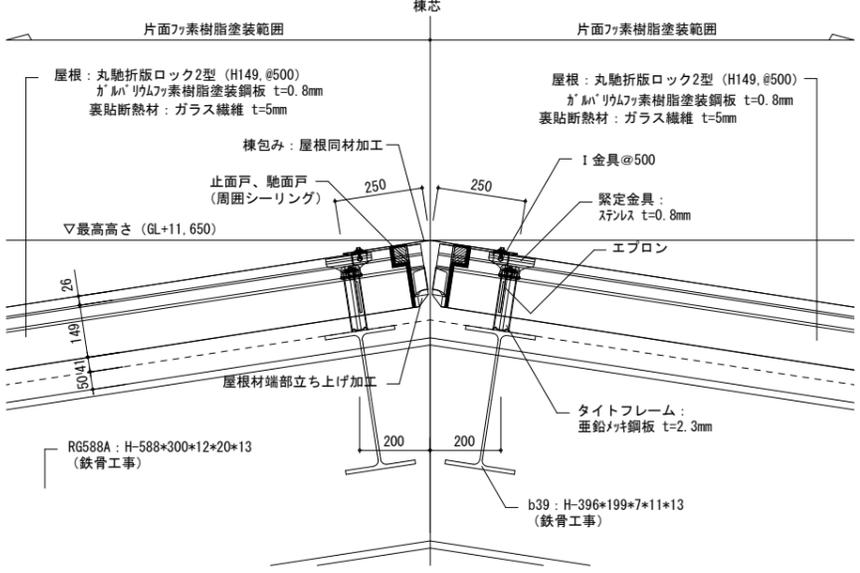
妻側 断面詳細図 S=1:10 (X2通り側)



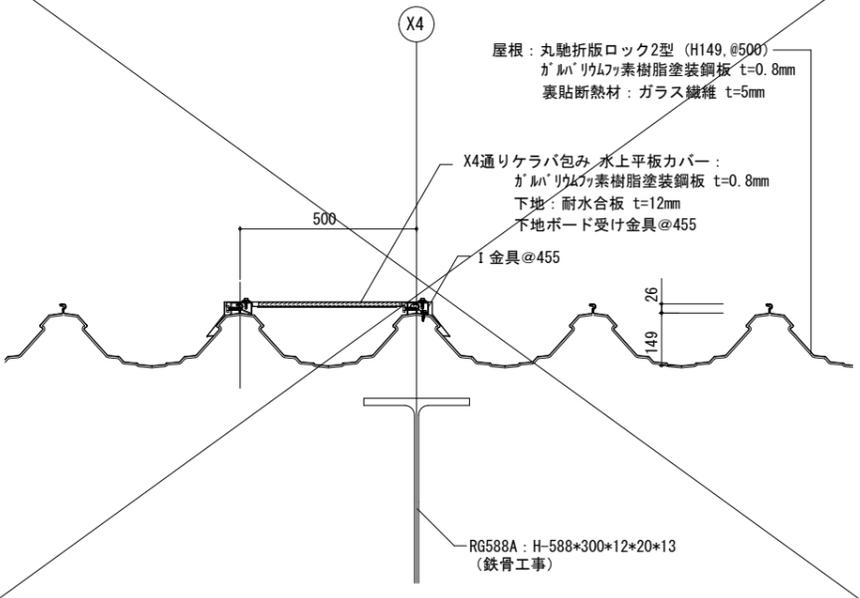
妻側 断面詳細図 S=1:10 (X2通り側タラップ部分)



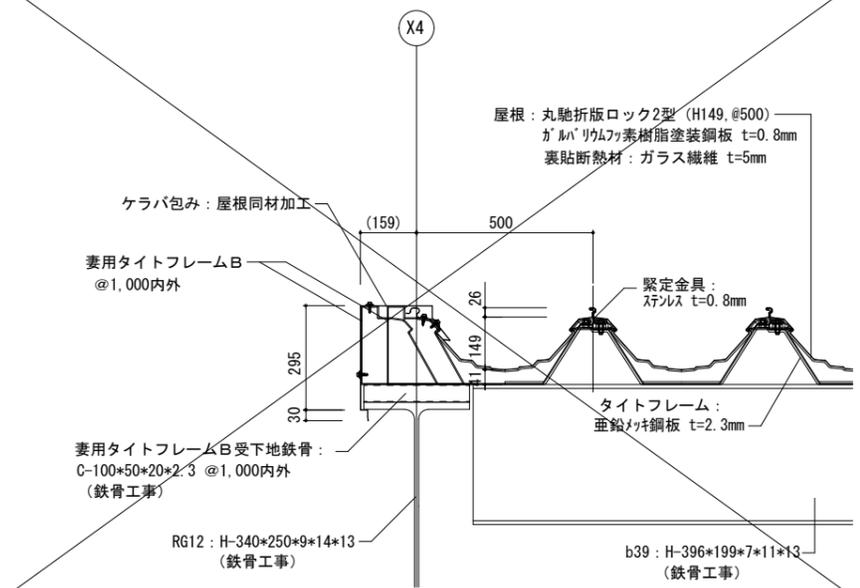
棟 断面詳細図 S=1:10



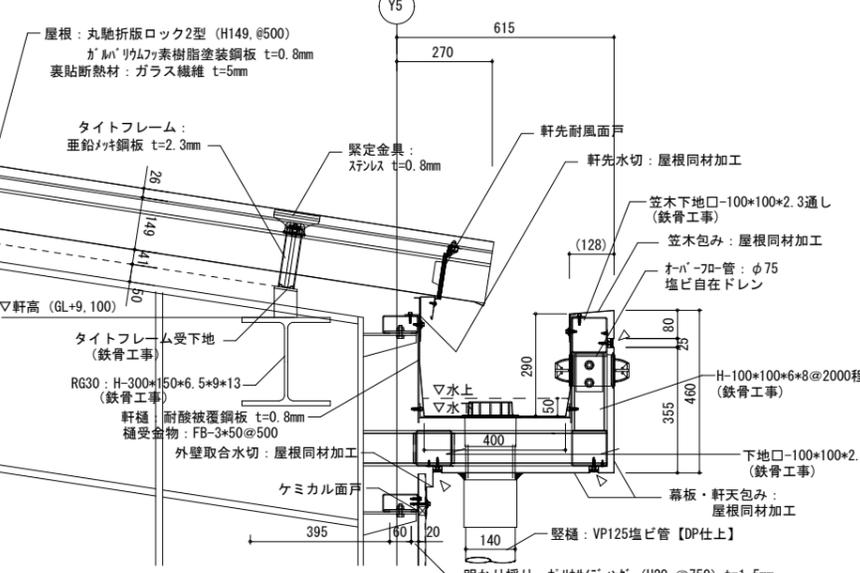
妻側水上平板カバー 断面詳細図 S=1:10 (X4通り, Y2~棟 範囲)



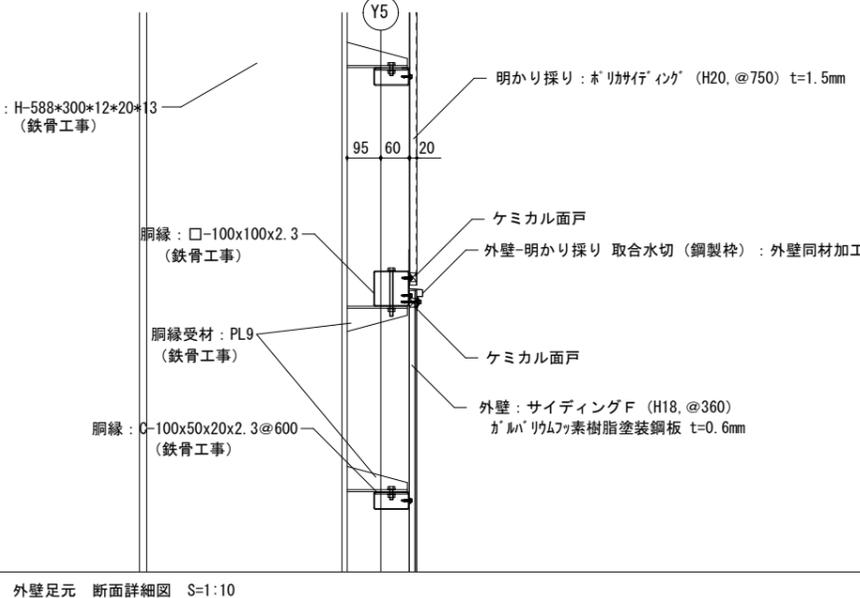
妻側 断面詳細図 S=1:10 (X4通りキャノピー2部分)



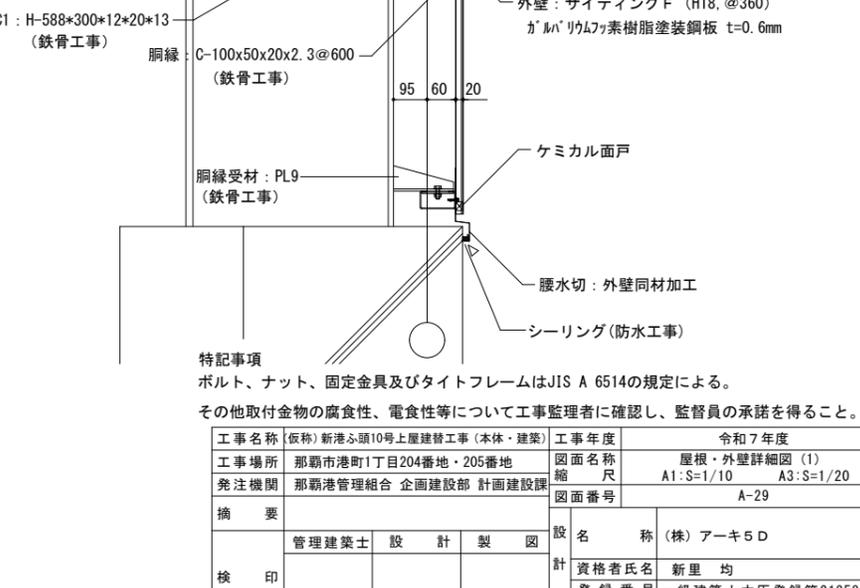
軒先 断面詳細図 S=1:10 (Y6通り側)



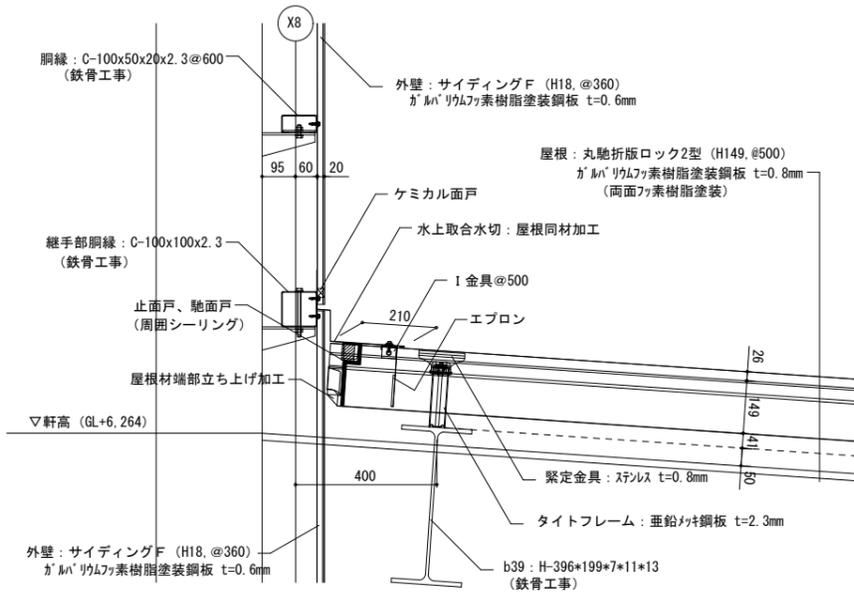
外壁 断面詳細図 S=1:10 (Y6通り側、明かり採り取合部分)



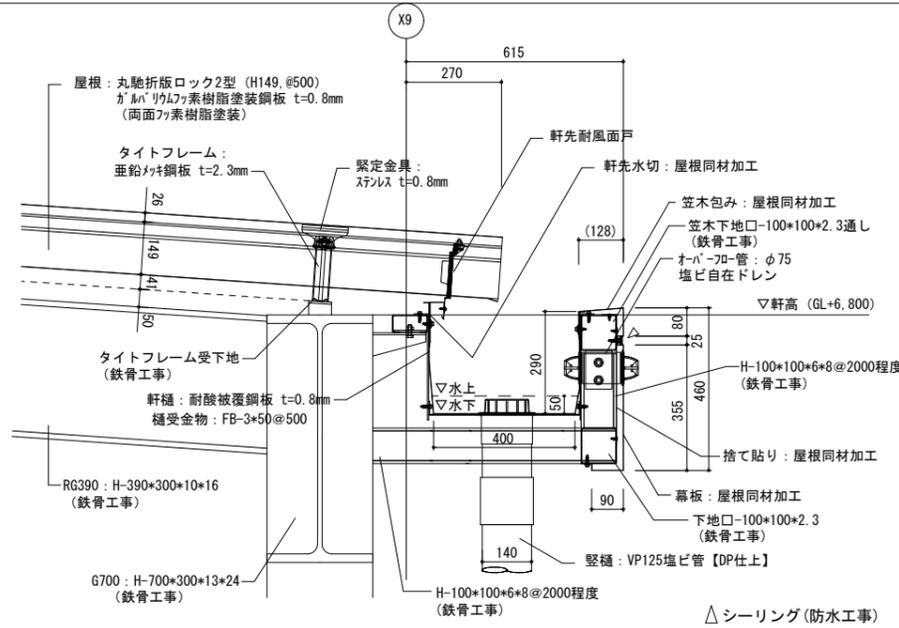
外壁足元 断面詳細図 S=1:10



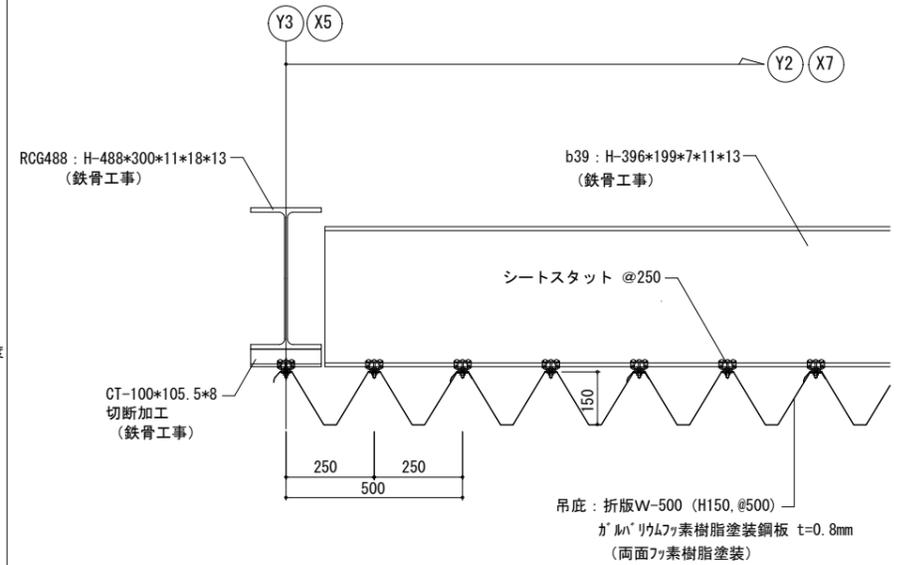
キャンピー1/水上 断面詳細図 S=1:10



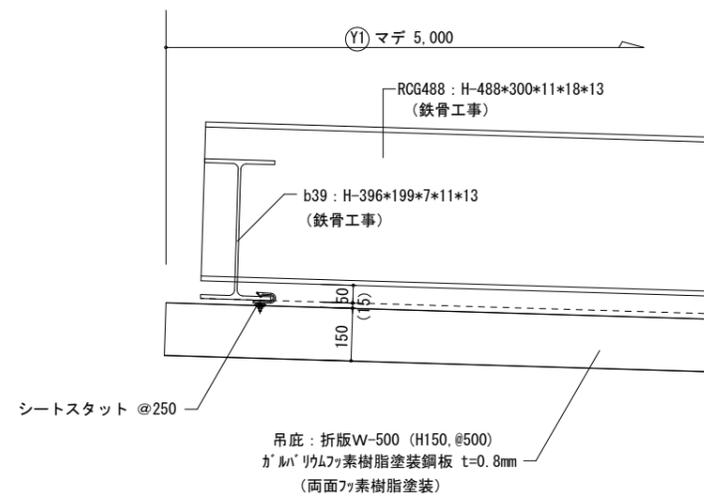
キャンピー/軒先 断面詳細図 S=1:10



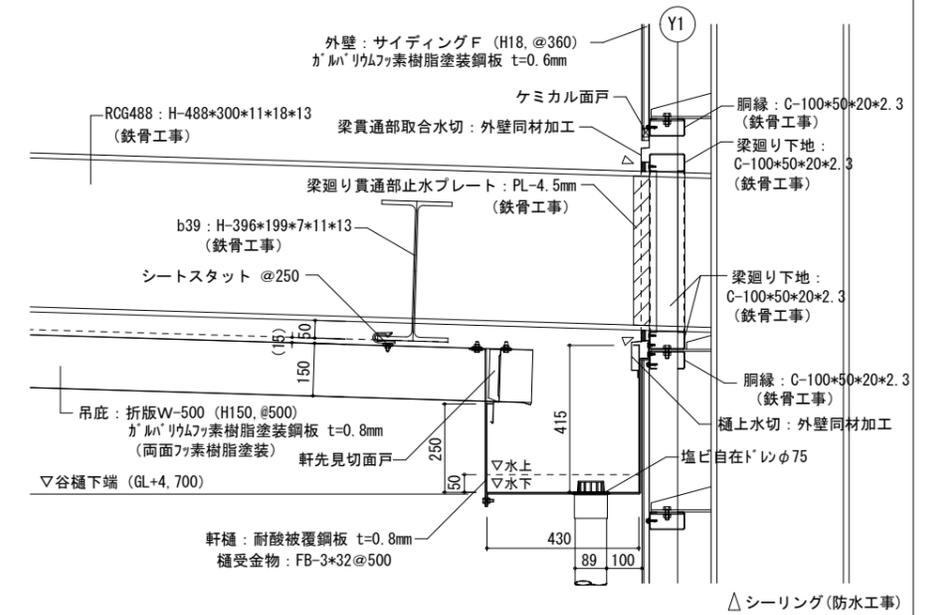
吊底/妻側 断面詳細図 S=1:10



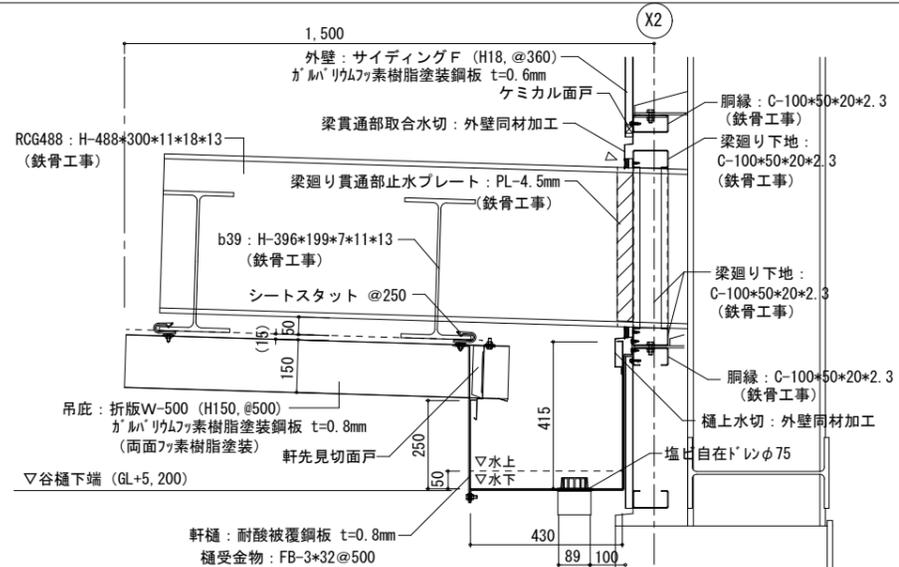
吊底/軒先 (水上側) 断面詳細図 S=1:10 (Y1通り)



吊底/軒先 (水下側) 断面詳細図 S=1:10 (Y1通り)



吊底/軒先 (水上側) 断面詳細図 S=1:10 (X2通り)



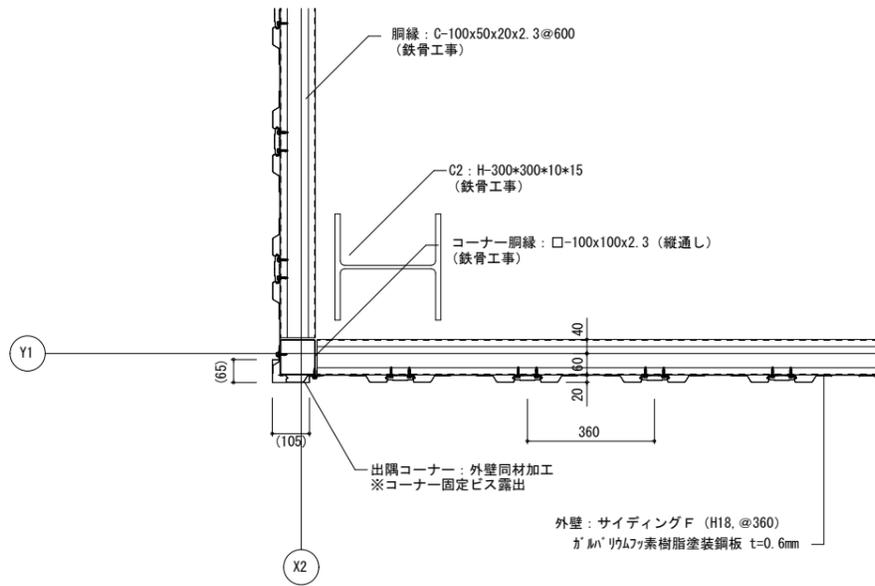
特記事項

ボルト、ナット、固定金具及びタイプフレームはJIS A 6514の規定による。

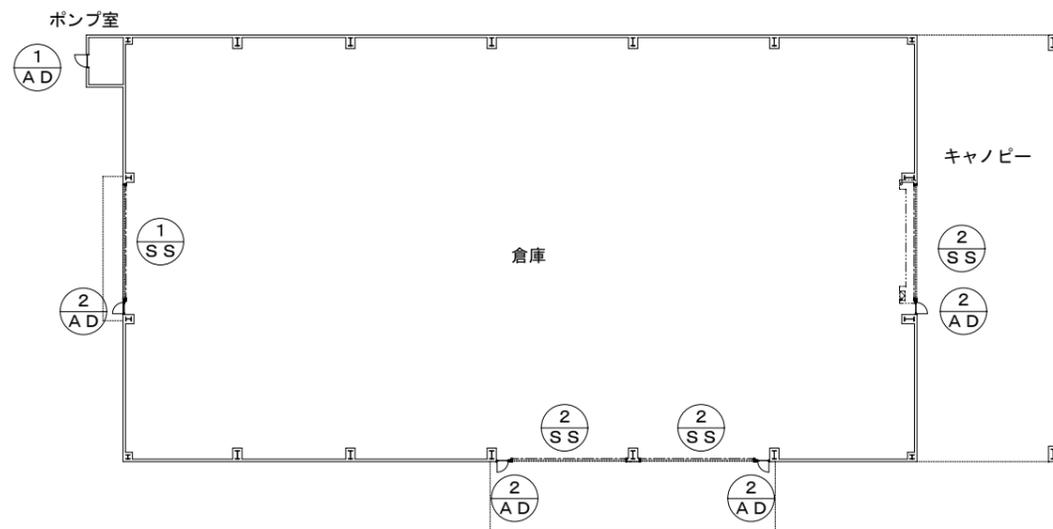
その他取付金物の腐食性、電食性等について工事監理者に確認し、監督員の承諾を得ること。

工事名称 (仮称)	新港ふ頭10号上屋建築工事 (本体・建築)	工事年度	令和7年度
工事場所	那覇市港町1丁目204番地・205番地	図面名称	屋根・外壁詳細図 (2)
発注機関	那覇港管理組合 企画建設部 計画建設課	縮尺	A1:S=1/10 A3:S=1/20
摘要	図面番号 A-30		
検印	管理建築士 設 計 製 図	設 名 称	(株) アーキ5D
		計 資格者氏名	新里 均
		登 録 番 号	一級建築士大臣登録第218581号
		所 在 地	沖縄県宜野湾市普天間2-47-16

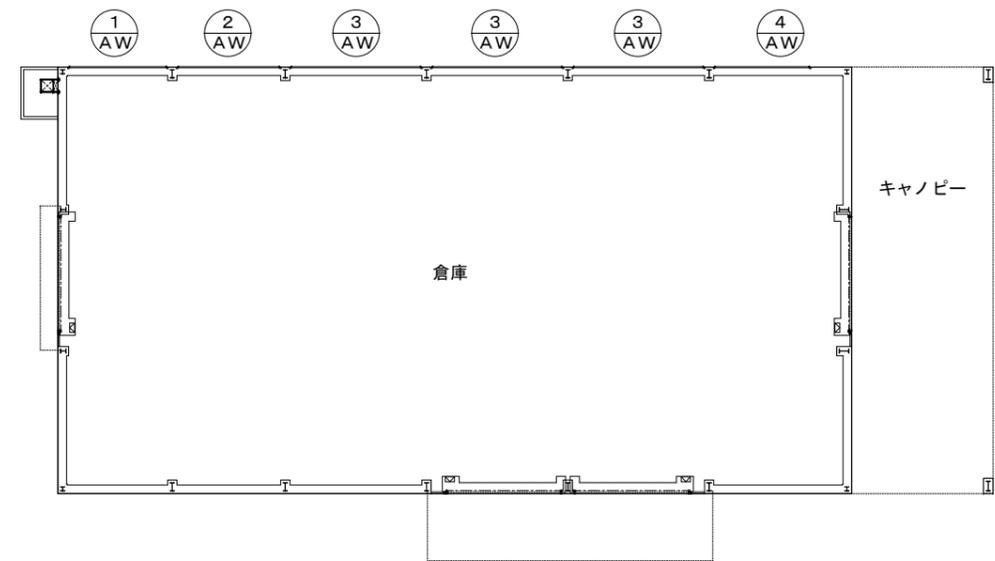
外壁 出隅コーナー 断面詳細図 S=1:10



工事名称	仮称)新港心頭10号上屋建替工事(本体・建築)	工事年度	令和7年度
工事場所	那覇市港町1丁目204番地・205番地	図面名称	屋根・外壁詳細図(3)
発注機関	那覇港管理組合 企画建設部 計画建設課	縮尺	A1:S=1/10 A3:S=1/20
		図面番号	A-31
摘要			
検印	管理建築士	設計	製図
設計者	名称	(株)アーキ5D	
資格者氏名	新里 均		
登録番号	一級建築士大臣登録第218581号		
所在地	沖縄県宜野湾市普天間2-47-16		



建具KEYPLAN
下層部平面図 S=1/500



建具KEYPLAN
上層部平面図 S=1/500

工事名称	(仮称) 新港心頭10号上層建設工事(本体・建築)	工事年度	令和7年度
工事場所	那覇市港町1丁目204番地・205番地	図面名称	建具KEYPLAN
発注機関	那覇港管理総合 企画建設部 計画建設課	縮尺	A1:S=1/250 A3:S=1/500
		図面番号	A-32
摘要			
検印	管理建築士	設計	製図
	設計者	名称	(株)アーキ5D
		資格者氏名	新里 均
		登録番号	一級建築士大臣登録第218581号
		所在地	沖縄県宜野湾市普天間2-47-16

符号・位置・数量	① AW 倉庫 (上層部) 1ヶ所	② AW 倉庫 (上層部) 1ヶ所	③ AW 倉庫 (上層部) 3ヶ所	④ AW 倉庫 (上層部) 1ヶ所
形状・寸法				
型式・見込	明かり採り 20 mm	明かり採り 20 mm	明かり採り 20 mm	明かり採り 20 mm
材質・仕上	枠：外壁同材加工 (ガルバリウムフッ素樹脂塗装鋼板 t=0.6mm)	枠：外壁同材加工 (ガルバリウムフッ素樹脂塗装鋼板 t=0.6mm)	枠：外壁同材加工 (ガルバリウムフッ素樹脂塗装鋼板 t=0.6mm)	枠：外壁同材加工 (ガルバリウムフッ素樹脂塗装鋼板 t=0.6mm)
ガラス	ポリカサイディング (H20, @750) t=1.5mm			
金物	—	—	—	—
備考	詳細図参照	詳細図参照	詳細図参照	詳細図参照

符号・位置・数量	① SS 倉庫 1ヶ所	② SS 倉庫 3ヶ所
形状・寸法		
型式・見込	スチール電動重量シャッター (耐風型)	スチール電動重量シャッター (耐風型)
材質・仕上	スラットA-2耐1.6t 【耐候性塗料 (DP) 両面塗り/1級・ふっ素樹脂】	スラットA-2耐1.6t 【耐候性塗料 (DP) 両面塗り/1級・ふっ素樹脂】
ガラス	—	—
金物	障検座板カバーステンレス レールステンレス巻き1.5t 三方枠ステンレス1.5t 露出形耐風溝形鋼レール 電動開閉装置 スチール部：【耐候性塗料 (DP) 1級・ふっ素樹脂】	障検座板カバーステンレス レールステンレス巻き1.5t 三方枠ステンレス1.5t 露出形耐風溝形鋼レール 電動開閉装置 スチール部：【耐候性塗料 (DP) 1級・ふっ素樹脂】
備考	【1級・ふっ素樹脂】 三和シャッター 耐風ガード ※同等品以上	【1級・ふっ素樹脂】 三和シャッター 耐風ガード ※同等品以上

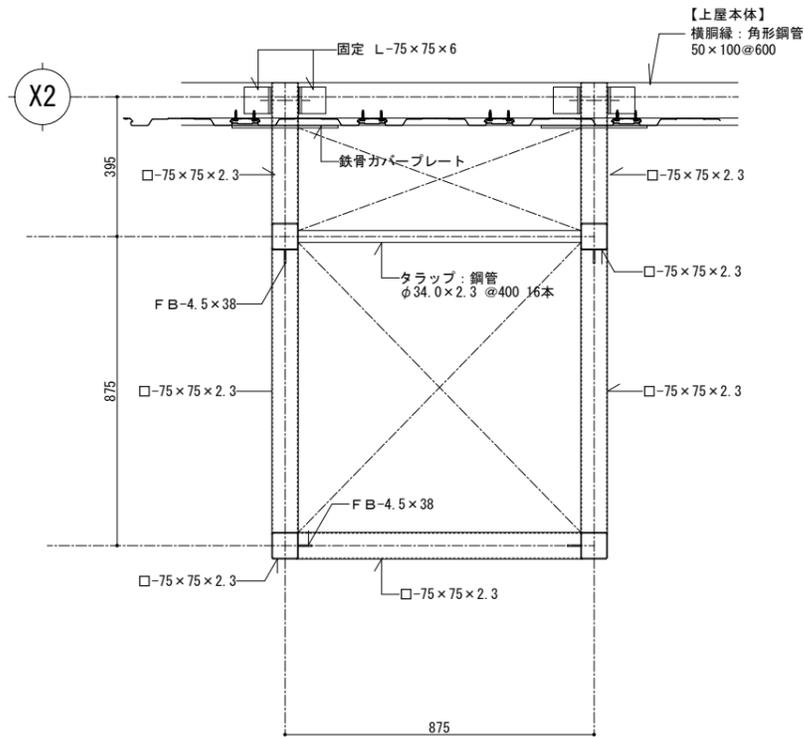
符号・位置・数量	① AD ポンプ室 1ヶ所	② AD 倉庫 4ヶ所
形状・寸法		
型式・見込	アルミ片開きドア 75 mm	アルミ片開きドア 75 mm
材質・仕上	標準仕様	標準仕様
ガラス	—	—
金物	レバーハンドル/本締錠/ステンレス丁番 (3枚) ドアクローザー/附属金物一式	レバーハンドル/本締錠/ステンレス丁番 (3枚) ドアクローザー/附属金物一式
備考	沓摺：ステンレス t1.5 (SUS304) +沓摺ゴム/アルミ額縁	沓摺：ステンレス t1.5 (SUS304) +沓摺ゴム/アルミ額縁

※ 特記事項

- ・ステンレスについては、全てSUS304とする。
- ・外部に面する建具の耐風圧性能 (基準風速46m/S、地表面粗度区分Ⅲ)

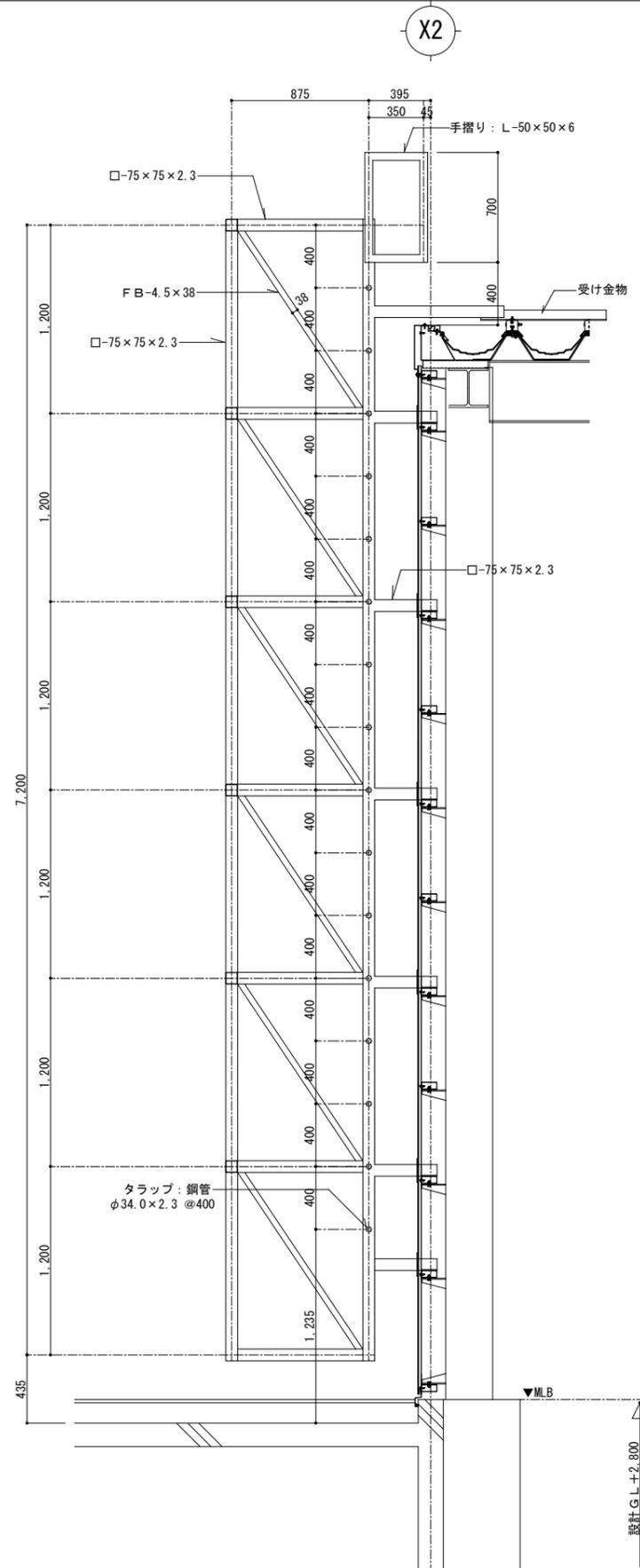
階数	性能	耐風圧性 (Pa)	気密性 (等級)	水密性 (Pa)	遮音性 (等級)
1階	上層部	S-7 (3600)	A-4 (2)	W-5 (500)	T-1 (25)
1階	下層部	S-6 (2800)	A-4 (2)	W-5 (500)	T-1 (25)

工事名称	(仮称) 新港ふ頭10号上層建設工事 (本体・建築)	工事年度	令和7年度
工事場所	那覇市港町1丁目204番地・205番地	図面名称	建具表
発注機関	那覇港管理組合 企画建設部 計画建設課	縮尺	A1:S=1/50 A3:S=1/100
摘要	図面番号 A-33		
検印	管理建築士	設計	製図
	設 計 製 図		
	設 計 者	設 計 者 (株) アーキ5D	
	資格者氏名	新里 均	
登録番号	一級建築士大臣登録第218581号		
所在地	沖縄県宜野湾市普天間2-47-16		



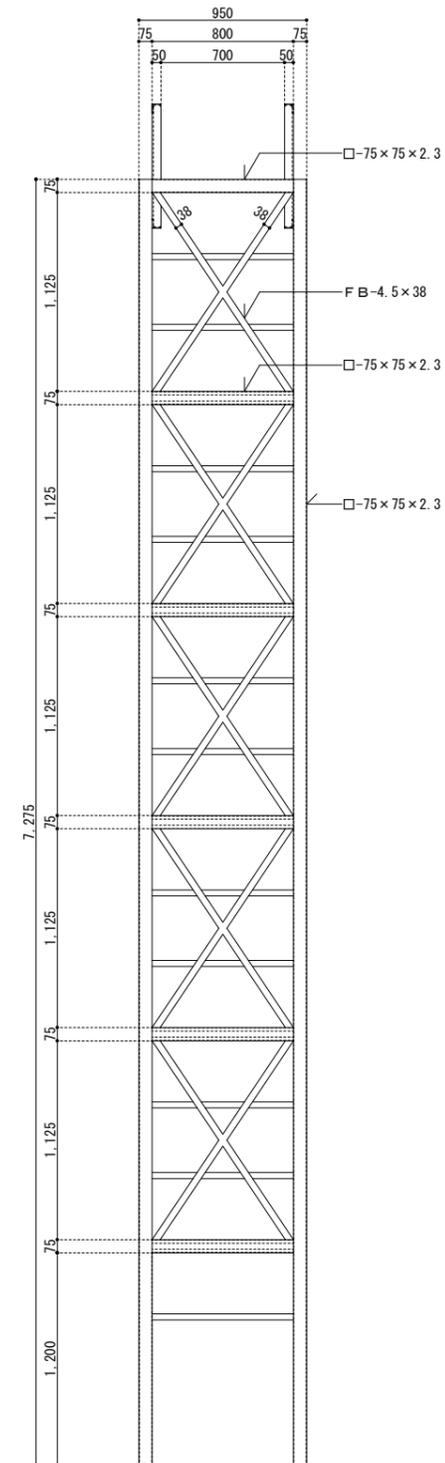
タラップ平面図 S=1/10 (1/20)

●使用鋼材は全て【溶融亜鉛メッキ処理】



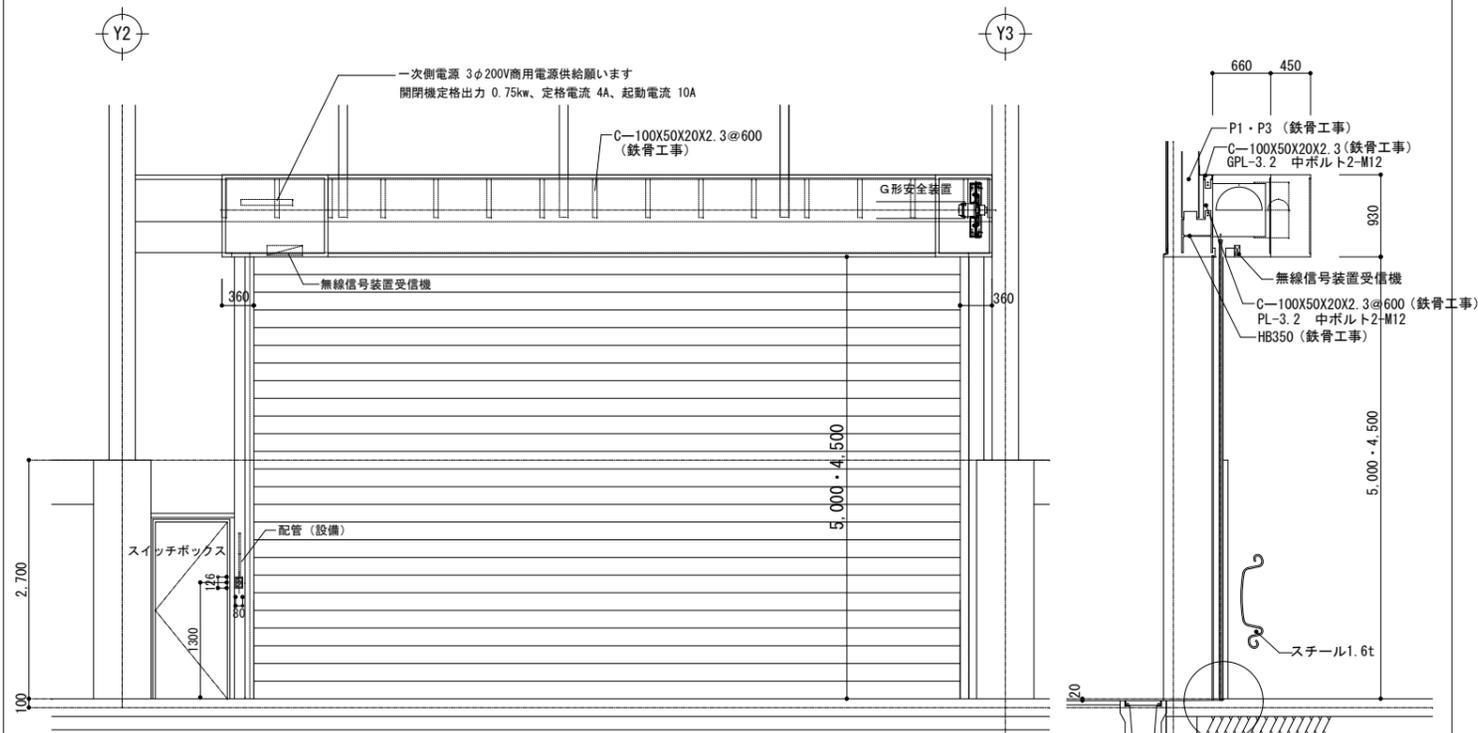
タラップ断面図 S=1/20 (1/40)

●使用鋼材は全て【溶融亜鉛メッキ処理】



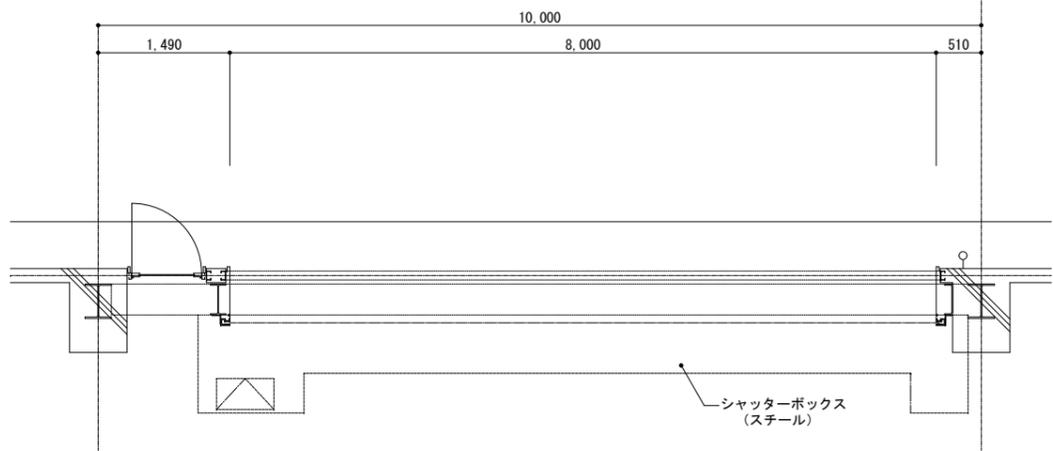
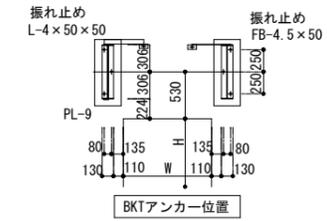
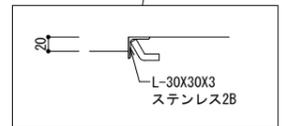
タラップ正面図 S=1/20 (1/40)

工事名称	(仮称) 新港ふ頭10号上層建設工事(本体・建築)	工事年度	令和7年度
工事場所	那覇市港町1丁目204番地・205番地	図面名称	タラップ詳細図
発注機関	那覇港管理組合 企画建設部 計画建設課	縮尺	A1:S=1/10・20 A3:S=1/20・40
摘要	図面番号 A-34		
検印	管理建築士	設計	製図
	設 計 製 図 者 (株)アーキ5D		
	資格者氏名 新里 均		
	登録番号 一級建築士大臣登録第218581号		
所在地 沖縄県宜野湾市普天間2-47-16			



内観正面図 S=1/80

断面図 S=1/80

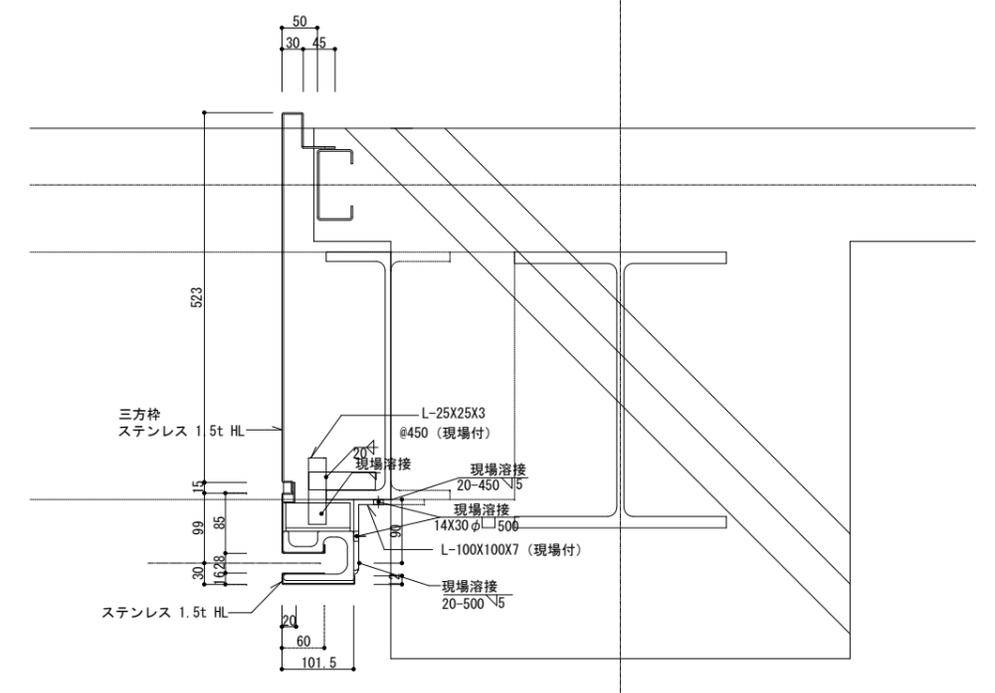


平面図 S=1/80

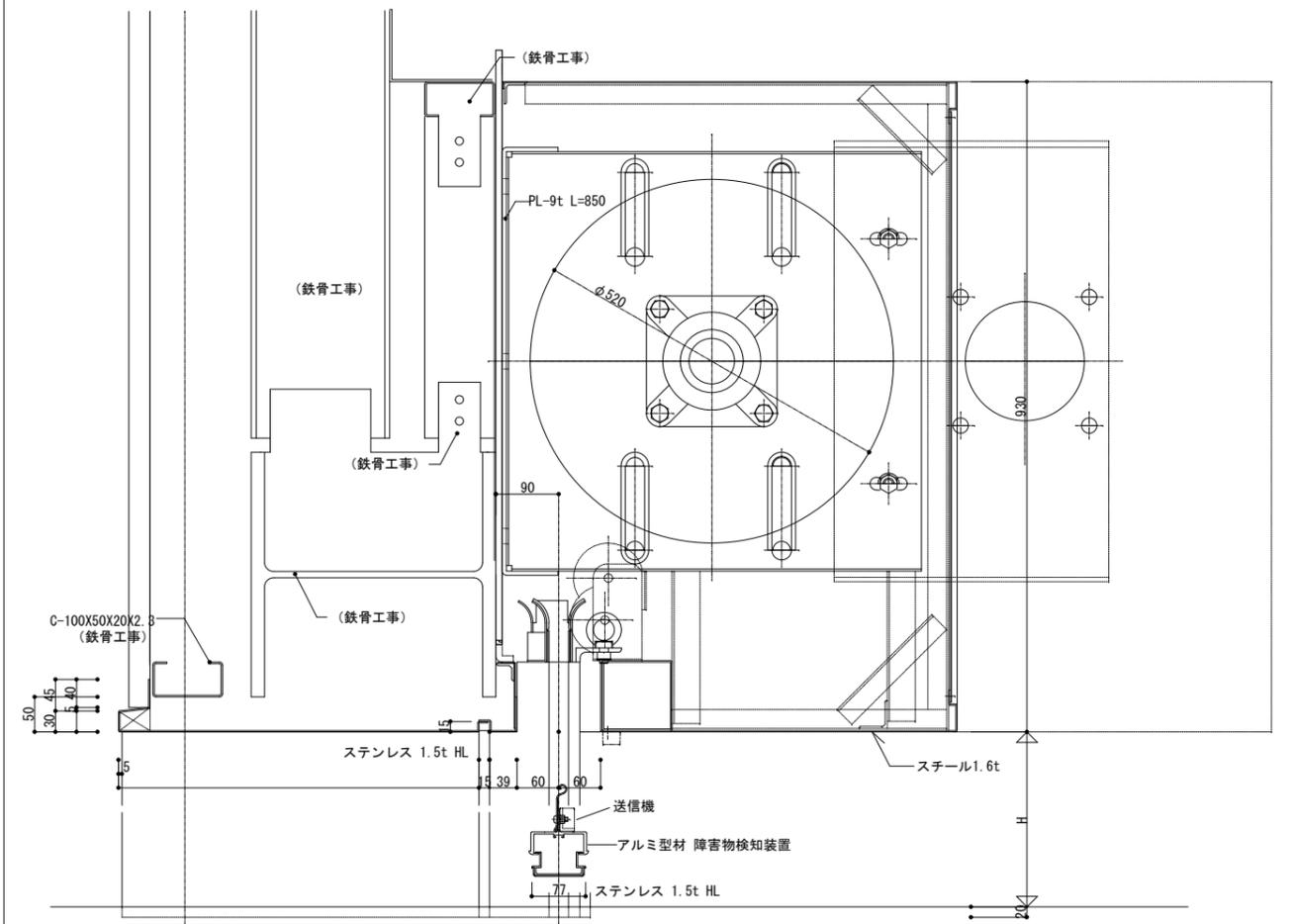
★シャッター強度仕様	外圧/内圧	ガイドレール許容風圧力	N/m ²
指定耐風圧力	3600N/m ²	スラット許容耐風圧力	6147/4732 N/m ² ← W:8000

電動式重量シャッター (高強度タイプ: 全数フック付き)

スラット	A-2高	スチール1.6t	開閉機	SG90	定格出力	3φ200V 0.75kw 60Hz	設計範囲	Q
座板	障検	ステンレス	巻取シャフト	8"-65	押ボタン	埋込リリナー	備考 G形安全装置 (G756-19-54) 障害物検知装置付	
ガイドレール		ステンレス	軸受	駆	CE630	手動閉鎖装置		
まぐさ		ステンレス	従	解放装置	CJ630G			
ケース		スチール	手動時操作	チェーン式				



下層部 S=1/10



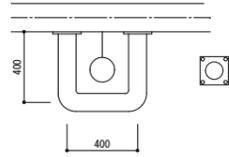
断面図 S=1/10

工事名称	(仮称) 新港ふ頭10号上層建設工事 (本体・建築)	工事年度	令和7年度
工事場所	那覇市港町1丁目204番地・205番地	図面名称	シャッター詳細図 (1)
発注機関	那覇港管理組合 企画建設部 計画建設課	縮尺	A1:1/5 (40) A3:1/10 (80)
摘要	図面番号 A-35		
検印	管理建築士 設 計 製 図	設 名 称	(株) アーキ5D
		計 資格者氏名	新里 均
		登 録 番 号	一級建築士大臣登録第218581号
		所 在 地	沖縄県宜野湾市普天間2-47-16

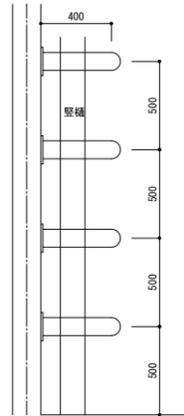
縦樋ガードポスト

S=1/10 (1/20)

Y1通り (X2・4・5・7・8・9) : 6ヶ所
 Y2通り (X2) : 1ヶ所
 Y3通り (X2) : 1ヶ所
 Y5通り (X9) : 1ヶ所
 9ヶ所×4セット=36本



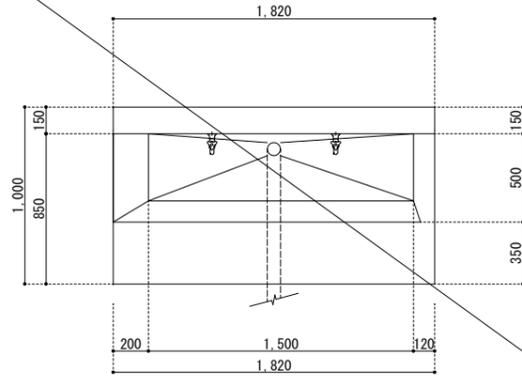
φ101.6
 帝金棒【固定式】※同等品以上
 黄色焼付塗装
 ベース t12×160×160
 ケミカルアンカー 4-M16



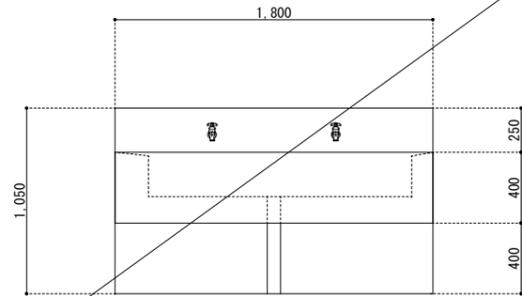
手洗い場 【休憩所棟】

1ヶ所

S=1/20 (1/40)
S=1/15 (1/30)



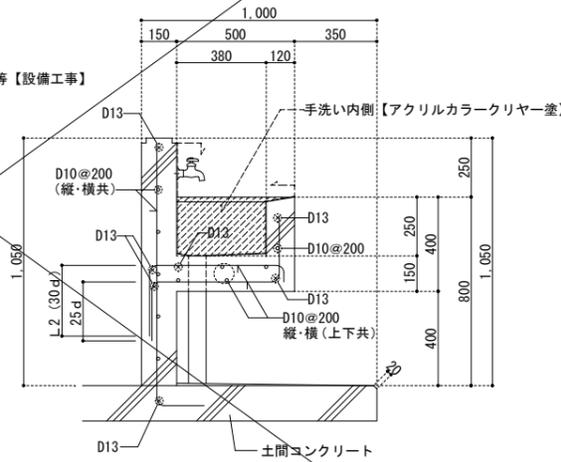
平面図 S=1/20 (1/40)



立面図 S=1/20 (1/40)

●コンクリート打放し仕上【床等：金ごて仕上】
 (FC=21/S=15)

●水柱・配管等【設備工事】



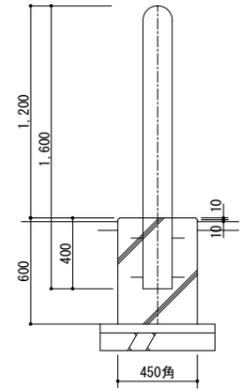
断面図 S=1/15 (1/30)

※内部
ガードポスト【シャッター出入口側】

8本

S=1/20 (1/40)

●仕様【参考】：帝金棒【スタンダードタイプ】※同等品以上



φ165.2
 帝金（固定式）(同等品)
 黄色焼付塗装
 コンクリート基礎（土間コンクリートと同じ）

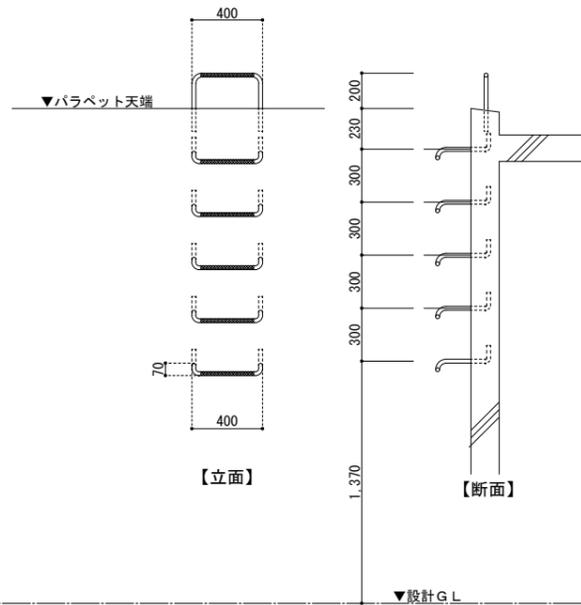
タラップ 【ポンプ室】

1ヶ所

S=1/20 (1/40)

●材質/規格：SUS304【φ22×400×300=6本】
 ●仕上：ピーリング/ローレット加工

●仕上：ピーリング/ローレット加工



【立面】

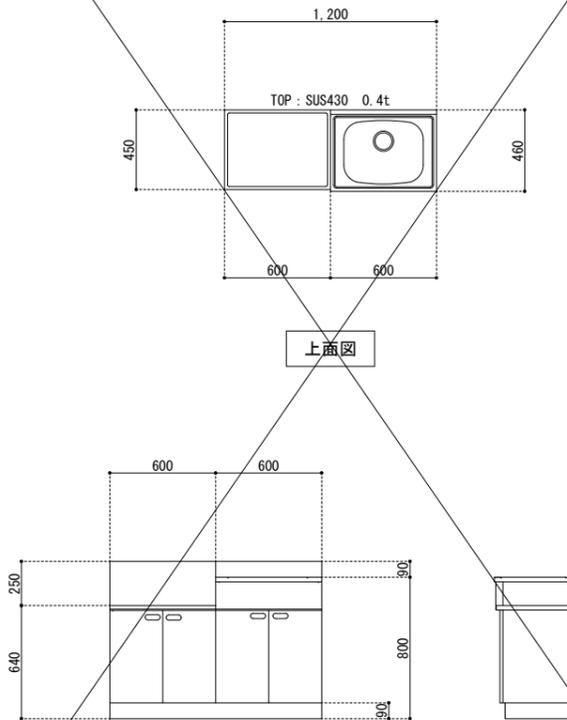
【断面】

流し台 【休憩室】

1台

S=1/20 (1/40)

●仕様【参考】：アエル流し台【公団型/SKS-1200】※同等品以上
 ●仕様【所要】：流し台/コンロ台
 ●コンロ台（背面）：バックガード付き
 ●その他附属品含む

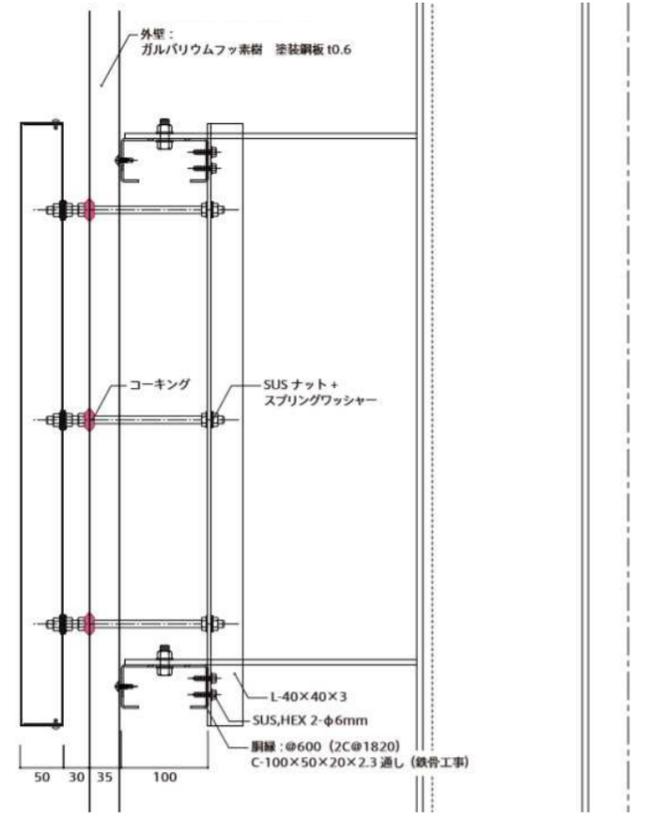
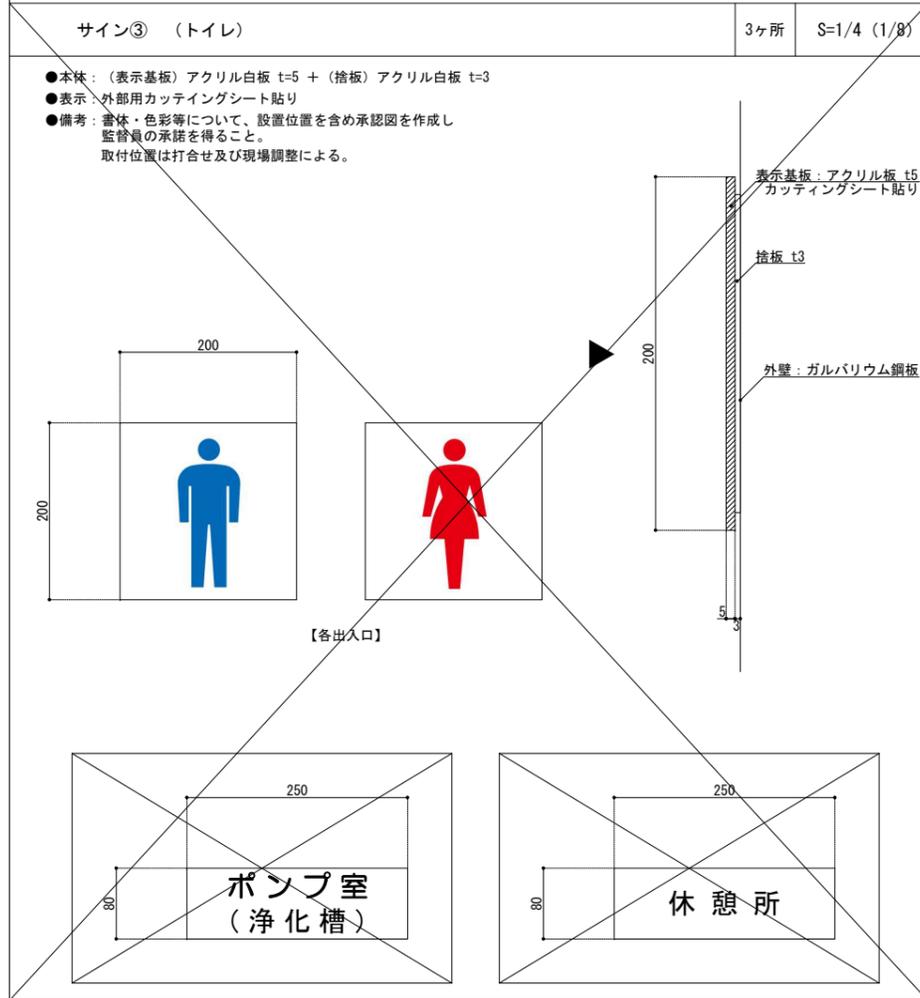
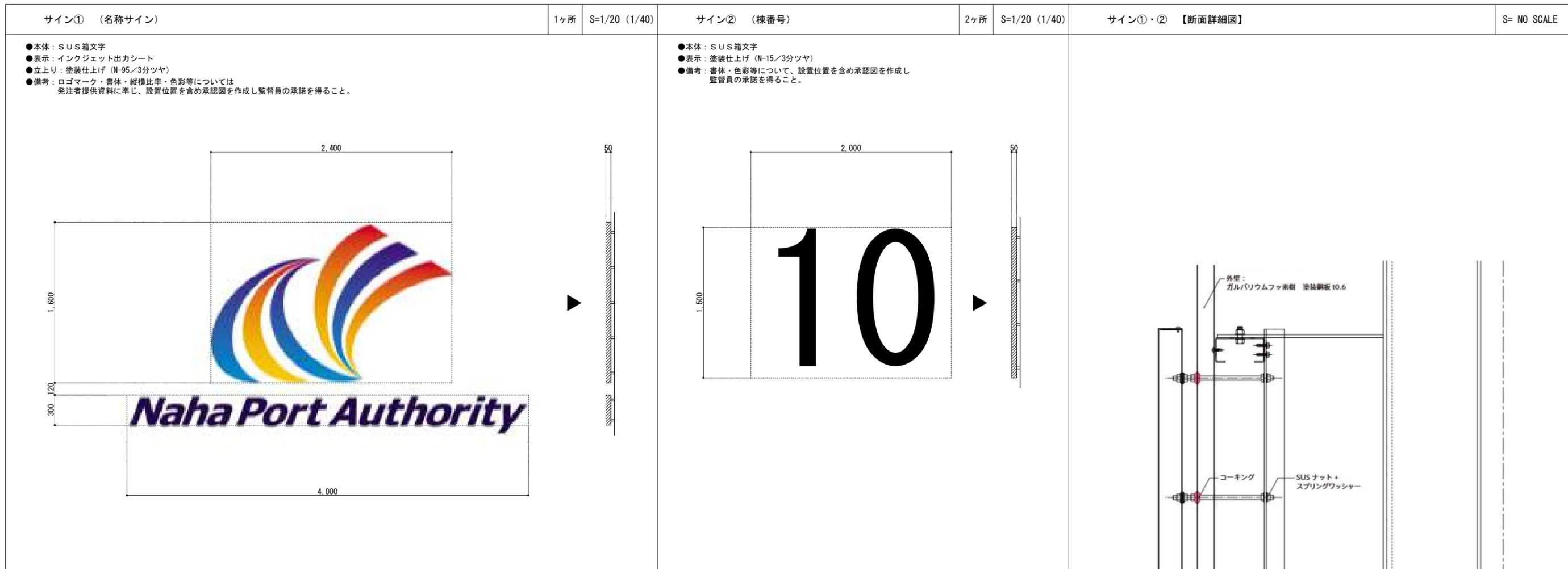


上面図

前面図

側面図

工事名称	(仮称)新港ふ頭10号上層建設工事(本体・建築)	工事年度	令和7年度
工事場所	那覇市港町1丁目204番地・205番地	図面名称	雑詳細図(1)
発注機関	那覇港管理組合 企画建設部 計画建設課	縮尺	A1:1/10(15)(20) A3:1/20(30)(40)
摘要	図面番号 A-36		
検印	管理建築士 設計 製図	設名	(株)アーキ5D
		計	資格者氏名 新里 均
		者	登録番号 一級建築士大臣登録第218581号
		所在地	沖縄県宜野湾市普天間2-47-16



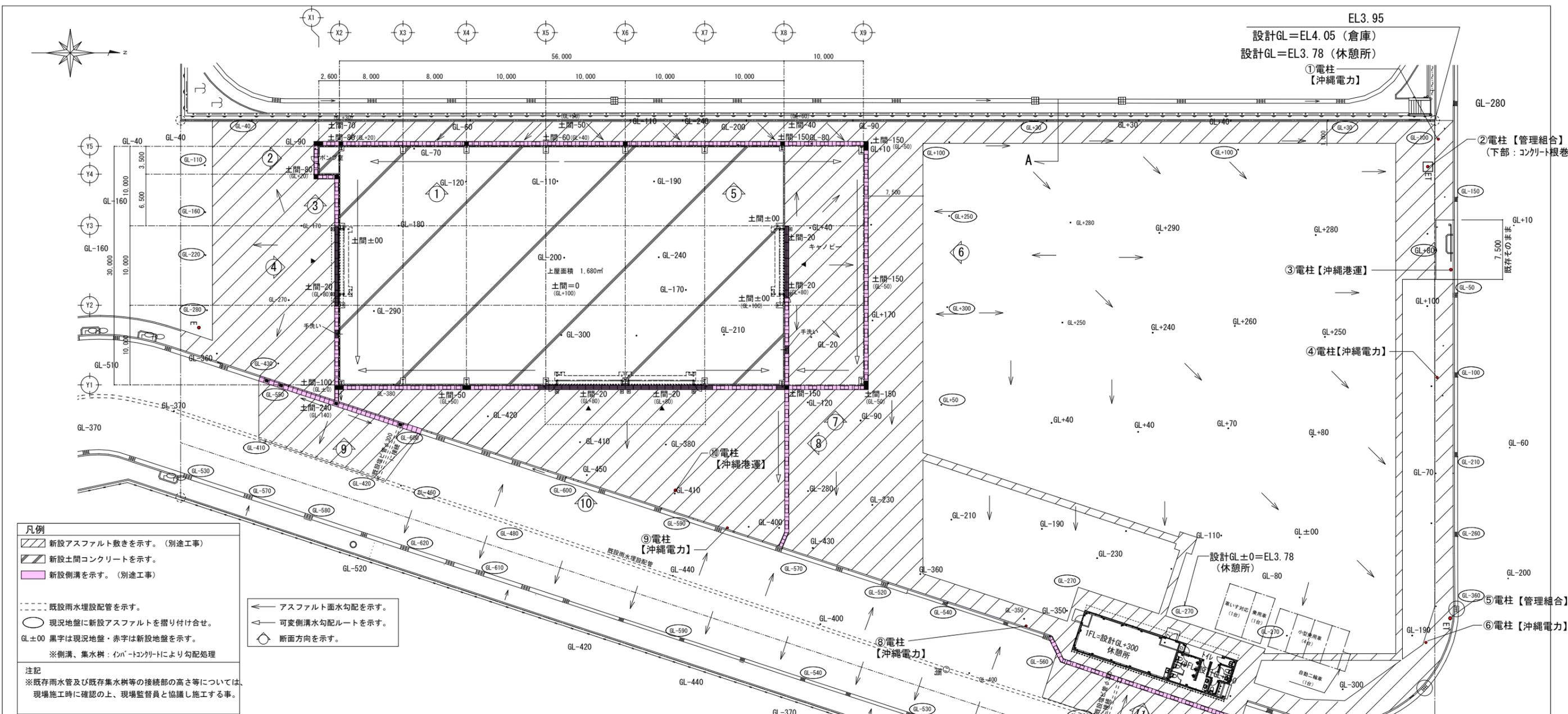
【側断面図】

共通：取付金物は防錆処理を行う事

工事名称	(仮称) 新港ふ頭10号上層建設工事 (本体・建築)	工事年度	令和7年度
工事場所	那覇市港町1丁目204番地・205番地	図面名称	雑詳細図 (2)
発注機関	那覇港管理組合 企画建設部 計画建設課	縮尺	A1:1/2 (20) A3:1/4 (40)
摘要	図面番号 A-37		
検印	管理建築士	設計	製図
	設 名 称 (株) アーキ5D		
	計 資格者氏名 新里 均		
	者 登録番号 一級建築士大臣登録第218581号		
所在地 沖縄県宜野湾市普天間2-47-16			



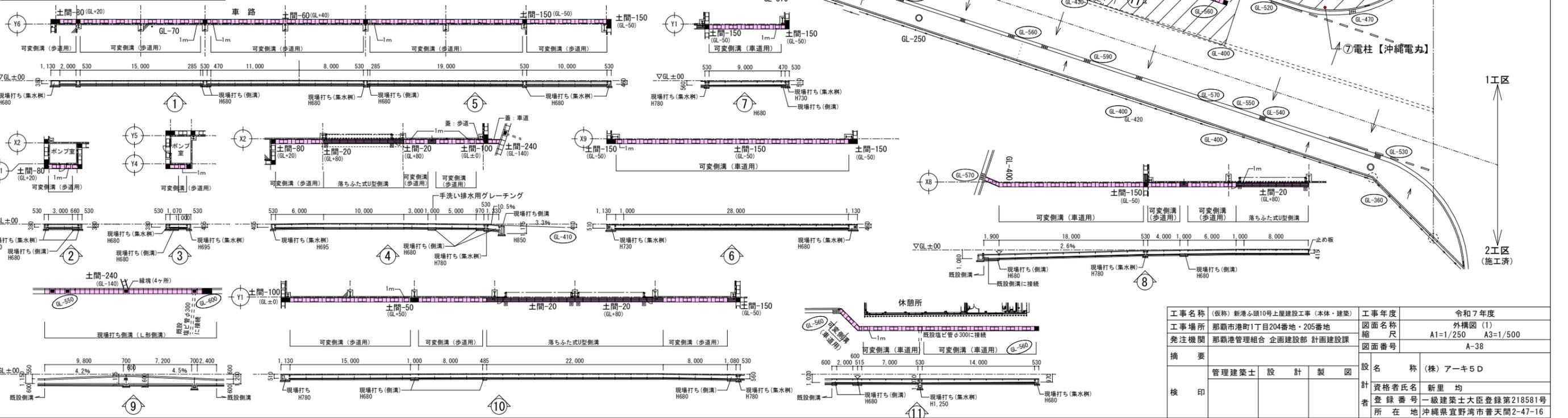
EL3.95
 設計GL=EL4.05 (倉庫)
 設計GL=EL3.78 (休憩所)



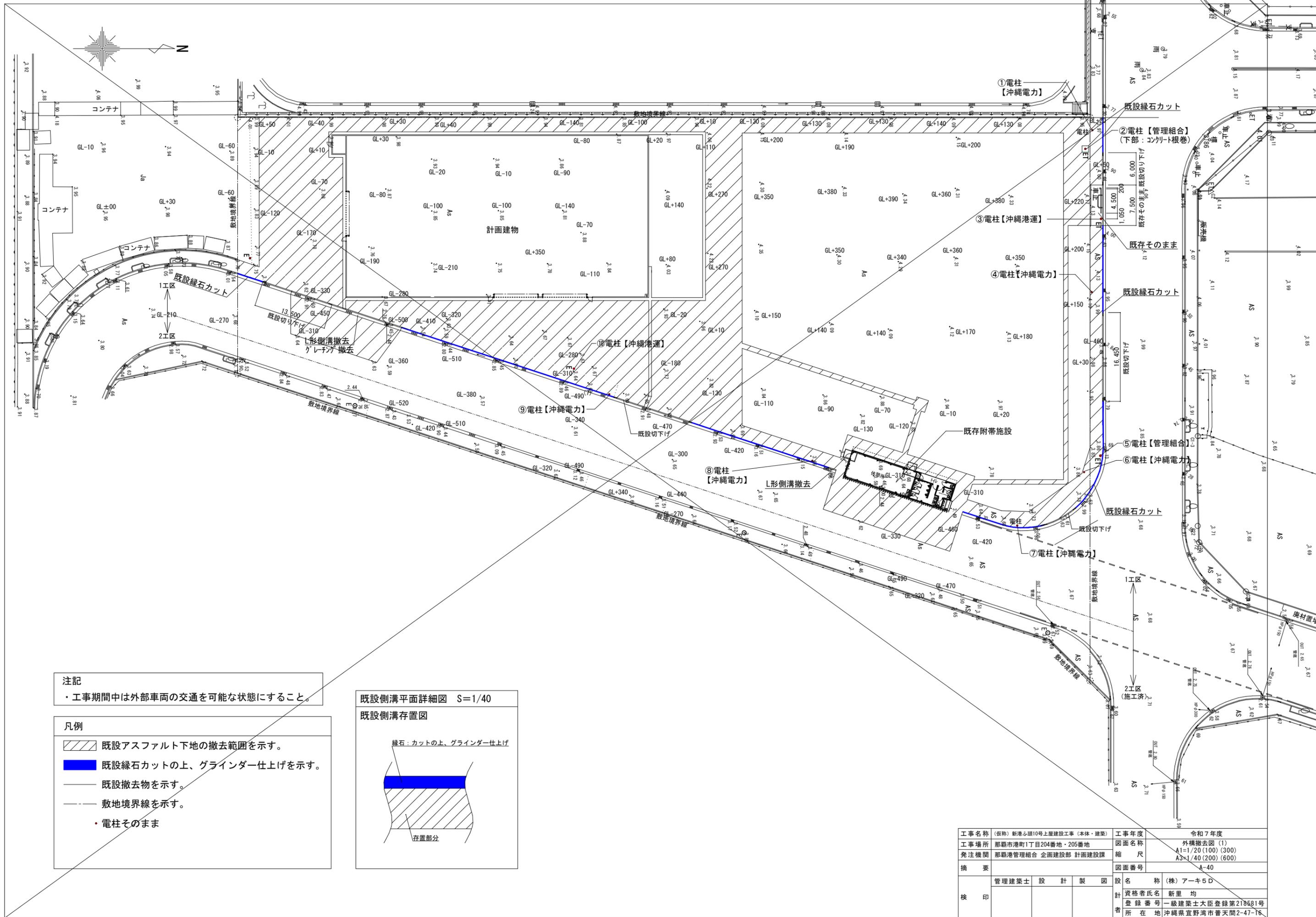
- 凡例**
- 新設アスファルト敷きを示す。(別途工事)
 - 新設土間コンクリートを示す。
 - 新設側溝を示す。(別途工事)
 - 既設雨水埋設配管を示す。
 - 現況地盤に新設アスファルトを張り付け合せ。
 - GL±00 黒字は現況地盤・赤字は新設地盤を示す。
 - ※側溝、集水溝：インバートコンクリートにより勾配処理

- アスファルト面勾配を示す。
- 可変側溝排水勾配ルートを示す。
- 断面方向を示す。

注記
 ※既存雨水管及び既存集水溝等の接続部の高さ等については、現場施工時に確認の上、現場監督員と協議し施工する事。



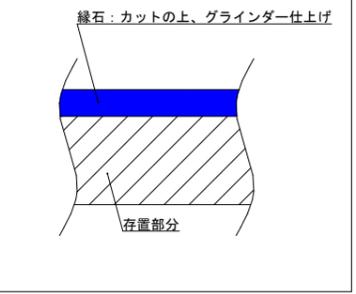
工事名称	(仮称) 新港ふ頭10号上屋建設工事(本体・建築)	工事年度	令和7年度	
	工事場所	那覇市港町1丁目204番地・205番地	図面名称	外構図(1)
発注機関	那覇港管理組合 企画建設部 計画建設課	縮尺	A1=1/250 A3=1/500	
概要	管理建築士 設計 製 図	図面番号	A-38	
		設 名 称	(株) アーキ5D	
検 印	資格者氏名	新里 均	所在地	沖縄県宜野湾市普天間2-47-16
	登録番号	一級建築士大臣登録第218581号		



注記
 ・ 工事期間中は外部車両の交通を可能な状態にすること。

- 凡例**
- 既設アスファルト下地の撤去範囲を示す。
 - 既設縁石カットの上、グラインダー仕上げを示す。
 - 既設撤去物を示す。
 - 敷地境界線を示す。
 - ・ 電柱そのまま

既設側溝平面詳細図 S=1/40
 既設側溝存置図



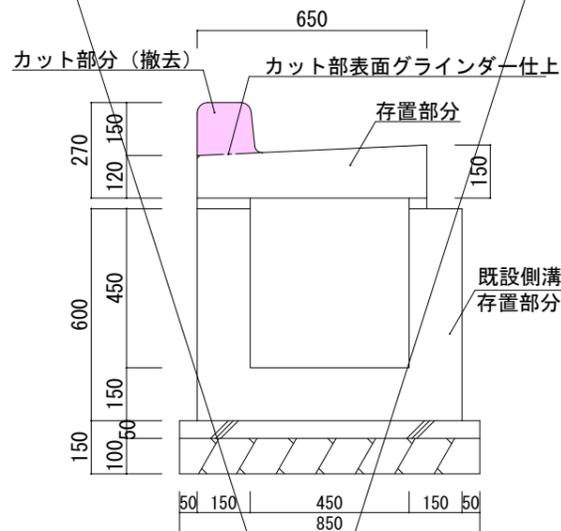
工事名称	(仮称) 新港心頭10号上層建設工事 (本体・建築)	工事年度	令和7年度
工事場所	那覇市港町1丁目204番地・205番地	図面名称	外構撤去図 (1)
発注機関	那覇港管理組合 企画建設部 計画建設課	縮尺	A1=1/20 (100) (300) A3=1/40 (200) (600)
摘要		図面番号	A-40
検印	管理建築士 設計 製 図	設 名 称	(株) アーキ5D
		資格者氏名	新里 均
		登録番号	一級建築士大臣登録第218681号
		所在地	沖縄県宜野湾市普天間2-47-16

カット部表面グラインダー仕上



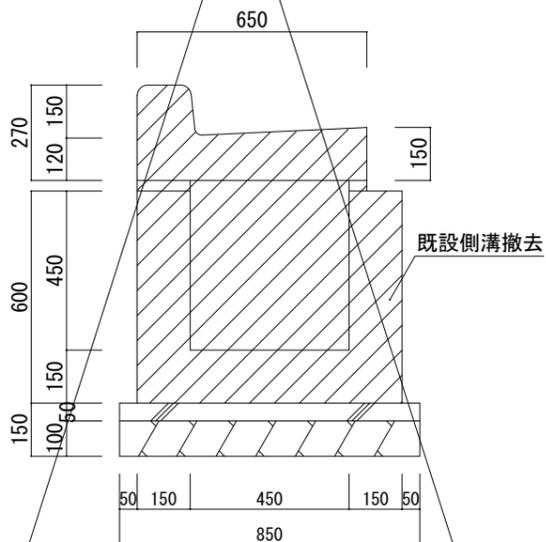
存置部分

既設L形側溝平面図 S=1/10



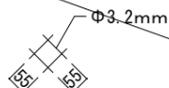
注記：カット・グラインダー仕上げになります。
カット部以外はそのまま残す。

既設L形側溝詳細図 S=1/10



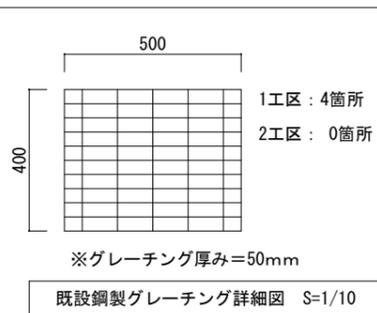
既設L形側溝詳細図 S=1/10

キャップ付き



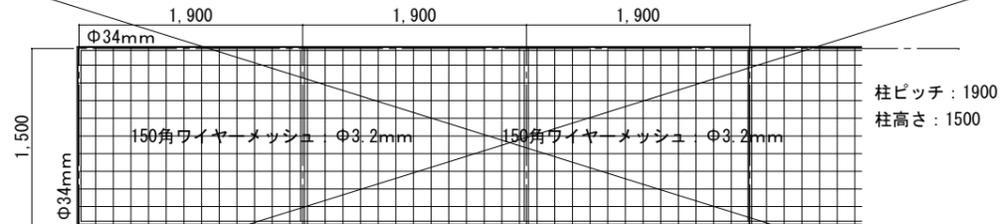
菱形金網詳細図 S=1/10

外忍び、内忍び詳細図 S=1/10

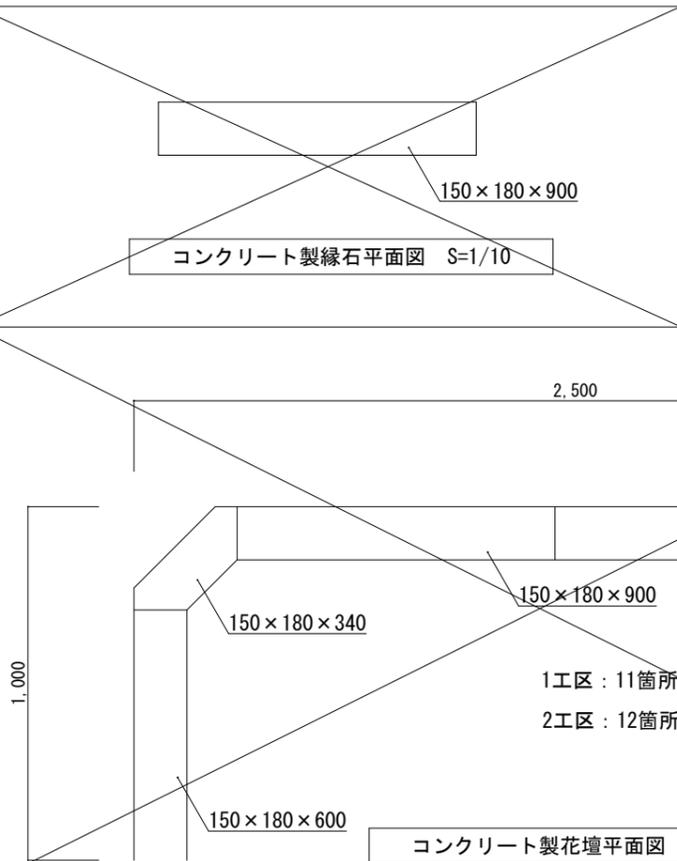


既設鋼製グレーチング詳細図 S=1/10

既設鋼製フェンス (2) 詳細図 S=1/30

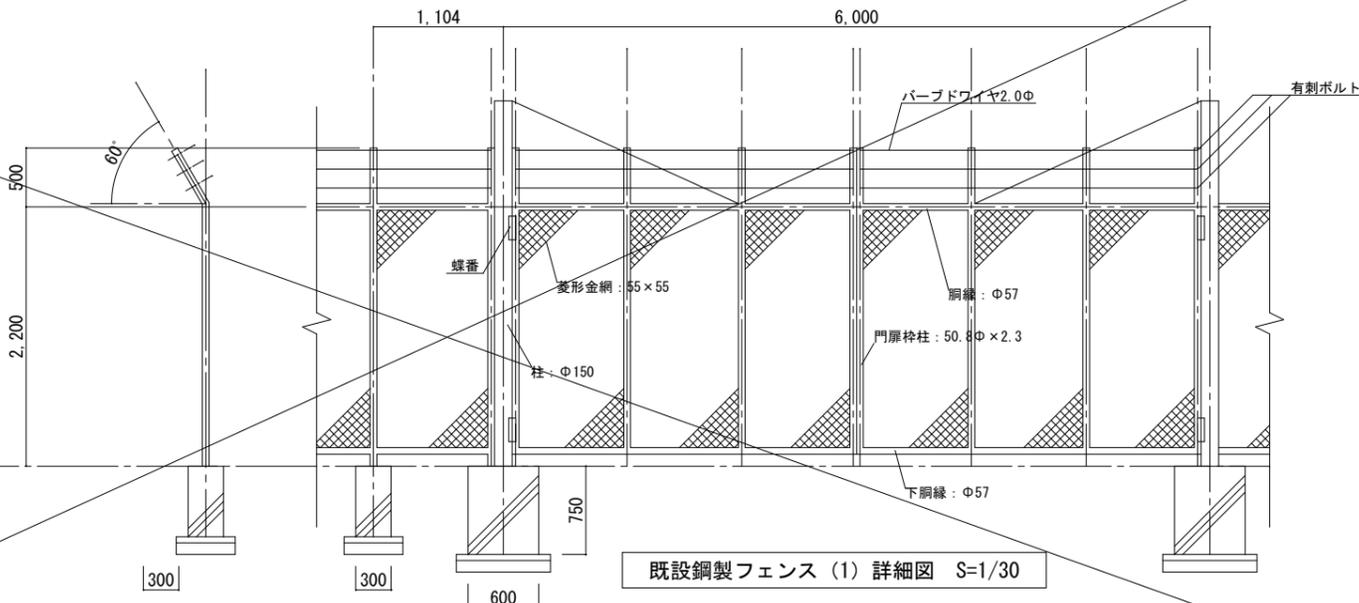


コンクリート製縁石平面図 S=1/10



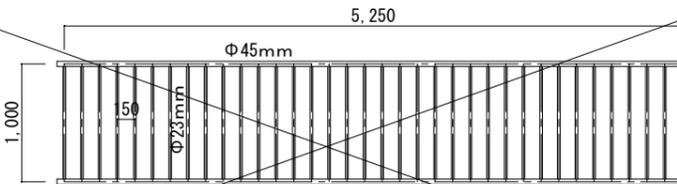
コンクリート製花壇平面図 S=1/10

1工区：11箇所(1)～(11)
2工区：12箇所(1)～(12)

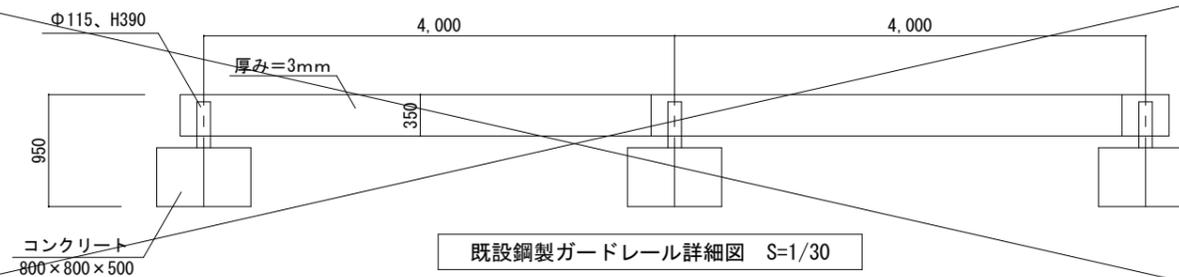


既設鋼製フェンス (1) 詳細図 S=1/30

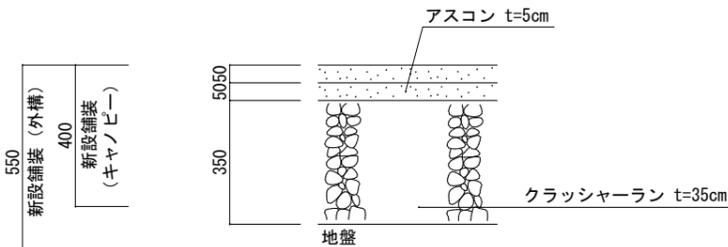
既設鋼製手摺格子詳細図 S=1/30



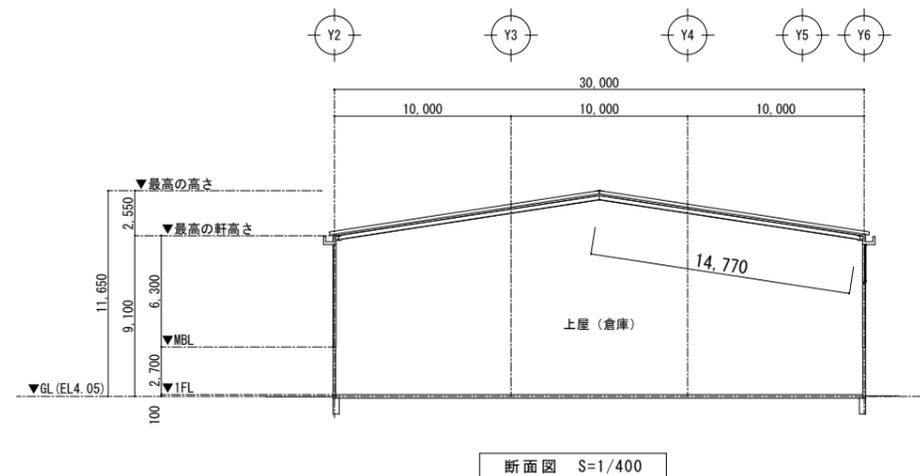
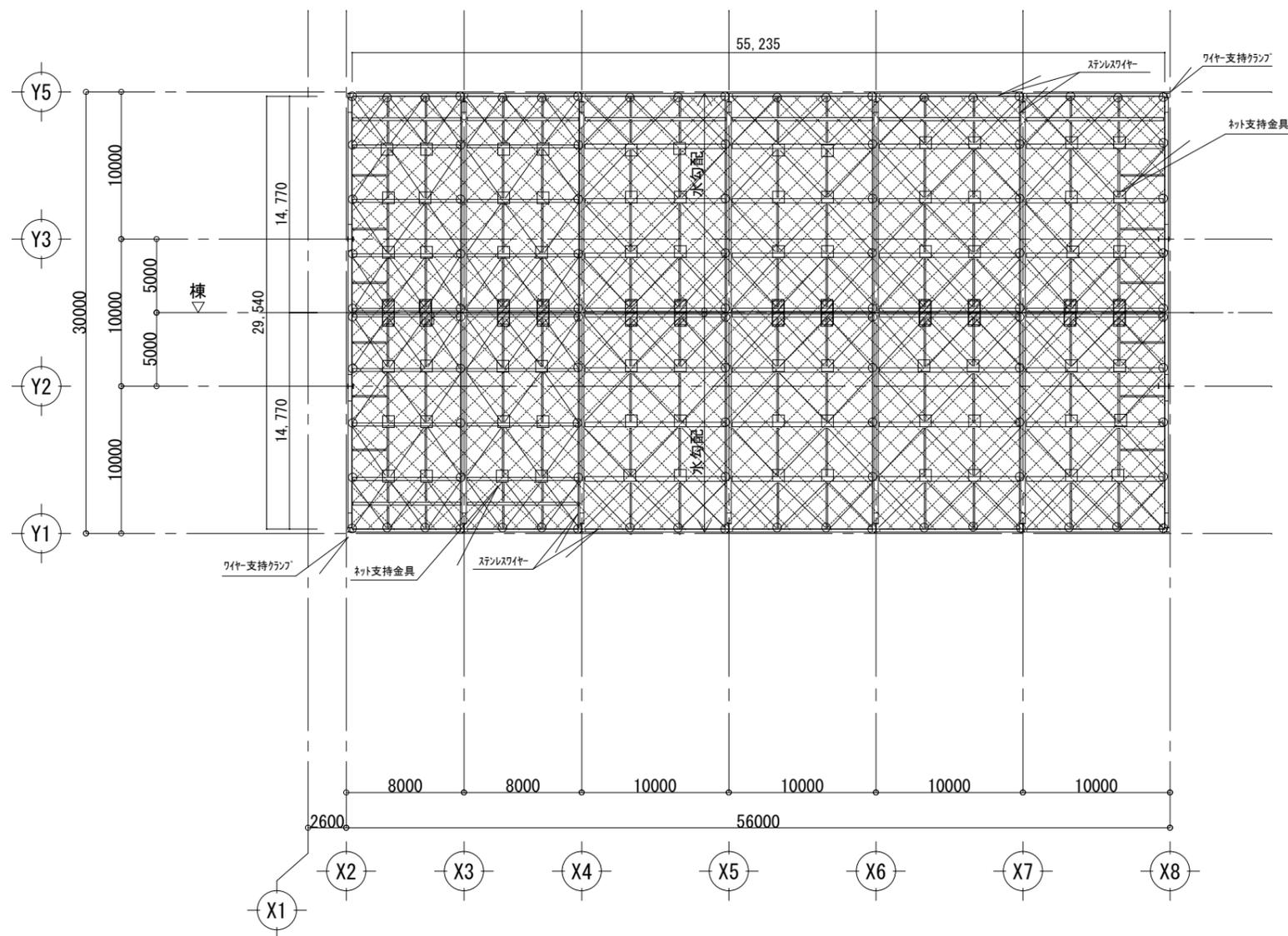
既設鋼製ガードレール詳細図 S=1/30



既設アスファルト詳細図 S=1/10



工事名称	(仮称) 新港ふ頭10号上屋建設工事 (本体・建築)	工事年度	令和7年度
工事場所	那覇市港町1丁目204番地・205番地	図面名称	外構撤去図 (2)
発注機関	那覇港管理組合 企画建設部 計画建設課	縮尺	A1:1/10(30) A3:1/20(60)
摘要		図面番号	A-41
検印	管理建築士 設計 製 図	設 名 称	(株) アーキ5D
		資格者氏名	新里 均
		登録番号	一級建築士大臣登録第218581号
		所在地	沖縄県宜野湾市普天間2-47-16



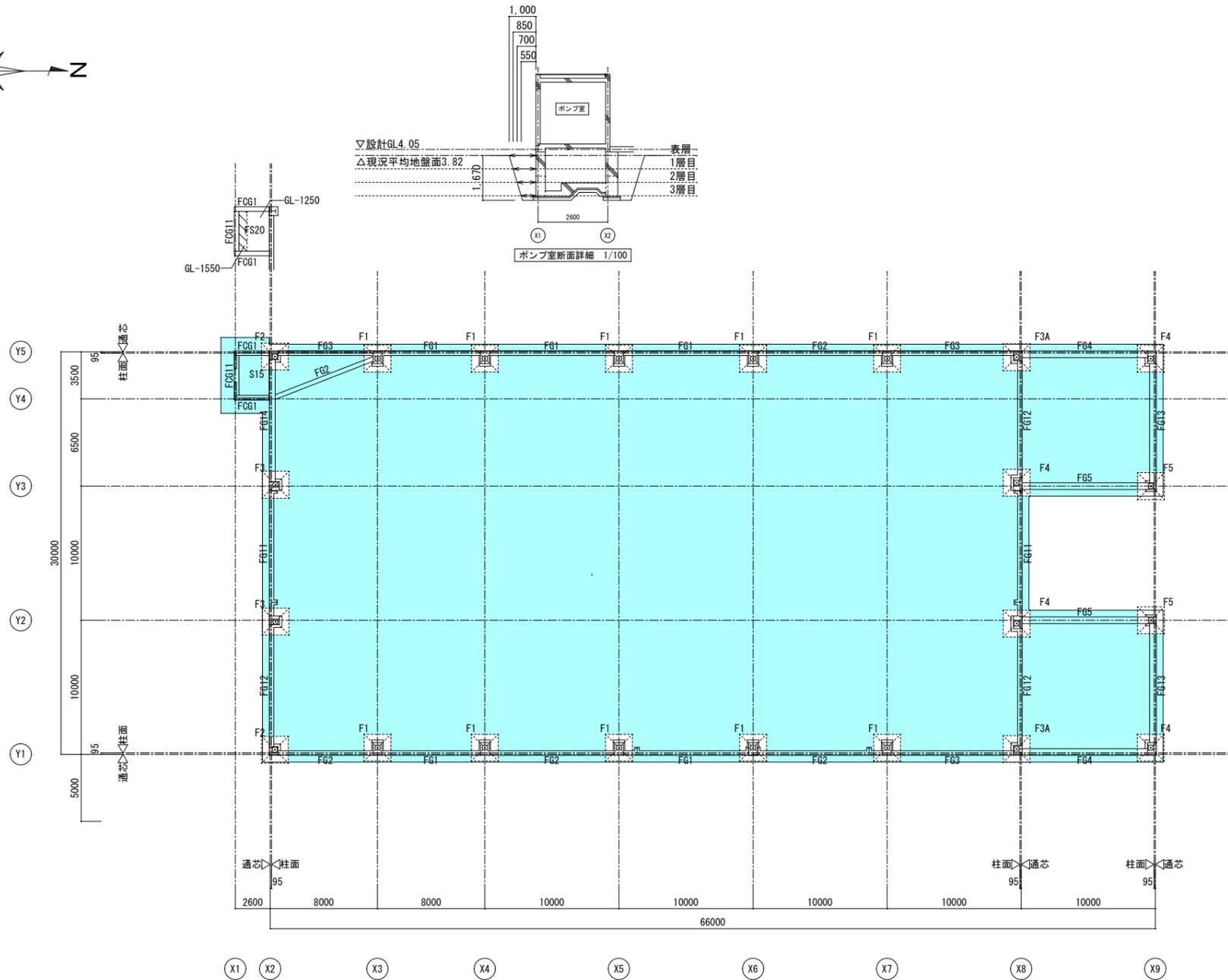
防鳥ネット伏図 S=1/400

-  : 防鳥ネット
1,631.64m²
-  : ステンレスワイヤ-6mm
317.2m
-  : ワイヤ支持クランプ
94個
-  : ネット支持金具
96個

【天井：防鳥ネット】	
防鳥ネット防炎440T/40本/37.5mm目	
ワイヤー	ステンレス6mm
金物	ネット支持金具 ワイヤ支持金具クランプ

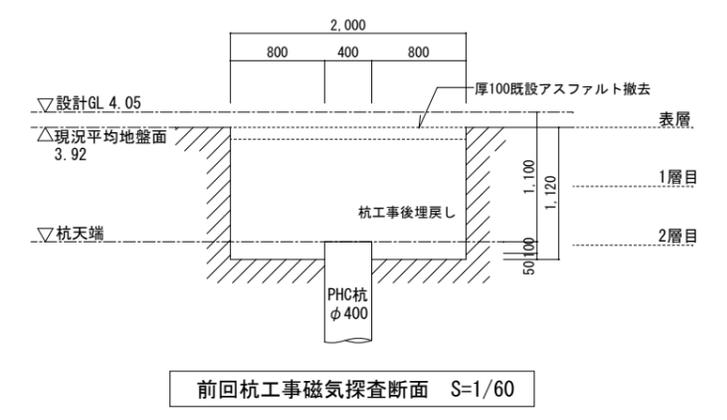
※ヤマトネット株式会社【ライトガード】●同等品以上

工事名称	(仮称)新港ふ頭10号上屋建設工事(本体・建築)	工事年度	令和7年度
工事場所	那覇市港町1丁目204番地・205番地	図面名称	防鳥ネット伏図
発注機関	那覇港管理組合 企画建設部 計画建設課	縮尺	A1:S=1/200 A3:S=1/400
摘要	図面番号 A-42		
検印	管理建築士	設計	製図
	設 名 称 (株)アーキ5D		
	計 資格者氏名 新里 均		
	者 登録番号 一級建築士大臣登録第218581号		
			所在地 沖縄県宜野湾市普天間2-47-16

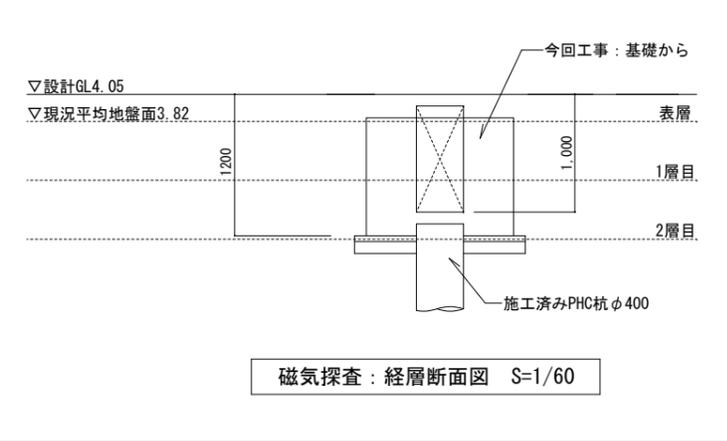


基礎伏図

表層探査面積合計 1,937.54 m²



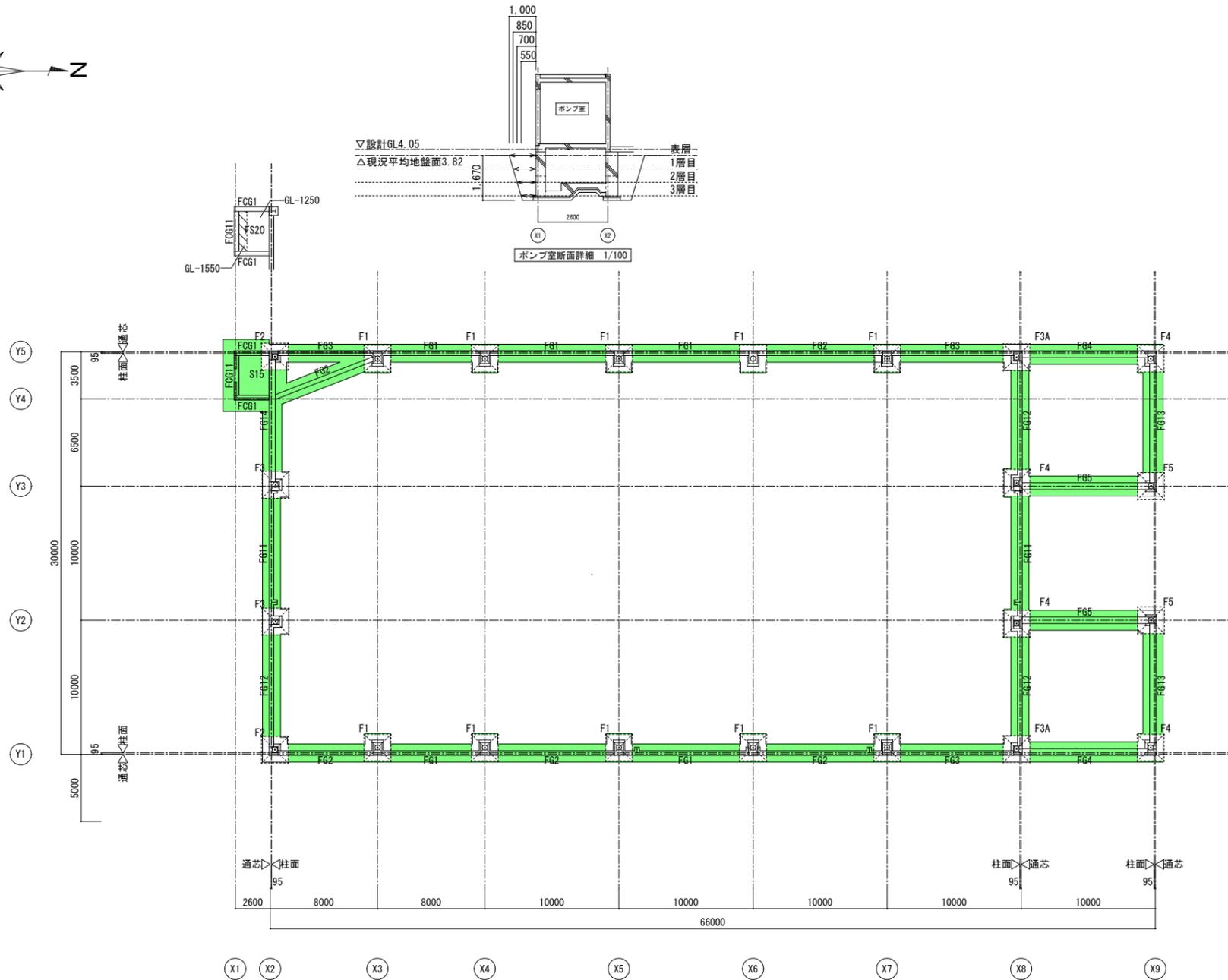
前回杭工事磁気探査断面 S=1/60



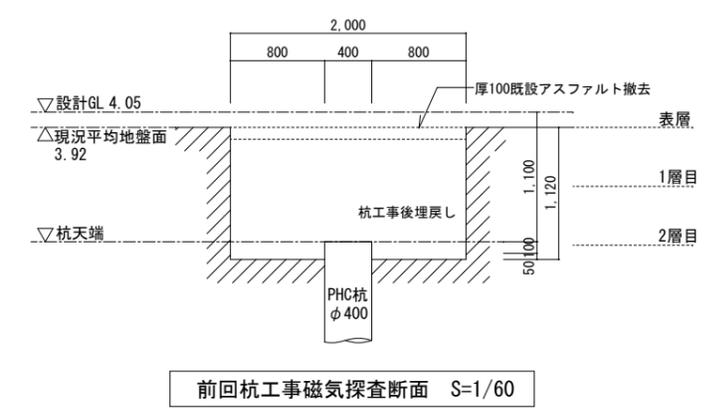
磁気探査：経層断面図 S=1/60

□ 前回杭工事磁気探査済 (2.00×2.00)

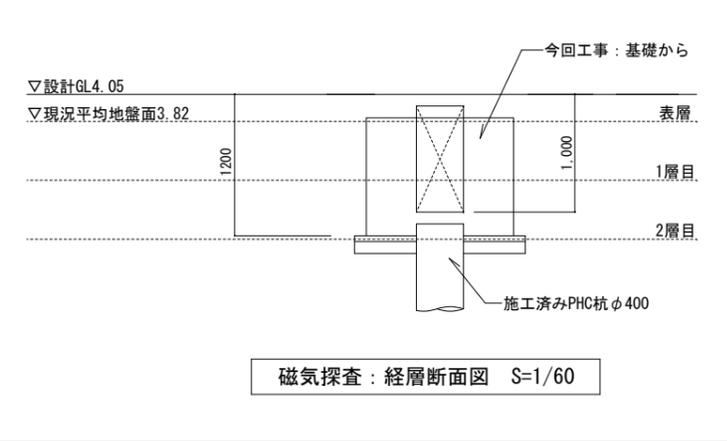
工事名称	(仮称)新港ふ頭10号上層建設工事(本体・建築)	工事年度	令和7年度
工事場所	那覇市港町1丁目204番地・205番地	図面名称	磁気探査(表層)
発注機関	那覇港管理組合 企画建設部 計画建設課	縮尺	A1:S=1/200 A3:S=1/400
摘要	図面番号 A-43		
検印	管理建築士	設計	製図
	設計	製図	設名 称 (株)アーキ5D
	製図	製図	計 資格者氏名 新里 均
			登 録 番 号 一級建築士大臣登録第218581号
			所 在 地 沖縄県宜野湾市普天間2-47-16



基礎伏図



前回杭工事磁気探査断面 S=1/60

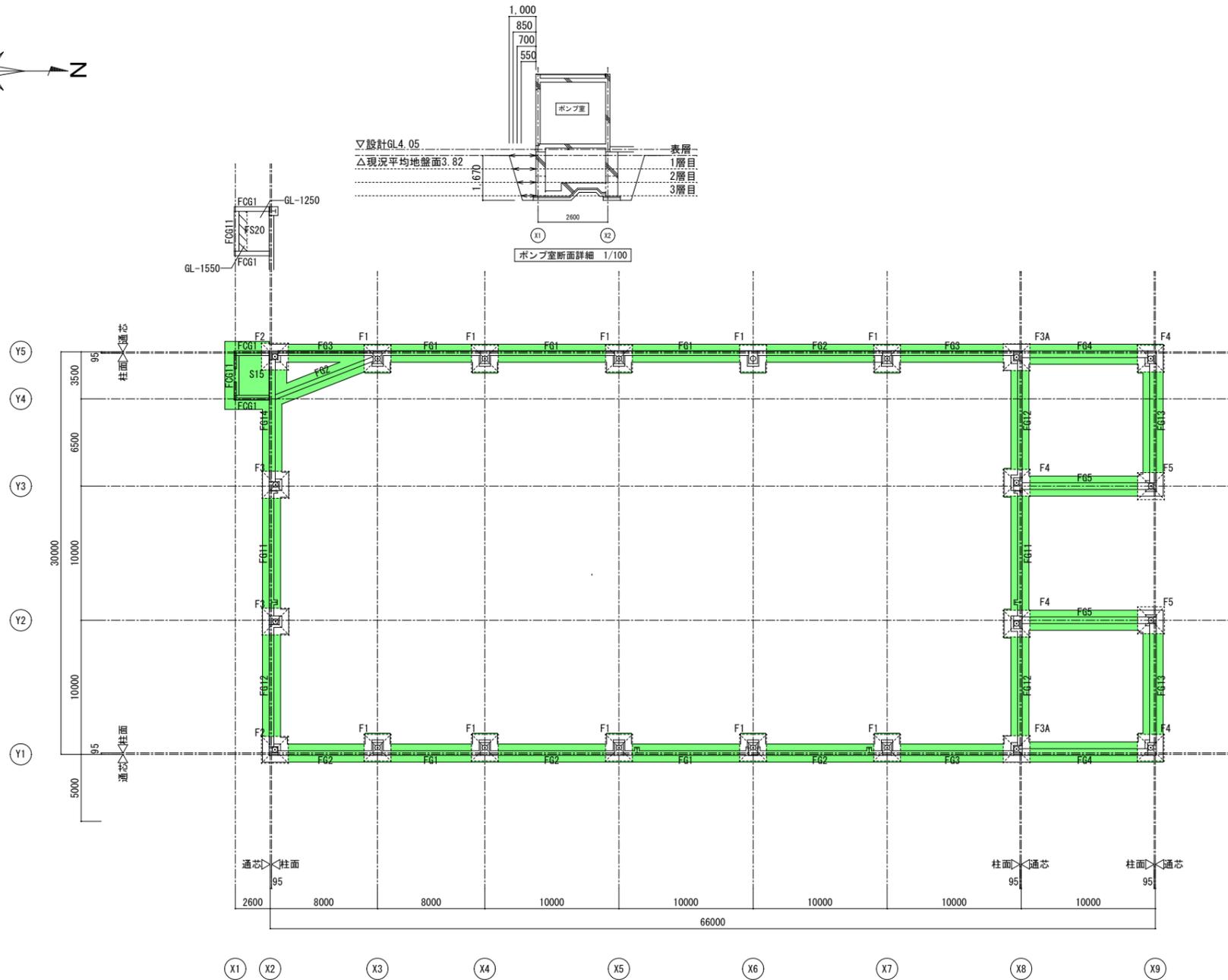


磁気探査：経層断面図 S=1/60

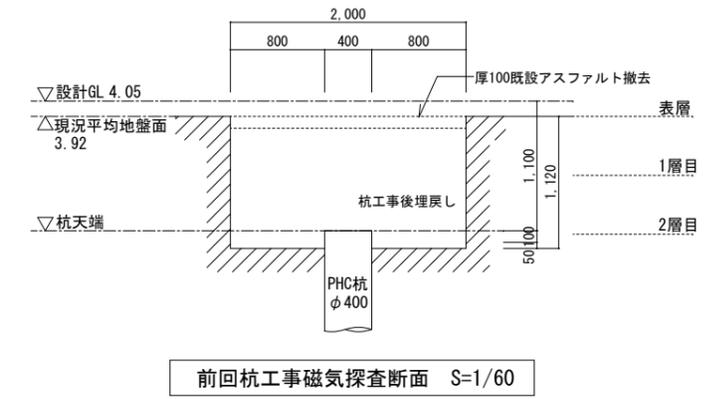
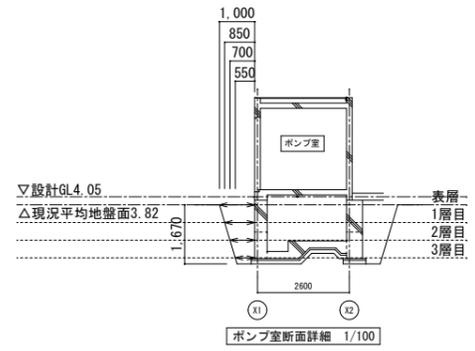
□ 前回杭工事磁気探査済 (2.00×2.00)

経層探査面積合計 275.78 m²

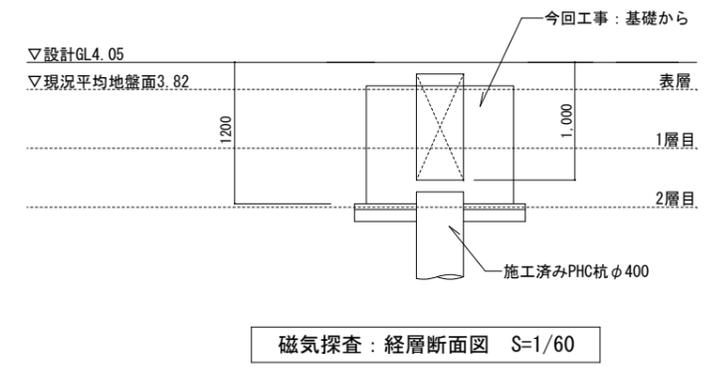
工事名称	(仮称)新港ふ頭10号上層建設工事(本体・建築)	工事年度	令和7年度
工事場所	那覇市港町1丁目204番地・205番地	図面名称	磁気探査図(1層目経層)
発注機関	那覇港管理組合 企画建設部 計画建設課	縮尺	A1:S=1/200 A3:S=1/400
摘要	図面番号 A-44		
検印	管理建築士	設計	製図
	設計	製図	設計
	資格者氏名	新里 均	
	登録番号	一級建築士大臣登録第218581号	
所在地	沖縄県宜野湾市普天間2-47-16		



基礎伏図



前回杭工事磁気探査断面 S=1/60

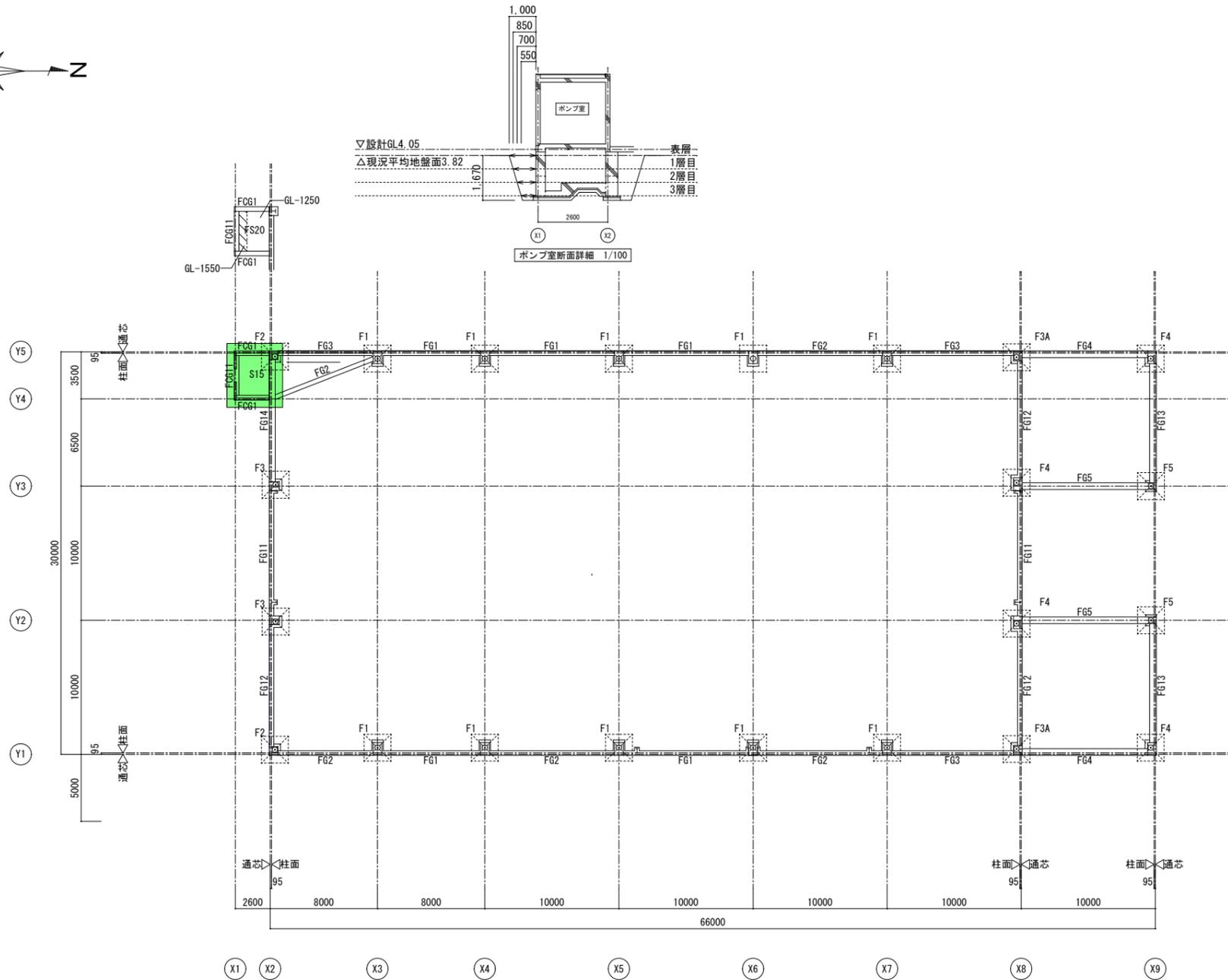


磁気探査：経層断面図 S=1/60

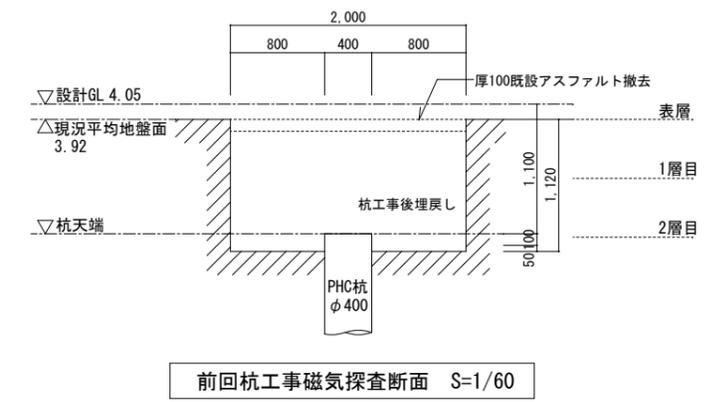
前回杭工事磁気探査済
(2.00×2.00)

経層探査面積合計 274.06 m²

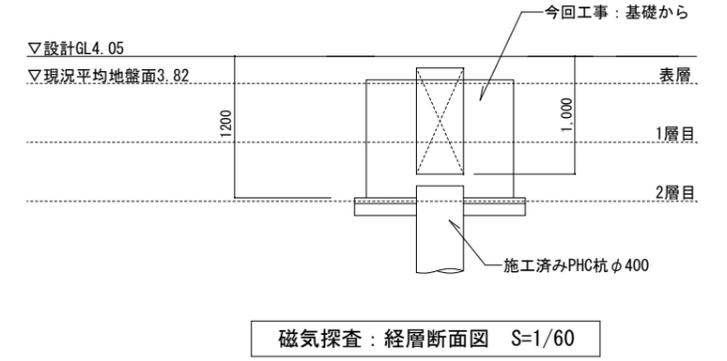
工事名称	(仮称)新港ふ頭10号上層建設工事(本体・建築)	工事年度	令和7年度
工事場所	那覇市港町1丁目204番地・205番地	図面名称	磁気探査図(2層目経層)
発注機関	那覇港管理組合 企画建設部 計画建設課	縮尺	A1:S=1/200 A3:S=1/400
摘要		図面番号	A-45
検印	管理建築士 設計 製図	設計者	(株)アーキ5D
		資格者氏名	新里均
		登録番号	一級建築士大臣登録第218581号
		所在地	沖縄県宜野湾市普天間2-47-16



基礎伏図



前回杭工事磁気探査断面 S=1/60

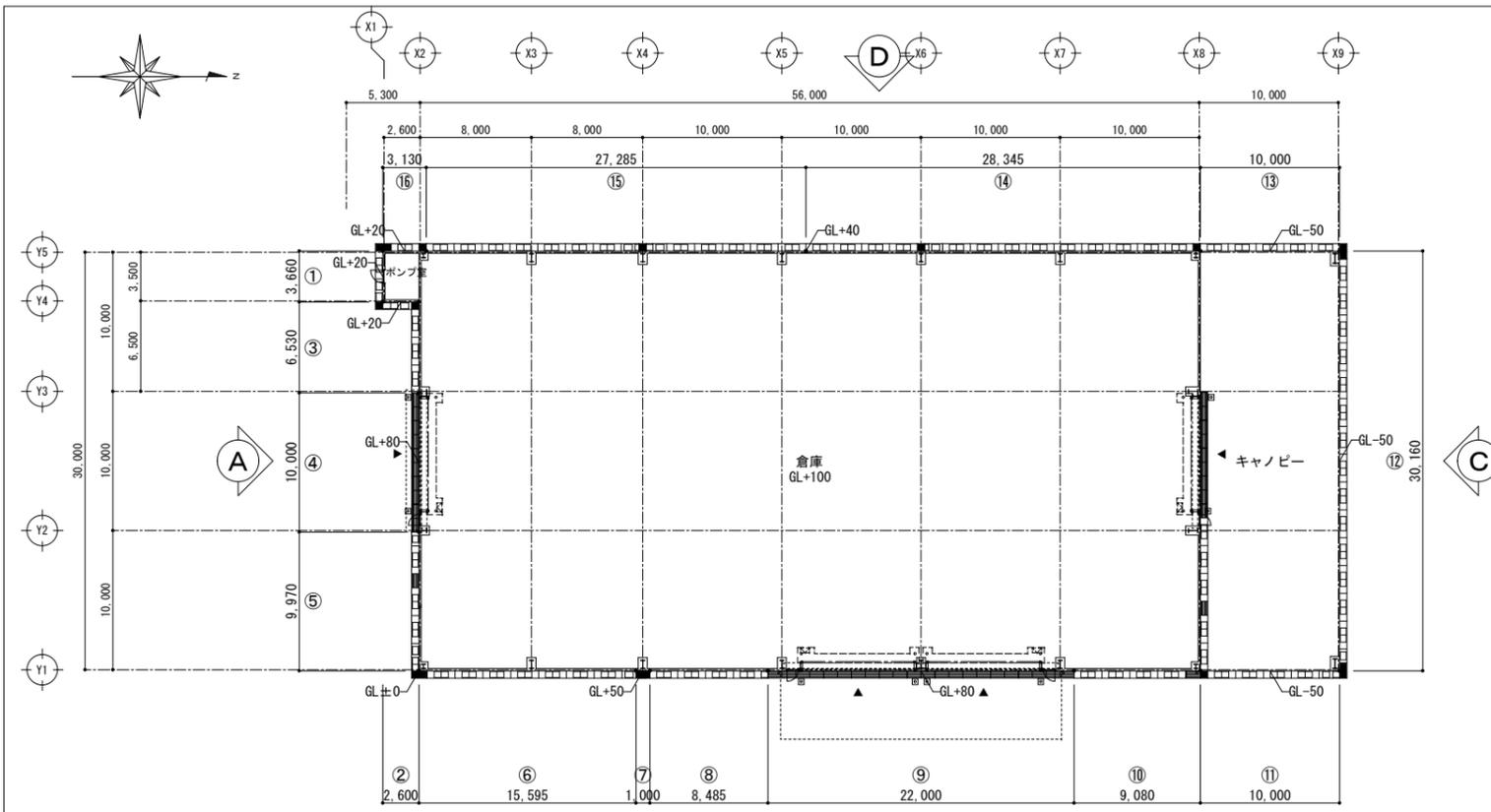


磁気探査：経層断面図 S=1/60

□ 前回杭工事磁気探査済 (2.00×2.00)

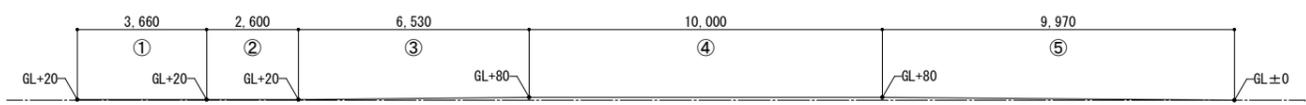
経層探査面積合計 19.75 m²

工事名称	(仮称)新港ふ頭10号上層建設工事(本体・建築)	工事年度	令和7年度
工事場所	那覇市港町1丁目204番地・205番地	図面名称	磁気探査図(3層目経層)
発注機関	那覇港管理組合 企画建設部 計画建設課	縮尺	A1:S=1/200 A3:S=1/400
摘要	図面番号 A-46		
検印	管理建築士	設計	製図
	設計	製図	製図
	製図	製図	製図
設計者	(株)アーキ5D		
資格者氏名	新里 均		
登録番号	一級建築士大臣登録第218581号		
所在地	沖縄県宜野湾市普天間2-47-16		



記号	長さ (m)	高さ (m)	高さ (m)	面積 (㎡)	
①	3.660	0.02	0.02	0.073200	
②	2.600	0.02	0.02	0.052000	
③	6.530	0.02	0.08	0.326500	
④	10.0000	0.08	0.08	0.800000	
⑤	9.970	0.08	0.00	0.398800	
⑥	15.595	0.00	0.05	0.389875	
⑦	1.000	0.05	0.05	0.050000	
⑧	8.485	0.05	0.08	0.551525	
⑨	22.000	0.08	0.08	1.760000	
⑩	9.080	0.08	-0.05	0.136200	
⑪	10.000	-0.05	-0.05	-0.500000	
⑫	30.160	-0.05	-0.05	-1.508000	
⑬	10.000	-0.05	-0.05	-0.500000	
⑭	28.345	-0.05	0.04	-0.141725	
⑮	27.285	0.04	0.02	0.818550	
⑯	3.130	0.02	0.02	0.062600	
合計	197.840			2.769525	
算定式	2.769525	÷	197.840	=	0.01399881217
平均地盤面		=	0.014		

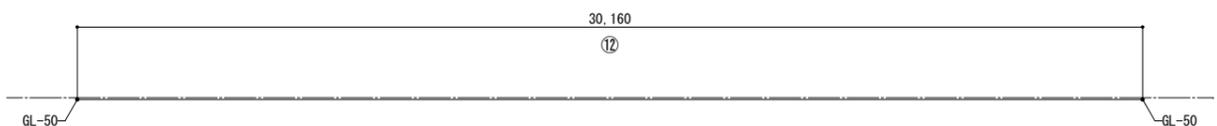
平面図 S=1/250



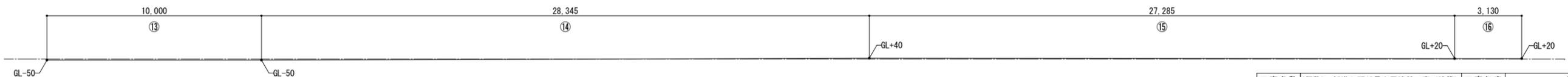
平均地盤算出図 S=1/100



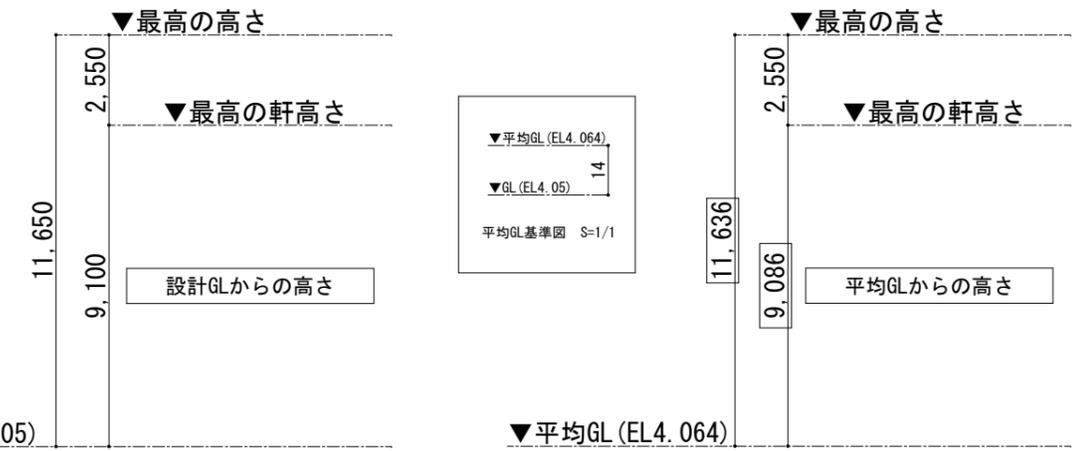
平均地盤算出図 S=1/100



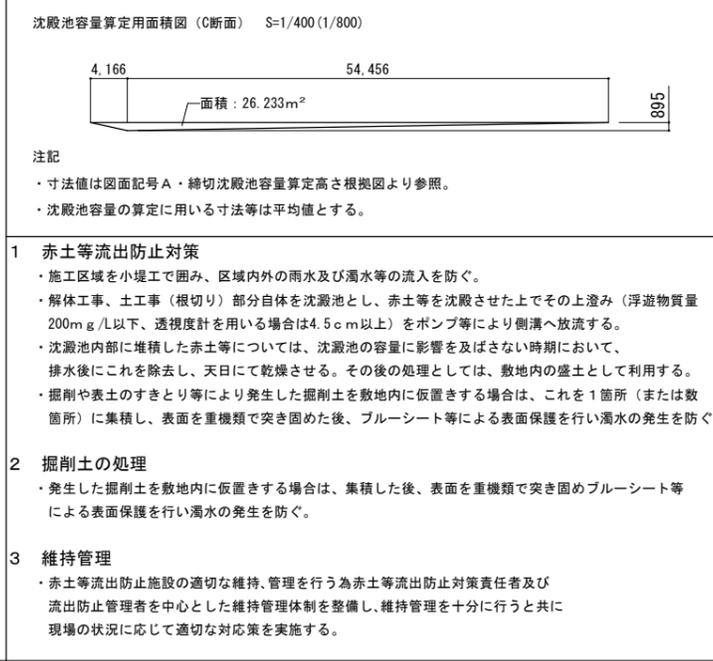
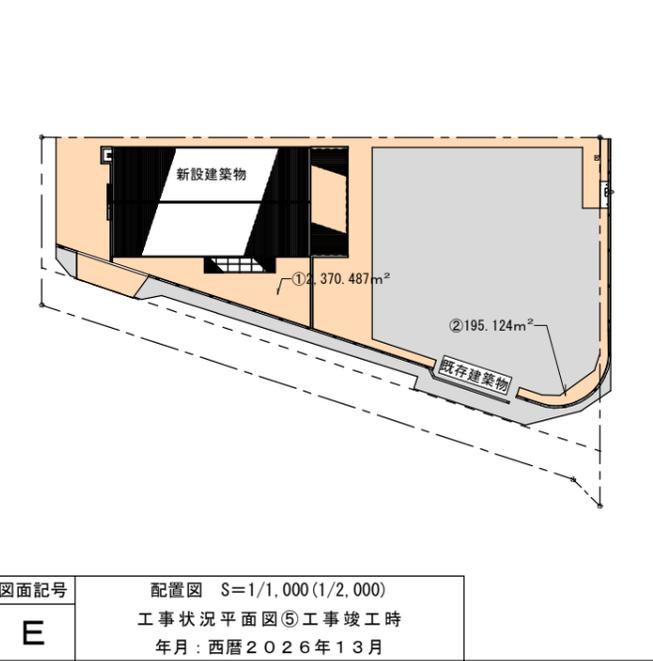
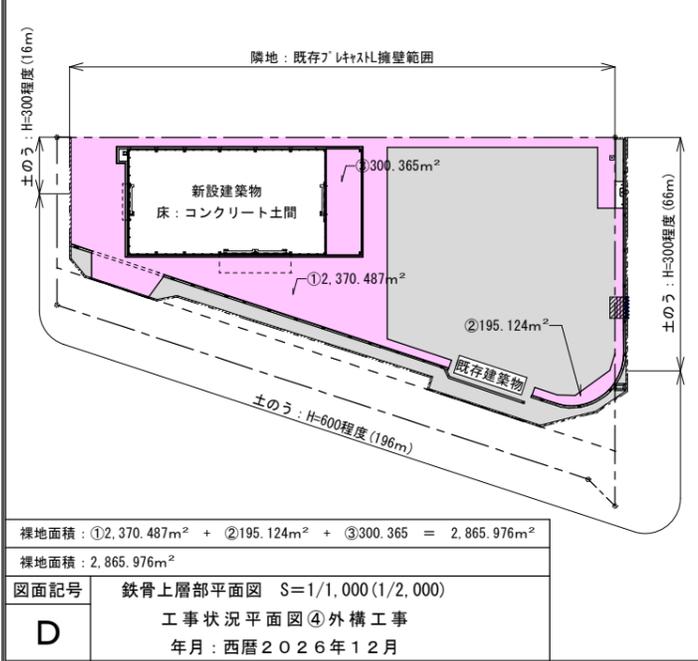
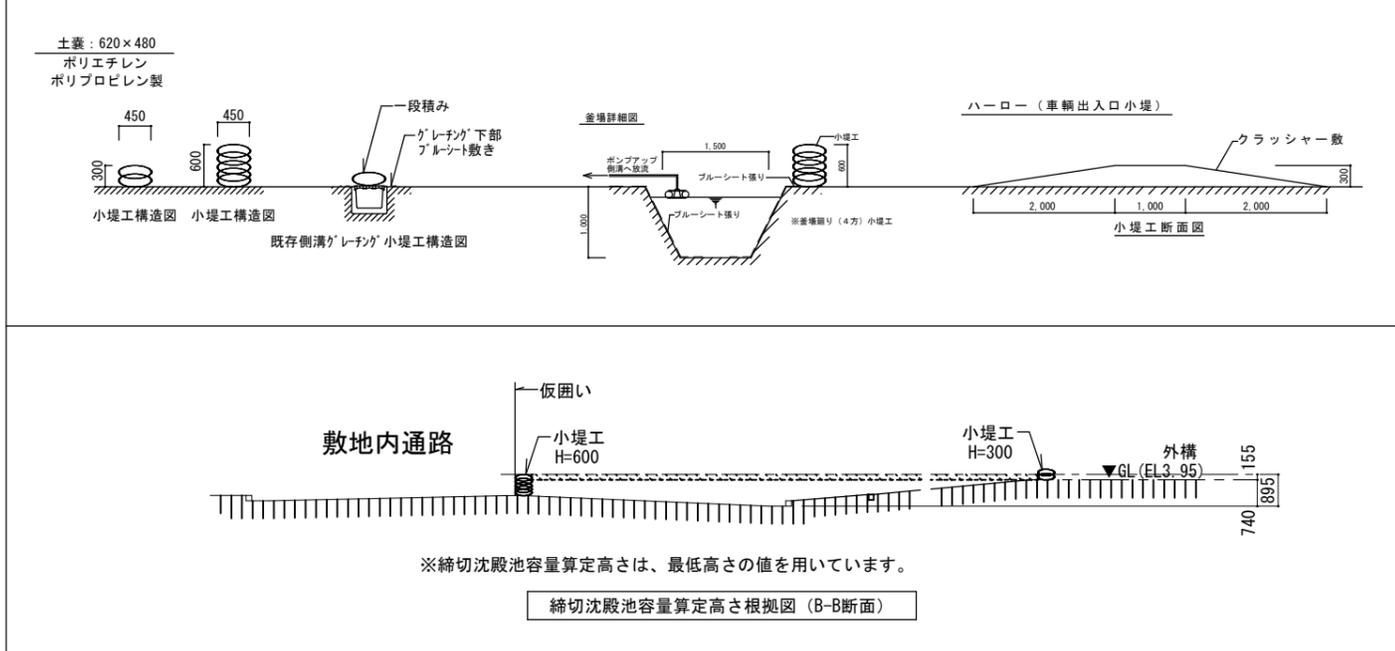
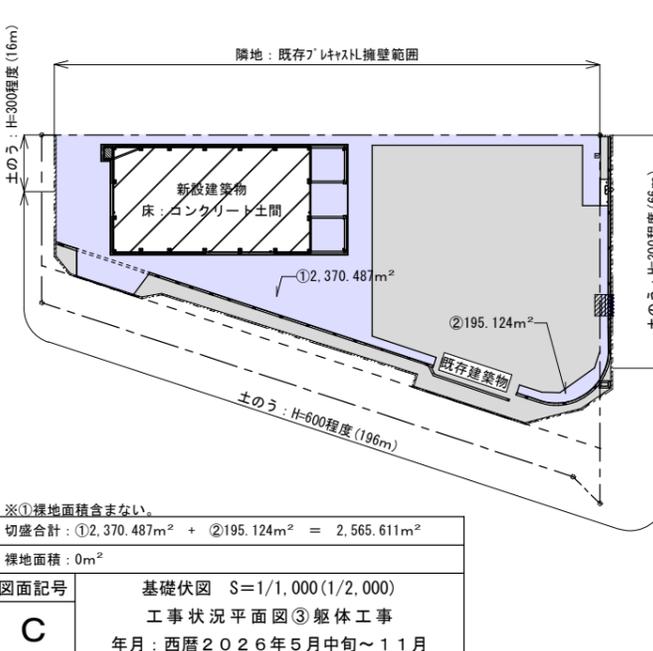
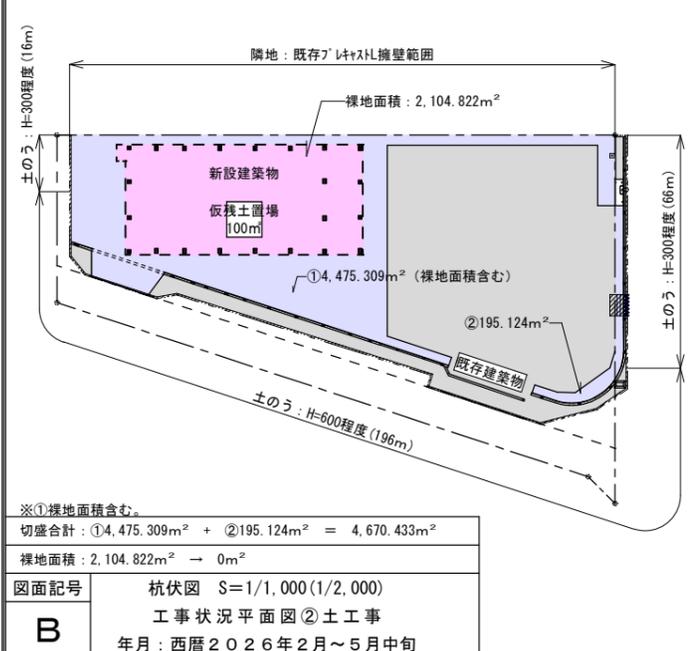
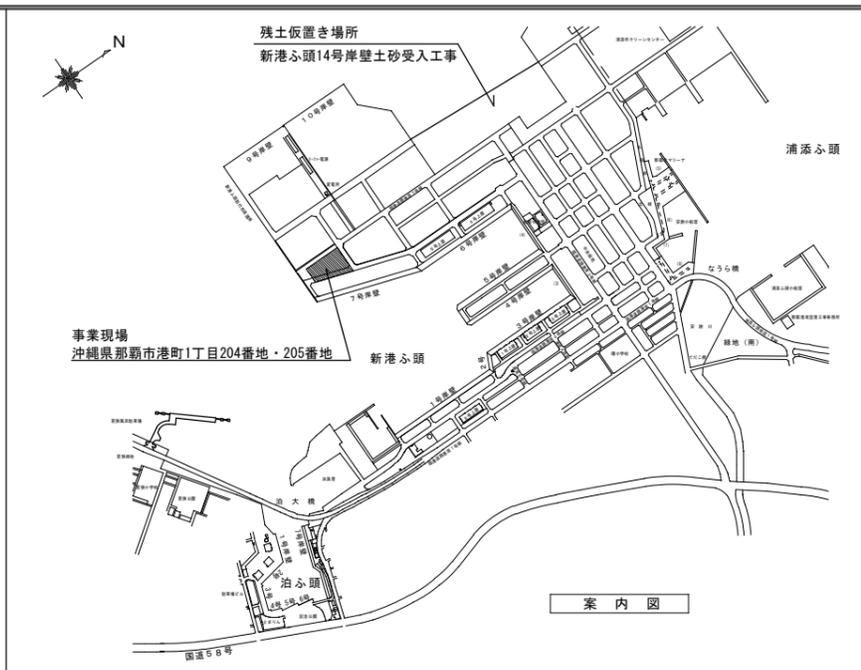
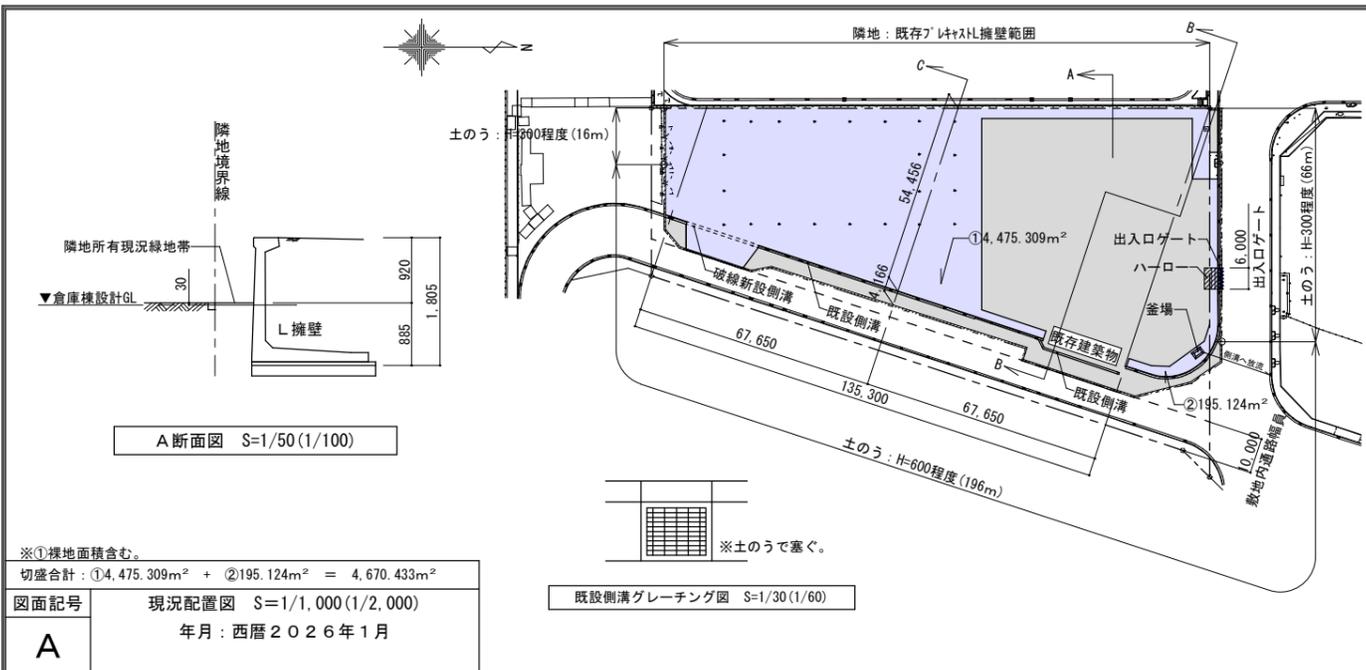
平均地盤算出図 S=1/100



平均地盤算出図 S=1/100



工事名称	(仮称) 新港心頭10号上屋建替工事(建築)	工事年度	令和7年度
工事場所	那覇市港町1丁目204番地・205番地	図面名称	平均地盤面算定図
発注機関	那覇港管理組合 企画建設部 計画建設課	縮尺	A1=1/100(250) A3=1/200(500)
摘要		図面番号	法-01
検印	管理建築士 設計製図	設計者	(株)アーキ5D
		資格者氏名	新里均
		登録番号	一級建築士大臣登録第218581号
		所在地	沖縄県宜野湾市普天間2-47-16



※凡例	
---	敷地境界線
---	仮囲いH=2.00【279m】
---	出入口ゲートW=6.00×H=2.00【1ヶ所】
---	小堤工、ハーローを示す。
---	既設アスファルト舗装を示す。（表土保全）
---	砂利敷きを示す。= 事業面積
---	裸地部分を示す。= 裸地面積
---	新設アスファルト舗装を示す。

面積算定表	
事業面積	4,670m ²
集水面積	9,661m ²
濁水貯留必要容量	9,661m ² × 150/1000 = 1,449.15m ³
締切沈殿池容量	26.233m ² × 135.300m = 3,549.3249m ³

【参考】

工事名称	(仮称) 新港ふ頭10号上層建設工事 (本体・建築)	工事年度	令和7年度
工事場所	那覇市港町1丁目204番地・205番地	図面名称	赤土流出防止計画図
発注機関	那覇港管理組合 企画建設部 計画建設課	縮尺	A1:S=1/1,000 A3:S=1/2,000
摘要	図面番号 赤土-01		
設計	管理建築士 設計 製図	名称	(株)アーキSD
設計者	資格者氏名 新里均	登録番号	一級建築士大臣登録第218581号
所在地	沖縄県宜野湾市普天間2-47-16		

構造特記仕様書 2024年度版

S1 一般事項
選択項目は○印を適用し、○印が無い場合は※印を適用する。
○印が複数ある場合は、共に適用する。

- 1-1 使用材料は原則としてJIS規格適合品、JAS規格品、又は大臣認定品とする。
1-2 設計図書は優先順位は下記による。
1)本特記仕様書
2)設計図
3)標準図
4)仕様書
5)日本建築学会標準仕様書
1-3 各工事に際して、施工計画書及び施工図を提出し、工事監理者の承認を得る。
1-4 構造関係材料及び各種試験成績書・検査報告書を作成し提出する。
1-5 設計図書に示されていない材料、工法等を採用する場合は文書にて工事監理者の承認を得る。
1-6 梁貫通位置、径、及び箇所数は(●意匠図 ●構造図 ※設備図)による。
1-7 その他

S2 構造計算ルート

Table with 2 columns: 方向 (X, Y) and 構造計算ルート (ルートの番号)

2-2 鉄筋の継手(定着については設計図書もしくは標準図による)
構造計算ルート別による主筋又は、耐力壁の鉄筋の継手の重ね長さ
※ 建築基準法施行令第73条第2項による仕様規定
日本建築学会 JASS5(2018)、鉄筋コンクリート造配筋指針・同解説
日本建築学会 RC標準2018
XY両方向共ルート3及び限界耐力計算の場合は、令第73条第2項の仕様規定によらずJASS5(2018)、鉄筋コンクリート造配筋指針・同解説及びRC標準2018とすることができる。

S3 仮設工事、土工

- 3-1 山留め、根切り
3-2 埋戻し土、盛土、残土処分
埋戻し土 ※ 根切り土の中の良土
盛土 ※ 根切り土の中の良土
残土処分 ● 場内均地し

S4 地業工事

Table for S4 地業工事: 基礎及びスラブ下地業 (単位mm). Columns: 場所, 捨てコンクリート厚さ, A: 砕石, B: 割栗石, 厚さ.

注1). アンカーボルト支持用フレームの、あと施工アンカーを打込む部分は100以上とする。
注2). 端部aは100以上とする。

4-2 設計耐力 長期 KN/m² 短期 KN/m² 終局 KN/m²
耐力試験 ※ 行う (箇所、長期設計耐力の3倍を確認する) ※ 行わない

4-3 地盤改良
無筋コンクリート地業 ● 締密工法 ● ノールセメント杭
セメント系固化材埋め ● 圧密排水工法
[載荷試験 ● 軸圧縮試験] ※ 行う (箇所) ※ 行わない
[● 六価クロム溶出試験] ※ 行う ※ 行わない

4-4 既製コンクリート杭、鋼管杭、その他特殊杭
1)杭種
PHC杭 ● A種 ● B種 ● C種
ST杭 ● A種 ● B種 ● C種
SC杭 t mm
PRC杭 ● I種 ● II種 ● III種 ● IV種
節杭 ● A種 ● B種 ● C種
鋼管杭

2)工法
打撃工法 ● 油圧ハンマー ● チェーゼルハンマー
埋込み工法 ● プレポーリングセメントミルク注入工法
● プレポーリング拡大根固め工法(認定工法)
杭間固定液 ● あり ● なし
中掘拡大根固め工法(認定工法)
回転掘根固め工法(認定工法)
回転杭工法
先行掘削 ※ あり ● なし

Table for S3 杭径、設計耐力、本数表. Columns: 杭径(杭底部)mm, 長期KN, 短期KN, 終局KN, 本数, 備考.

4)杭の構成は設計図による。
5)杭頭補強
● かご筋 ● スタッド溶接 ● 杭外周溶接
4-5 場所打鉄筋コンクリート杭、場所打鋼管コンクリート杭
1)工法
● アースドリル工法 ● 拡張アースドリル工法
● リバース工法 ● オールケーシング工法 (● ベノト工法 ●)
● 掘削工法

Table for S3 杭径、設計耐力、本数表 (続). Columns: 杭径(杭底部)mm, 管厚mm, 長期KN, 短期KN, 終局KN, 本数, 備考.

3)杭先端深さ ● GL- m ● 杭リストによる ● 杭伏図による
4)孔壁測定 (2方向)
※ 行う (● 全数 ● %) ● 行わない
5)使用材料 コンクリートの仕様は設計図による。特記のない場合JASS5水中コンクリートによる。
コンクリート Fc (● 普通ポルトランドセメント ● 高炉セメントB種)
鉄筋 ● D 以下 SD295 ● D 以上 SD345
● D 以下 SD390
鋼管(リブ付) ● SKK400 ● SKK490

4-6 杭打地業共通事項
1)[● 試験杭 ● 試験掘] ● 行う (本) ● 行わない
2)載荷試験 ● 行う (箇所、長期設計耐力の3倍を確認する) ※ 行わない
3)SL塗布 ● 行う ※ 行わない

5)試験杭 ● 試験掘] ● 行う (本) ● 行わない
2)載荷試験 ● 行う (箇所、長期設計耐力の3倍を確認する) ※ 行わない
3)SL塗布 ● 行う ※ 行わない

S5 鉄骨工事

Table for S5 鉄骨工事: 種類, 径, 継手. Columns: 種類, 径, 継手.

5-2 ガス圧接部の検査(第三者機関による)外観検査全数(引張り試験の場合、施工者自主検査でもよい)
● 抜取り検査
● 引張り試験(JISZ3120)
1検査ロットにつき ※ 3本 ● 原則 柱・梁の径毎に3本
● 超音波探傷試験(JISZ3062) ● 熱間押抜き試験
1検査ロットにつき ● 30箇所
○ 不合格となった圧接部は切り取って再圧接を行う。また残り全数に対して超音波探傷試験を行う。
1検査ロットは1組の作業班が1日に施工した圧接箇所の数量で200箇所以内

5-3 溶接、機械式継手の検査は各々の認定方法による他、日本継手協会仕様書(2017年)及び下記を参照する。
JIS Z 3063 (鉄筋コンクリート用異形棒鋼溶接部の超音波探傷試験方法及び判定基準)
JIS Z 3064 (鉄筋コンクリート用機械式継手の鉄筋挿入長さの超音波測定試験方法及び判定基準)

5-4 梁貫通補強
補強筋は原則として工場製品(評定品)を使用する。
5-5 その他
基礎梁、基礎小梁の継手及び定着は原則として
○ ①一般 ● ②地反力を受ける
○ ③上載荷重が大きい場合
● ④端部上下筋15d 中央上下筋20d
● ⑤端部上下筋15d 中央上下筋20d
梁の余長Lの採用 大梁・小梁 ※ D' (梁有効長)
基礎梁 ※ min(D', L1)
鉄筋の組立は適切な位置にスペーサーを使用し、組立後は形状保持のための養生を行う。
コンクリートを2回打する部材は、初回の打設後に鉄筋の清掃を行う。
コンクリート打設前に工事監理者の検査を受け不備な箇所は修正を行う。

S6 コンクリート工事

6-1 レディーミクストコンクリート(JIS A5308-2019)
1)セメント ※ 普通セメント JISR5210 ● 高炉セメントB種
● 低熱セメント JISR5210
2)粗骨材 ● 砂利 ※ 砕石 ● 高炉セメント骨材 ● 人工軽量骨材 ● 再生骨材
最大径(mm) ※ 20 ● 25 ● 40
3)設計基準強度 (N/mm²) (使用区分は設計図の軸組図に示す)
● 普通コンクリート
○ Fc18 ● Fc21 ● Fc24 ● Fc27 ● Fc30 ● Fc39 ● Fc
● 軽量コンクリート(※ 1種 ● 2種 気乾単位容積質量 ※ 18.5 ●)
● LFc18 ● LFc21 ● LFc24 ● LFc27 ● LFc30 ● LFc

4)土間コンクリート ● Fc24 (ただし柱、壁等と同時に打込む場合は躯体の強度とする)
5)捨てコンクリート ● Fc18
6)防水押さえコンクリート ● Fc ● LFc (気乾単位容積質量 ※ 18.5 ●)
7)かさ上げコンクリート ● Fc ● LFc (気乾単位容積質量 ※ 18.5 ●)

Table for S6 コンクリート工事: 箇所, 基礎, 基礎梁, 一般, 備考. Columns: 箇所, 基礎, 基礎梁, 一般, 備考.

注2). スラブラは特記なき限り施工者が決め監理者に報告する。
6-4 試験 (躯体コンクリートの28日圧縮試験は公的機関において行う)
1)骨材 [● 塩分含有量 ● アルカリシリカ反応性] ※ 行う ● 行わない
2)フレッシュコンクリート [● スランプ ● 空気量] ※ 行う ● 行わない
3)躯体のせき板取り外し時期決定圧縮試験 ※ 行う ● 行わない
4)コンクリートコア抜き取り圧縮試験 ● 行う ※ 行わない
5)マスコンクリートのひび割れ照査(温度応力解析) ● 行う ※ 行わない
6)単位水量測定 ● 行う ● 行わない

6-5 調査(補正値は工事費を含む)
計画供用期間の繰()は耐久設計基準強度Fd
● 短期(18) ● 標準(24) ● 長期(30) ● 超長期(36)
調査管理強度 Fm=Max(Fc, Fd)+S S=3~6
材齢28日の調査強度Fは下記の両式を満足するものとする。
F≥Fm-1.73σ F≥0.85Fm+3σ

Table for S6 コンクリート工事: せき板及び支柱の在置期間. Columns: 基礎、梁、柱、壁, スラブラ, 梁下. Includes concrete strength and curing time data.

6-7 劣化等級表示 劣化等級 ● 等級2 ● 等級3
劣化等級2又は3を指定する場合は、鉄筋コンクリート構造配筋標準図(1)2-7かぶり厚さが変わる為、かぶりを訂正又は、設計図に明示する
Fc36を超える場合は高強度コンクリートとし、仕様は別記特記仕様書(JASS5等)による

S7 鉄骨工事

Table for S7 鉄骨工事: 規格名称, 鋼材名, 柱, 通し, 内, 大梁, プレース, 小梁. Columns: 規格名称, 鋼材名, 柱, 通し, 内, 大梁, プレース, 小梁.

Table for S7 鉄骨工事: 高力ボルトの種類, 使用箇所. Columns: 高力ボルトの種類, 使用箇所.

7-3 普通ボルト、アンカーボルト
1)材質 ● SS400 ● SS490 (M 以上)
● ABR400 ● ABR490 ● ABM400 ● ABM490 (ABMはM24以上)
2)大臣認定柱脚(メーカー仕様による) ● 使用する ● 使用しない

Table for S7 鉄骨工事: 頭付きスタッド. Columns: 径, 長さ(mm), 使用箇所.

7-5 溶接材料
1)アーク溶接に使用する溶接棒、ワイヤ及びフラックスは母材の種類、寸法、及び溶接条件に相応したものを選定する。
2)ガスシールドアーク溶接に使用するシールドガスは溶接に相応したものとする。
7-6 スカラップ形状 ※ ノンスカラップ工法 ● スカラップ工法

Table for S7 鉄骨工事: 継手. Columns: フランジ, ウェブ, 柱, 梁.

7-8 溶接手法及び管理
1)使用する溶接ワイヤー、入熱量及びバス間温度等の仕様については鉄建協又は全構協の仕様で、専任の溶接施工管理技術者により管理を行うこと。
2)完全溶け込み溶接はAW検定の有資格者が行うとする指定を ● 行う ● 行わない
3)本工事で代替タブを使用する場合は、代替タブ溶接技術者技量検定付加試験を ● 行う ● 行わない
但し、代替タブのAW検定有資格者は技量検定付加試験を免除する。

7-9 デッキプレート (単位 mm)
1)床用 高さ ● 板厚 ●
2)合成スラブ用 高さ ● 50 板厚 ● 1.2
3)型枠用 高さ ● 板厚 ● 形板 タイプ
4)防錆処理 ● プライマー ● 亜鉛メッキ ● Z12 ● Z27

Table for S7 鉄骨工事: 塗装(工場塗 ※ 2回 ● 1回、現場タッチアップ程度とする). Columns: 適用, 室内, 塗料, 種別, 標準膜厚.

3) 溶融亜鉛メッキ ● 行う ● 行わない
4) 常温亜鉛メッキ ● 行う ● 行わない
5) 高耐食メッキ鋼板 (t3.2mm以下) ● 用いる ● 用いない

7-11 溶接部の検査(受入検査) ※ 行う ● 行わない
1)受入検査を行う第三者検査機関は、建築主、設計者、工事監理者又は工事施工者(元請)との直接契約による。
2)第三者検査機関は(社)日本溶接協会によるCIW検査事業者認定種別における超音波探傷検査部門の認定を取得した事業者とし、当該工事の鉄骨製作工場の社内検査を行っている事業者とする。
3)受入検査は目視による外観検査と超音波探傷検査とし、社内検査完了後に行う。
4)外観検査の合格判定は国土交通省告示1464号による。ただし告示に定めのないものは日本建築学会「JASS6 鉄骨工事 2018 付則6 鉄骨精度検査基準」の限界許容差による。
5)超音波探傷検査は日本建築学会「鋼構造建築溶接部の超音波探傷検査規程・同解説」2018により、合格判定は7.2.1疲労を考慮しない溶接部のうち、引張応力が作用する溶接部の項を適用する。
6)溶接箇所数の数え方は「JASS6 鉄骨工事 2018」表10.1溶接箇所数の数え方による。
7)受入検査の抜取り方法及び抜取り率は以下による。
a)工場溶接の場合
i. 検査ロットは各節、各工区毎に溶接箇所300箇所以内で構成する。
ii. 抜取り数は各ロット毎に30箇所をランダムにサンプリングする。
iii. 大きさ30箇所のサンプル中の不適合個数が1個以下のときはロットを合格とし、4個以上のときはロットを不合格とする。ただし、サンプル中の不適合個数が1個を超え4個未満のときは、同じロットからさらに30箇所のサンプルを抜取検査する。総計60箇所のサンプルについての不適合個数の合計が4個以上のときはロットを合格とし、5個以上のときはロットを不合格とする。
b)現場溶接の場合
i. 全数検査とする。
8)検査により不合格と判定された溶接部はすべて補修を行い、再検査して合格とならねばならない。
9)ずれ・食違いの補修方法は、独立行政法人 建築研究所監修「突き合せ継手の食い違い仕口のずれの検査・補修マニュアル」による。

7-12 鉄骨製作工場 下記○印のグレード認定工場の内、納期・製作能力・鉄骨数量を勘案して工場選択のこと
国土交通省大臣認定(グレード)
S H R J

S8 コンクリートブロック・ALCパネル・押出成形セメント板・PCa板工事

8-1 コンクリートブロック
1)種類 ● A種 ● B種 ● C種
2)厚さ mm ● 100 ● 120 ● 150 ● 190

8-2 ALC パネル
1)使用箇所 ● 床 ● 屋根 ● 外壁 ● 内壁
2)厚さ mm ● 75 (80) ● 100 ● 120(125) ● 150 ● 175
3)外壁取り付け構法

Table for S8 コンクリートブロック・ALCパネル・押出成形セメント板・PCa板工事: 方向, 構法, 使用箇所, 備考.

8-3 押出成形セメント板
外壁取り付け方法及び厚さ mm ●
方向, 構法, 使用箇所, 備考

8-4 PCa板
1)床及び屋根
● PCa板単独 厚さ mm
● 合成板

Table for S8 コンクリートブロック・ALCパネル・押出成形セメント板・PCa板工事: PCa板厚さ mm, 現場打厚さ mm, 合計厚さ mm, 備考.

2024年2月1日作成 (不許複製)

Table for S8 コンクリートブロック・ALCパネル・押出成形セメント板・PCa板工事: 工事名称, 工事年度, 図面名称, 図面番号, 図面縮尺, 図面番号, 設計者, 資格者氏名, 登録番号, 所在地.

鉄筋コンクリート構造配筋標準図(1) 2024年度版

1-1 基本事項

§1 一般事項

1. 使用材料、工法等は構造特記仕様書による。
2. 設計図書に記載なき場合は本標準図に従うものとする。また本標準図に明記なき場合は構造特記仕様書 1-2-4 に指定した共通仕様書及び日本建築学会「JASS5(2018)」及び「鉄筋コンクリート造配筋指針・同解説(2021)」による。
3. 本標準図は異形鉄筋を対象とし、d は呼び名に用いた数値とする。
4. 本標準図に示す単位は特記なき限りはすべてmmとする。

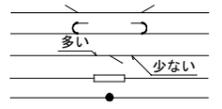
1-2 その他

§2 共通事項

鉄筋の表示記号及び最外径は下表による。

記号	●	○	◎	⊙	⊚	⊛	⊜	⊝	⊞	⊟	⊠
呼び径 d	D10	D13	D16	D19	D22	D25	D29	D32	D35	D38	D41
最外径 D	11	14	18	22	26	29	33	37	40	43	47

- ・フックのない場合
- ・フックのある場合
- ・本数に差がある場合
- ・機械式継手表示
- ・ガス圧接、溶接継手表示



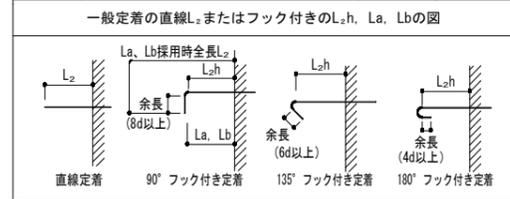
2-2 鉄筋の折り曲げ

柱・梁・基礎の主筋、及び、その他の鉄筋の折曲げ形状・寸法

折曲げ角度	図	鉄筋の使用箇所による呼称	鉄筋の種類	鉄筋の折曲げ内法直径(D)	
				鉄筋の径による区分	鉄筋の折曲げ内法直径(D)
180°		柱・梁主筋 基礎主筋 帯筋	SD295	D16以下	3d以上
135°		あばら筋 スライラ筋 スラブ筋 壁筋	SD345	D19~D41	4d以上
			SD390	D41以下	5d以上
90°		(SD490は90°のみ)	SD490	D25以下	5d以上
				D29~D41	6d以上

2-3 鉄筋の定着及び重ね継手の長さ

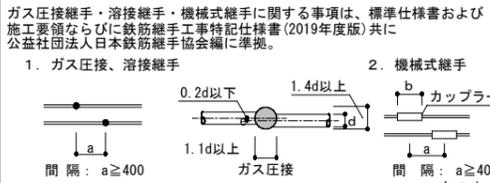
鉄筋の種類	コンクリートの設計基準強度(N/mm ²)	重ね継手の長さ		定着の長さ			
		長さ	長さ	一般	小梁・床スラブ	上端筋	下端筋
SD295 SD345 ()はSD345を示す	18	45d(50d)	40d	一般	15d	上端筋	20d
		35d	30d, 20d	小梁・床スラブ	(20d)	上端筋	20d
	21	40d(45d)	35d	一般	20d	上端筋	20d
		30d	25d, 15(20)d	小梁・床スラブ	15d	上端筋	20d
	24~27	35d(40d)	30d(35d)	一般	20d	上端筋	20d
		25d(30d)	20d(25d), 15(20)d	小梁・床スラブ	15d	上端筋	20d
SD390 (SD490) (-)は適用外	21	50d(-)	40d(-)	一般	20d	上端筋	20d
		35d(-)	30d(-), 20d(-)	小梁・床スラブ	(-)	上端筋	20d
	24~27	45d(55d)	40d(45d)	一般	20d	上端筋	20d
		35d(45d)	30d(35d), 20(25)d	小梁・床スラブ	15d	上端筋	20d
30~36	40d(50d)	35d(40d)	一般	20d	上端筋	20d	
	30d(35d)	25d(30d), 20(25)d	小梁・床スラブ	15d	上端筋	20d	
39~45	40d(45d)	35d(40d)	一般	20d	上端筋	20d	
	30d(35d)	25d(30d), 15(20)d	小梁・床スラブ	15d	上端筋	20d	
48~60	30d	25d	一般	20d	上端筋	20d	
	20d	15d, 15d	小梁・床スラブ	15d	上端筋	20d	



1. 重ね継手の長さは鉄筋の折曲げ起点間の距離、又、フック付きのL₂hは仕口面から鉄筋の折曲げ起点までとし、末端のフックは定着長さに含まない。
2. 軽量コンクリートを使用する場合は、2-3の数値に5dを加算する。

2-4 継手一般

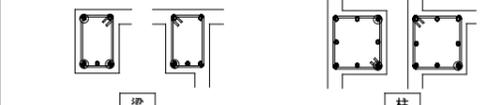
3. 構造特記仕様書2-2で令第73条とした場合、主筋又は耐力壁の鉄筋の継手重ね長さは左下表L₁かつ40d(軽量コンクリートを使用する場合は50d)とする。
4. 構造特記仕様書2-2でJASS5(2018)、RC規準2018とした場合、主筋又は、耐力壁の鉄筋の継手重ね長さは設計図によるが、参考値として左下表JASS5(2018)にL₁に示す。



2-5 鉄筋のフック

3. 重ね継手 (壁、スラブ筋を除く。)
4. D35以上の鉄筋は原則として重ね継手は用いない。(ガス圧接、溶接、機械式継手等による)
5. 溶接継手及び機械式継手の場合はメーカー仕様による。

1. あばら筋及び帯筋
2. 煙突の鉄筋
3. 柱及び梁(基礎梁を除く)の出隅部分の鉄筋(下図参照)



2-6 鉄筋のあき

4. 片持ちスラブの上端筋の先端
5. 最上階及びこれに準ずる箇所の柱頭の四隅の鉄筋
6. 杭基礎の基礎筋(偏心基礎及び杭2本打以上の場合)
7. 鉄骨柱の脚部の基礎柱、又は根巻コンクリートの四隅の鉄筋

- ・鉄筋のあきaは原則として下記による。
- ・呼び名の数値dの1.5倍以上
- ・粗骨材の最大寸法の1.25倍以上
- ・鉄筋径が異なる場合は大きい径による。
- ・二段筋のあきは1.5d且つ粗骨材最大値の1.25倍以上とする。
- ・鉄筋に対するコンクリートの設計かぶり厚さと最小かぶり厚さ

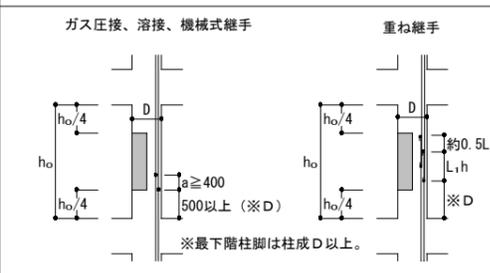
2-7 かぶり厚さ

部 位	かぶり厚さ	
	仕上げあり	仕上げなし
土に接しない部分	屋根スラブ	30(20)
	床スラブ	30(20)
	非耐力壁	40(30)
	柱	40(30)
土に接する部分	柱・梁	40(30)
	耐力壁	40(30)
	擁壁	50(40)
	基礎	50(40)

1. () 内の数値は最小かぶり厚さを示す。
2. 仕上げありとは、鉄筋の耐久性上有効な仕上げのある場合とする。
3. *1 品質・施工法に応じ、工事監理者の承認で10減の値とすることができる。
4. *2 軽量コンクリートの場合は、これに10加算する。
5. 柱・梁の主筋の最小かぶり厚さは、表の数値以上かつ主筋径の1.5倍以上とする。

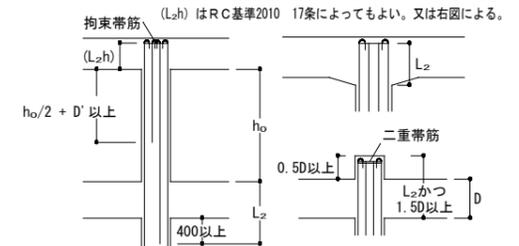
§3 柱

3-1 主筋の継手

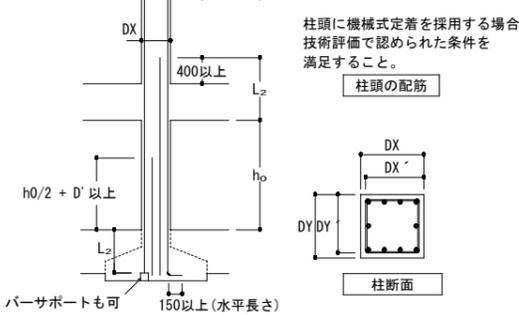


- ・印内に継手中心部を設けることを原則とする。
- ・設計者判断により、認定を取得した工法ではa=0とできる。

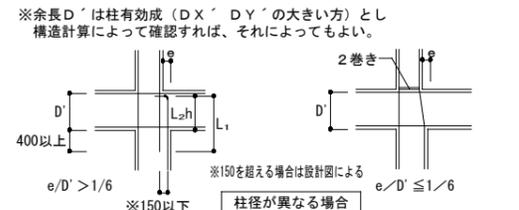
3-2 主筋の定着



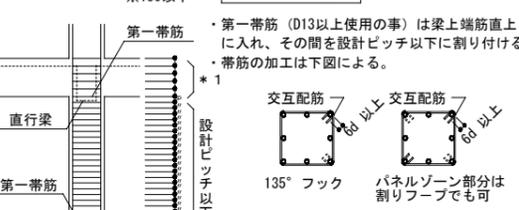
3-3 帯副筋



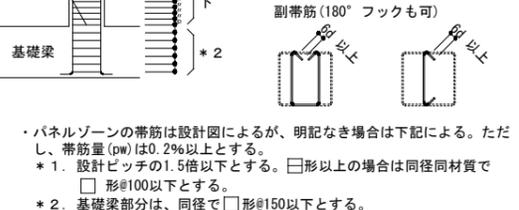
3-4 補助筋



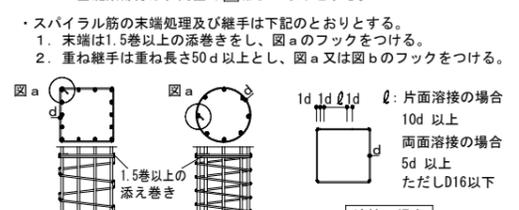
3-5 柱のコンファインド補強



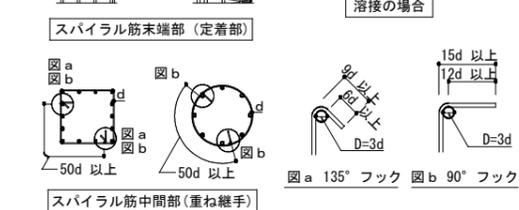
3-6 鉄筋の折曲げ



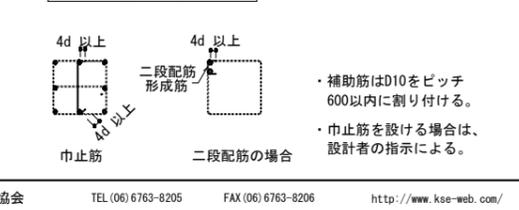
3-7 鉄筋のあき



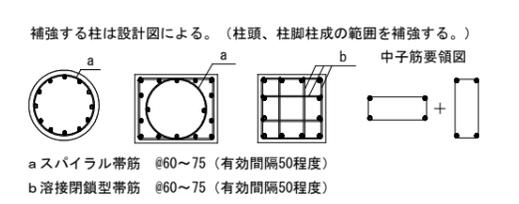
3-8 鉄筋の定着



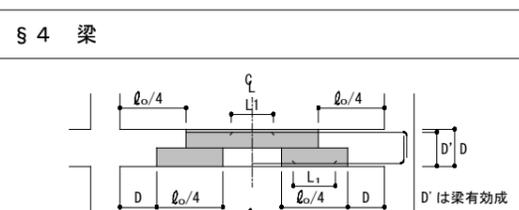
3-9 鉄筋の折曲げ



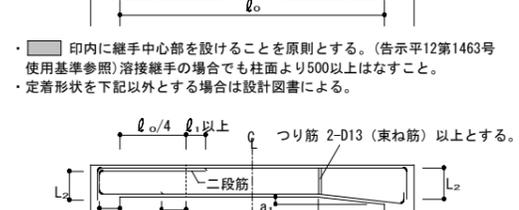
4-1 主筋の継手



4-2 主筋の定着及び余長



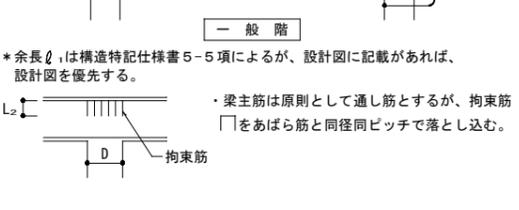
4-3 あばら筋副あばら筋



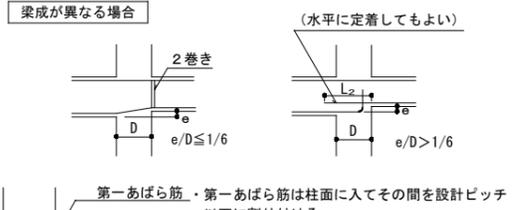
4-4 鉄筋の折曲げ



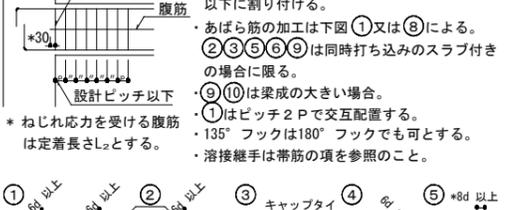
4-5 鉄筋のあき



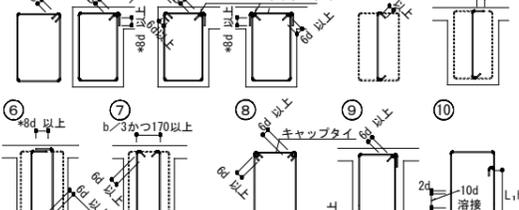
4-6 鉄筋の定着



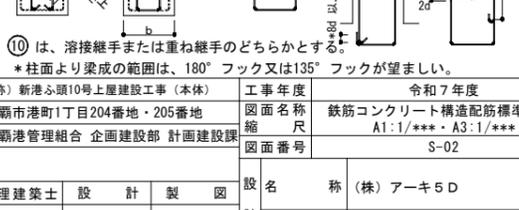
4-7 鉄筋の折曲げ



4-8 鉄筋のあき



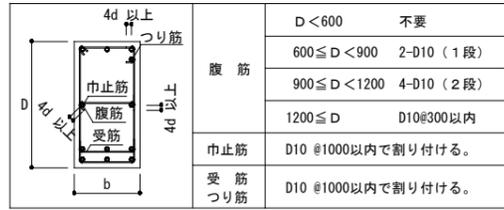
4-9 鉄筋の定着



工事名称	(仮称) 新港ふ頭10号上層建設工事(本体)	工事年度	令和7年度
工事場所	那覇市港町1丁目204番地・205番地	図面名称	鉄筋コンクリート構造配筋標準図(1)
発注機関	那覇港管理組合 企画建設部 計画建設課	縮尺	A1:1/***・A3:1/***
摘要		図面番号	S-02
検印	管理建築士 設計 製 図	設 名 称	(株) アーキ5D
		資格者氏名	新里 均
		登録番号	一級建築士大臣登録第218581号
		所在地	沖縄県宜野湾市普天間2-47-16

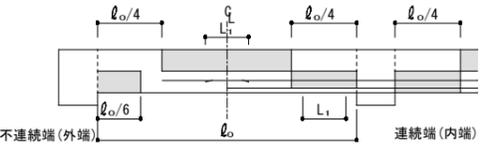
鉄筋コンクリート構造配筋標準図(2) 2024年度版

4-4 補助筋



4-5 小梁及び片持梁

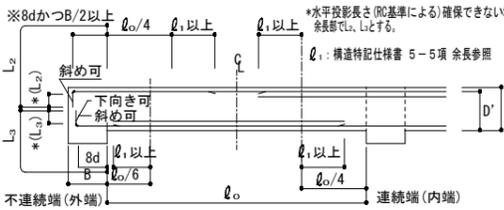
a) 小梁継手



不連続端(外端) 連続端(内端)

印内に継手中心部を設けること。ただし溶接継ぎ手の場合は梁面より500以上はなすこと。

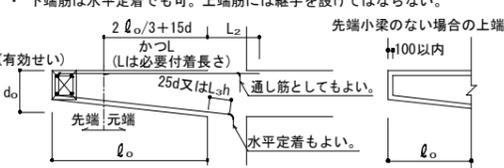
定着



不連続端(外端) 連続端(内端)

下筋は水平定着でも可。上筋には継手を設けてはならない。

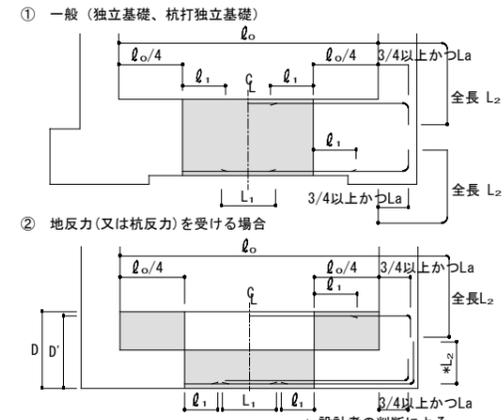
b) 片持梁定着



4-6 基礎梁及び基礎小梁

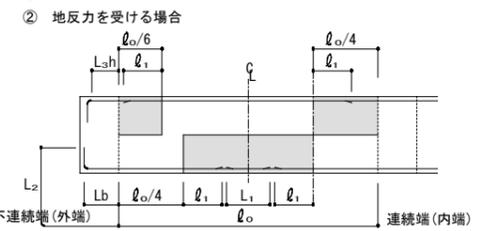
a) 基礎梁の継手及び定着

* 地反力を受ける梁は構造特記仕様書5-5項、及び設計図に示す。余長 l_1 は設計図に記載があれば、設計図を優先する。



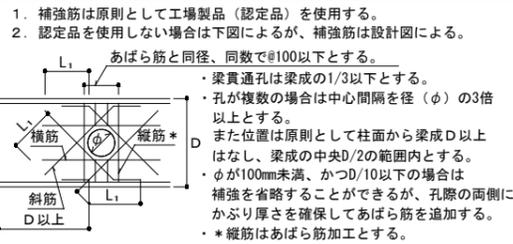
③ 上載荷重が大きい場合は②の主筋継手位置を上下逆にする。

b) 基礎小梁の継手及び定着



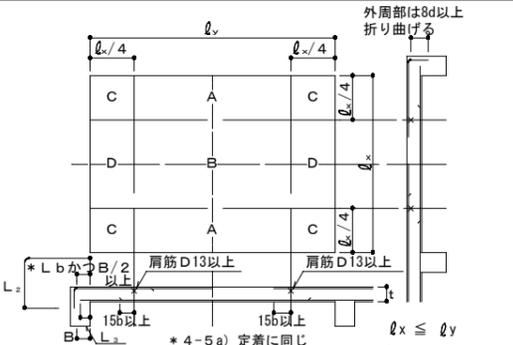
印内に継手中心部を設けることを原則とする。ただし溶接継ぎ手の場合は柱面(基礎小梁の場合は梁面)より500以上はなすこと。lbとれない場合4-5a定着によつてよい。

4-7 梁の貫通補強

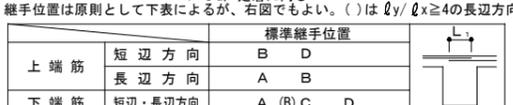


§5 スラブ

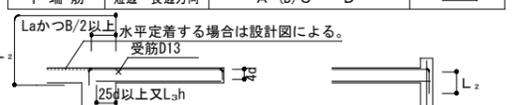
5-1 鉄筋の折曲げ及び定着



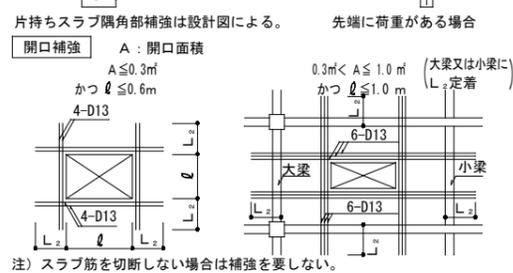
5-2 継手



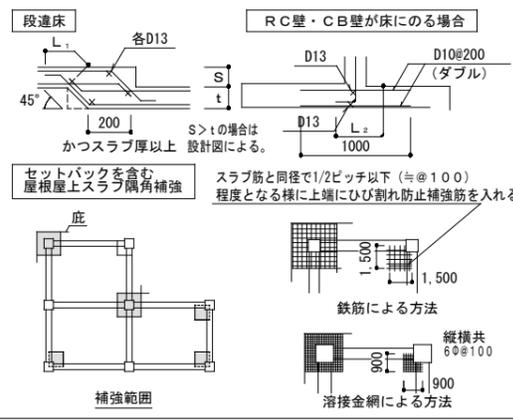
5-3 片持ちスラブ



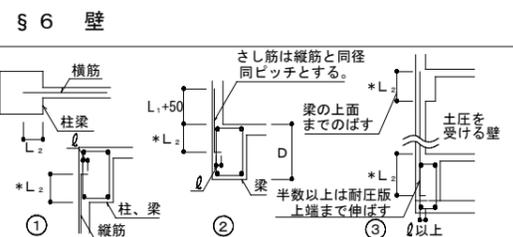
5-4 補強筋



6-1 定着及び継手



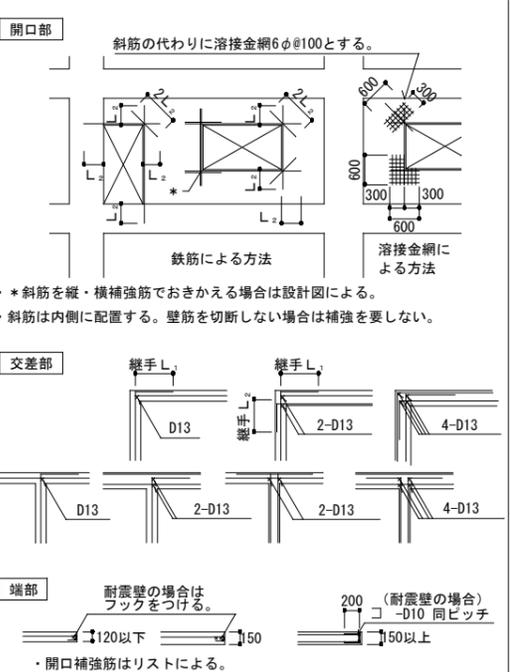
§6 壁



6-2 壁配筋

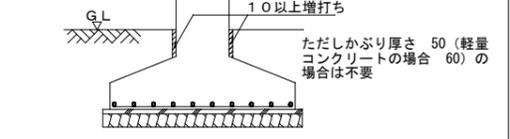
・定着長さは L_2 及び、継手長さは L_1 とする。
*ただし耐震壁で帯筋、あばら筋の内側に定着できない場合は、 $l_2 = 8d$ かつ 150 以上 $45^\circ \sim 90^\circ$ 折り曲げ、定着長さは L_2 かつ $D/2$ 以上とする。
(通し配筋の場合は不要)
・土圧を受ける壁の外側配筋の定着は ㊸ 図による。
・継手位置はどの部分でも良いが、土圧を受ける壁は5-2項の土圧面側を上端筋側に読み替える。
壁の配筋は設計図書による。
・ダブル配筋では巾止筋を縦横共 $D10@1000$ 以内を標準とする。

6-3 補強筋

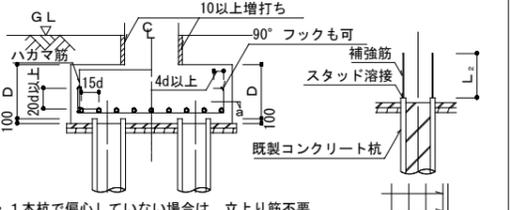


§7 基礎

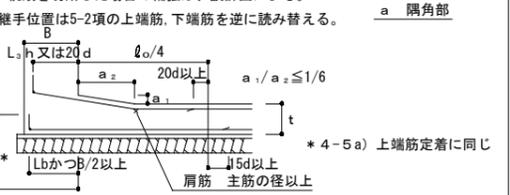
7-1 独立基礎



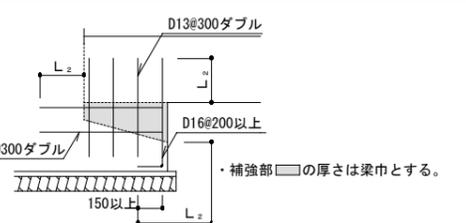
7-2 杭基礎



7-3 べた基礎継手及び定着

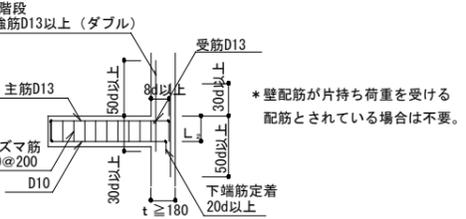


7-4 基礎と基礎梁

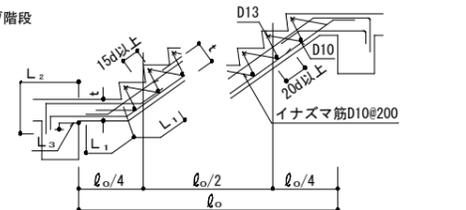


§8 その他

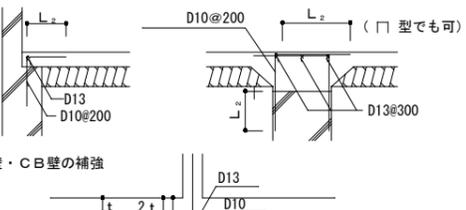
8-1 階段



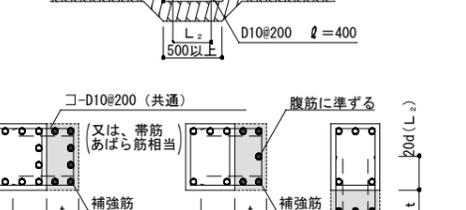
8-2 土間コンクリート



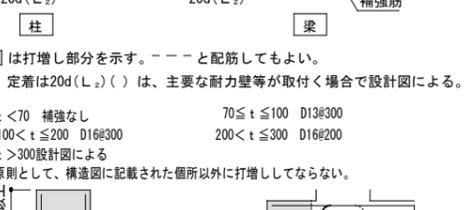
8-3 打増し補強



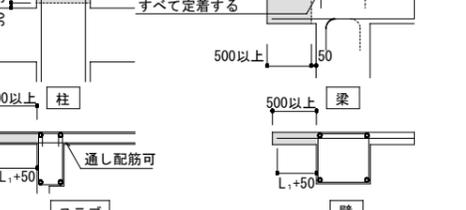
8-4 増築予定



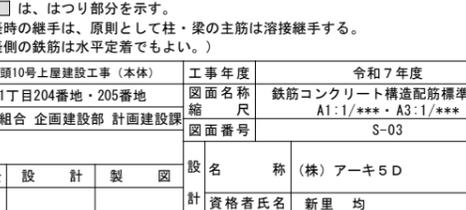
8-5 増築予定



8-6 増築予定



8-7 増築予定



工事名称	(仮称) 新港ふ頭10号上層建設工事(本体)	工事年度	令和7年度
工事場所	那覇市港町1丁目204番地・205番地	図面名称	鉄筋コンクリート構造配筋標準図(2)
発注機関	那覇港管理組合 企画建設部 計画建設課	縮尺	A1:1/****・A3:1/****
摘要		図面番号	S-03
検印	管理建築士 設計 製 図	設 名	(株) アーキ5D
		資格者氏名	新里 均
		登録番号	一級建築士大臣登録第218581号
		所在地	沖縄県宜野湾市普天間2-47-16

海水の作用を受けるコンクリートの仕様

本建物は計画地が海岸線から150m以内のため、コンクリートは以下の規基準等に準拠して仕様を定める。

- ※1) 『構造計画・施工計画・建築設備計画の留意事項 平成24年4月/沖縄県土木建築部』
- ※2) 『建築工事標準仕様書・同解説JASS5鉄筋コンクリート工事2022/日本建築学会』

1. 塩害環境の区分

準塩害環境（汀線から70～150m程度の範囲）の長期^{※2)}

2. コンクリートの仕様^{※2)}

セメントの種類	普通ポルトランドセメント	高炉セメントB種
耐久性設計基準強度	39N/mm ²	36N/mm ²
水セメント比の最大値	55%	55%

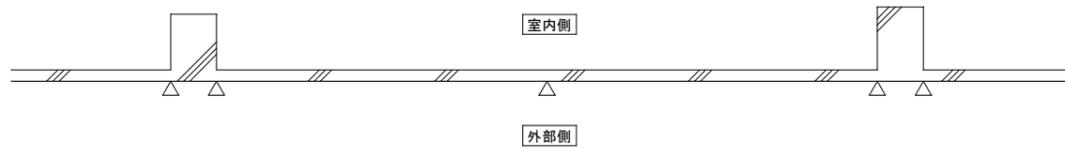
3. 最小かぶり厚さ

セメントの種類	最小かぶり厚さ	設計かぶり厚さ
海水および飛来塩分の影響を受ける部分 ^{※2)} (本件では、基礎、土間コンを除く全ての部位)	50mm	65mm
基礎（水セメント比が50%以下の場合） ^{※1)}	70mm	80mm

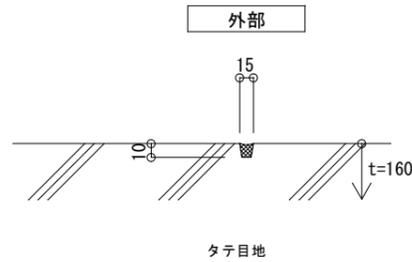
4. スランプ

15cmとする。
ただし、高性能AE減水剤を使用する場合はこの限りでない。^{※1)}

5. ひび割れ誘発目地要領



◁ 外部側ひび割れ誘発目地



工事名称	(仮称)新港ふ頭10号上屋建設工事(本体)	工事年度	令和7年度
工事場所	那覇市港町1丁目204番地・205番地	図面名称	鉄筋コンクリート構造配筋標準図(3)
発注機関	那覇港管理組合 企画建設部 計画建設課	縮尺	A1:1/****・A3:1/****
摘要		図面番号	S-04
検印	管理建築士	設計	製図
設計者	名称	(株)アーキ5D	
	資格者氏名	新里 均	
	登録番号	一級建築士大臣登録第218581号	
	所在地	沖縄県宜野湾市普天間2-47-16	

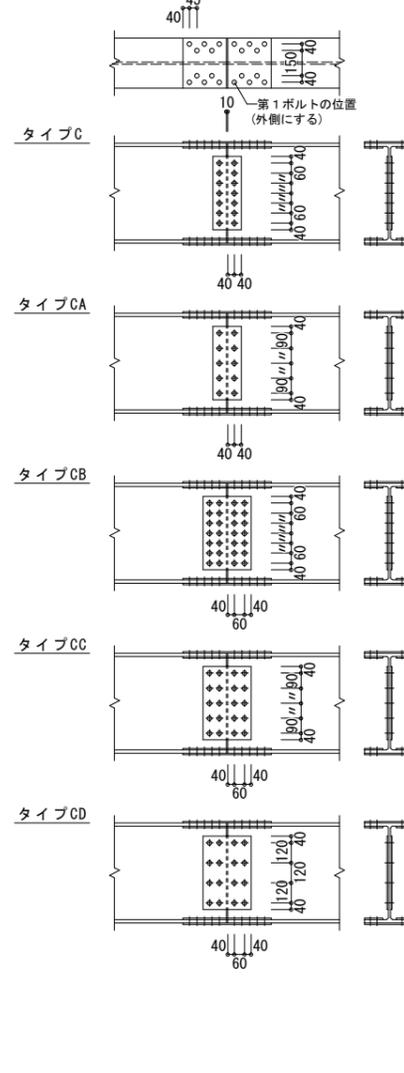
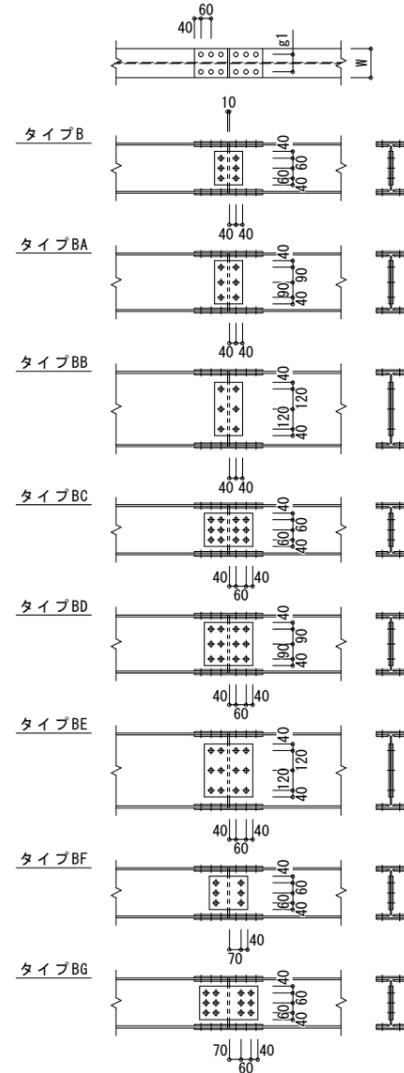
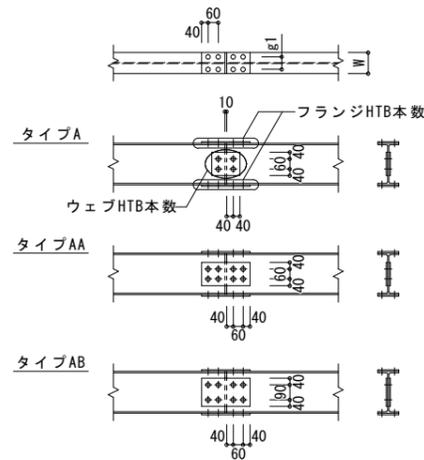
梁継手標準図

※材種：SS400・SN400
 ※継手の端部と、中央に材厚差が、1.0mm以上の時は、フィラー-PLを入れる事。

「SCSS-H97鉄骨構造標準接合部H形鋼編」準拠

梁継手

単位：mm



g1寸法表

W	100	125	150	175	200	250
g1	56	75	90	105	120	150

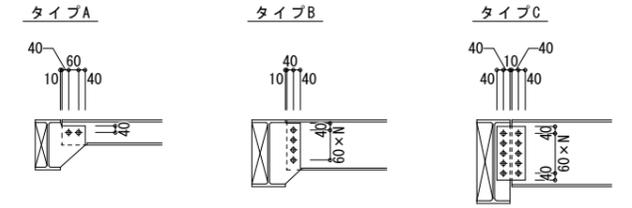
形状

中央部 H 形鋼サイズ	タイプ	フランジ		ウェブ		中央部 H 形鋼サイズ	タイプ	フランジ		ウェブ	
		添板	HTB(総本数)	添板	HTB(総本数)			添板	HTB(総本数)	添板	HTB(総本数)
H-198 × 99 × 4.5 × 7 H-200 × 100 × 5.5 × 8	A	PL-16 × 100 × 290	16-M16	2PL- 6 × 170 × 140	4-M16	H-294 × 200 × 8 × 12	B	PL- 9 × 200 × 410 2PL- 9 × 80 × 410	24-M20	2PL- 9 × 170 × 200	6-M20
H-248 × 124 × 5 × 8 H-250 × 125 × 6 × 9	AB	PL-12 × 125 × 410	24-M16	2PL- 6 × 290 × 170	8-M16	H-340 × 250 × 9 × 14	BC	PL-12 × 250 × 410 2PL-12 × 100 × 410	24-M22	2PL- 9 × 170 × 200	6-M22
H-298 × 149 × 5.5 × 8 H-300 × 150 × 6.5 × 9	BB	PL- 9 × 150 × 290 2PL- 9 × 60 × 290	16-M16	2PL- 6 × 170 × 200	6-M16	H-390 × 300 × 10 × 16	C	PL-12 × 300 × 440 2PL-12 × 110 × 440	32-M20	2PL- 9 × 170 × 260	8-M20
H-346 × 174 × 6 × 9 H-350 × 175 × 7 × 11	BA	PL- 9 × 175 × 290 2PL- 9 × 70 × 290	16-M20	2PL- 6 × 170 × 260	6-M20	H-440 × 300 × 11 × 18	C	PL-12 × 300 × 440 2PL-12 × 110 × 440	32-M22	2PL- 9 × 170 × 320	10-M22
H-396 × 199 × 7 × 11 H-400 × 200 × 8 × 13	B	PL- 9 × 200 × 410 2PL- 9 × 80 × 410	24-M20	2PL- 9 × 170 × 260	8-M20	H-488 × 300 × 11 × 18	C	PL-12 × 300 × 440 2PL-12 × 110 × 440	32-M22	2PL-12 × 170 × 320	10-M22
H-446 × 199 × 8 × 12 H-450 × 200 × 9 × 14	B	PL-12 × 200 × 410 2PL-12 × 80 × 410	24-M20	2PL- 9 × 170 × 320	10-M20	H-588 × 300 × 12 × 20	C	PL-12 × 300 × 440 2PL-16 × 110 × 440	32-M22	2PL- 9 × 170 × 440	14-M22
H-496 × 199 × 9 × 14 H-500 × 200 × 10 × 15	B	PL-12 × 200 × 410 2PL-12 × 80 × 410	24-M20	2PL- 9 × 170 × 320	10-M20	H-700 × 300 × 13 × 24	C	PL-19 × 300 × 530 2PL-19 × 110 × 530	40-M22	2PL- 9 × 170 × 560	18-M22
H-596 × 199 × 10 × 15 H-600 × 200 × 11 × 17	BE	PL-12 × 200 × 410 2PL-12 × 80 × 410	24-M20	2PL- 9 × 290 × 440	16-M20	H-800 × 300 × 14 × 26	C	PL-19 × 300 × 530 2PL-19 × 110 × 530	40-M22	2PL-12 × 170 × 620	20-M22
H-194 × 150 × 6 × 9	BF	PL- 9 × 150 × 290 2PL- 9 × 60 × 290	16-M16	2PL- 6 × 230 × 140	4-M16	H-900 × 300 × 16 × 28	C	PL-19 × 300 × 620 2PL-22 × 110 × 620	48-M22	2PL-12 × 170 × 740	24-M22
H-244 × 175 × 7 × 11	B	PL- 9 × 175 × 290 2PL- 9 × 70 × 290	16-M20	2PL- 9 × 170 × 140	4-M20	H-300 × 300 × 10 × 15	C	PL-12 × 300 × 350 2PL-12 × 110 × 350	24-M22	2PL- 6 × 170 × 200	4-M22

梁仕口標準図

※材種：SS400・SN400

形状



梁仕口

単位：mm

H 形鋼サイズ	タイプ	ガセットプレート	HTB(総本数)	添板
H-100 × 50 × 5 × 7	A	PL-6	2-M16	
H-125 × 60 × 6 × 8	A	PL-6	2-M16	
H-150 × 75 × 5 × 7	A	PL-6	2-M16	
H-175 × 90 × 5 × 8 H-198 × 99 × 4.5 × 7 H-200 × 100 × 5.5 × 8	B	PL-6	2-M16	
H-248 × 124 × 5 × 8 H-250 × 125 × 6 × 9	B	PL-6	2-M16	
H-298 × 149 × 5.5 × 8 H-300 × 150 × 6.5 × 9	B	PL-9	3-M20	
H-346 × 174 × 6 × 9 H-350 × 175 × 7 × 11	B	PL-9	4-M20	
H-396 × 199 × 7 × 11 H-400 × 200 × 8 × 13	B	PL-9	4-M20	
H-446 × 199 × 8 × 12 H-450 × 200 × 9 × 14	B	PL-9	5-M20	
H-446 × 199 × 8 × 12 ●R層X5軸Y1-Y5	B	PL-9	6-M20	
H-440 × 300 × 11 × 18 ●R層X9軸Y1-Y5	C	PL-16	12-M16	2PL-12
H-496 × 199 × 9 × 14 H-500 × 200 × 10 × 16	B	PL-12	5-M20	
H-600 × 200 × 11 × 17	B	PL-12	6-M20	
H-148 × 100 × 6 × 9	A	PL-6	2-M16	
H-194 × 150 × 6 × 9	B	PL-6	2-M16	
H-244 × 175 × 7 × 11	B	PL-9	2-M20	
H-294 × 200 × 8 × 12	B	PL-9	3-M20	
H-340 × 250 × 9 × 14	B	PL-9	4-M20	
H-390 × 300 × 10 × 16	B	PL-12	4-M20	
H-440 × 300 × 11 × 18	B	PL-12	5-M20	
H-488 × 300 × 11 × 18	B	PL-12	5-M22	
H-588 × 300 × 12 × 20	B	PL-12	6-M22	
H-700 × 300 × 13 × 24	B	PL-16	7-M22	
H-800 × 300 × 14 × 26	C	PL-16	16-M22	2PL-12 × 500
H-900 × 300 × 16 × 28	C	PL-16	18-M22	2PL-12 × 560

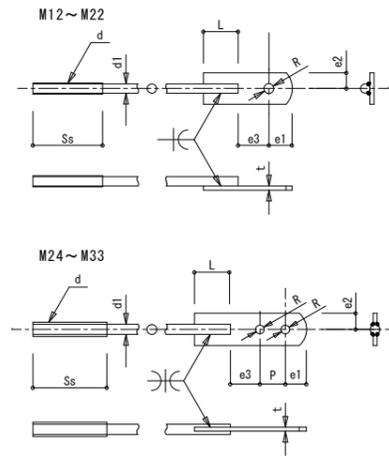
工事名称	(仮称) 新港ふ頭10号上屋建設工事(本体)	工事年度	令和7年度
工事場所	那覇市港町1丁目204番地・205番地	図面名称	梁継手・梁仕口標準図
発注機関	那覇港管理組合 企画建設部 計画建設課	縮尺	A1:1/****・A3:1/****
摘要		図面番号	S-07
検印	管理建築士 設計 製 図	設 名	(株) アーキ5D
		資格者氏名	新里 均
		登録番号	一級建築士大臣登録第218581号
		所在地	沖縄県宜野湾市普天間2-47-16

ブレース仕口標準図

「東京都 建築構造設計指針 2010」準拠 ※材種 S5400, S5400

壁面ブレース (床面ブレースもこれに準ずる)

丸鋼 (JISターンバックル筋かい)



(JIS規格品とする...JISA5540...1982/5541-5542...2003)

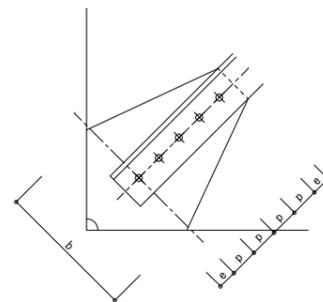
部 材	引張耐力 (kN)	GPL-txb min	HTB	P	必要溶接長 (L)		
					TYPE① L	TYPE② L	TYPE③ L=L1+L2
M12	21	6 × 60	1-M16	-	60	42	54
M14	28	6 × 60	1-M16	-	61	43	55
M16	38	9 × 70	1-M16	-	80	56	72
M18	48	9 × 70	1-M20	-	80	56	72
M20	60	9 × 80	1-M20	-	97	65	81
M22	74	12 × 80	1-M22	-	100	70	90
M24	87	12 × 90	2-M20	50	112	76	96
M27	114	12 × 90	2-M20	50	145	93	113
M30	139	12 × 100	2-M22	55	177	109	129
M33	172	12 × 110	2-M22	55	217	129	149

羽子板ボルトの形状及び寸法

ねじの呼び (d)		M12	M14	M16	M18	M20	M22	M24	M27	M30	M33
軸径d1	最 大	10.81	12.65	14.65	16.33	18.33	20.33	21.99	24.99	27.67	30.67
	最 小	10.64	12.46	14.46	16.11	18.11	20.11	21.77	24.77	27.42	30.42
調整ねじの長さ Ss		100	115	125	140	150	165	175	200	200	225
取付けボルト穴径許容差+0,-0.5mm R		13.0	17.0	17.0	21.5	21.5	23.5	21.5	21.5	23.5	23.5
は し あ き(最小) (1) e1		35	40	45	50	50	55	50	50	55	55
切板製	へりあき(最小)(1) e2	22	28	28	34	34	38	38	45	45	50
	板 厚 t	4.5	6	6	9	9	9	9	9	12	12
平鋼製	へりあき(最小)(1) e2	19.0	25.0	25.0	32.5	32.5	37.5	37.5	45	45	50
	板 厚 t	4.5	6	6	9	9	9	9	9	12	12
ボルト頭から取付けボルト穴迄の長さ(最小) e3		47	52	59	66	66	73	70	72	83	90
溶 接 長 さ(最小) L		40	50	55	60	75	85	85	90	95	110
取付けボルト (2)	種 類	JIS B 1186 2種高力ボルト (F10T)									
	ねじの呼び	M12	M16	M16	M20	M20	M22	M20	M20	M22	M22
	本 数	1	1	1	1	1	1	2	2	2	2

[注] (1) e1, e2が確保されていれば形状は自由でよい
(2) 羽子板とガセットプレートの場合は表に示す取付けボルトを使用し一面せん断(支圧)接合とする

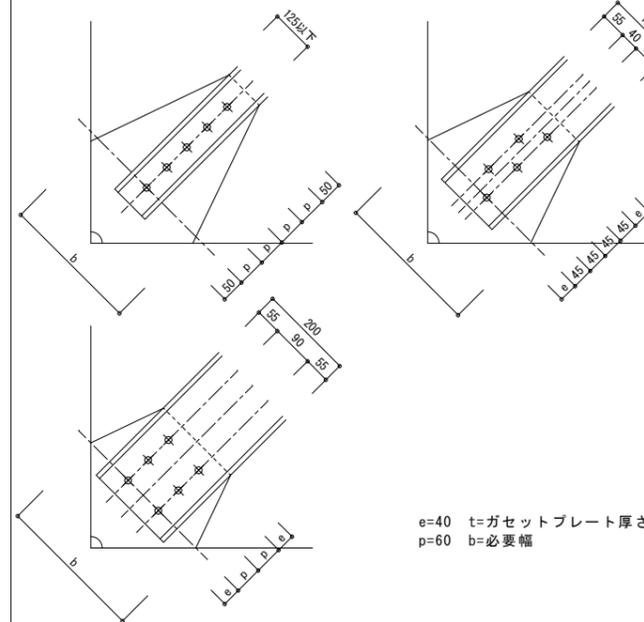
山形鋼 (2Lは2面せん断の場合とする)



e=40 t=ガセットプレート厚さ
p=60 b=必要幅

部 材	引張耐力 (kN)	GPL-txb min	HTB	必要溶接長 (L)		
				TYPE① L	TYPE② L	TYPE③ L=L1+L2
L- 65 × 65 × 6	105	9 × 90	5-M16	170	101	117
L- 75 × 75 × 6	126	9 × 95	5-M16	202	117	133
L- 75 × 75 × 9	180	9 × 125	5-M16	291	162	178
L- 75 × 75 × 12	232	9 × 160	6-M16	362	197	213
L- 90 × 90 × 7	176	9 × 125	5-M20	282	157	173
L- 90 × 90 × 10	242	9 × 165	5-M20	389	211	227
L- 90 × 90 × 13	305	12 × 160	6-M20	395	218	238
L-100 × 100 × 7	201	9 × 135	4-M20	303	168	184
L-100 × 100 × 10	277	9 × 185	5-M20	443	238	254
L-100 × 100 × 13	351	12 × 180	6-M20	448	244	264
2L- 65 × 65 × 6	303	9 × 165	5-M16	399	216	232
2L- 75 × 75 × 6	359	9 × 190	5-M16	474	253	269
2L- 75 × 75 × 9	503	12 × 205	5-M20	531	286	306
2L- 75 × 75 × 12	633	12 × 260	7-M16	667	354	374
2L- 90 × 90 × 7	502	12 × 205	5-M20	529	285	305
2L- 90 × 90 × 10	695	12 × 270	5-M20	733	387	407
2L- 90 × 90 × 13	886	12 × 340	7-M20	933	487	507
2L-100 × 100 × 7	567	12 × 225	5-M20	598	319	339
2L-100 × 100 × 10	789	12 × 305	6-M20	832	436	456
2L-100 × 100 × 13	1,008	12 × 385	8-M20	1,062	551	571

溝形鋼

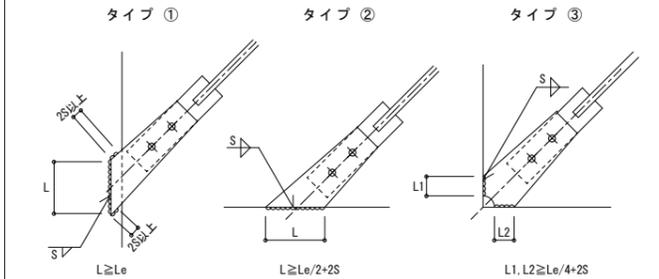


e=40 t=ガセットプレート厚さ
p=60 b=必要幅

部 材	引張耐力 (kN)	GPL-txb min	HTB	必要溶接長 (L)	
				TYPE② L	TYPE③ L=L1+L2
C-100 × 50 × 5 × 7.5	166	9 × 130	5-M20	161	177
C-125 × 65 × 6 × 8	248	9 × 180	6-M20	229	245
C-150 × 75 × 6.5 × 10	334	9 × 240	8-M20	295	311
C-150 × 75 × 9 × 12.5	434	9 × 300	9-M20	382	398
C-200 × 90 × 8 × 13.5	540	12 × 300	10-M20	394	414
2 C-100 × 50 × 5 × 7.5	508	12 × 205	5-M20	288	308
2 C-125 × 65 × 6 × 8	742	16 × 220	6-M20	327	353
2 C-150 × 75 × 6.5 × 10	1,022	16 × 305	8-M20	440	466
2 C-150 × 75 × 9 × 12.5	1,309	16 × 380	10-M20	557	583
2 C-200 × 90 × 8 × 13.5	1,618	19 × 410	12-M20	565	597

ガセットプレートの種類

Le: 必要溶接長さ (mm)
S: すみ肉溶接のサイズ (mm)



タイプ① L ≥ Le
タイプ② L ≥ Le/2+2S
タイプ③ L1, L2 ≥ Le/4+2S

工事名称	(仮称)新港ふ頭10号上層建設工事(本体)	工事年度	令和7年度
工事場所	那覇市港町1丁目204番地・205番地	図面名称	ブレース仕口標準図
発注機関	那覇港管理組合 企画建設部 計画建設課	縮 尺	A1:1/***・A3:1/***
摘 要		図面番号	S-08
検 印	管理建築士	設 計	製 図
	設 計	製 図	設 計
	設 計	製 図	製 図
資格者氏名	新里 均	資格者氏名	新里 均
登録番号	一級建築士大臣登録第218581号	登録番号	一級建築士大臣登録第218581号
所在地	沖縄県宜野湾市普天間2-47-16	所在地	沖縄県宜野湾市普天間2-47-16

令第129条の2の3の事項

※設計が該当する場合には、□にチェックを記入する。

- ・ 建築物に設ける建築設備にあつては、構造耐力上安全なものとして、以下の構造方法による。
 - 建築設備（昇降機を除く。）、建築設備の支持構造部及び緊結金物は、腐食又は腐朽のおそれがないものとする。
 - 屋上から突出する水槽、煙突、冷却塔その他これらに類するものは、支持構造部又は建築物の構造耐力上主要な部分に、支持構造部は、建築物の構造耐力上主要な部分に、緊結すること。
 - 煙突の屋上突出部の高さは、れんが造、石造、コンクリートブロック造又は無筋コンクリート造の場合は鉄製の支枠を設けたものを除き、90cm以下とすること。
 - 煙突で屋内にある部分は、鉄筋に対するコンクリートのかぶり厚さを5cm以上とした鉄筋コンクリート造又は厚さが25cm以上の無筋コンクリート造、れんが造、石造若しくはコンクリートブロック造とすること。
 - 建築物に設ける給水、排水その他の配管設備は、
 - 風圧、土圧及び水圧並びに地震その他の震動及び衝撃に対して安全上支障のない構造とすること。
 - 建築物の部分を通して配管する場合には、当該貫通部分に配管スリーブを設ける等有効な管の損傷防止のための措置を講ずること。
 - 管の伸縮その他の変形により当該管に損傷が生ずるおそれがある場合において、伸縮継手又は可撓継手を設ける等有効な損傷防止のための措置を講ずること。
 - 管を支持し、又は固定する場合には、つり金物又は防振ゴムを用いる等有効な地震その他の震動及び衝撃の緩和のための措置を講ずること。
 - 法第20条第一号から第三号までの建築物に設ける屋上から突出する水槽、煙突その他これらに類するものにあつては建設省告示第1389号により、風圧並びに地震その他の震動及び衝撃に対して構造耐力上安全なものとする。
 - 給湯設備※は、風圧、土圧及び水圧並びに地震その他の振動及び衝撃に対して安全上支障のない構造とすること。満水時の質量が15kgを超える給湯設備については、地震に対して安全上支障のない構造として、平成12年建設省告示第1388号第5に規定する構造方法によること。
- ※「給湯設備」：建設物に設ける電気給湯器その他の給湯設備で、屋上水槽等のうち給湯設備に該当するものを除いたもの

工事名称	(仮称)新港ふ頭10号上屋建設工事(本体)	工事年度	令和7年度
工事場所	那覇市港町1丁目204番地・205番地	図面名称	設備工事構造特記仕様書
発注機関	那覇港管理組合 企画建設部 計画建設課	縮尺	A1:1/****・A3:1/****
摘要		図面番号	S-09
検印	管理建築士	設計	製図
	資格者氏名	新里 均	
	登録番号	一級建築士大臣登録第218581号	
	所在地	沖縄県宜野湾市普天間2-47-16	

Hyper-MEGA工法 特記仕様書

1. 一般事項

- 1) 本工事に採用する工法は「Hyper-MEGA工法」(認定番号：TACP-0527号, TACP-0528号, TACP-0529号, TACP-0530号, TACP-0531号, TACP-0532号)とする。
- 2) 工事着手前に、工事概要・工程・使用する杭の明細・使用機械等を明記した施工計画書を作成し、監督員の承認を得る。
- 3) 工事施工者および管理者は、日本コンクリート工業㈱・ジャパンパイル㈱もしくは日本コンクリート工業㈱・ジャパンパイル㈱が承認した施工会社とする。ただし、後者の場合でも地盤の許容支持力については、日本コンクリート工業㈱・ジャパンパイル㈱が責任を負う。

2. 使用杭

1) 杭の構造

使用する杭は下記のものとする。

- ①平成13年国土交通省告示第1113号8号第二号、第三号、第四号、第五号及び第六号の何れかに基づきコンクリートの許容応力度が規定された既製コンクリート。
- ②建築基準法施工令第90条、平成12年国土交通省告示第2464号第1、第2に基づき鋼材の許容応力度が規定された鋼管。

2) 杭の構成

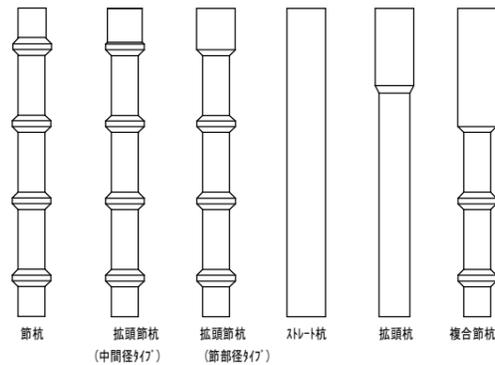
節杭(拡頭節杭を含む)のみ、または節杭(拡頭節杭を含む)とこの上方に継いで使用するスリット杭(拡頭杭を含む)により基礎杭を構成する。なお、下杭には必ず節杭(拡頭節杭を含む)を使用する。

3) 杭径

- ①節杭(拡頭節杭を含む)の径は、以下のものとする。
節部径 $\phi 1200 \sim \phi 450$
軸部径 $\phi 1000 \sim \phi 300$
- ②スリット杭(拡頭杭を含む)の径は、以下のものとする。
杭径 $\phi 298.4 \sim \phi 1200$

4) 杭姿図

使用する杭の姿図の例を示す。



5) 最大施工深さ

最大施工深さは、先端地盤が砂質地盤の場合は杭施工地盤面-68.0m、先端地盤が礫質地盤の場合は施工地盤面+68.0m、先端地盤が粘土質地盤の場合は杭施工地盤面-60.0mとする。

3. 試験杭

- 1) 試験杭の位置および数量は、地盤調査・敷地状況・建築物の平面計画等を考慮し、設計者・監督員と協議して決定する。
- 2) 試験杭は、本工事に先立ち、設計・施工計画の妥当性を確認するために実施する。
- 3) 試験杭は、本工事と同一寸法の杭を用いることを原則とし、施工性能、地盤の崩壊、逸水の有無および高止まり量等の観察と確認を行い、本杭の施工の参考とする。

4. 施工方法

本工法の標準的な施工手順を下图に示し、その概要を以下に記述する。

①施工機据え付け・杭芯セット

掘削芯を確認しつつ、適宜、掘削液を送りながら地盤に適した速度で所定の位置まで掘削する。

②くい周面築造

先端部でオガーを逆転させ、充填液を吐出しながら、所定の深度まで、引き上げる。

③再掘削・くい周面築造

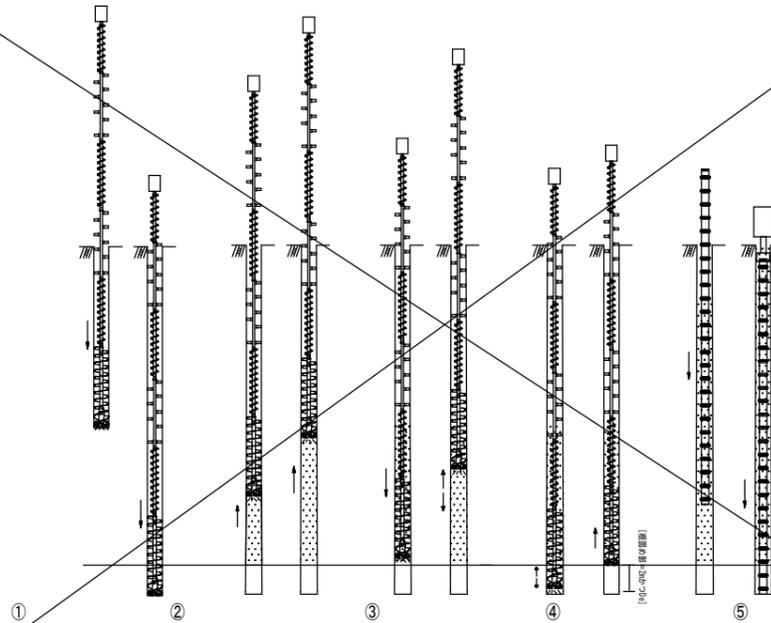
正転に切り替えて、掘削した後、再度逆転にてオガーを上下反復して、充填液と掘削土砂とを混合攪拌し、逆転で所定深度に到達するまで且つ3回以上これを繰り返す。

④根固め部築造・引き上げ

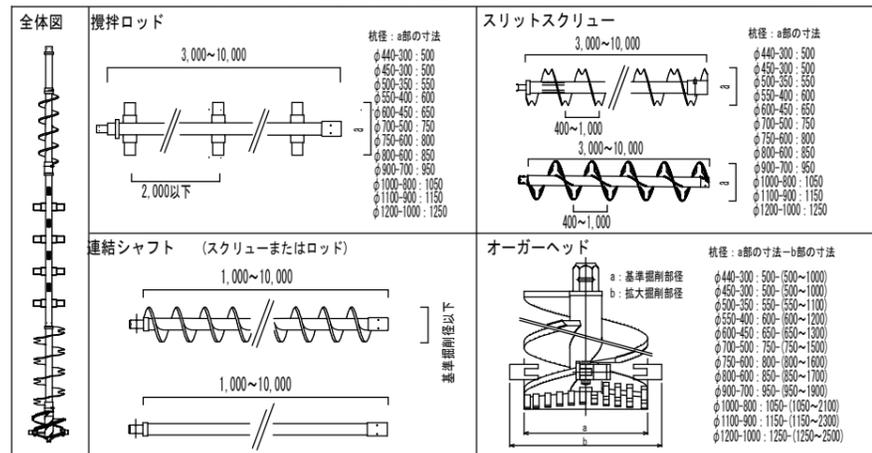
所定範囲にて根固め液を注入しながら、根固め部で上下反復を3回以上、且つ3分以上、混合攪拌し根固め部を築造した後、オガーを引き上げる。

⑤杭の建て込み

鉛直性を確認しながら杭を建て込み、所定位置に定着させる。



5. 掘削装置の形状および寸法



(単位: mm)

6. 充填材の配合と管理

1) 材料

- 1) セメントは、普通ポルトランドセメント、早強セメントおよび混合セメントを用いる。
- 2) 練り混ぜに使用する水は、上水道水またはセメント硬化に悪影響のない水とする。

2) 杭周充填液 (W/C=100%・圧縮強さ: 10N/mm²)

杭周充填液は、杭体と地盤とを一体化させる目的で注入する。

杭周充填液材料の基準量(対象土1m³あたり)を下表に示す。

セメント種類	水セメント比 W/C (%)	セメント C (kg)	水 W (%)	注入量 (m ³)
普通ポルトランドセメント	100	380	380	0.500
高炉セメントB種	100	377	377	0.500

*普通ポルトランドセメント: 比重3.16, 高炉セメント: 比重3.05

3) 根固め液

杭先端部に、先端支持力を確保するために拡大根固め部の体積量を注入し、杭先端平均N値(N)と拡大比(α)に応じて、水セメント比は下記を標準とする

拡大比	水セメント比		
	N ≤ 20	20 < N ≤ 40	40 < N
1.0 ≤ α ≤ 1.25	65% (22N/mm ²)	65% (22N/mm ²)	65% (22N/mm ²)
1.25 < α ≤ 1.75	65% (22N/mm ²)	60% (25N/mm ²)	60% (25N/mm ²)
1.75 < α ≤ 2.0	65% (22N/mm ²)	60% (25N/mm ²)	55% (30N/mm ²)

* () 内は、管理強度

4) 強度の管理

管理試験は、充填液について下表により行う。

杭の種類	回数	
試験杭	1本毎	
本杭	継ぎ手のある場合	20本またはその端数につき1回
	継ぎ手のない場合	30本またはその端数につき1回

- 1) 1回の試験の、供試体の数は杭周充填液および根固め液を各3個とする。
- 2) 供試体は、(社)土木学会「コンクリート標準示方書(規準編)」のブリージング率および膨張率試験方法案(体積方法)によるポリエチレン袋を用いて、グラウトプラントより採取し、直径50mm・高さ100mm程度の円柱形に仕上げる。
- 3) 圧縮試験は、JIS A 1108 (コンクリートの圧縮試験方法)による。
- 4) 充填液の圧縮強さは、材齢28日として管理する。(上記3) 根固め液 参照)

7. 施工記録

試験杭および本工事完了後、下記事項を記録した施工報告書を作成し、提出する。

1. 工事概要
2. 実施工程表
3. 使用杭の仕様
4. 充填液の材料・配合・使用量
5. 施工機械の仕様
6. 試験杭または試験掘削の記録
7. 本杭施工記録
8. その他必要事項

8. 安全・公害対策

1) 安全対策

1. 災害の種類

杭の施工に伴って発生する労働災害には、杭打機の転倒・接触、挟まれ巻き込まれ・衝突・飛来落下・墜落・感電等がある。

2. 災害の防止

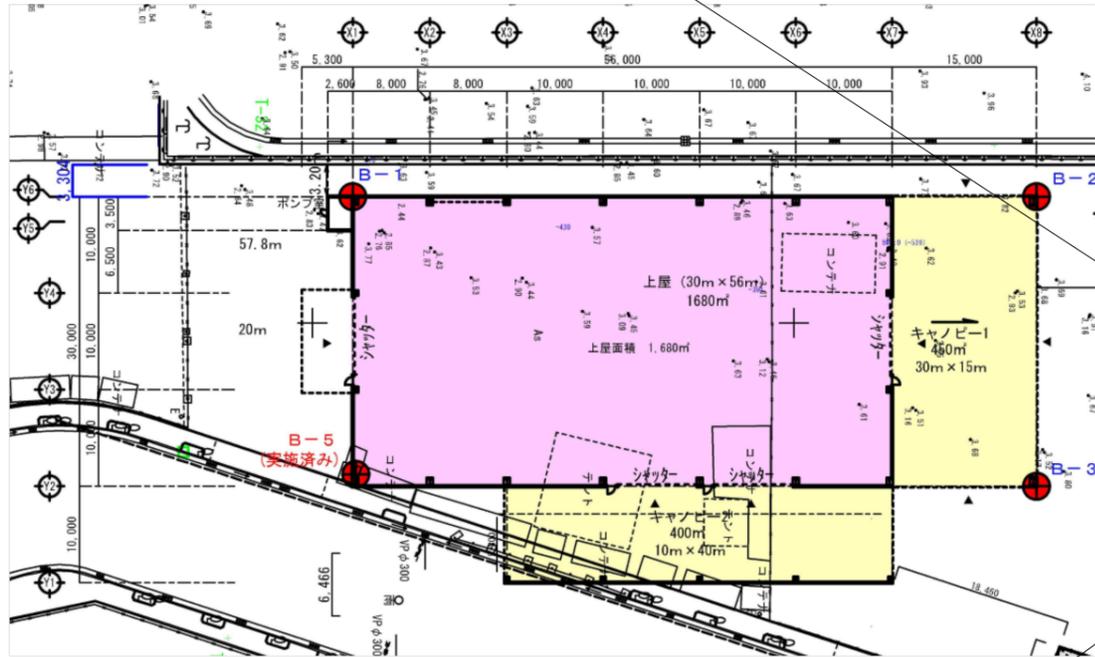
- a) 作業指揮者および作業者は、予め定めた手順に従って規律ある正しい作業を行い、安全活動には全面的・積極的に参加する。
- b) 各種機械の運転者は、使用する機械器具の使用前点検を行い、損傷・変形・機能不具合等があれば修理・交換等必要な措置を講じ、その記録を残す。
- c) 杭打機の組立・据え付け・解体は、予め定めた計画に基づき、作業指揮者の指揮のもとに行う。
- d) 現場内の作業地盤は平坦にし、軟弱地盤の場合は転倒防止のためにサンドマット・敷き鉄板・地盤改良等で補強を行う。
- e) 杭打機等機械器具の運転は専任の者によることとし、資格を要する作業は必ず有資格者が行う。
- f) 鉄道・道路・高圧架線・電灯線・通信線・建築物・地下埋設物等既存のものに近接して作業を行う場合は、元請業者と打ち合わせを行い、関係者の立ち会いを求める等して事故防止につとめる。
- g) 作業者または第三者の接触・挟まれ・転落落下をおこさないように、立入禁止措置または監視・誘導を充分に行う。
- h) 現場での作業開始前に、作業員全員による打ち合わせ・確認を行い、作業者の配置(役割分担)を定め、元請業者への届け出を行う。

2) 公害対策

本工法の施工に伴って発生する可能性のある公害は、騒音・振動・粉塵地盤沈下・地下水汚染・泥土や泥水の場外流出による汚損・土砂の飛散等がある。これらが発生して、近隣環境や第三者に影響を及ぼすことのないよう留意して施工する。

一級建築士事務所 東京都知事登録 第63438号 株式会社U'plan
一級建築士大臣登録第350502号 構造設計一級建築士第10339号 尾崎 光

工事名称	(仮称)新港ふ頭10号上屋建設工事(本体)	工事年度	令和7年度
工事場所	那覇市港町1丁目204番地・205番地	図面名称	Hyper-MEGA工法 特記仕様書
発注機関	那覇港管理組合 企画建設部 計画建設課	縮尺	A1:1/***・A3:1/***
摘要	管理建築士 設 計 製 図	図面番号	S-10
		設 名 称	(株)アーキ5D
検 印		資格者氏名	新里 均
		登録番号	一級建築士大臣登録第218581号
		所在地	沖縄県宜野湾市普天間2-47-16



地盤調査位置図

設計GL = 4.05m (標高)

ボーリング柱状図

調査名		新港ふ頭上屋建設設計業務委託 (土質調査)	
事業・工事名		新港ふ頭 10号上屋	
ボーリングNo		R5B-1	
調査位置		新港ふ頭 10号上屋	
発注機関		那覇港管理組合	
調査業者名		株式会社 南土木設計 (068-836-5579)	
主任技師		玉城 篤	
現場代理人		宮里 盛行	
確認者		コ ア	
ボーリング責任者		具志堅 弘和	
孔口標高		3.97m	
総掘進長		76.35m	
調査期間		令和 5年 9月 20日 ~ 5年 9月 26日	
試験機		D0-D (II)	
ハンマー落下用具		半自動落下装置	
ポンプ		YS550	
エンジン		TF-90	

標高 (m)	層厚 (m)	柱状図	土質	色	相対密度	相対湿度	相対含水量	記	孔内水位 (m)	標準貫入試験 (N)	原位置試験	試験名	試験結果	室内試験	掘進月日
4.05	0.00		黄褐色シルト	黄褐色	0.60	18.00	29.10	上部はアスファルトで覆われ、所々に石灰岩塊を混入する。	33.000	2.2					
3.97	0.08		黄褐色シルト	黄褐色	0.60	18.00	29.10	不規則にアスファルト、路盤材などを点在する。	33.000	1.1					
3.89	0.08		黄褐色シルト	黄褐色	0.60	18.00	29.10	柱状の多い箇所もみられる。	33.000	1.1					
3.81	0.08		黄褐色シルト	黄褐色	0.60	18.00	29.10	神積砂層 概して20~30mm程度のサンゴ殻やサンゴ殻断片。	33.000	1.1					
3.73	0.08		黄褐色シルト	黄褐色	0.60	18.00	29.10	全体的に含水比が高く、脆弱でシルト分が多い箇所が存在する。	33.000	1.1					
3.65	0.08		黄褐色シルト	黄褐色	0.60	18.00	29.10	神積シルト層 概して20~30mm程度のサンゴ殻やサンゴ殻断片。22.0m付近は、若干層分が多いが概して脆く容易に割れる。	33.000	1.1					
3.57	0.08		黄褐色シルト	黄褐色	0.60	18.00	29.10	サンゴ殻を伴った脆弱な状態。	33.000	1.1					
3.49	0.08		黄褐色シルト	黄褐色	0.60	18.00	29.10	高含水のシルト 概して細砂。	33.000	1.1					
3.41	0.08		黄褐色シルト	黄褐色	0.60	18.00	29.10	神積粘土層 シルト若干混在。	33.000	1.1					
3.33	0.08		黄褐色シルト	黄褐色	0.60	18.00	29.10	塊状石灰岩 強風化粘土。	33.000	1.1					
3.25	0.08		黄褐色シルト	黄褐色	0.60	18.00	29.10	全体的に含水比は高~中位で、ほぼ均質な層状。	33.000	1.1					
3.17	0.08		黄褐色シルト	黄褐色	0.60	18.00	29.10		33.000	1.1					
3.09	0.08		黄褐色シルト	黄褐色	0.60	18.00	29.10		33.000	1.1					
3.01	0.08		黄褐色シルト	黄褐色	0.60	18.00	29.10		33.000	1.1					
2.93	0.08		黄褐色シルト	黄褐色	0.60	18.00	29.10		33.000	1.1					
2.85	0.08		黄褐色シルト	黄褐色	0.60	18.00	29.10		33.000	1.1					
2.77	0.08		黄褐色シルト	黄褐色	0.60	18.00	29.10		33.000	1.1					
2.69	0.08		黄褐色シルト	黄褐色	0.60	18.00	29.10		33.000	1.1					
2.61	0.08		黄褐色シルト	黄褐色	0.60	18.00	29.10		33.000	1.1					
2.53	0.08		黄褐色シルト	黄褐色	0.60	18.00	29.10		33.000	1.1					
2.45	0.08		黄褐色シルト	黄褐色	0.60	18.00	29.10		33.000	1.1					
2.37	0.08		黄褐色シルト	黄褐色	0.60	18.00	29.10		33.000	1.1					
2.29	0.08		黄褐色シルト	黄褐色	0.60	18.00	29.10		33.000	1.1					
2.21	0.08		黄褐色シルト	黄褐色	0.60	18.00	29.10		33.000	1.1					
2.13	0.08		黄褐色シルト	黄褐色	0.60	18.00	29.10		33.000	1.1					
2.05	0.08		黄褐色シルト	黄褐色	0.60	18.00	29.10		33.000	1.1					
1.97	0.08		黄褐色シルト	黄褐色	0.60	18.00	29.10		33.000	1.1					
1.89	0.08		黄褐色シルト	黄褐色	0.60	18.00	29.10		33.000	1.1					
1.81	0.08		黄褐色シルト	黄褐色	0.60	18.00	29.10		33.000	1.1					
1.73	0.08		黄褐色シルト	黄褐色	0.60	18.00	29.10		33.000	1.1					
1.65	0.08		黄褐色シルト	黄褐色	0.60	18.00	29.10		33.000	1.1					
1.57	0.08		黄褐色シルト	黄褐色	0.60	18.00	29.10		33.000	1.1					
1.49	0.08		黄褐色シルト	黄褐色	0.60	18.00	29.10		33.000	1.1					
1.41	0.08		黄褐色シルト	黄褐色	0.60	18.00	29.10		33.000	1.1					
1.33	0.08		黄褐色シルト	黄褐色	0.60	18.00	29.10		33.000	1.1					
1.25	0.08		黄褐色シルト	黄褐色	0.60	18.00	29.10		33.000	1.1					
1.17	0.08		黄褐色シルト	黄褐色	0.60	18.00	29.10		33.000	1.1					
1.09	0.08		黄褐色シルト	黄褐色	0.60	18.00	29.10		33.000	1.1					
1.01	0.08		黄褐色シルト	黄褐色	0.60	18.00	29.10		33.000	1.1					
0.93	0.08		黄褐色シルト	黄褐色	0.60	18.00	29.10		33.000	1.1					
0.85	0.08		黄褐色シルト	黄褐色	0.60	18.00	29.10		33.000	1.1					
0.77	0.08		黄褐色シルト	黄褐色	0.60	18.00	29.10		33.000	1.1					
0.69	0.08		黄褐色シルト	黄褐色	0.60	18.00	29.10		33.000	1.1					
0.61	0.08		黄褐色シルト	黄褐色	0.60	18.00	29.10		33.000	1.1					
0.53	0.08		黄褐色シルト	黄褐色	0.60	18.00	29.10		33.000	1.1					
0.45	0.08		黄褐色シルト	黄褐色	0.60	18.00	29.10		33.000	1.1					
0.37	0.08		黄褐色シルト	黄褐色	0.60	18.00	29.10		33.000	1.1					
0.29	0.08		黄褐色シルト	黄褐色	0.60	18.00	29.10		33.000	1.1					
0.21	0.08		黄褐色シルト	黄褐色	0.60	18.00	29.10		33.000	1.1					
0.13	0.08		黄褐色シルト	黄褐色	0.60	18.00	29.10		33.000	1.1					
0.05	0.08		黄褐色シルト	黄褐色	0.60	18.00	29.10		33.000	1.1					

▽設計GL = 孔口標高+80mm

△杭頭レベル = 設計GL-1100mm

△杭先端レベル = 設計GL-34100mm

調査地点 B-1

工事名称	(仮称)新港ふ頭10号上屋建設工事(本体)	工事年度	令和7年度
工事場所	那覇市港町1丁目204番地・205番地	図面名称	地盤調査位置図・柱状図(1)
発注機関	那覇港管理組合 企画建設部 計画建設課	縮尺	A1:1/****・A3:1/****
摘要		図面番号	S-11
検印	管理建築士 設 計 製 図	設 名 称	(株)アーキ5D
		資格者氏名	新里 均
		登録番号	一級建築士大臣登録第218581号
		所在地	沖縄県宜野湾市普天間2-47-16

ボーリング柱状図

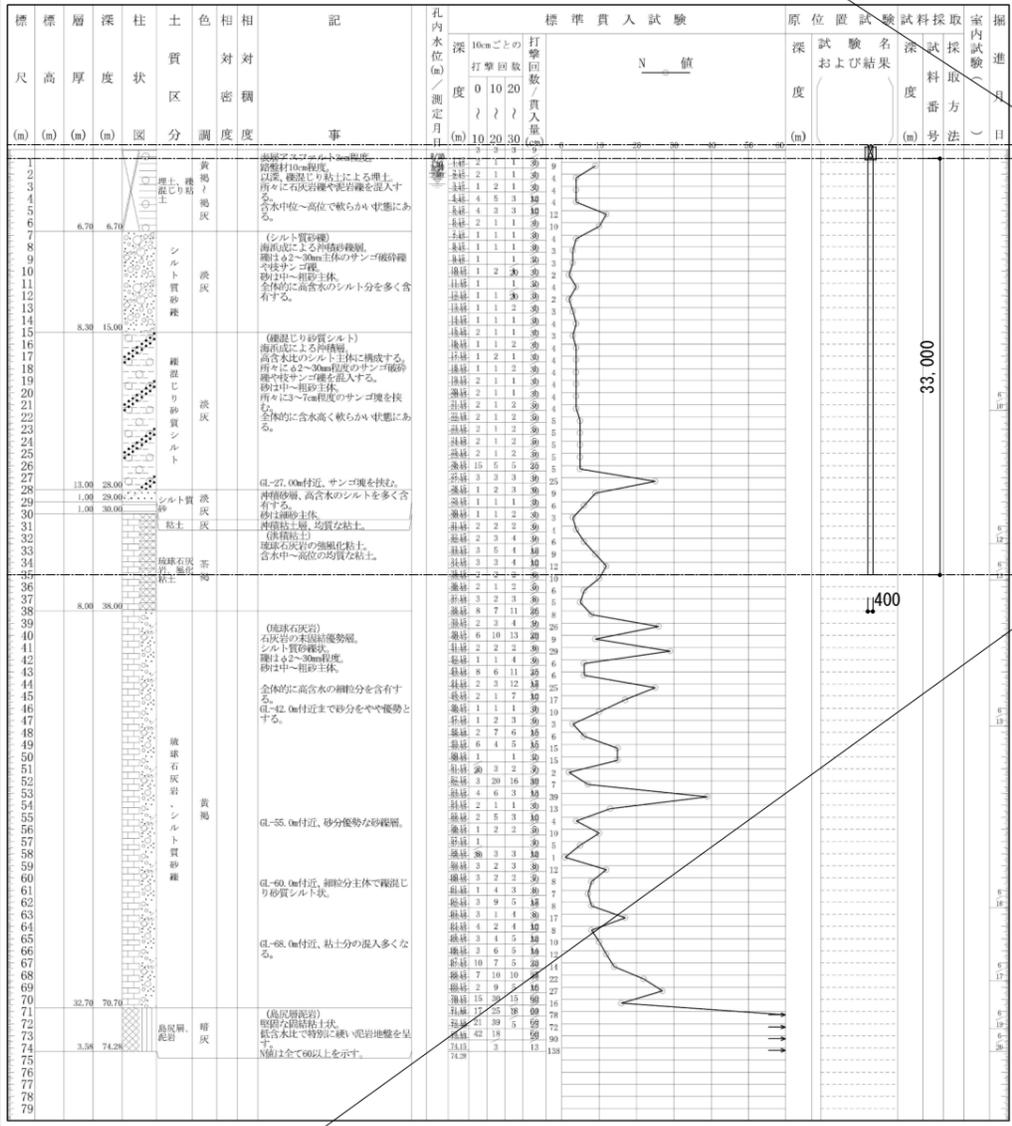
調査名 新港ふ頭上屋建設設計業務委託 (R4)

ボーリングNo

事業・工事名

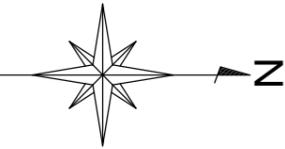
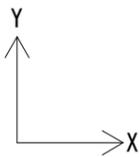
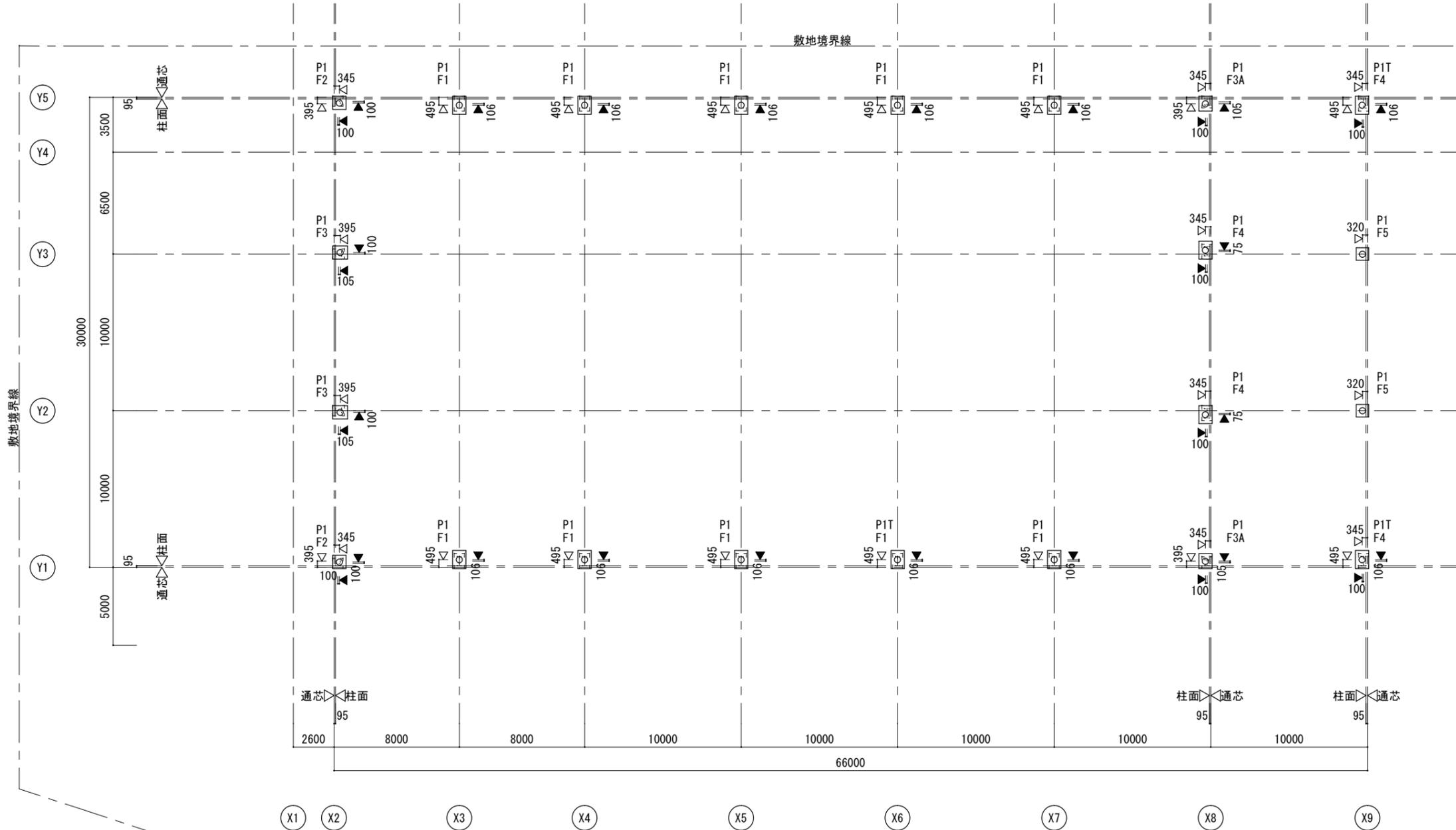
シートNo

ボーリング名	(10号上屋) R4B-5	調査位置	那覇港新港ふ頭地区	北緯
発注機関	那覇港管理組合	調査期間	令和5年月日～年月日	東経
調査業者名	(株式会社) 南土木設計 電話 (098-836-5579)	主任技師	吉田 康平	現場代理人
調査員	角 180° 上 90° 下 90°	方 北 0° 西 270° 東 90° 南 180°	地盤勾配	使用機種
ボーリング責任者	宮里 盛行	試験機	YBM-05	ハンマー落下用具
ボーリング責任者	宮里 盛行	エンジン	NFD-9	ポンプ
ボーリング責任者	宮里 盛行	半自動落下装置		NSR-55
ボーリング責任者	宮里 盛行			



調査地点 B-5

工事名称	(仮称) 新港ふ頭10号上屋建設工事 (本体)	工事年度	令和7年度
工事場所	那覇市港町1丁目204番地・205番地	図面名称	地盤調査位置図・柱状図 (3)
発注機関	那覇港管理組合 企画建設部 計画建設課	縮尺	A1:1/****・A3:1/****
概要		図面番号	S-13
検印	管理建築士 設 計 製 図	設 名 称	(株) アーキ5D
		資格者氏名	新里 均
		登録番号	一級建築士大臣登録第218581号
		所在地	沖縄県宜野湾市普天間2-47-16



- 特記無き限り下記による。
- ▽は杭芯位置を示す。
 - ▼は偏心距離を示す。
 - 基礎底レベル = 設計GL-1200mm
 - 杭頭レベル = 設計GL-1100mm
 - 杭芯位置の施工報告書を提出すること
 - 杭芯の施工精度 水平方向のずれはD/4 (杭径D)、かつ100mm以下とする。
 - 上記以上の杭芯ズレが生じた場合は監督員・監理者・設計者との協議の上、施工者の責任により構造安全検討書を提出する事。
 - 構造安全検討書による図面の変更等があれば変更図面を提出する事。
 - 構造安全検討書・変更図面を指定検査機関へ報告する事。
 - (上記にともなう費用等は全て施工者の負担とする。)
 - 杭頭補強筋 (パイロスタッド) は本体工事とする。

杭伏図

Hyper-MEGA工法(標準型)粘土質地盤

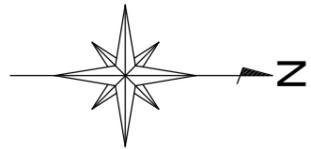
大臣認定番号 TACP-0529またはTACP-0532

符号	P1	P1T
杭長	33m	33m
径	上部(φ400)中下部(φ4055)	上部(φ400)中下部(φ4055)
上部	長さ	11.0m
	種類	PHC85-B
	長さ	11.0m
中部	長さ	11.0m
	種類	節杭-PHC85-A
	長さ	11.0m
下部	長さ	11.0m
	種類	節杭-PHC85-A
	長さ	11.0m
長期支持力(kN)	650	650
短期支持力(kN)	1300	1300

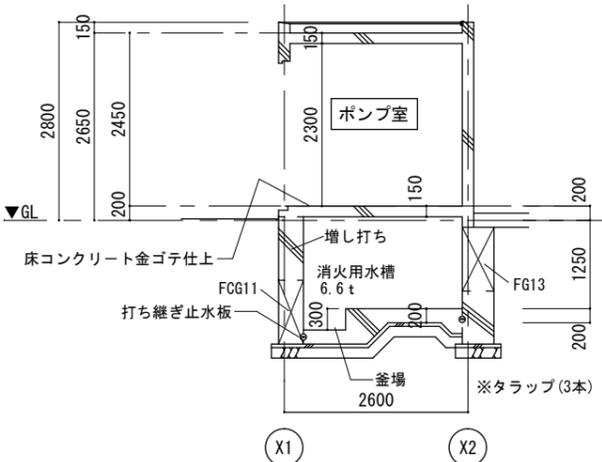
※杭のみ施工済

工事名称	(仮称)新港ふ頭10号上屋建設工事(本体)	工事年度	令和7年度
工事場所	那覇市港町1丁目204番地・205番地	図面名称	杭伏図
発注機関	那覇港管理組合 企画建設部 計画建設課	縮尺	A1:1/150・A3:1/300
摘要		図面番号	S-14
検印	管理建築士	設計	製図
	資格者氏名	新里 均	
	登録番号	一級建築士大臣登録第218581号	
所在地	沖縄県宜野湾市普天間2-47-16		

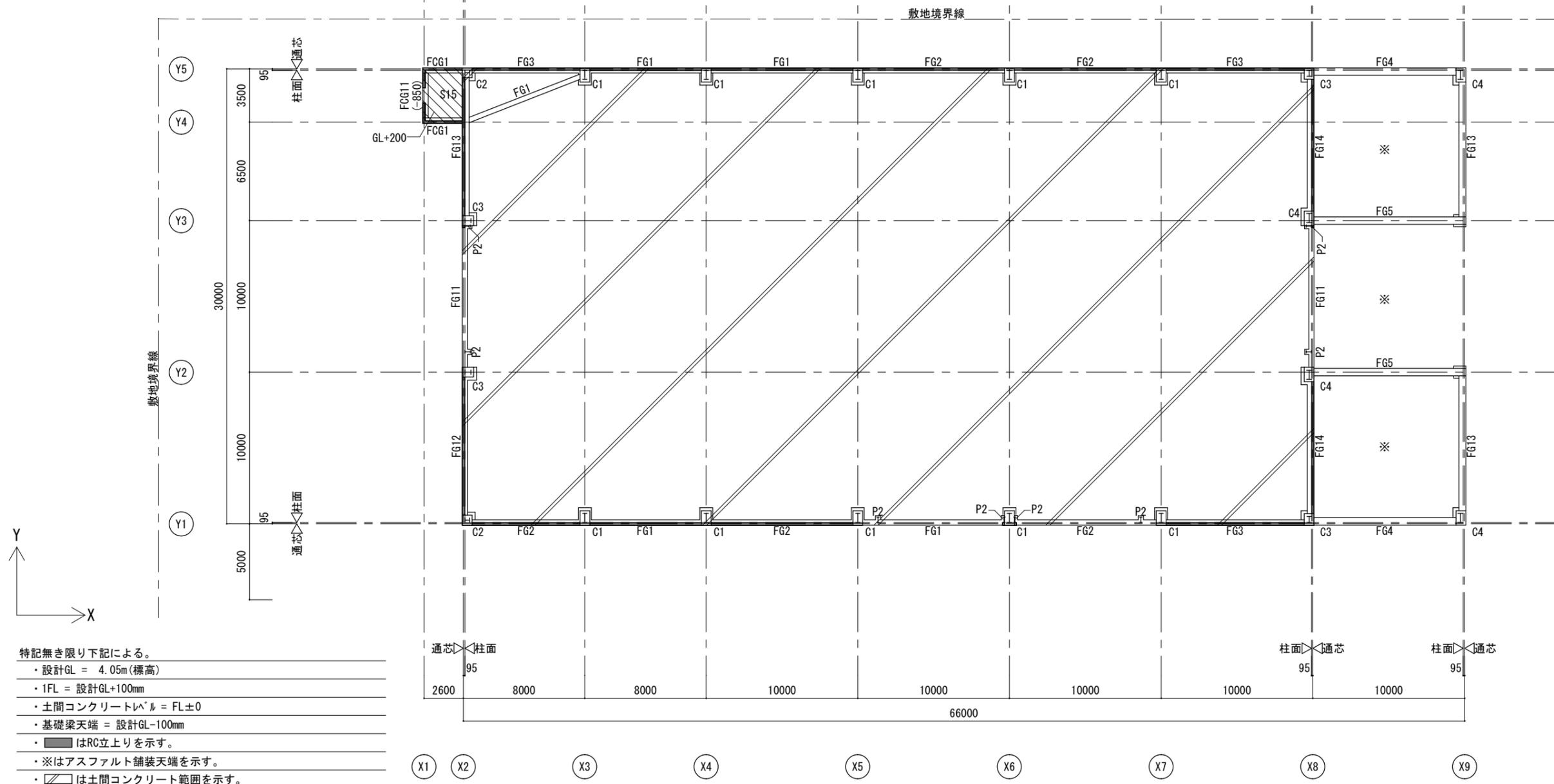
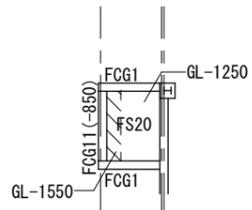
一級建築士事務所 東京都知事登録 第63438号 株式会社U'plan
一級建築士大臣登録第350502号 構造設計一級建築士第10339号 尾崎 光



ポンプ室断面詳細 1/100



ポンプ室GL-1250



- 特記無き限り下記による。
- ・設計GL = 4.05m(標高)
 - ・1FL = 設計GL+100mm
 - ・土間コンクリートレベル = FL±0
 - ・基礎梁天端 = 設計GL-100mm
 - ・■はRC立上りを示す。
 - ・※はアスファルト舗装天端を示す。
 - ・▨は土間コンクリート範囲を示す。
 - ・土間コンクリート下は十分な転圧締めを行うこと。
 - ・梁符号()内数字は標準梁天端からのレベルを示す。

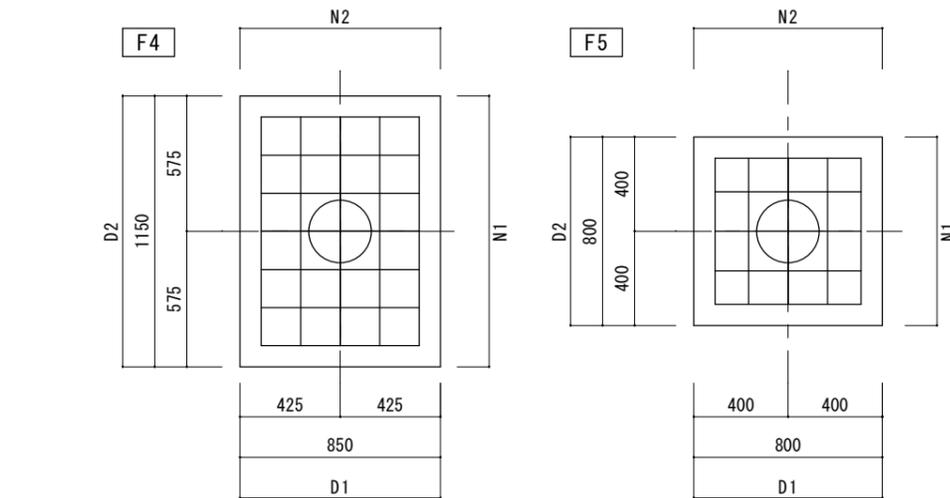
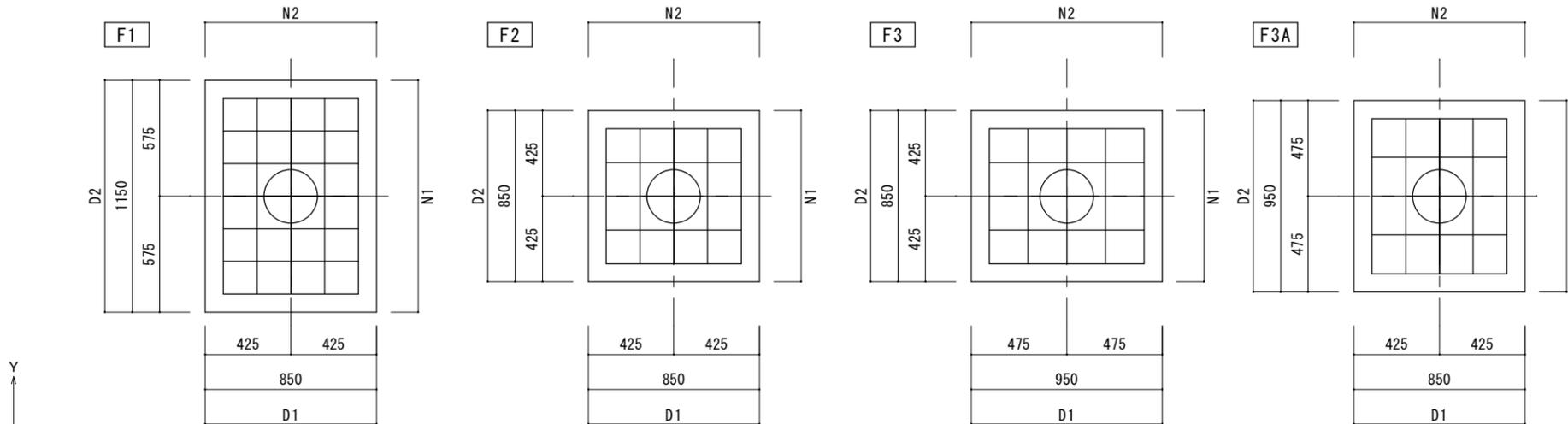
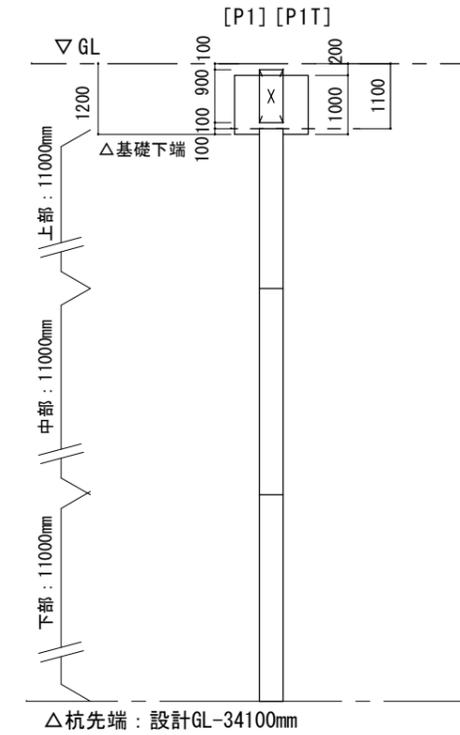
基礎伏図

工事名称	(仮称)新港ふ頭10号上屋建設工事(本体)	工事年度	令和7年度
工事場所	那覇市港町1丁目204番地・205番地	図面名称	基礎伏図
発注機関	那覇港管理組合 企画建設部 計画建設課	縮尺	A1:1/150・A3:1/300
摘要		図面番号	S-15
検印	管理建築士 設計 製 図	設 名 称	(株)アーキ5D
		資格者氏名	新里 均
		登録番号	一級建築士大臣登録第218581号
		所在地	沖縄県宜野湾市普天間2-47-16

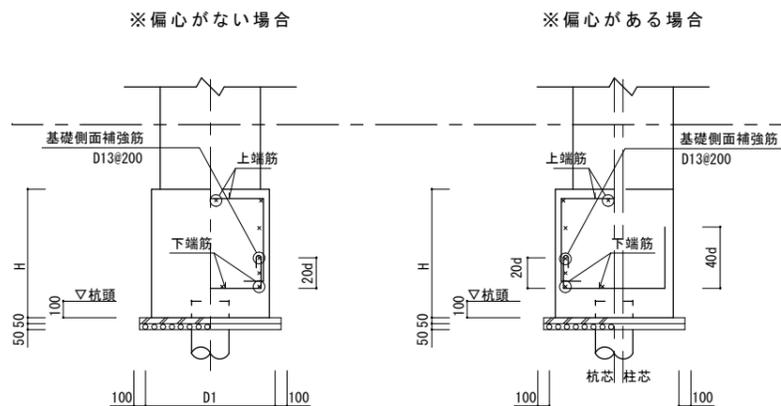
一級建築士事務所 東京都知事登録 第63438号 株式会社U'plan
一級建築士大臣登録第350502号 構造設計一級建築士第10339号 尾崎 光

基礎リスト

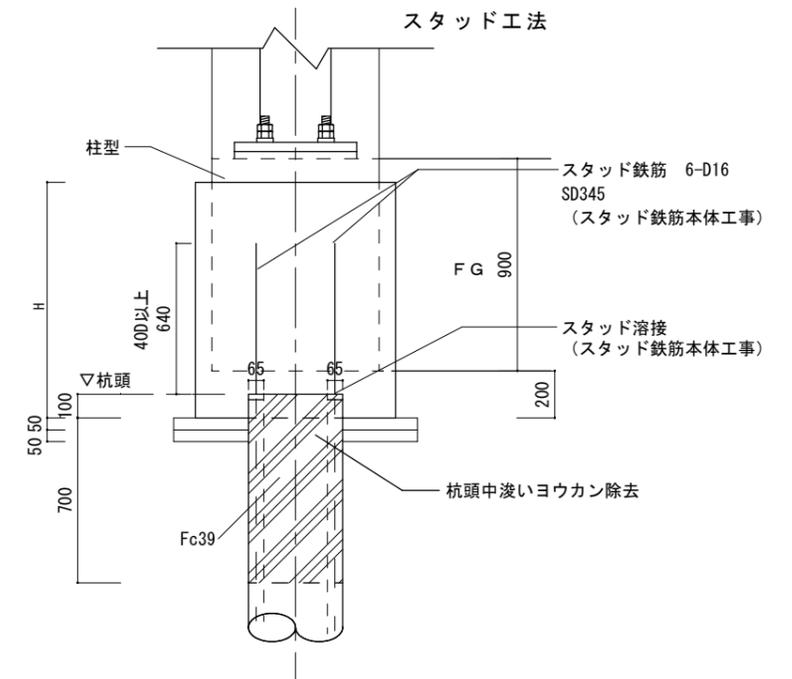
符号	D1	D2	H	Df	N1 ←→		N2 ↓		側面補強筋 XYともに	備考
					上端筋	下端筋	上端筋	下端筋		
F1	850	1150	1000	1200	7-D16	7-D16	5-D16	5-D16	D13@200	
F2	850	850	1000	1200	5-D16	5-D16	5-D16	5-D16	D13@200	
F3	950	850	1000	1200	5-D16	5-D16	5-D16	5-D16	D13@200	
F3A	850	950	1000	1200	5-D16	5-D16	5-D16	5-D16	D13@200	
F4	850	1150	1000	1200	5-D16	5-D16	5-D16	5-D16	D13@200	
F5	800	800	1000	1200	5-D16	5-D16	5-D16	5-D16	D13@200	



基礎配筋要領図



杭頭接合 要領図

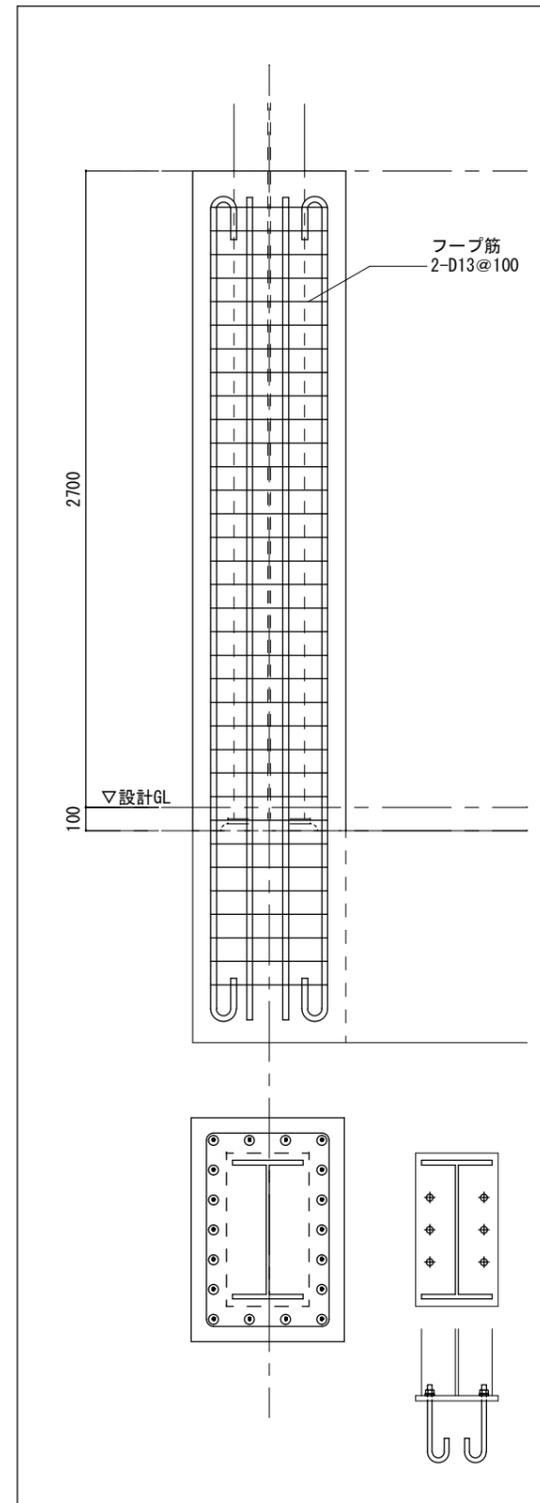


工事名称	(仮称)新港ふ頭10号上屋建設工事(本体)	工事年度	令和7年度
工事場所	那覇市港町1丁目204番地・205番地	図面名称	杭・基礎リスト
発注機関	那覇港管理組合 企画建設部 計画建設課	縮尺	A1:1/****・A3:1/****
摘要		図面番号	S-16
設計	管理建築士 設計 製 図	設 名	(株)アーキ5D
検 印		資格者氏名	新里 均
		登録番号	一級建築士大臣登録第218581号
		所在地	沖縄県宜野湾市普天間2-47-16

符号	FG1		FG2		FG3		FG4		FG5			FG11	
	端部	中央	端部	中央	端部	中央	端部	中央	左端	中央	右端	端部	中央
断面													
寸法	350×900		350×900		350×900		500×900		500×900			350×900	
上端筋	2/1-D25	2-D25	3/2-D25	3-D25	3/3-D25	3-D25	4/2-D25	4-D25	4/2-D25	4-D25	4-D25	2/1-D25	2-D25
下端筋	2-D25	2/1-D25	3-D25	3/2-D25	3-D25	3/3-D25	4-D25	4-D25	4/2-D25	4/2-D25	4-D25	2-D25	2/1-D25
あばら筋	3-D13@150		3-D13@150		3-D13@150		2-D13@200		2-D13@200			3-D13@150	
腹筋	4-D10		4-D10		4-D10		4-D10		4-D10			4-D10	

符号	FG12		FG13	FG14		FCG1		FCG11	
	端部	中央	全断面	端部	中央	元端	先端	端部	中央
断面									
寸法	350×900		450×900	450×900		350×900		350×900	
上端筋	3/3-D25	3-D25	4/3-D25	4/4-D25	4/2-D25	3/3-D25	3-D25	3/3-D25	3-D25
下端筋	3/2-D25	3/3-D25	4/3-D25	4/4-D25	4/2-D25	3-D25	3-D25	3-D25	3-D25
あばら筋	3-D13@150		2-D13@150	2-D13@150		2-D10@200		2-D10@200	
腹筋	4-D10		4-D10	4-D10		4-D10		4-D10	

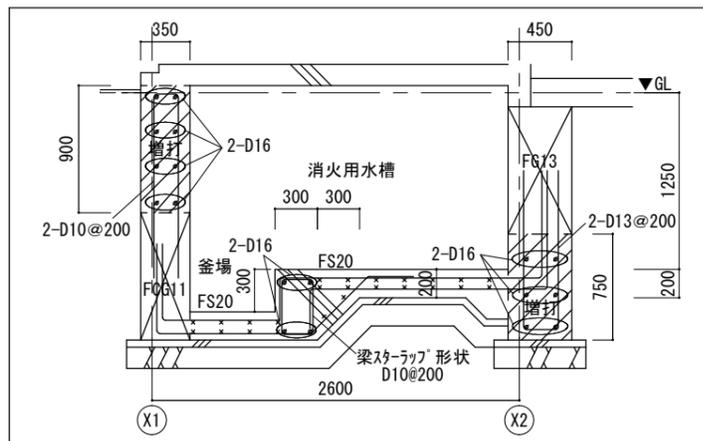
使用材料		
鉄筋 (JIS A 3112)	SD295A	D10~D16
	SD345	D19~D25
	SD390	D29
コンクリート (JIS G 5308)	Fc39	基礎及び基礎梁、スラブ
	Fc24	土間コン
	Fc18	捨てコン



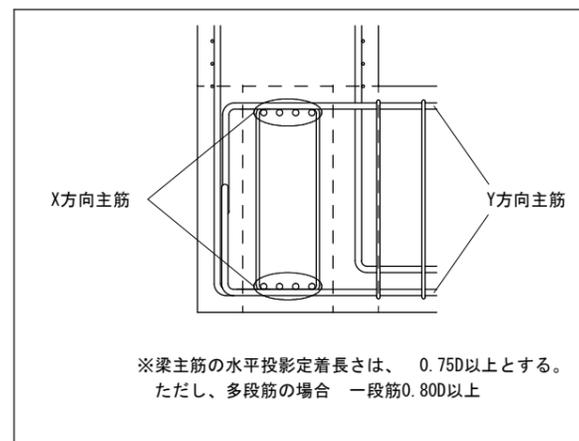
スラブリスト

符号	版厚	位置	主筋方向	配筋方向	備考
土間コンクリート	200	-	D10@200	D10@200	シングル
S15	150	上端筋	D10D13@200	D10D13@200	ダブル
		下端筋	D10@200	D10@200	
FS20	200	上端筋	D13@200	D13@200	ダブル
		下端筋	D13@200	D13@200	

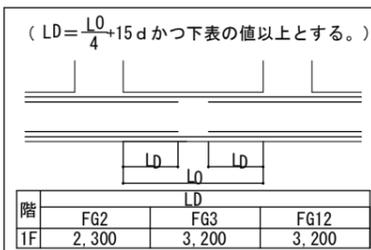
増し打ち部配筋要領



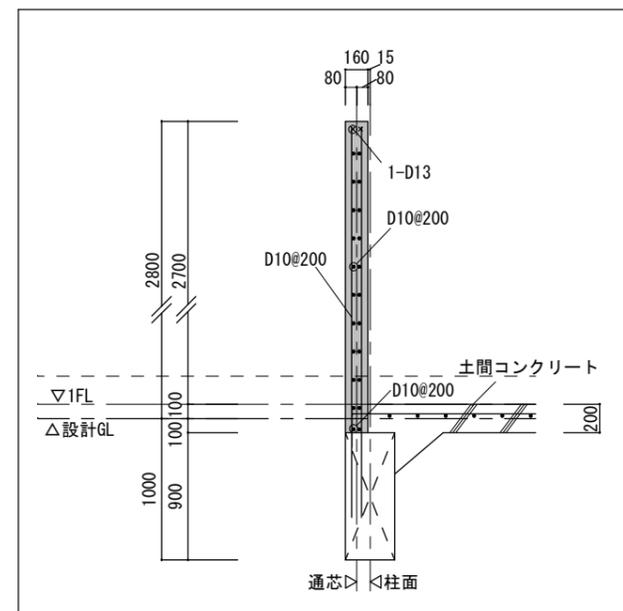
基礎梁配筋要領



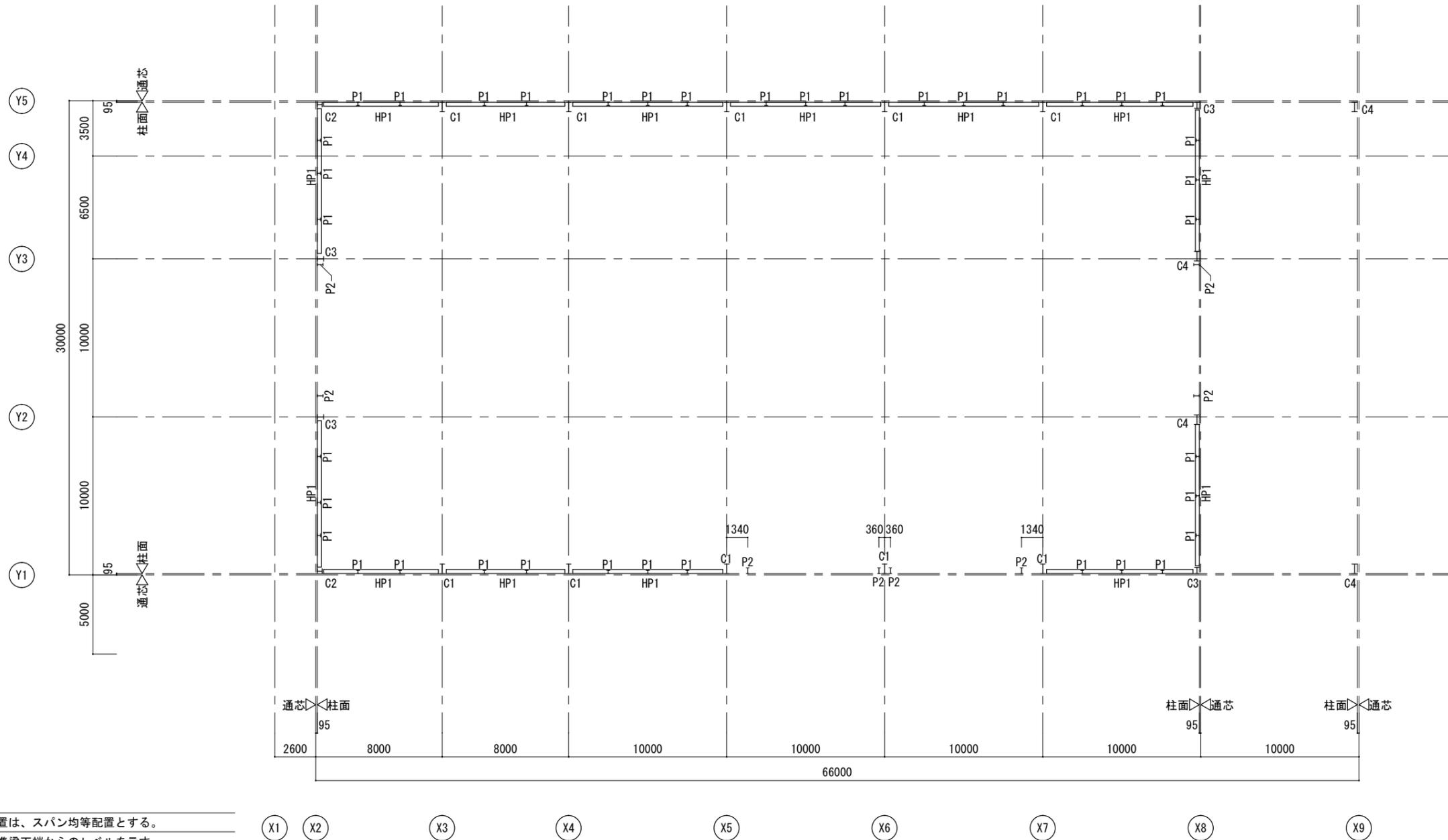
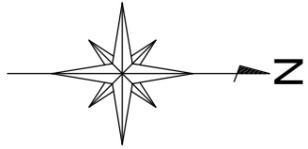
梁主筋のカットオフ位置



RC立上り詳細図 1/50



工事名称	(仮称)新港ふ頭10号上屋建設工事(本体)	工事年度	令和7年度
工事場所	那覇市港町1丁目204番地・205番地	図面名称	基礎部材リスト
発注機関	那覇港管理組合 企画建設部 計画建設課	縮尺	A1:1/****・A3:1/****
摘要		図面番号	S-17
検印	管理建築士 設計 製 図	設 名	(株)アーキ5D
		資格者氏名	新里 均
		登録番号	一級建築士大臣登録第218581号
		所在地	沖縄県宜野湾市普天間2-47-16

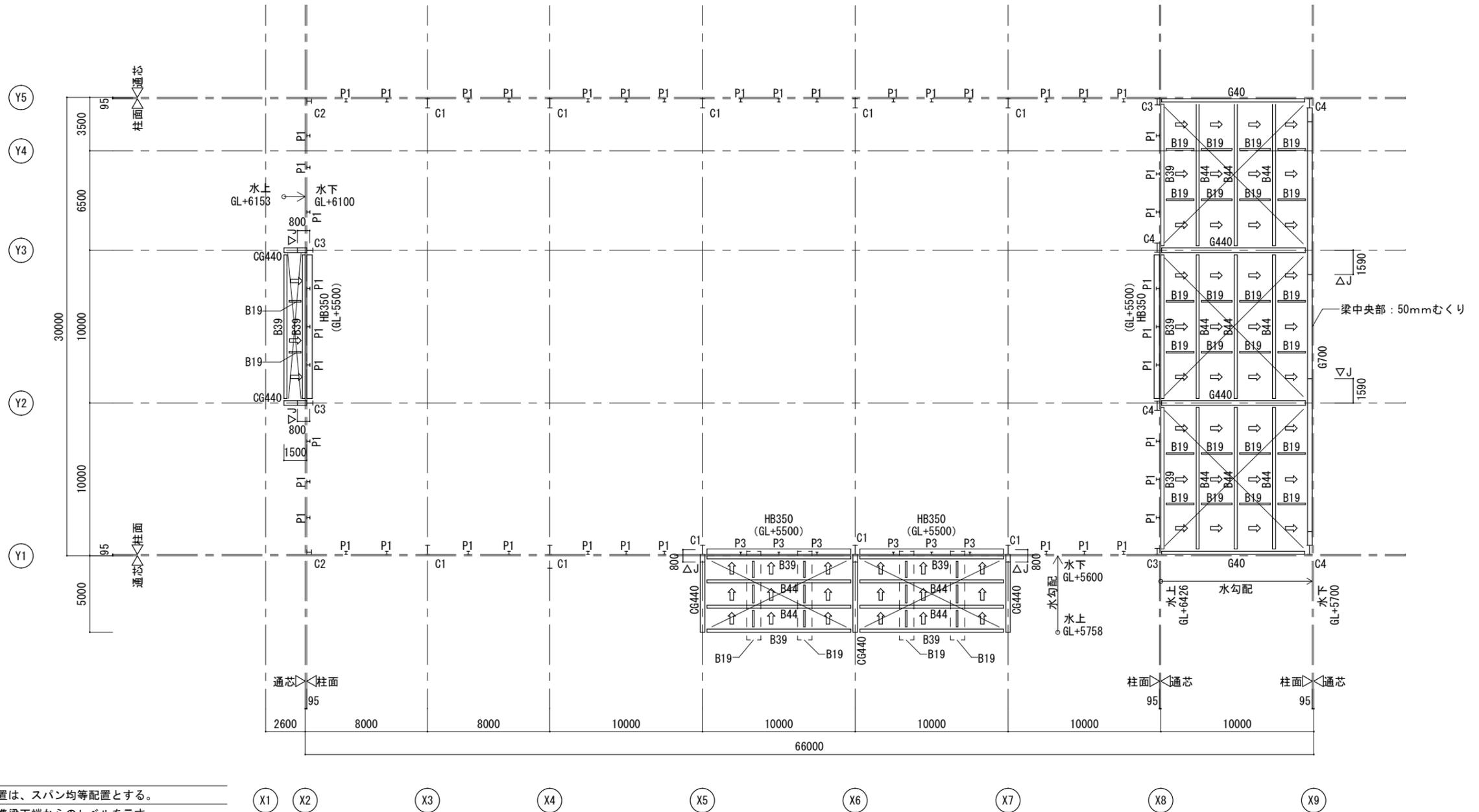
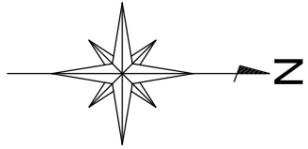


MBL伏図

特記無き限り下記による。

- ・配置寸法のない小梁位置は、スパン均等配置とする。
- ・梁符号()内数字は標準梁天端からのレベルを示す。
- ・継手位置は各柱芯から1200mmとする。
- ・⇨は折板方向を示す。
- ・▽Jは柱継手位置示す。
- ・水平ブレースはBR1とする。

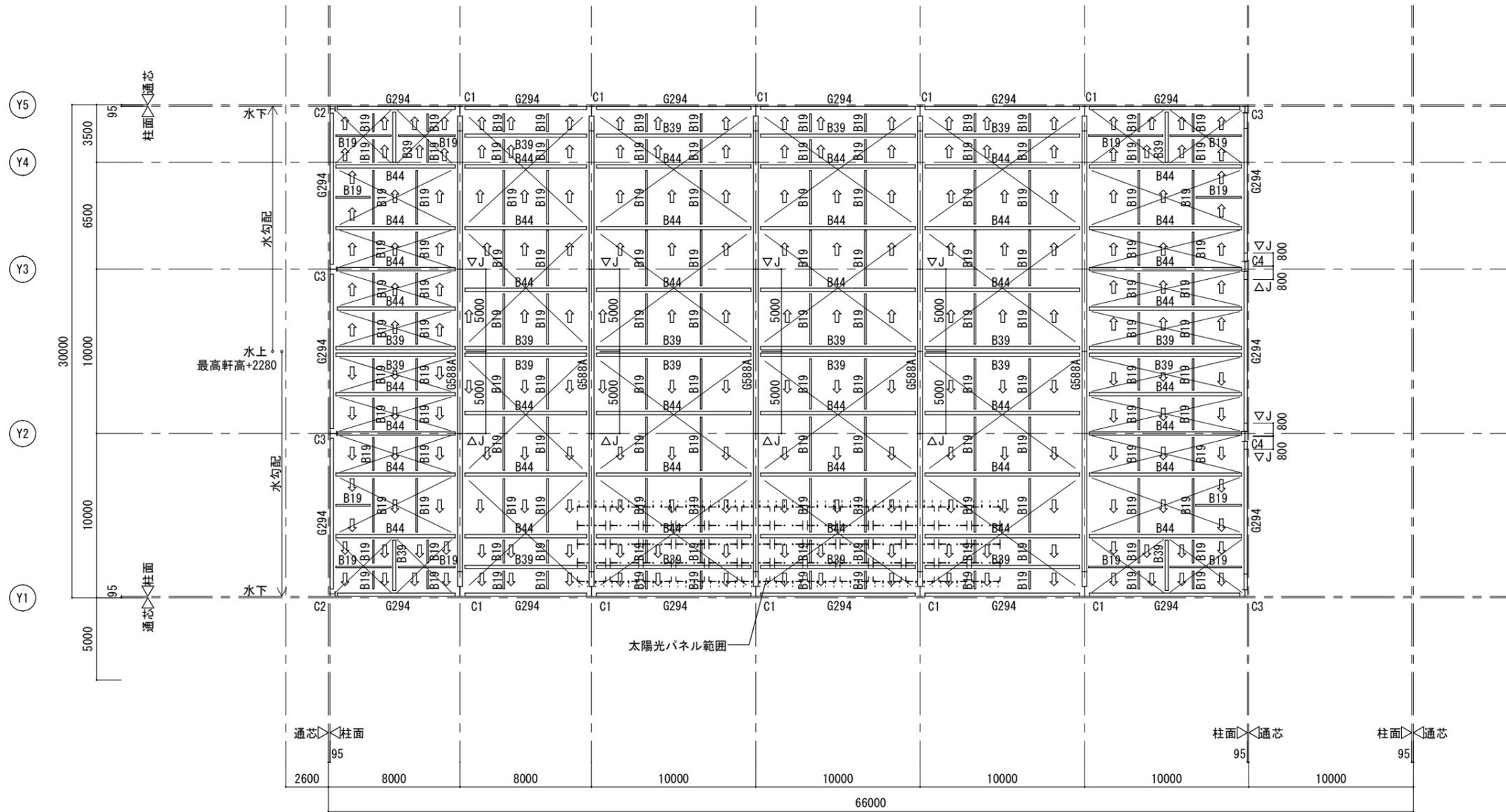
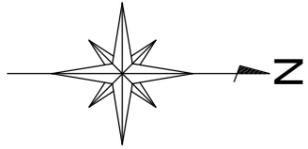
工事名称	(仮称)新港ふ頭10号上屋建設工事(本体)	工事年度	令和7年度
工事場所	那覇市港町1丁目204番地・205番地	図面名称	MBL伏図
発注機関	那覇港管理組合 企画建設部 計画建設課	縮尺	A1:1/150・A3:1/300
摘要		図面番号	S-18
検印	管理建築士	設計	製図
設計者	設 計 者 (株)アーキ5D		
資格者氏名	新里 均		
登録番号	一級建築士大臣登録第218581号		
所在地	沖縄県宜野湾市普天間2-47-16		



底伏図

- 特記無き限り下記による。
- ・配置寸法のない小梁位置は、スパン均等配置とする。
 - ・梁符号()内数字は標準梁天端からのレベルを示す。
 - ・継手位置は各柱芯から1200mmとする。
 - ・⇨は折板方向を示す。
 - ・▽Jは柱継手位置示す。
 - ・水平ブレースはBR1とする。

工事名称	(仮称)新港ふ頭10号上屋建設工事(本体)	工事年度	令和7年度
工事場所	那覇市港町1丁目204番地・205番地	図面名称	R階伏図(1)
発注機関	那覇港管理組合 企画建設部 計画建設課	縮尺	A1:1/150・A3:1/300
摘要		図面番号	S-19
検印	管理建築士 設計 製 図	設 名 称	(株)アーキ5D
		資格者氏名	新里 均
		登録番号	一級建築士大臣登録第218581号
		所在地	沖縄県宜野湾市普天間2-47-16



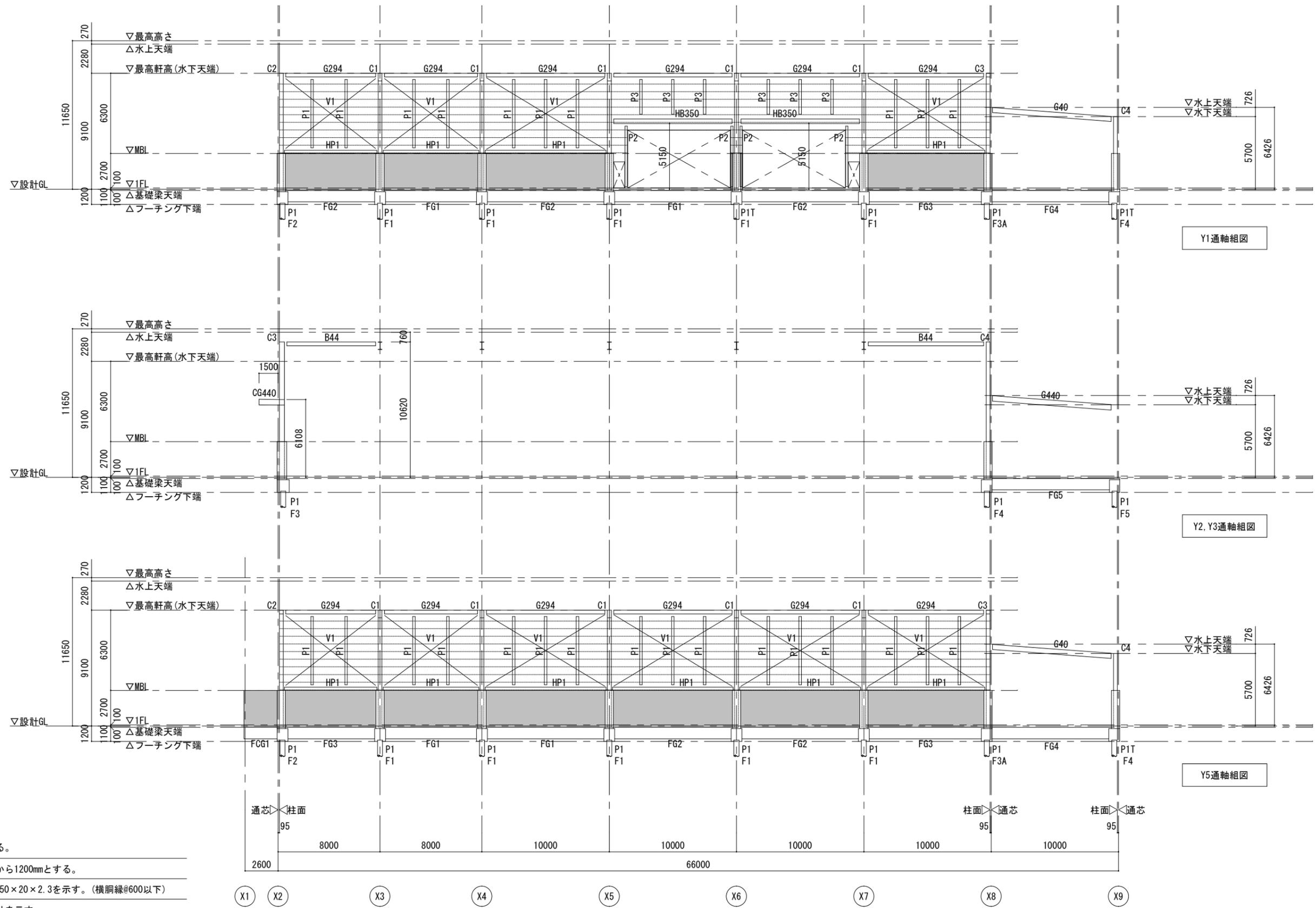
R階伏図

特記無き限り下記による。

- ・配置寸法のない小梁位置は、スパン均等配置とする。
- ・梁符号()内数字は標準梁天端からのレベルを示す。
- ・継手位置は各柱芯から1200mmとする。
- ・⇨ は折板方向を示す。
- ・▽J は柱継手位置示す。
- ・水平ブレースはBR1とする。

工事名称	(仮称)新港ふ頭10号上屋建設工事(本体)	工事年度	令和7年度
工事場所	那覇市港町1丁目204番地・205番地	図面名称	R階伏図(2)
発注機関	那覇港管理組合 企画建設部 計画建設課	縮尺	A1:1/150・A3:1/300
摘要		図面番号	S-20
設計	管理建築士 設計 製 図	設 名 称	(株)アーキ5D
検 印		資格者氏名	新里 均
		登録番号	一級建築士大臣登録第218581号
		所在地	沖縄県宜野湾市普天間2-47-16

一級建築士事務所 東京都知事登録 第63438号 株式会社U'plan
一級建築士大臣登録第350502号 構造設計一級建築士第10339号 尾崎 光

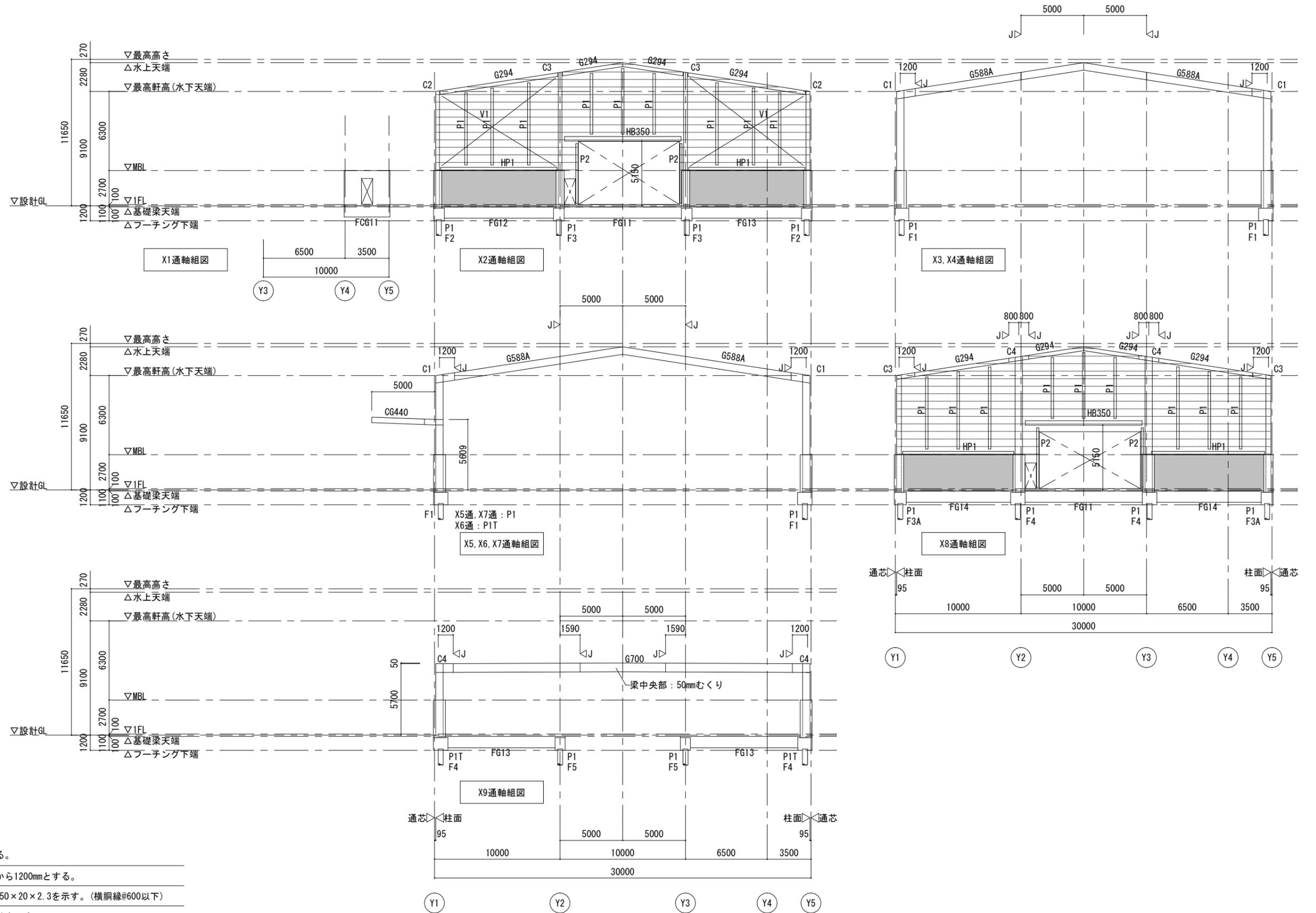


特記無き限り下記による。

- ・ 継手位置は各柱芯から1200mmとする。
- ・ はC-100×50×20×2.3を示す。(横胴縁@600以下)
- ・ はRC立上りを示す。

工事名称	(仮称)新港ふ頭10号上屋建設工事(本体)	工事年度	令和7年度
工事場所	那覇市港町1丁目204番地・205番地	図面名称	軸組図(1)
発注機関	那覇港管理組合 企画建設部 計画建設課	縮尺	A1:1/150・A3:1/300
摘要		図面番号	S-21
設計	管理建築士 設計 製 図	設 名 称	(株)アーキ5D
検 印		資格者氏名	新里 均
		登録番号	一級建築士大臣登録第218581号
		所在地	沖縄県宜野湾市普天間2-47-16

一級建築士事務所 東京都知事登録 第63438号 株式会社U'plan
 一級建築士大臣登録第350502号 構造設計一級建築士第10339号 尾崎 光



特記無き限り下記による。

- ・ 継手位置は各柱芯から1200mmとする。
- ・ はC-100×50×20×2.3を示す。(横胴縁@600以下)
- ・ はRC立上りを示す。
- ・ は増打ちを示す。

工事名称	(仮称)新港ふ頭10号上屋建設工事(本体)	工事年度	令和7年度
工事場所	那覇市港町1丁目204番地・205番地	図面名称	軸組図(2)
発注機関	那覇港管理組合 企画建設部 計画建設課	縮尺	A1:1/150・A3:1/300
摘要		図面番号	S-22
検印	管理建築士 設計 製 図	設 名 称	(株)アーキ5D
		資格者氏名	新里 均
		登録番号	一級建築士大臣登録第218581号
		所在地	沖縄県宜野湾市普天間2-47-16

鉄骨大梁リスト

層	符号	G294	G40	G440	G588A	G700	備考(使用の有無に関わらず記入)
位置		全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	1. 鋼種は無印SN400B、○印SN490Bとする。 2. 表中の Hは一般H形鋼 SHは定形H形鋼 BHは溶接組立H形鋼を示す。 3. 頭付きスタッドボルトは、スラブが取り付けられない部分については不要とする。
R		H-294×200×8×12	H-400×200×8×13	H-440×300×11×18	○H-588×300×12×20	H-700×300×13×24	

鉄骨柱リスト

階	符号	C1	C2	C3	C4	備考(使用の有無に関わらず記入)						
11						1. 鋼種は無印SN400B、○印SN490Bとする。						
10						2. 柱梁仕口部ダイヤフラムの板厚は最大板厚の2サイズUPとする。 鋼種は下記による。						
9						<table border="1"> <tr> <td>鋼種</td> <td>通しダイヤフラム</td> <td>SN490C</td> </tr> <tr> <td></td> <td>内ダイヤフラム</td> <td>SN490B</td> </tr> </table>	鋼種	通しダイヤフラム	SN490C		内ダイヤフラム	SN490B
鋼種	通しダイヤフラム	SN490C										
	内ダイヤフラム	SN490B										
8						3. ダイヤフラムの出寸法は、下記による。 柱板厚<28mm: 25mm 柱板厚≥28mm: 30mm						
7						4. 柱サイズ変更仕口部(テーパ管)は、下記による。 板厚: 取り合う柱の最大厚 材種: BCR295、SN490C ※プレス曲げテーパ管を使用する場合は、BCP大臣認定品とする。						
6												
5												
4												
3												
2												
1		○H-588x300x12x20	○H-300x300x10x15	○H-390x300x10x16	H-588x300x12x20							

使用建築材料表(使用の有無に関わらず記入)

部材	材質	使用箇所	JIS・大臣認定番号
鉄筋	SD295A	D10~D16	JIS G 3112
	SD345	D19~D25	
	SD390	D29~	
コンクリート	Fc39	基礎・基礎梁	JIS A 5308
	Fc24	土間コン	
アンカボルト	ABR490	露出柱脚	JIS B 1220
鋼材	SN400B, SN490B	柱	JIS G 3136
	SN400B, SN490B	大梁	JIS G 3136
	SS400	小梁	JIS G 3101
	SN490C	ダイヤフラム	JIS G 3136
	SNR400B	JIS タンパツル筋かい	JIS G 3138
	SSC400	胴縁・垂木	JIS G 3350
六角ボルト(中ボルト)	4T	M12以上	JIS B 1180
三角形高力ボルト	S8T	M16以上	MBLT-0125

柱脚	柱脚断面図	C1	C2	C3	C4
ベースプレート		350×650×22 (SN490C)	350×350×22 (SN490C)	350×450×22 (SN490C)	350×650×22 (SN490C)
アンカボルト		6-M20 (ABR490)	4-M20 (ABR490)	4-M20 (ABR490)	6-M20 (ABR490)
柱形断面		650×950	650×650	650×750	650×950
立上り筋		X:4-D25 Y:7-D25	X:3-D25 Y:3-D25	X:3-D25 Y:4-D25	X:4-D25 Y:7-D25
フープ筋		2-D13@100	2-D13@100	2-D13@100	2-D13@100
トップフープ筋		-	-	-	-
備考		座金は溶接すること	座金は溶接すること	座金は溶接すること	座金は溶接すること

工事名称	(仮称)新港ふ頭10号上屋建設工事(本体)	工事年度	令和7年度
工事場所	那覇市港町1丁目204番地・205番地	図面名称	部材断面リスト
発注機関	那覇港管理組合 企画建設部 計画建設課	縮尺	A1:1/****・A3:1/****
摘要		図面番号	S-23
検印	管理建築士 設計 製 図	設 名 称	(株)アーキ5D
		資格者氏名	新里 均
		登録番号	一級建築士大臣登録第218581号
		所在地	沖縄県宜野湾市普天間2-47-16

鉄骨二次部材リスト

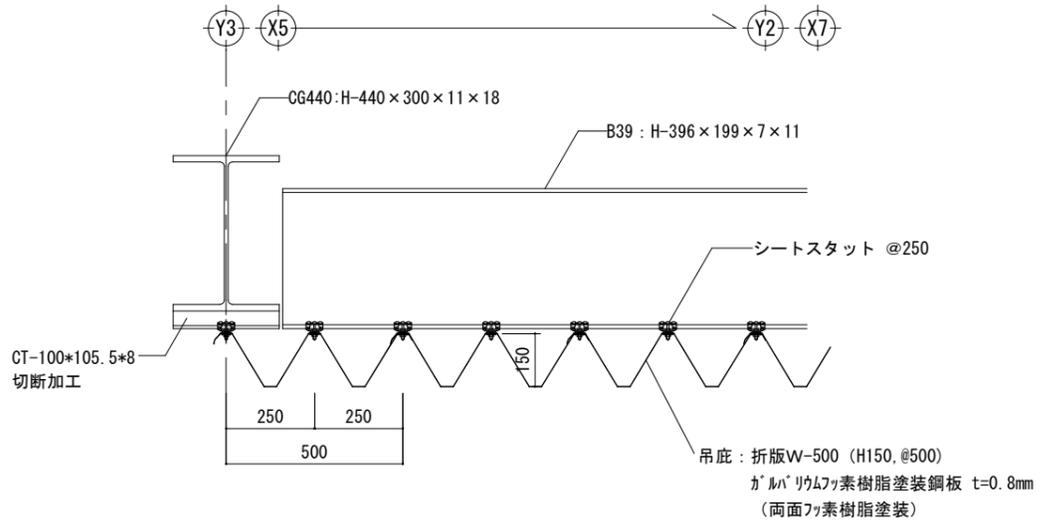
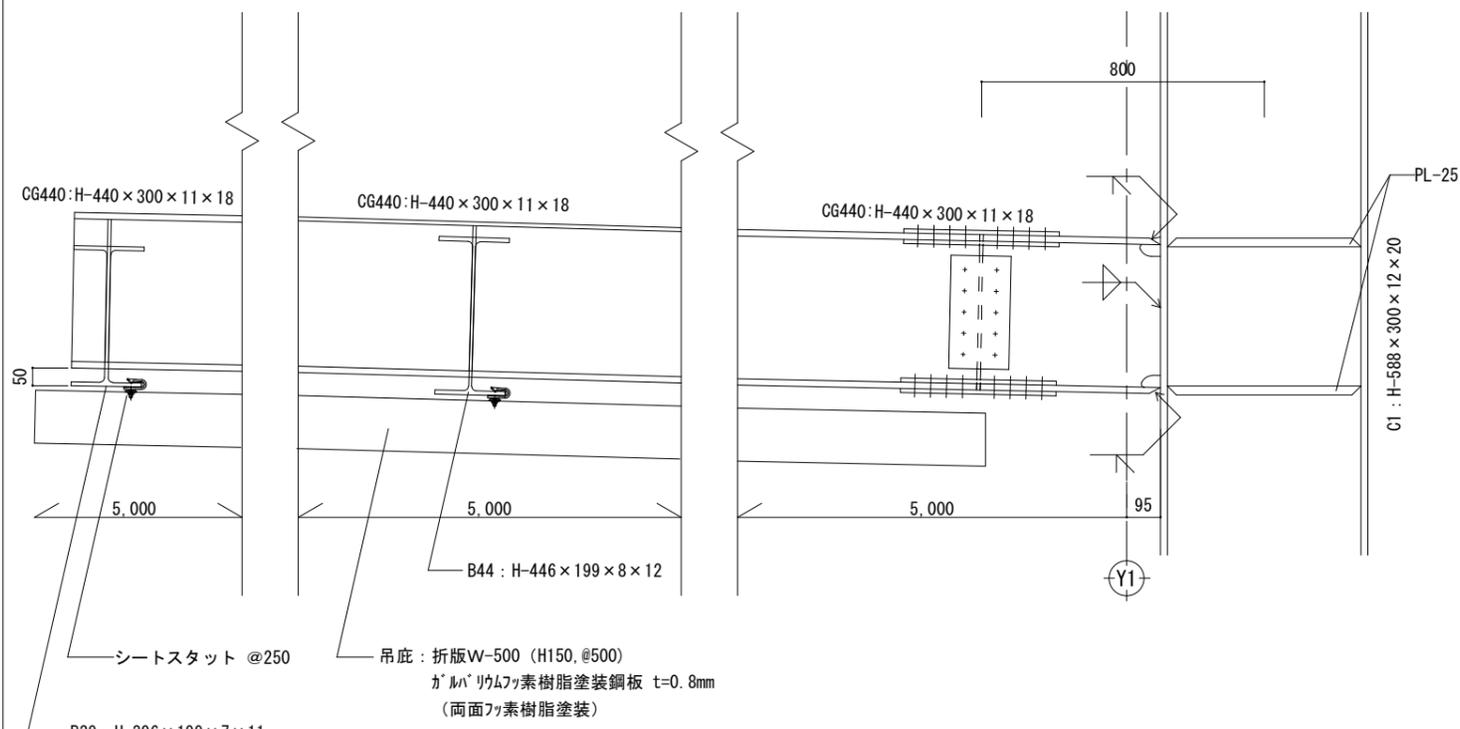
・鉄骨材種：柱:STKR400, 梁:SS400 ・ボルト:HTB S10T ・大梁ピン接合仕様は490N級も含めて小梁の同断面と同様とする。
 ・小梁上にも頭付きスタッドボルトを設ける。取り付け仕様は大梁と同様とするが、ボルトピッチは@300とする。

符号	部 材	備 考
B10	H - 100 × 50 × 5 × 7	梁継手・梁仕口標準図参照
B12	H - 125 × 60 × 6 × 8	梁継手・梁仕口標準図参照
B15	H - 150 × 75 × 5 × 7	梁継手・梁仕口標準図参照
B17	H - 175 × 90 × 5 × 8	梁継手・梁仕口標準図参照
B19	H - 198 × 99 × 4.5 × 7	梁継手・梁仕口標準図参照
B20	H - 200 × 100 × 5.5 × 8	梁継手・梁仕口標準図参照
B24	H - 248 × 124 × 5 × 8	梁継手・梁仕口標準図参照
B25	H - 250 × 125 × 6 × 9	梁継手・梁仕口標準図参照
B29	H - 298 × 149 × 5.5 × 8	梁継手・梁仕口標準図参照
B30	H - 300 × 150 × 6.5 × 9	梁継手・梁仕口標準図参照
B34	H - 346 × 174 × 6 × 9	梁継手・梁仕口標準図参照
B35	H - 350 × 175 × 7 × 11	梁継手・梁仕口標準図参照
B39	H - 396 × 199 × 7 × 11	梁継手・梁仕口標準図参照
B40	H - 400 × 200 × 8 × 13	梁継手・梁仕口標準図参照
B44	H - 446 × 199 × 8 × 12	梁継手・梁仕口標準図参照
B45	H - 450 × 200 × 9 × 14	梁継手・梁仕口標準図参照
B49	H - 496 × 199 × 9 × 14	梁継手・梁仕口標準図参照
B50	H - 500 × 200 × 10 × 16	梁継手・梁仕口標準図参照
B60	H - 600 × 200 × 11 × 17	梁継手・梁仕口標準図参照
B148	H - 148 × 100 × 6 × 9	梁継手・梁仕口標準図参照
B194	H - 194 × 150 × 6 × 9	梁継手・梁仕口標準図参照
B244	H - 244 × 175 × 7 × 11	梁継手・梁仕口標準図参照
B294	H - 294 × 200 × 8 × 12	梁継手・梁仕口標準図参照
B340	H - 340 × 250 × 9 × 14	梁継手・梁仕口標準図参照
B390	H - 390 × 300 × 10 × 16	梁継手・梁仕口標準図参照
B440, CG440	H - 440 × 300 × 11 × 18	梁継手・梁仕口標準図参照
B488	H - 488 × 300 × 11 × 18	梁継手・梁仕口標準図参照
B588	H - 588 × 300 × 12 × 20	梁継手・梁仕口標準図参照
B700	H - 700 × 300 × 13 × 24	梁継手・梁仕口標準図参照
B800	H - 800 × 300 × 14 × 26	梁継手・梁仕口標準図参照
B900	H - 900 × 300 × 16 × 28	梁継手・梁仕口標準図参照
B100, HB100	H - 100 × 100 × 6 × 8	GPL-6 HTB 2-M16 (HB符号は90° 傾斜の耐風梁とする)
B125, HB125	H - 125 × 125 × 6.5 × 9	GPL-9 HTB 2-M16 (HB符号は90° 傾斜の耐風梁とする)
B150, HB150	H - 150 × 150 × 7 × 10	GPL-9 HTB 2-M16 (HB符号は90° 傾斜の耐風梁とする)
B175, HB175	H - 175 × 175 × 7.5 × 11	GPL-9 HTB 2-M16 (HB符号は90° 傾斜の耐風梁とする)
B200, HB200	H - 200 × 200 × 8 × 12	GPL-9 HTB 2-M16 (HB符号は90° 傾斜の耐風梁とする)
B250, HB250	H - 250 × 250 × 9 × 14	GPL-9 HTB 2-M16 (HB符号は90° 傾斜の耐風梁とする)
B300, HB300	H - 300 × 300 × 10 × 15	GPL-12 HTB 2-M16 (HB符号は90° 傾斜の耐風梁とする)
B350, HB350	H - 350 × 350 × 12 × 19	GPL-12 HTB 2-M16 (HB符号は90° 傾斜の耐風梁とする)

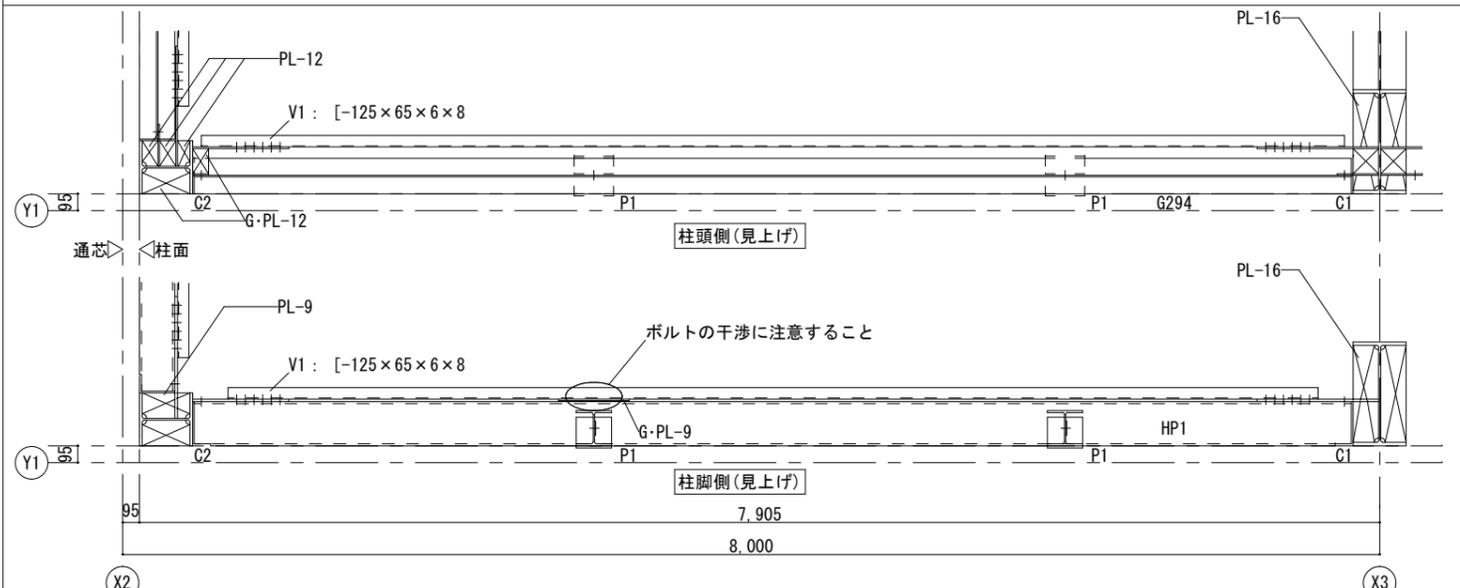
符号	部 材	備 考
HP1	□ - 250 × 250 × 12 (STKR400)	GPL-6 HTB 2-M16
P1	H - 200 × 200 × 8 × 12	GPL-6 HTB 2-M16
P2	H - 350 × 175 × 7 × 11	GPL-6 HTB 2-M16
P3	H - 150 × 150 × 7 × 10	GPL-6 HTB 2-M16
BR1	M24 (JISターンバックル筋かい)	ブレース仕口標準図参照
BR2	M16 (JISターンバックル筋かい)	ブレース仕口標準図参照
V1	[- 125 × 65 × 6 × 8	ブレース仕口標準図参照
胴縁	C - 100 × 50 × 20 × 2.3 @600 (SSC400)	GPL-6 中ボルト 2-M12

工事名称	(仮称)新港ふ頭10号上屋建設工事(本体)	工事年度	令和7年度
工事場所	那覇市港町1丁目204番地・205番地	図面名称	鉄骨二次部材リスト
発注機関	那覇港管理組合 企画建設部 計画建設課	縮 尺	A1:1/****・A3:1/****
摘 要		図面番号	S-24
検 印	管理建築士	設 計	製 図
		設 名 称	(株)アーキ5D
		資 格 者 氏 名	新里 均
		登 録 番 号	一級建築士大臣登録第218581号
		所 在 地	沖縄県宜野湾市普天間2-47-16

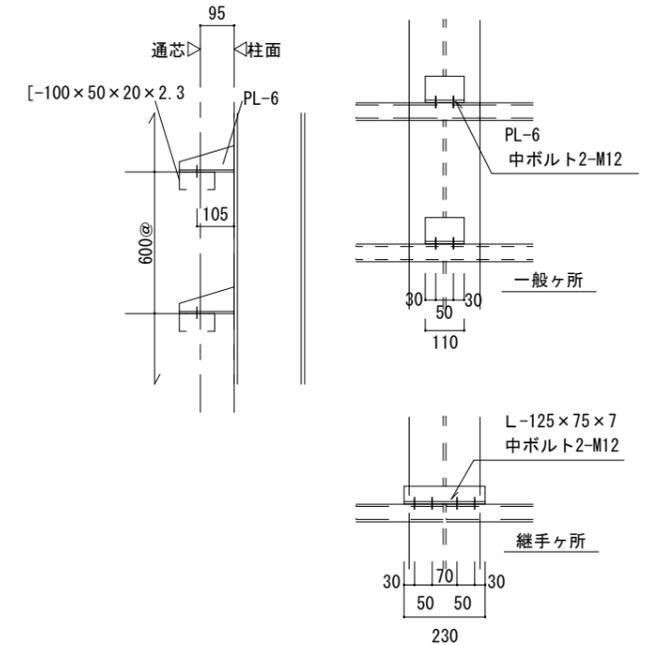
底詳細図 1/20



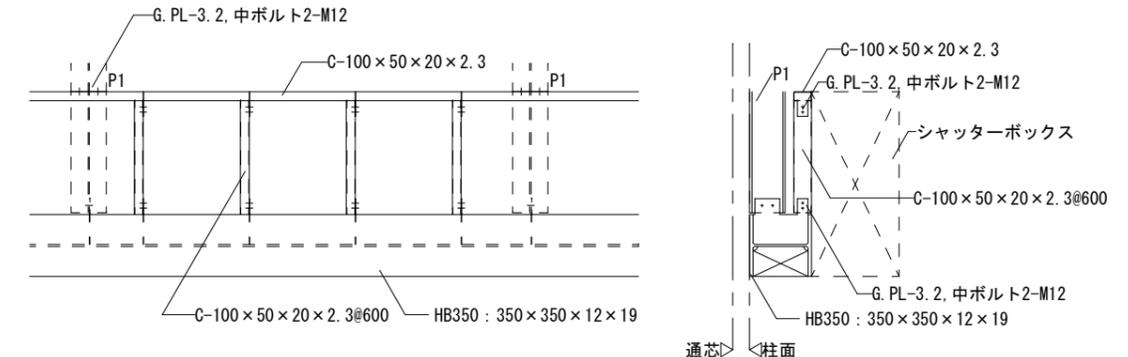
ブレース納まり図 1/40



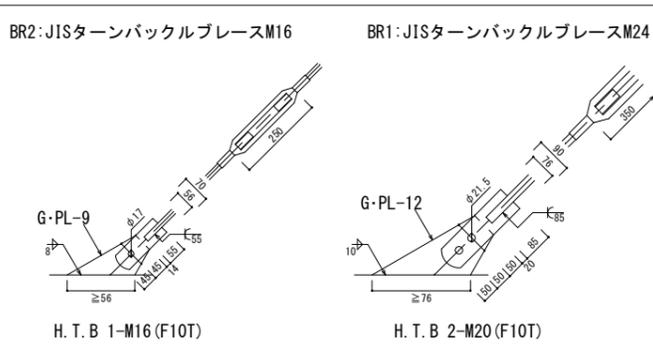
胴縁納まり図 1/20



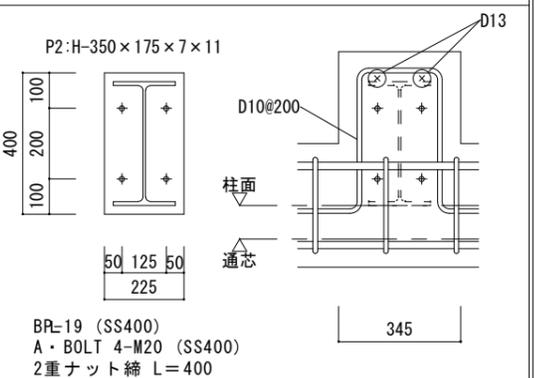
シャッターボックス取合詳細図 1/40



水平ブレース仕様 1/20

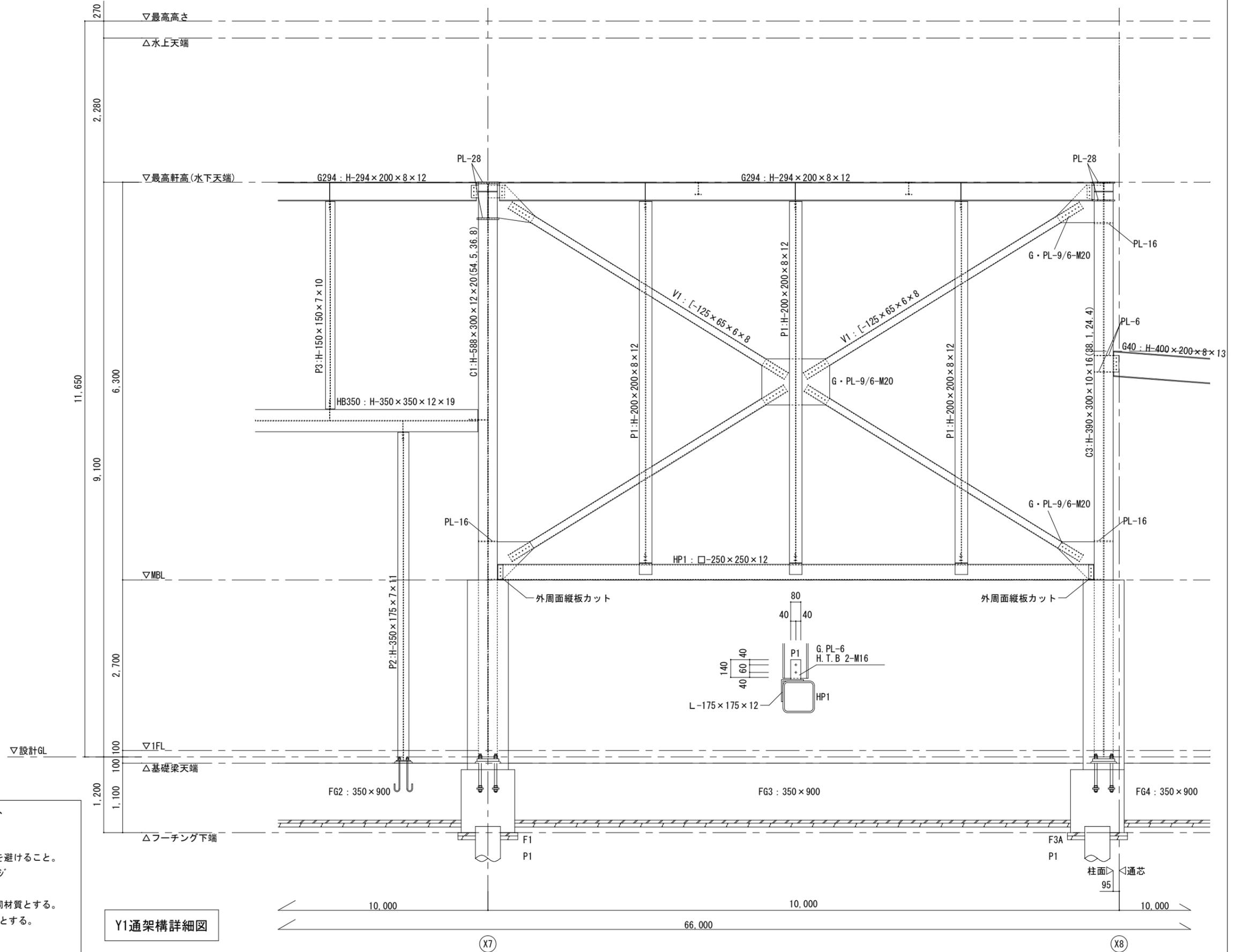
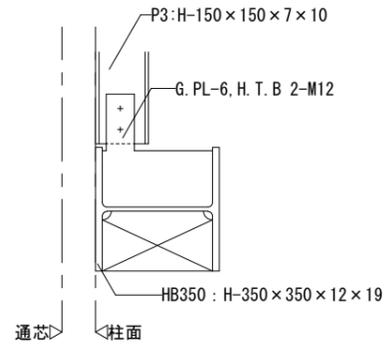


間柱柱脚要領 1/20



工事名称	(仮称) 新港ふ頭10号上屋建設工事(本体)	工事年度	令和7年度
工事場所	那覇市港町1丁目204番地・205番地	図面名称	部分詳細図
発注機関	那覇港管理組合 企画建設部 計画建設課	縮尺	A1:1/****・A3:1/****
摘要		図面番号	S-25
検印	管理建築士 設計 製 図	設 名 称	(株) アーキ5D
		資格者氏名	新里 均
		登録番号	一級建築士大臣登録第218581号
		所在地	沖縄県宜野湾市普天間2-47-16

一級建築士事務所 東京都知事登録 第63438号 株式会社U'plan
 一級建築士大臣登録第350502号 構造設計一級建築士第10339号 尾崎 光



特記事項

- ・ 使用鋼材は、柱および大梁SN400BまたはSN490B、ダイヤフラムSN490C(JIS規格品)とする。
- ・ 柱符号 (X,Y) 内数値は、柱の細長比を示す。
- ・ 内ゲイワムの場合に、溶接は柱R部分・スラックを避けること。
- ・ ゲイワム (SN490C) は16mm厚以上、取付く梁フランジの2サイズUPかつフランジ厚+6mm以上とする。
- ・ パネーションの部材は取り付く柱と同径、同厚以上同材質とする。
- ・ 上下の柱で板厚が異なる場合は、厚い方の板厚とする。
- ・ 溶接接合及び高力ボルト接合は、平成12年建告1464号第1, 第2に適合するように行うこと。
- ・ 角形柱は冷間成形角形鋼管設計・施工マニュアルによる適切な施工計画を行うこと。

Y1通架構詳細図

工事名称	(仮称) 新港ふ頭10号上屋建設工事 (本体)	工事年度	令和7年度
工事場所	那覇市港町1丁目204番地・205番地	図面名称	架構詳細図(1)
発注機関	那覇港管理組合 企画建設部 計画建設課	縮尺	A1:1/30・A3:1/60
摘要		図面番号	S-26
設計	管理建築士 設計製図	設計者	新里 均
検印		資格者氏名	新里 均
		登録番号	一級建築士大臣登録第218581号
		所在地	沖縄県宜野湾市普天間2-47-16

